

茨城県教育財団文化財調査報告第162集

総合流通センター整備事業 地内埋蔵文化財調査報告書

仲丸遺跡 久保塚群 五万堀古道
向原遺跡・向原塚群 前原塚 仲丸塚
(上 巻)

平成 12 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

7061



茨城県教育財団文化財調査報告第162集

総合流通センター整備事業 地内埋蔵文化財調査報告書

なかまる 遺跡 くほ 塚群 ごまんぼり 古道

むかいほら 遺跡・むかいほら 塚群 まえほら 前原塚 なかまる 仲丸塚

(上 巻)

平成 12 年 3 月

贈	平成
寄	年
歴史・人類学系	月
	日

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

00609336



仲丸遺跡第25号住居跡遺物出土状況



久保塚群出土土器

序

経済活動の活発化による貨物量の増大、消費者ニーズの多様化などに伴い、流通の分野でも様々な変革が進みつつあります。こうした流れに対応するため、茨城県は、常磐自動車道や現在整備が進められている北関東自動車道に隣接する地理的優位性を活かし、総合的な物流センターの整備を進めております。このような状況の中で、総合流通センター整備事業が計画されたもので、その予定地内には仲丸遺跡をはじめ6遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県と総合流通センター整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査事業について委託契約を結び、平成10年4月から翌年3月まで発掘調査を実施してまいりました。この調査によって貴重な遺構、遺物が確認され、郷土の歴史を解明する上で多大の成果をあげることができました。

本書は、平成10年度に発掘調査を行った仲丸遺跡、久保塚群、五万堀古道、向原遺跡・向原塚群、前原塚、仲丸塚の調査成果を収録したものであります。本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土史の理解を深めると共に、教育、文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大なる御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、茨城県開発公社、友部町教育委員会、友部町企画課流通センター整備推進室をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただいたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成12年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤 佳郎

例 言

1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成10年度に発掘調査を実施した、茨城県西茨城郡友部町大字柏井に所在する仲丸遺跡、仲丸塚、友部町大字長鬼路に所在する久保塚群、向原遺跡・向原塚群、前原塚（旧前原古墳）、友部町大字仁古山に所在する五万塚古道の発掘調査報告書である。

なお、前原塚については、前原古墳として調査を行ったが、塚であることが判明したため、関係諸機関と協議のうえ、「前原塚」と改称した。

2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調 査 平成10年4月1日～平成11年3月31日

整 理 平成11年4月1日～平成12年3月31日

3 当遺跡の発掘調査は、調査第1課長沼田文夫の指揮のもと、調査第4班長仙波亨、主任調査員長岡正雄、仲村浩一郎、島田和宏、副主任調査員大関武が担当した。

4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理課長川井正一の指揮のもと、首席調査員長岡正雄、主任調査員仲村浩一郎が担当し、第1章～第4章、第6章を長岡が、第5章、第7章、第8章を仲村が執筆した。整理期間は長岡が平成11年4月～平成12年3月、仲村が平成11年11月～平成12年2月である。

5 本書の作成にあたり、古道調査の方法等については、財団法人君津郡市文化財センター調査第1係長大谷弘幸氏、古道の整理方法については、財団法人栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター調査部調査第一課長中山晋氏、茨城県における弥生時代後期の土器様相については、東茨城郡大洗町立祝町小学校教諭海老澤稔氏に御指導をいただいた。

6 五万塚古道の土壌の自然科学分析については、バリノ・サーウエイ株式会社委託した。分析結果は付章として報告する。

7 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

凡 例

- 1 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、仲丸遺跡と仲丸塚はX軸 = +34.640m, Y軸 = +46.600mの交点を、久保塚群はX軸 = +33.640m, Y軸 = +45.920mの交点を、五万堀古道はX軸 = +33.800m, Y軸 = +46.280mの交点を、向原遺跡・向原塚群はX軸 = +34.800m, Y軸 = +46.400mの交点を、前原塚はX軸 = +34.240m, Y軸 = +46.360mの交点をそれぞれ基準点 (A 1a1) とした。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、基準点から南へA, B, C・・・, 東へ1, 2, 3・・・とし、「A 1区」, 「B 2区」のように呼称した。小調査区は、北から南へa, b, c・・・, j, 西から東へ1, 2, 3・・・, 0とし、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」, 「B 2b2区」のように呼称した。

- 2 遺構・遺物及び土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-S 1 土坑-S K 井戸-S E 炭窯跡-S Y 溝-S D 円形周溝状遺構-S X
塚-T M 道路跡-S F
遺物 土器・陶磁器-P 土製品-D P 石製品-Q 金属製品・古銭-M 木製品-W 瓦-T
拓本土器-T P
土層 攪乱-K

- 3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

 竈・炉・繊維土器
  焼土・赤彩
  粘土・黒色処理
  施軸
  炭化物
 ●土器 ■石器・石製品 ▲土製品・瓦 △金属製品 - - - - 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、次のとおりである。

- 各遺構の実測図は、60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
- 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にスケールで表示した。
- 「主軸方向」は長軸方向あるいは炉・竈と出入り口を結ぶ軸線とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E, N-10°-W）。なお、[] を付したものは推定である。
- 土器の計測値は、A-口径 B-器高 C-底径 D-高台（脚）径 E-高台（脚）高 F-つまみ径 G-つまみ高とし、単位はcmである。なお、現存値は（ ）で、推定値は[] を付して示した。
- 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測番号（P・DPなど）、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

抄 録

ふりがな	そうごうりゅうせんたーせいびじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	総合流通センター整備事業地内埋蔵文化財調査報告書							
副書名	仲丸道路 久保塚群 五万廻古道 向原遺跡・向原塚群 前原塚 仲丸塚							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第162集							
編者名	長岡 正雄 仲村 浩一郎							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310・0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029・225・6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310・0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029・225・6587							
発行年月日	2000(平成12)年3月21日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
仲丸道路	茨城県西茨城郡友部町 大字船井字仲丸 423番地の11ほか	08321 - 91	36度 18分 38秒	140度 21分 11秒	28m	19980401 ~ 19990331	19,890㎡ 1,200㎡ 6,052㎡ 11,344㎡ 400㎡ 400㎡	総合流通センター整備 事業に伴う 事前調査
久保塚群	茨城県西茨城郡友部町 大字長兎路字久保 1,000番地	08321 - 93	36度 18分 8秒	140度 20分 43秒	28m			
五万廻古道	茨城県西茨城郡友部町 大字仁占田字萬瀬沼 1,150番地ほか	08321 - 94	36度 18分 5秒	140度 20分 57秒	28m			
向原遺跡 向原塚群	茨城県西茨城郡友部町 大字長兎路字向原 1,159番地の3ほか	08321 - 88 89	36度 18分 42秒	140度 21分 3秒	30m			
前原塚	茨城県西茨城郡友部町 大字長兎路字前原 1,155番地の9	08321 - 92	36度 18分 25秒	140度 21分 3秒	30m			
仲丸塚	茨城県西茨城郡友部町 大字船井字仲丸 428番地ほか	08321 - 90	36度 18分 39秒	140度 21分 16秒	30m			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仲九道跡	遺物散布地	旧石器		剥片	縄文時代前期や古墳時代後期の住居跡をはじめ、縄文時代の陥し穴や近代の炭窯跡などが確認できた複合遺跡である。
	集落跡	縄文	竪穴住居跡 1軒 陥し穴 4基 土坑 3基 遺物包含層 2か所	縄文土器、土製品(珠状耳飾り、土製円板)、石器(尖頭器、石鏃、石錐、打製石斧、小形磨製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、石皿、台石)	
		古墳	竪穴住居跡 22軒 竪穴状遺構 1基 土坑 2基	土師器、須恵器、土製品(土玉、管玉形模造品、丸玉、紡錘車、支脚)、石器(砥石)、石製品(丸玉、紡錘車)	
		平安	竪穴住居跡 1軒	土師器片	
	生産遺跡	近代	炭窯跡 1基 粘土採掘坑 4基 土坑 1基	土製品(瓦)、石製品(石臼)	
	その他	時期不明	竪穴状遺構 6基 粘土採掘坑 2基 土坑 121基 井戸跡 1基 溝 3条 円形周溝状遺構 4基	縄文土器片、弥生土器片、土師器片、須恵器片、陶器片、磁器片、土製品(基石形土製品)、古銭(寛永通寶)	
久保塚群	遺物散布地	旧石器		石器(ナイフ形石器)	東西方向一直線上に築造された近世の塚5基をはじめ、弥生時代及び古墳時代前期の住居跡や弥生時代の土器棺墓などが確認できた複合遺跡である。
	集落跡	縄文	竪穴住居跡 1軒 陥し穴 1基	縄文土器片、石器(石棒、磨石)、剥片	
		弥生	竪穴住居跡 3軒 土器棺墓 1基	弥生土器、土製品(紡錘車)	
		古墳	竪穴住居跡 4軒	土師器、土製品(土玉)	
	塚群	近世	塚 5基 土坑 1基 溝 3条	陶器片、鉛製品(鉛玉)、古銭(寛永通寶)	
その他	時期不明	道跡跡 1条			
五万堀古道	遺物散布地	旧石器		石器(ナイフ形石器)	幅約10mのほぼ直線に延びる硬く締まった道跡跡を、300mにわたって確認した。この道跡跡は、常陸国府から安後駅家を経て、河内駅家へ向かう古代の官道(東海道)と考え
		縄文		縄文土器片、石器(石鏃、磨石)	
		弥生		弥生土器、石器(磨製石斧)	
	道跡跡	奈良・平安	道跡跡 1条	土師器、須恵器、灰輪陶器、石器(砥石)、鉄製品(鏃)	
	近世	道跡跡 1条	土師器+須恵器製品(須)古銭(寛永通寶)		

	その他	時期不明	土坑 井戸跡 溝	3基 1基 3条	石製品(浮子)、石器(砥石)、古銭(明道元寶?)	られる。
向原遺跡・向原塚群	遺物散布地	旧石器			石器(ナイフ形石器)、剥片、石核	縄文時代や弥生時代、古墳時代後期の住居跡をはじめ、縄文時代の遺物包含層や中世の塚などが確認できた複合遺跡である。
	集落跡	縄文	竪穴住居跡 陥し穴 土坑 遺物包含層	7軒 1基 1基 1か所	縄文土器、石器(尖頭器、石鏃、石錐、石製裝飾品、打製石斧、磨石、円石)、土製品(土製円板)	
		弥生	竪穴住居跡	1軒	弥生土器、石器(片刃石斧)	
		古墳	竪穴住居跡 竪穴状遺構 土坑	3軒 1基 1基	土師器	
		塚群	中世塚	2基	上層質土器、古銭(寛永通寶)、鏝	
		その他	時期不明	竪穴住居跡 竪穴状遺構 土坑	6軒 7基 184基	
前原塚	遺物散布地	旧石器			剥片	当初、近隣に存在している慈教堂古墳や芝沼古墳群と同じ古墳群を構成する後期古墳と想定されていたが、調査の結果、古墳ではなく中・近世の塚であることが判明した。
	塚	中・近世	塚	1基		
	その他	時期不明	土坑	16基	縄文土器片、土師器片、須恵器片	
仲丸塚	遺物散布地	旧石器			石器(有舌尖頭器)	中世の塚1基をはじめ、住居跡などが確認できた。塚からは、五輪等の空風輪などが出土している。
		縄文			縄文土器、石器(石鏃、石錐、磨石)	
	塚	中世	塚	1基	十輪質土器、石琴(玉輪形)、古銭(弘長通寶)	
	その他	時期不明	竪穴住居跡 土坑 道路跡	1軒 10基 1条	縄文土器片、弥生土器片、土師器片、陶器片	

目 次

- 上 巻 -

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 仲丸遺跡	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序の検討	9
第3節 遺構と遺物	10
1 竪穴住居跡	10
2 竪穴状遺構	117
3 土坑	123
4 井戸跡	147
5 炭竈跡	148
6 溝	155
7 円形周溝状遺構	157
8 遺物包含層	161
9 遺構外出土遺物	172
遺構一覧表	179
第4節 まとめ	184
第4章 久保塚群	189
第1節 遺跡の概要	189
第2節 遺構と遺物	190
1 竪穴住居跡	190
2 塚	208
3 土坑	212
4 道路跡	215
5 溝	216

6 遺構外出土遺物	219
遺構一覧表	223
第3節 まとめ	224

写真図版

- 下 巻 -

第5章 五万堀古道	229
第1節 遺跡の概要	229
第2節 基本層序の検討	229
第3節 遺構と遺物	231
1 道路跡	231
2 土坑	258
3 井戸跡	259
4 溝	260
5 遺構外出土遺物	262
遺構一覧表	267
第4節 まとめ	268
第6章 向原遺跡・向原塚群	273
第1節 遺跡の概要	273
第2節 基本層序の検討	273
第3節 遺構と遺物	274
1 竪穴住居跡	274
2 竪穴状遺構	301
3 塚	308
4 土坑	313
5 遺物包含層	342
6 遺構外出土遺物	348
遺構一覧表	354
第4節 まとめ	359
第7章 前原塚	361
第1節 遺跡の概要	361
第2節 遺構と遺物	362
1 塚	362
2 土坑	365
3 遺構外出土遺物	373
遺構一覧表	374
第3節 まとめ	376
第8章 仲丸塚	377

第1節 遺跡の概要	377
第2節 遺構と遺物	378
1 竪穴住居跡	378
2 塚	380
3 土坑	384
4 道路跡	389
5 遺構外川土遺物	390
遺構一覧表	393
第3節 まとめ	395
付 章 五万堀古道の土壌の自然科学分析	397

写真図版

插图目次

- 上 卷 -

仲丸遺跡

第1图 調査遺跡位置图	4	第35图 第11号住居跡出土遺物実測图	51
第2图 周辺遺跡分布图	8	第36图 第12号住居跡実測图	54
第3图 基本土層图	9	第37图 第12号住居跡出土遺物実測图	55
第4图 第1号住居跡実測图(1)	11	第38图 第13号住居跡実測图	57
第5图 第1号住居跡実測图(2)	12	第39图 第13号住居跡出土遺物実測图	58
第6图 第1号住居跡出土遺物実測图	13	第40图 第14号住居跡実測图(1)	60
第7图 第2号住居跡実測图	14	第41图 第14号住居跡実測图(2)	61
第8图 第2号住居跡出土遺物実測图(1)	16	第42图 第14号住居跡出土遺物実測图	62
第9图 第2号住居跡出土遺物実測图(2)	17	第43图 第19号住居跡実測图	64
第10图 第3号住居跡実測图(1)	20	第44图 第19号住居跡出土遺物実測图(1)	65
第11图 第3号住居跡実測图(2)	21	第45图 第19号住居跡出土遺物実測图(2)	66
第12图 第3号住居跡出土遺物実測图(1)	22	第46图 第19号住居跡出土遺物実測图(3)	67
第13图 第3号住居跡出土遺物実測图(2)	23	第47图 第20号住居跡実測图(1)	69
第14图 第4号住居跡実測图	25	第48图 第20号住居跡実測图(2)	70
第15图 第4号住居跡出土遺物実測图	26	第49图 第20号住居跡出土遺物実測图(1)	71
第16图 第5号住居跡実測图(1)	27	第50图 第20号住居跡出土遺物実測图(2)	72
第17图 第5号住居跡実測图(2)	28	第51图 第20号住居跡出土遺物実測图(3)	73
第18图 第5号住居跡出土遺物実測图	29	第52图 第20号住居跡出土遺物実測图(4)	74
第19图 第6号住居跡実測图(1)	30	第53图 第21号住居跡実測图	77
第20图 第6号住居跡実測图(2)	31	第54图 第21号住居跡出土遺物実測图(1)	79
第21图 第6号住居跡出土遺物実測图	32	第55图 第21号住居跡出土遺物実測图(2)	80
第22图 第7号住居跡実測图(1)	34	第56图 第22号住居跡実測图(1)	82
第23图 第7号住居跡実測图(2)	35	第57图 第22号住居跡実測图(2)	83
第24图 第7号住居跡出土遺物実測图	35	第58图 第22号住居跡出土遺物実測图(1)	84
第25图 第8号住居跡実測图(1)	38	第59图 第22号住居跡出土遺物実測图(2)	85
第26图 第8号住居跡・出土遺物実測图(2)	39	第60图 第23号住居跡実測图(1)	88
第27图 第9号住居跡実測图(1)	40	第61图 第23号住居跡実測图(2)	89
第28图 第9号住居跡実測图(2)	41	第62图 第23号住居跡出土遺物実測图(1)	90
第29图 第9号住居跡出土遺物実測图(1)	42	第63图 第23号住居跡出土遺物実測图(2)	91
第30图 第9号住居跡出土遺物実測图(2)	43	第64图 第23号住居跡出土遺物実測图(3)	92
第31图 第10号住居跡実測图	46	第65图 第23号住居跡出土遺物実測图(4)	93
第32图 第10号住居跡出土遺物実測图	47	第66图 第24号住居跡実測图(1)	96
第33图 第11号住居跡実測图(1)	49	第67图 第24号住居跡実測图(2)	97
第34图 第11号住居跡実測图(2)	50	第68图 第24号住居跡出土遺物実測图(1)	98

第 69 図	第24号住居跡出土遺物実測図(2)	………99	第102図	その他の土坑実測図(5)	………136
第 70 図	第25号住居跡実測図(1)	………102	第103図	その他の土坑実測図(6)	………137
第 71 図	第25号住居跡実測図(2)	………103	第104図	その他の土坑実測図(7)	………138
第 72 図	第25号住居跡出土遺物実測図	………104	第105図	その他の土坑実測図(8)	………139
第 73 図	第26号住居跡実測図	………107	第106図	その他の土坑実測図(9)	………140
第 74 図	第26号住居跡出土遺物実測図	………108	第107図	その他の土坑実測図(10)	………141
第 75 図	第27号住居跡実測図	………110	第108図	その他の土坑実測図(11)	………142
第 76 図	第27号住居跡出土遺物実測図	………112	第109図	その他の土坑実測図(12)	………143
第 77 図	第31号住居跡実測図	………114	第110図	第1号井戸跡実測図	………147
第 78 図	第31号住居跡出土遺物実測図(1)	………115	第111図	第1号炭窯跡実測図	………149
第 79 図	第31号住居跡出土遺物実測図(2)	………116	第112図	第1号炭窯跡, 第115~118・122号 土坑実測図	………150
第 80 図	第1号竪穴状遺構実測図	………117	第113図	第1号炭窯跡出土遺物実測図	………151
第 81 図	第2号竪穴状遺構実測図	………118	第114図	第115号土坑出土遺物実測図	………152
第 82 図	第3号竪穴状遺構実測図	………119	第115図	第1・2・3号溝実測図	………156
第 83 図	第4号竪穴状遺構実測図	………119	第116図	第1号円形周溝状遺構実測図	………157
第 84 図	第5号竪穴状遺構実測図	………120	第117図	第2号円形周溝状遺構実測図	………158
第 85 図	第6号竪穴状遺構実測図	………121	第118図	第3号円形周溝状遺構実測図	………159
第 86 図	第7号竪穴状遺構実測図	………122	第119図	第4号円形周溝状遺構実測図	………160
第 87 図	第5号土坑・出土遺物実測図	………124	第120図	第1号遺物包含層平面図	………162
第 88 図	第7号土坑実測図	………125	第121図	第1号遺物包含層上層断面図・ 出土遺物実測図	………163
第 89 図	第18号土坑・出土遺物実測図	………125	第122図	第2号遺物包含層平面図	………166
第 90 図	第31号土坑・出土遺物実測図	………126	第123図	第2号遺物包含層出土遺物実測図(1)	………168
第 91 図	第33号土坑実測図	………127	第124図	第2号遺物包含層十層断面図・ 出土遺物実測図(2)	………169
第 92 図	第47号土坑・出土遺物実測図	………128	第125図	第2号遺物包含層出土遺物実測図(3)	………171
第 93 図	第101号土坑・出土遺物実測図	………128	第126図	遺構外出土遺物実測図(1)	………173
第 94 図	第109号土坑実測図	………129	第127図	遺構外出土遺物実測図(2)	………174
第 95 図	第114号土坑実測図	………130	第128図	遺構外出土遺物実測図(3)	………175
第 96 図	第127号土坑実測図	………131	第129図	遺構外出土遺物実測図(4)	………176
第 97 図	第135号土坑・出土遺物実測図	………131	第130図	時期別住居跡配置図	………185
第 98 図	その他の土坑実測図(1)	………132			
第 99 図	その他の土坑実測図(2)	………133			
第100図	その他の土坑実測図(3)	………134			
第101図	その他の土坑実測図(4)	………135			

久保塚群

第131図	第1号住居跡実測図	………190	第134図	第2号住居跡出土遺物実測図	………193
第132図	第1号住居跡出土遺物実測図	………191	第135図	第3号住居跡実測図	………195
第133図	第2号住居跡実測図	………192	第136図	第3号住居跡出土遺物実測図	………196

第137图	第4号住居跡実測図	197
第138图	第4号住居跡出土遺物実測図	198
第139图	第5号住居跡実測図	200
第140图	第5号住居跡出土遺物実測図	201
第141图	第6号住居跡実測図	202
第142图	第6号住居跡出土遺物実測図	203
第143图	第7号住居跡実測図	203
第144图	第7号住居跡出土遺物実測図	204
第145图	第8号住居跡実測図	205
第146图	第8号住居跡出土遺物実測図(1)	206
第147图	第8号住居跡出土遺物実測図(2)	207
第148图	第1~5号塚地形測量図・土層断面図	209
第149图	第4号塚出土遺物実測図	211
第150图	第1号土坑実測図	212

第151图	第1号土坑出土遺物実測図	213
第152图	第2号土坑実測図	214
第153图	第3号土坑実測図	214
第154图	第1号道路跡土層断面図	215
第155图	第1・2・3号溝土層断面図	216
第156图	第1・3号溝、ピット1~4・6・7・9~20土層断面図	217
第157图	第1号溝出土遺物実測図	218
第158图	第2号溝出土遺物実測図	218
第159图	遺構外出土遺物実測図(1)	220
第160图	遺構外出土遺物実測図(2)	221
第161图	時期別住居跡配置図	225
第162图	久保塚群遺構全体図	227

- 下 卷 -

五方堀古道

第163图	調査区土層模式図	230
第164图	第1号道路跡側溝平面図	233
第165图	第1号道路跡Ⅰ区実測図	236
第166图	第1号道路跡Ⅱ区実測図	237
第167图	第1号道路跡Ⅲ区実測図	238
第168图	第1号道路跡土層断面図	239
第169图	第1号道路跡Ⅰ区土層断面図	242
第170图	第1号道路跡Ⅱ区土層断面図	243
第171图	第1号道路跡Ⅲ区土層断面図	244
第172图	第1号道路跡路面状況図	248
第173图	第1号道路跡波板状凹凸部土層断面図	249
第174图	第1号道路跡補修痕実測図	250

第175图	第1号道路跡遺物出土地点実測図	251
第176图	第1号道路跡出土遺物実測図(1)	253
第177图	第1号道路跡出土遺物実測図(2)	254
第178图	第2号道路跡・出土遺物実測図	257
第179图	第1号土坑実測図	258
第180图	第2号土坑実測図	258
第181图	第3号土坑実測図	259
第182图	第1号井戸跡実測図	260
第183图	第1~3号溝実測図	261
第184图	遺構外出土遺物実測図(1)	263
第185图	遺構外出土遺物実測図(2)	264
第186图	遺構外出土遺物実測図(3)	265

向原遺跡・向原塚群

第187图	基本土層図	273
第188图	第1号住居跡実測図	275
第189图	第1号住居跡出土遺物実測図	277
第190图	第2号住居跡実測図	278
第191图	第4号住居跡実測図	280
第192图	第5号住居跡実測図	281

第193图	第5号住居跡出土遺物実測図	282
第194图	第8号住居跡実測図	283
第195图	第8号住居跡出土遺物実測図	284
第196图	第9号住居跡実測図	284
第197图	第9号住居跡出土遺物実測図	285
第198图	第10号住居跡実測図	285

第199図	第10号住居跡出土遺物実測図	286	第236図	第19号土坑実測図	314
第200図	第11号住居跡実測図	287	第237図	第19号土坑出土遺物実測図	315
第201図	第11号住居跡出土遺物実測図	288	第238図	第58号土坑実測図	315
第202図	第12号住居跡実測図	289	第239図	第58号土坑出土遺物実測図	315
第203図	第12号住居跡出土遺物実測図	289	第240図	第90号土坑実測図	316
第204図	第15号住居跡実測図	290	第241図	第136号土坑実測図	317
第205図	第15号住居跡出土遺物実測図	290	第242図	第136号土坑出土遺物実測図	317
第206図	第16号住居跡実測図	291	第243図	第137号土坑実測図	318
第207図	第16号住居跡出土遺物実測図	291	第244図	第137号土坑出土遺物実測図	318
第208図	第17号住居跡実測図	292	第245図	第141号土坑実測図	318
第209図	第17号住居跡出土遺物実測図	293	第246図	第141号土坑出土遺物実測図	318
第210図	第18号住居跡・出土遺物実測図	294	第247図	第145号土坑実測図	319
第211図	第19号住居跡実測図	294	第248図	第145号土坑出土遺物実測図	319
第212図	第19号住居跡出土遺物実測図	295	第249図	第150号土坑実測図	320
第213図	第20号住居跡実測図	296	第250図	第150号土坑出土遺物実測図	320
第214図	第21号住居跡実測図	297	第251図	第153号土坑実測図	321
第215図	第21号住居跡出土遺物実測図	298	第252図	第153号土坑出土遺物実測図	321
第216図	第22号住居跡実測図	299	第253図	第185号土坑実測図	321
第217図	第22号住居跡出土遺物実測図	300	第254図	第185号土坑出土遺物実測図	321
第218図	第1号竪穴状遺構実測図	301	第255図	その他の土坑実測図①	324
第219図	第2号竪穴状遺構実測図	302	第256図	その他の土坑実測図②	325
第220図	第2号竪穴状遺構出土遺物実測図	302	第257図	その他の土坑実測図③	326
第221図	第3号竪穴状遺構実測図	303	第258図	その他の土坑実測図④	327
第222図	第4号竪穴状遺構実測図	303	第259図	その他の土坑実測図⑤	328
第223図	第4号竪穴状遺構出土遺物実測図	304	第260図	その他の土坑実測図⑥	329
第224図	第5号竪穴状遺構実測図	304	第261図	その他の土坑実測図⑦	330
第225図	第5号竪穴状遺構出土遺物実測図	304	第262図	その他の土坑実測図⑧	331
第226図	第6号竪穴状遺構実測図	305	第263図	その他の土坑実測図⑨	332
第227図	第6号竪穴状遺構出土遺物実測図	305	第264図	その他の土坑実測図⑩	333
第228図	第7号竪穴状遺構実測図	306	第265図	その他の土坑実測図⑪	334
第229図	第8号竪穴状遺構実測図	307	第266図	その他の土坑実測図⑫	335
第230図	第1・2号地形測量図	309	第267図	その他の土坑実測図⑬	336
第231図	第1号塚埋納坑, 第1・2号塚 土層断面図	310	第268図	その他の土坑実測図⑭	337
第232図	第1号塚出土遺物実測図①	311	第269図	その他の土坑実測図⑮	338
第233図	第1号塚出土遺物実測図②	312	第270図	その他の土坑実測図⑯	339
第234図	第6号土坑実測図	313	第271図	その他の土坑実測図⑰	340
第235図	第6号土坑出土遺物実測図	314	第272図	その他の土坑実測図⑱	341
			第273図	遺物包含層平面図・土層断面図	343

第274図	遺物包含層土層断面図・出土遺物 実測図	345
第275図	遺物包含層出土遺物実測図	347
第276図	遺構外出土遺物実測図(1)	350

前原塚

第280図	第1号塚土層断面図	362
第281図	第1号塚実測図	363
第282図	第1～8号土坑実測図	369

仲丸塚

第286図	第1号住居跡・出土遺物実測図	379
第287図	第1号塚出土遺物実測図	379
第288図	第1号塚土層断面図	380
第289図	第1号塚実測図	381
第290図	第1～10号土坑実測図	387

第277図	遺構外出土遺物実測図(2)	351
第278図	遺構外出土遺物実測図(3)	352
第279図	遺構外出土遺物実測図(4)	353

第283図	第9～16号土坑実測図	370
第284図	遺構外出土遺物実測図	373
第285図	前原塚遺構全体図	375

第291図	第4・8・9号土坑出土遺物実測図	388
第292図	第1号道路跡・出土遺物実測図	389
第293図	遺構外出土遺物実測図(1)	391
第294図	遺構外出土遺物実測図(2)	392
第295図	仲丸塚遺構全体図	394

表 目 次

-上 巻-

仲丸遺跡

表1	周辺遺跡一覧表	7
表2	住居跡一覧表	179
表3	竪穴状遺構一覧表	179

表4	土坑一覧表	179
表5	溝一覧表	183
表6	円形周溝状遺構一覧表	183

久保塚群

表7	住居跡一覧表	223
表8	塚一覧表	223

表9	土坑一覧表	223
表10	溝一覧表	223

-下 巻-

五万堀古道

表11	土坑一覧表	267
-----	-------	-----

表12	溝一覧表	267
-----	------	-----

向原遺跡・向原塚群

表13	住居跡一覧表	354
表14	竪穴状遺構一覧表	354

表15	塚一覧表	354
表16	土坑一覧表	355

写真図版目次

- 上 巻 -

仲丸遺跡

- P L 1 仲丸遺跡透景, 仲丸遺跡全景
- P L 2 遺構確認状況, 調査終了状況(1), 調査終了状況(2), 第1号住居跡完掘状況, 第1号住居跡竈遺物出土状況, 第2号住居跡完掘状況, 第2号住居跡遺物出土状況, 第2号住居跡竈調査状況
- P L 3 第3号住居跡完掘状況, 第3号住居跡遺物出土状況(1), 第3号住居跡遺物出土状況(2), 第3号住居跡竈遺物出土状況, 第4号住居跡掘り方完掘状況, 第5号住居跡完掘状況, 第5号住居跡ピット1土層断面, 第5号住居跡ピット4土層断面
- P L 4 第6号住居跡完掘状況, 第6号住居跡竈遺物出土状況, 第7号住居跡完掘状況, 第7号住居跡竈完掘状況, 第8号住居跡完掘状況, 第8号住居跡竈完掘状況, 第9号住居跡完掘状況, 第9号住居跡竈完掘状況
- P L 5 第9号住居跡貯蔵穴遺物出土状況, 第10号住居跡完掘状況, 第10号住居跡遺物出土状況(1), 第10号住居跡遺物出土状況(2), 第11号住居跡遺物出土状況(1), 第11号住居跡遺物出土状況(2), 第11号住居跡竈遺物出土状況, 第12号住居跡完掘状況
- P L 6 第12号住居跡遺物出土状況, 第12号住居跡第1・2竈完掘状況, 第13号住居跡遺物出土状況, 第14号住居跡完掘状況, 第14号住居跡竈完掘状況, 第14号住居跡貯蔵穴遺物出土状況, 第19号住居跡完掘状況, 第19号住居跡遺物出土状況
- P L 7 第19号住居跡竈遺物出土状況, 第19号住居跡竈調査状況, 第20号住居跡遺物出土状況(1), 第20号住居跡遺物出土状況(2), 第20号住居跡竈調査状況, 第20号住居跡竈補土層断面, 第21号住居跡完掘状況, 第21号住居跡竈完掘状況
- P L 8 第22号住居跡完掘状況, 第22号住居跡遺物出土状況, 第22号住居跡竈遺物出土状況, 第23号住居跡完掘状況, 第23号住居跡竈遺物出土状況, 第24号住居跡完掘状況, 第24号住居跡遺物出土状況(1), 第24号住居跡遺物出土状況(2)
- P L 9 第24号住居跡竈調査状況, 第25号住居跡完掘状況, 第25号住居跡遺物出土状況, 第25号住居跡竈遺物出土状況, 第26号住居跡完掘状況, 第26号住居跡第1・2竈完掘状況, 第27号住居跡完掘状況, 第27号住居跡竈完掘状況
- P L 10 第31号住居跡遺物出土状況, 第31号住居跡竈遺物出土状況, 第2号竈穴遺構完掘状況, 第3号竈穴遺構完掘状況, 第4号竈穴遺構完掘状況, 第1号土坑完掘状況, 第5号土坑完掘状況, 第5号土坑遺物出土状況
- P L 11 第18号土坑遺物出土状況, 第31号土坑遺物出土状況, 第33号土坑完掘状況, 第60号土坑完掘状況, 第61号土坑完掘状況, 第97号土坑完掘状況, 第109号土坑完掘状況, 第120号土坑完掘状況
- P L 12 第127号土坑完掘状況, 第1号井戸跡完掘状況, 第1号炭窯跡完掘状況(1), 第1号炭窯跡完掘状況(2), 第1号炭窯跡, 第115~118・122号土坑完掘状況, 第1号炭窯跡,

- 第115号土坑完掘状況、第116~118号土坑完掘状況、第1号円形周溝状遺構完掘状況
- P L 13 第2号円形周溝状遺構完掘状況、第3号円形周溝状遺構完掘状況、第4号円形周溝状遺構完掘状況、第1号遺物包含層完掘状況、第2号遺物包含層完掘状況、第2号遺物包含層遺物出土状況(1)、第2号遺物包含層遺物出土状況(2)、第3号溝完掘状況
- P L 14 第1・2号住居跡出土遺物
- P L 15 第2・3号住居跡出土遺物
- P L 16 第3~7号住居跡出土遺物
- P L 17 第9~11号住居跡出土遺物
- P L 18 第9~12号住居跡出土遺物
- P L 19 第13・14・19号住居跡出土遺物
- P L 20 第19・20号住居跡出土遺物
- P L 21 第20号住居跡出土遺物
- P L 22 第20・21号住居跡出土遺物
- P L 23 第21・22号住居跡出土遺物
- P L 24 第23号住居跡出土遺物(1)
- P L 25 第23号住居跡出土遺物(2)
- P L 26 第23・24号住居跡出土遺物
- P L 27 第24号住居跡出土遺物
- P L 28 第25・26号住居跡出土遺物
- P L 29 第26・27・31号住居跡出土遺物
- P L 30 第31号住居跡、第5号土坑出土遺物
- P L 31 第3・10号住居跡、第5・18・31・47号土坑、第1・2号遺物包含層、遺構外出土遺物
- P L 32 第1・2号遺物包含層出土遺物
- P L 33 第2号遺物包含層、遺構外出土遺物
- P L 34 第8・21~27号住居跡、遺構外出土遺物
- P L 35 第3・4・6・9・10・12・19・21・23・25・26号住居跡、第101号土坑、第1・2号遺物包含層、炭窯跡出土遺物
- P L 36 第2号遺物包含層、遺構外出土遺物
- P L 37 第6・19・20号住居跡、第115号土坑、第1・2号遺物包含層、遺構外出土遺物

久保塚群

- P L 38 調査前風景、遺構確認状況、調査終了状況、第1号住居跡完掘状況、第1号住居跡遺物出土状況、第2号住居跡完掘状況、第3号住居跡遺物出土状況、第4号住居跡完掘状況
- P L 39 第4号住居跡遺物出土状況(1)、第4号住居跡遺物出土状況(2)、第5号住居跡完掘状況、第5号住居跡遺物出土状況(1)、第5号住居跡遺物出土状況(2)、第5号住居跡遺物出土状況(3)、第5号住居跡遺物出土状況(4)、第7号住居跡完掘状況
- P L 40 第8号住居跡完掘状況、第1号土坑遺物出土状況、第1号土坑調査状況、第1号土坑上層断面、第1号土坑遺物出土状況(1)、第1号土坑遺物出土状況(2)、第1~3号溝完掘状況、第1~3号溝調査状況
- P L 41 第1号土坑出土遺物
- P L 42 第1~3号住居跡出土遺物
- P L 43 第3~5号住居跡出土遺物
- P L 44 第6・8号住居跡、遺構外出土遺物
- P L 45 第6・7号住居跡、遺構外出土遺物
- P L 46 第2号住居跡、第4号塚、第1・2号溝、遺構外出土遺物

五万堀古道

- P L 47 調査前状況、遺構確認状況 堀古道遺跡遠景(南方から望む)
- P L 48 五万堀古道遺跡遠景(北方から望む)、五万 堀古道遺跡遠景、I区全景
- P L 49 五万堀古道遺跡全景、I区全景

- P L 50 II区全景, III区透景
- P L 51 遺構確認状況(1), 遺構確認状況(2), 調査終了状況
- P L 52 I区北部遺構確認状況, II区路面痕跡確認状況(1), I区第3時期面確認状況, II区路面痕跡確認状況(2), I区1トレンチ土層断面, II区路面痕跡確認状況(3), III区1トレンチ土層断面, II区路面痕跡確認状況(4)
- P L 53 西側溝土層断面(1), 東側溝土層断面(1), 西側溝土層断面(2), 東側溝土層断面(2), 西側溝土層断面(3), 東側溝土層断面(3), 西側溝土層断面(4), 東側溝土層断面(4)
- P L 54 III区波板状凹凸部, 波板状凹凸部土層断面(1), 波板状凹凸部土層断面(2), 波板状凹凸部土層断面(3), 波板状凹凸部土層断面(4), 波板状凹凸部土層断面(5), 波板状凹凸部完掘状況(1), 波板状凹凸部完掘状況(2)
- P L 55 III区補修痕跡確認状況, 補修痕土層断面(1), 補修痕確認状況(1), 補修痕土層断面(2), 補修痕確認状況(2), 補修痕土層断面(3), 補修痕確認状況(3), 補修痕土層断面(4)
- P L 56 第1号土坑完掘状況, 第2号土坑完掘状況, 第3号土坑完掘状況, 第1号井戸跡完掘状況, 第1~3号溝完掘状況, 第1号道路跡遺物出土状況(1), 第1号道路跡遺物出土状況(2), 第1号道路跡遺物出土状況(3)
- P L 57 第1号道路跡出土遺物
- P L 58 第1号道路跡, 遺構外出土遺物
- P L 59 第1号道路跡, 遺構外出土遺物
- P L 60 第1・2号道路跡, 遺構外出土遺物

向原遺跡・向原塚群

- P L 61 向原遺跡・向原塚群全景, 遺物包含層遺物出土状況
- P L 62 遺構確認状況(1), 遺構確認状況(2), 調査終了状況(1), 調査終了状況(2), 第1号住居跡完掘状況(1), 第1号住居跡遺物出土状況, 第1号住居跡遺物出土状況(2), 第2号住居跡完掘状況
- P L 63 第4号住居跡完掘状況, 第5号住居跡・第48号土坑完掘状況, 第8号住居跡遺物出土状況, 第9号住居跡完掘状況, 第11号住居跡完掘状況, 第11号住居跡遺物出土状況(1), 第11号住居跡遺物出土状況(2), 第12号住居跡完掘状況
- P L 64 第15号住居跡完掘状況, 第16号住居跡・第57・58号土坑完掘状況, 第19号住居跡完掘状況, 第20号住居跡完掘状況, 第21号住居跡掘り方完掘状況, 第21号住居跡遺物出土状況, 第22号住居跡完掘状況, 第21号住居跡遺物出土状況
- P L 65 第1号竪穴状遺構完掘状況, 第4号竪穴状遺構完掘状況, 第5号竪穴状遺構遺物出土状況, 第6号竪穴状遺構遺物出土状況, 第6・7・8号土坑完掘状況, 第19号土坑遺物出土状況, 第90・91号土坑土層断面, 第185号土坑遺物出土状況
- P L 66 第1・2号塚遺構確認状況, 第1号塚南北土層断面, 第1号塚遺物出土状況(1), 第1号塚遺物出土状況(2), 第1号塚壕内遺物出土状況, 第1号塚埋納孔完掘状況, 第2号塚南北・東西土層断面, 第2号塚南北土層断面
- P L 67 第1・11号住居跡出土遺物
- P L 68 第11・21号住居跡, 第1号塚, 第19号土坑, 遺物包含層出土遺物
- P L 69 第5・9・10・15・16・18・19号住居跡, 遺物包含層, 遺構外出土遺物
- P L 70 第8・17・22号住居跡, 第2・4~6号竪穴状遺構, 第6・58・136・141・153号土坑, 遺物包含層出土遺物
- P L 71 第145号土坑, 遺物包含層, 遺構外出土遺物
- P L 72 遺物包含層, 遺構外出土遺物
- P L 73 第12号住居跡, 第185号土坑, 遺物包含層, 遺構外出土遺物

P L 74 第5・19号住居跡，第1号塚，第137・150号土坑，遺物包含層，遺構外出土遺物

前原塚

P L 75 遺構確認狀況，調査終了狀況，第1号塚遺構確認狀況，第1号塚南北・東西土層断面(1)，第1号塚南北・東西土層断面(2)，第1号土坑完掘狀況，第3号土坑完掘狀況，

第4号土坑完掘狀況

P L 76 第5号土坑完掘狀況，第7号土坑完掘狀況，第12号土坑完掘狀況，第13号土坑完掘狀況，遺構外出土遺物

仲丸塚

P L 77 調査前狀況，第1号塚南北トレンチ土層断面，第1号塚東西土層断面

第8号土坑完掘狀況，第9号土坑遺物出土狀況

P L 78 調査終了狀況，第1号住居跡完掘狀況，第1号塚遺物出土狀況

P L 80 第1号住居跡，第1号塚，第1号土坑，第1号道路跡，遺構外出土遺物

P L 79 第1号土坑完掘狀況，第2号土坑完掘狀況，第3号土坑完掘狀況，第4号土坑完掘狀況，第5号土坑完掘狀況，第6号土坑完掘狀況，

P L 81 第4・8・9号土坑，遺構外出土遺物

P L 82 第1号塚，遺構外出土遺物

付 図

付図1 仲丸遺跡遺構全体図

付図2 五方塚古道遺構全体図

付図3 向原遺跡・向原塚群遺構全体図

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

茨城県中央部と近隣都県を結ぶ主要幹線道路は、現在、国道6号線と常磐自動車道である。近年、経済活動の活性化により貨物量が増大するなか、北関東自動車道の整備や常陸那珂港の開発が着実に進みつつある。こうした流れに対応するため、茨城県は、首都圏さらには、北関東の経済、広域的な物流の拠点として、総合流通センターの整備事業を友部町において進めている。

工事に先立ち、平成7年5月9日、先端総合流通センター流通業務団地の都市計画決定に係る埋蔵文化財の取り扱いについて、商工労働部商業流通課より照会がある。これに対して茨城県教育委員会は、平成8年5月20日から22日にかけて現地踏査、5月28日から30日にかけて試掘調査を行う。11月11日、茨城県教育委員会から都市計画決定について異議のない旨を回答、併せて現地踏査及びそれまでの試掘調査によって、遺跡が所在する旨回答する。12月3日、先端総合流通センター関連都市施設の都市計画決定に係る埋蔵文化財の取り扱いについて、商工労働部商業流通課から協議書が提出され、文化財保護の立場から協議を行う。12月4日、茨城県教育委員会から商工労働部商業流通課あてに、先端総合流通センター関連施設の都市計画決定に係る埋蔵文化財の取り扱いについて、試掘調査実施中であることを回答する。茨城県教育委員会は、平成9年5月20日から22日にかけて現地踏査、6月19日に試掘調査を行う。7月25日、茨城県教育委員会から商工労働部商業流通課あてに、西茨城郡友部町大字長尾路・柏井・仁占田地内に、仲丸塚、仲丸遺跡、前原古墳、久保塚群、向原遺跡・向原塚群、五万堀古道が所在する旨回答する。12月17日、商工労働部商業流通課から茨城県教育委員会あてに、先端総合流通センター整備事業地内における仲丸塚、仲丸遺跡、前原古墳、久保塚群、向原遺跡・向原塚群、五万堀古道の取り扱いについて協議書が提出され、文化財保護の立場から協議を行う。平成10年3月13日、茨城県教育委員会から商工労働部商業流通課あてに、総合流通センター整備事業地内における仲丸塚、仲丸遺跡、前原古墳、久保塚群、向原遺跡・向原塚群、五万堀古道を記録保存とする旨回答する。調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介する。

そこで、財団法人茨城県教育財団は、茨城県から発掘調査の依頼を受け、茨城県と埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成10年4月1日から平成11年3月31日にかけて、仲丸遺跡外6遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

仲丸遺跡、久保塚群、五万堀古道、向原遺跡・向原塚群、前原古墳、仲丸塚の発掘調査を平成10年4月から平成11年3月までの1年間にわたって実施した。以下、調査経過について月ごとに略述する。

- 4月 発掘調査を開始するための諸準備を行う。6日に調査区内の現地踏査を行う。8日に友部町企画課流通センター整備推進室と境界杭の立ち会い確認を行う。20日に補助員を投入して現場作業を開始し、調査器材の搬入を行う。21日から仲丸遺跡と向原遺跡の樹木伐開作業を、23日から試掘調査を開始する。
- 5月 引き続き試掘調査を行い、6日から仲丸塚、7日から向原塚群の地形測量を開始する。13日から前原古墳の樹木伐開作業を開始し、20日から地形測量を行う。21日から仲丸塚と向原塚群の遺構調査を開始

する。

- 6月 2日に試掘調査を終了し、3日から向原遺跡、4日から仲丸遺跡の重機による表土除去及び遺構確認作業を開始する。17日に仲丸塚の遺構調査が完了し、竪穴住居跡1軒、塚1基、土坑10基、道路跡1条の調査を終了する。
- 7月 2日に向原遺跡と向原塚群、13・14日に仲丸遺跡と仲丸塚の茨城県建設技術会社による方眼杭打ち測量を行う。21日に仲丸遺跡と向原遺跡の遺構確認作業が終了し、住居跡の遺構調査を開始する。
- 8月 引き続き、仲丸遺跡と向原遺跡の遺構調査を行う。
- 9月 継続して仲丸遺跡と向原遺跡の遺構調査を行う。18日から五万堀古道の樹木伐開作業とトレンチ試掘調査を、29日から久保塚群の樹木伐開作業を開始する。
- 10月 継続して仲丸遺跡と向原遺跡の遺構調査を行い、26日から前原古墳の伐開作業を開始する。
- 11月 継続して仲丸遺跡と向原遺跡の遺構調査を行い、2日から前原古墳の遺構調査を開始する。16日に五万堀古道の重機によるトレンチ試掘調査を行う。25日から久保塚群の地形測量を開始する。
- 12月 継続して仲丸遺跡、向原遺跡、前原古墳の遺構調査を行う。8日に前原古墳の遺構調査が完了し、塚1基、土坑16基の調査を終了する。
9日から五万堀古道の重機による表土除去及び古道確認調査を開始する。21日から茨城県建設技術会社による五万堀古道の方眼杭打ち測量を行う。22・24日に現場休憩所と倉庫を向原遺跡から五万堀古道に隣接した場所に移設する。25日に向原遺跡・向原塚群の遺構調査が完了し、竪穴住居跡17軒、竪穴状遺構8基、塚2基、土坑187基、遺物包含層1か所の調査を終了する。
- 1月 継続して仲丸遺跡と五万堀古道の遺構調査を行い、11日から久保塚群の遺構調査を開始する。11～13日に現場休憩所と倉庫を仲丸遺跡から久保塚群に隣接した場所に移設する。22日に財団法人若津都市文化財センター調査第一係長大谷弘幸氏を招聘して、班内研修会を開く。
- 2月 継続して仲丸遺跡、五万堀古道、久保塚群の遺構調査を行う。12日に仲丸遺跡の遺構調査が完了し、竪穴住居跡24軒、竪穴状遺構7基、土坑137基、井戸跡1基、炭竈跡1基、溝3条、円形周溝状遺構4基、遺物包含層2か所の調査を終了する。22日から久保塚群の重機による表土除去及び遺構確認作業を開始する。
- 3月 継続して五万堀古道と久保塚群の遺構調査を行う。8日に委託者への報告会を、10日に報道関係者への公開を行う。11日に仲丸遺跡と向原遺跡、12日に五万堀古道の航空写真撮影を実施する。13日に現地説明会を開催し、遺構、遺物を一般に公開する。23日に久保塚群の遺構調査が完了し、竪穴住居跡8軒、塚5基、土器棺墓1基、土坑2基、道路跡1条、溝3条の調査を終了する。24日に出土遺物を整理センターに搬出する。30日に五万堀古道の航空写真撮影を実施し、道路跡2条、土坑3基、井戸跡1基、溝3条の遺構調査を終了し、すべての現地調査を完了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

仲丸遺跡は茨城県西茨城郡友部町大字柏井字仲丸423番地の1ほかに、久保塚群は西茨城郡友部町大字長兎路字久保1,000番地に、五万堀古道は西茨城郡友部町大字仁古田字五萬堀1,150番地ほかに、向原遺跡・向原塚群は西茨城郡友部町大字長兎路字向原1,159番地の3ほかに、前原塚は西茨城郡友部町大字長兎路字前原1,155番地の9ほかに、仲丸塚は西茨城郡友部町大字柏井字仲丸438番地に、それぞれ所在している。

友部町は茨城県のはほぼ中央部に位置し、東部は東茨城郡内原町、同茨城町に、南部は酒沼川を隔てて西茨城郡岩間町に、西部は笠間市に隣接している。

当遺跡周辺の地形は、山地及び丘陵地、台地、沖積低地の三つの地域に分けられる。北部・西部は鶏足山塊から南西へ延びる丘陵地（友部丘陵）で、標高50～90mで広い平坦面を残している。丘陵を構成する層は友部層と呼ばれている更新世の海成砂礫層で、上層には関東ローム層をのせている。中央部から南東部の台地は、東茨城台地の一部をなしている。基盤となる第三紀層は見和層上層部と呼ばれ、砂・礫・粘土層によって構成されており、上層には関東ローム層をのせている。南西部の山地は金比羅山を中心に構成され、山地東側は酒沼川によって開析されている。中央部の台地北側には、北部丘陵を水源とする酒沼前川が北西から南東に流れ、流域には水田が拓かれている。南西部の山地と友部丘陵とのあいだには、酒沼川が東へ流れ、その沖積低地は水田となっている。

仲丸遺跡・仲丸塚は、友部町の南東部に位置し、常磐自動車道友部サービスエリアから北東へ約800m離れた南側に酒沼川の支流である枝折川の沖積低地を望む標高28m前後の台地上に立地している。また、仲丸遺跡の西側の谷津を隔てた標高30m前後の台地上には、向原遺跡・向原塚群が立地している。さらに、枝折川を挟んだ仲丸遺跡の南側の標高30m前後の台地上には、前原塚が立地している。

五万堀古道は、常磐自動車道友部サービスエリアから南東へ約600m離れた、南側に酒沼川の沖積低地を望む標高28m前後の台地上を南北に走っている。また、五万堀古道の西側の谷津を隔てた標高28m前後の台地上には、久保塚群が立地している。

遺跡の現況は、仲丸遺跡と五万堀古道は畑地と山林であり、久保塚群、向原遺跡・向原塚群、前原塚、仲丸塚はともに山林であった。

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺は、ゆるやかな丘陵地と平地で構成されており、酒沼川、酒沼前川など中小河川にも恵まれている。そのため、古代から人々が生活を営む場としては絶好の舞台であり、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く所在している。ここでは、仲丸遺跡、久保塚群、五万堀古道、向原遺跡・向原塚群、前原塚、仲丸塚に関連する周辺的主要な遺跡について時代を追って述べることにする。

1 縄文時代

縄文時代の遺跡は、酒沼川流域をはじめ酒沼前川、枝折川の沿岸及びこれらの河川にそそぎ込む小河川の洪積台地に多く分布している。酒沼川の支流枝折川と酒沼川の分岐点から酒沼川の上流に向かって、北縁部の台



第1図 調査遺跡位置図

地には仁古田遺跡〈8〉、釈迦堂遺跡〈9〉、西仁古田遺跡〈10〉、長免路遺跡〈11〉、住吉遺跡〈12〉、下宿遺跡〈13〉が連なり、洞沼川の支流枝折川の北縁部の台地には柏井遺跡〈14〉、本郷遺跡〈15〉、茨城町の羅山遺跡〈16〉が分布する。これらはいずれも中期の遺跡であり、柏井遺跡、西仁古田遺跡からは阿玉台式、加曾利EⅡ式土器片、釈迦堂遺跡からは加曾利E式土器片、仁古田遺跡、長免路遺跡からは加曾利EⅡ式土器片、住吉遺跡からは阿玉台式、膠取式、加曾利Ⅰ式土器片がそれぞれ採集されている。また、本郷遺跡、下宿遺跡も中期の遺跡として確認されている。当遺跡周辺はこの時期の遺跡が最も多く、中期前期の頃では阿玉台式土器、中葉から後半にかけては加曾利Ⅰ式土器、加曾利EⅡ式土器が多く出土している。後期になると、柏井遺跡からは加曾利B式、安行Ⅰ式土器片が、釈迦堂遺跡からは安行Ⅱ式土器片がそれぞれ採集されている。晩期の遺跡は、安行ⅢA式土器片が採集されている柏井遺跡がある。今回調査した遺跡の中には、中期の遺物以外にも、仲丸塚〈7〉の早期、仲丸遺跡〈1〉の前期の住居跡や向原遺跡〈4〉の早期の遺物包含層などが確認され、当遺跡周辺の遺跡との違いが見られる。

2 弥生時代

弥生時代の遺跡は、随分嶺遺跡〈18〉などがあり、洞沼川及び洞沼前川流域に縄文時代や古墳時代の遺跡と複合して点在している。しかし、町内には発掘調査等で確認された遺跡はなく、わずかに表面採集された遺物等が大半である。出土している土器は、後期後半の十王台式土器が中心である。今回調査した久保塚群〈2〉では、後期の住居跡や土器棺葬などが確認され、友部町域で弥生時代の発掘調査が行われたのは初めてであり注目される。

3 古墳時代

弥生時代から古墳時代に入ると、人口は急激に増加し、あらゆる地域に生活の場を拡大した。古墳時代の遺跡は、慈教堂古墳〈19〉、芝沼古墳群〈20〉、岩間町の塚原古墳群〈21〉、下安居古墳〈22〉が確認されている。慈教堂古墳は発掘調査が行われており、洞沼川下流域における唯一の方墳であり、粘板岩製の板石を組み合わせた箱式石棺を有する古墳であることがわかった。また、方墳の南中央に墓道をもち、四周には周堀をもっていることも判明した。また、芝沼古墳群は5基の円墳が、塚原古墳群は前方後円墳と円墳の2基が確認され、ともに当時代後期の遺跡と推定されている。また、仁古田の釈迦堂、南小泉の善九郎、大古山の木内など当遺跡周辺の各所からは、古墳時代の土器片が発見されており、集落跡が存在する可能性がある。さらに、当町南側の洞沼川を挟んだ対岸は、岩間町土師地区であり、土師器などの製作にかかわるとされる、土師部一族が居住した地と考えられている。この地域の台地上にも遺跡が点在し、土師遺跡、島原敏遺跡は古墳、奈良・平安時代の複合遺跡である。今回調査した仲丸遺跡にも、一辺が約10mの大形住居跡や焼失家屋、土師器の坏・甕などが多量に並んで出土した住居跡もあり、当時代後期の集落跡の類例として好資料である。

4 奈良・平安時代

奈良・平安時代の当遺跡周辺は、茨城と那珂の両郡にまたがっていた。仁古田に所在する五万堀遺跡の古道は、常陸国府から安候駅家を経て、河内駅家へ向かう古代の東海道につながる官道と推定されている。『日本後紀』や『延喜式』の中で記されている安候駅家は、現在岩間町安居に比定されている。安居は仁古田と洞沼川を挟んだ対岸の位置にあり、岩間町東山地区の塚原遺跡〈24〉は、安候駅家跡の有力な推定地のひとつであり、多量の須恵器や土師器とともに、周辺の畑からは炭化米が出土している。今回調査した五万堀古道〈3〉では、幅約10mのほぼ直線に延びる硬く締まった道路跡を300mにわたって確認し、東海道の調査例としては2例目となる極めて貴重な発見である。町城北西部の笠岡市との境界近くに位置する端上遺跡では、須恵器窯跡が確認されている。この窯跡は8世紀後期から9世紀初頭の時期にかけて操業されたと思われる窯跡であり、この一



第2図 周辺遺跡分布図（笠間・岩間）

帯には須恵器生産が行われた一大窯跡群が想定される。また、当町東側の内原町には蔵田千軒遺跡(25)があり、平安時代前期の住居跡等が調査されている。

5 中・近世

当遺跡周辺の中世以降の遺跡は、城館跡として長兎路城跡(27)、湯崎住吉城跡(28)、住吉城跡(29)などがある。平安時代末期、瀬沼川流域一帯は桓武系常陸平氏が支配権をもっていた。建久4年(1193)に下野武士八田知家がこの地へ進出してきた。やがて八田氏流の家周が常陸国守護職に補任され、常陸武家の総指揮官となり常陸穴戸氏が成立する。しかし、戦国時代末期、佐竹氏の南進策の中で、穴戸氏は佐竹氏配下の将となっていく。これらの城館は、こうした武士の拠点となったものである。また、万部塚(30)、千部塚(31)、東原製鉄跡(32)もこの時期の遺跡である。

近世の友部地方は、佐竹氏の秋田移封のあとに、秋田氏が穴戸城に拠って五万石を領した。秋田氏が去ったあと幕府の直轄地に編入されるが、天和2年(1682)からは、徳川頼房の七男頼雄が松平氏を名乗り一万石の穴戸藩主となった。これ以降の友部地方は、穴戸藩領のほか空閑藩領、旗本領、天領の村々が入り組んで存在していた。

当遺跡周辺には、平成9年から10年に当教育財団が発掘調査した坂ノ上塚群が、瀬沼川を過ぎ下加賀田へ入った街道筋の丘陵地に、高土台塚群が、瀬沼川左岸の丘陵地に立地している。いずれも穴戸の集落の西側から南側の丘陵地に所在している。今回調査した向原塚群(5)、仲丸塚は中世の塚、久保塚群は近世の塚と考えら

表1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代					番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						
			旧石器	縄文	弥生	古墳	余・平				中・近	旧石器	縄文	弥生	古墳	余・平	中・近
①	仲丸遺跡			○		○	○	○	17	後原遺跡	225					○	○
②	久保塚群			○	○	○		○	18	随分閑遺跡	2673		○	○			
③	五万福古道						○	○	19	慈教堂古墳	360					○	
④	向原遺跡		○	○	○	○	○		20	芝沼古墳群	4124					○	
⑤	向原塚群							○	21	塚原古墳群	386					○	
⑥	前原塚							○	22	下安居古墳	390					○	
⑦	仲丸塚			○				○	23	下安居遺跡	394		○		○	○	
8	仁古田遺跡	382		○					24	塚原遺跡	396		○	○	○	○	
9	釈迦堂遺跡	363		○					25	蔵田千軒遺跡	4568					○	○
10	西仁古田遺跡			○					26	播田実遺跡	3055					○	
11	長兎路遺跡	379		○					27	長兎路城跡	4122						○
12	住吉遺跡	3160		○					28	湯崎住吉城跡	3652						○
13	下宿遺跡	375		○					29	住吉城跡	4589						○
14	柏井遺跡	359		○					30	万部塚	4602						○
15	本郷遺跡			○					31	千部塚	4603						○
16	離山遺跡	223		○					32	東原製鉄跡	4595						○

れ、ともにこの地区が当時の信仰と関係していた可能性が考えられる。

※文中の〈 〉内の番号は、第2図及び周辺遺跡一覧表中の該当遺跡番号と同じである。

参考文献

- ・友部町史編さん委員会 『友部町史』 1990年3月
- ・友部町教育委員会 『友部町埋蔵文化財一覧表』 1998年3月
- ・慈教堂古墳発掘調査会 『慈教堂古墳発掘調査報告書』 1990年3月
- ・岩岡町史編さん資料収集委員会 『因説 岩岡の歴史』 1991年3月
- ・笠間市史編さん委員会 『笠間市史』 1993年12月
- ・笠間市史編さん委員会 『笠間市遺跡分布調査報告書』 1992年3月
- ・茨城県史編さん原始古代史部会 『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』 1979年3月
- ・茨城県立歴史館 『茨城県史料 考古資料編 弥生時代』 1991年3月
- ・茨城県史編さん原始古代史部会 『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』 1974年3月
- ・茨城県立歴史館 『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』 1995年3月
- ・茨城県教育委員会 『茨城県遺跡地図』 1990年3月
- ・茨城県教育委員会 『茨城県遺跡・古墳発掘調査報告書 VI～VII』 1993年3月～1997年3月

第3章 仲丸遺跡

第1節 遺跡の概要

仲丸遺跡は、友部町の南東部にあり、南側に潤沼川の支流である枝折川の沖積低地を望む標高25～30mの台地上に位置している。調査区域は、東西約160m、南北約125m、面積19,890㎡であり、現況は畑地と山林である。

今回の調査によって、堅穴住居跡24軒、堅穴状遺構7基、土坑137基、井戸跡1基、炭窯跡1基、溝3条、円形周溝状遺構4基、遺物包含層2か所を確認した。このうち縄文時代の遺構は、調査区の西側を中心に堅穴住居跡1軒と陥し穴4基などが確認され、当時は遺跡付近は狩猟の場として利用されていたと考えられる。古墳時代後期と平安時代の遺構は、堅穴住居跡23軒が確認され、調査区の南側の斜面部に集中している。特に古墳時代後期の堅穴住居跡の中には、一辺が約9mの大形のものや焼失家屋、土師器の坏・甕などが多量に並んで出土したものもある。近代になると、調査区の東側で、炭窯跡1基と粘土採掘坑4基が確認されている。また、溝や円形周溝状遺構は覆土が薄く、出土物がほとんどないことから、性格や時期は不明である。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に124箱出土している。古墳時代後期の堅穴住居跡からは、土師器、須恵器、土玉、管玉形模造品、丸玉、紡錘車、支脚、丸玉、砥石等が出土している。その他の遺物としては、尖頭器、搔器、縄文土器、球状耳飾り、土製円板、蓋、石鏃、磨製石斧、玉斧、石鏃、石匙、石皿、磨石、瓦、石臼、弥生土器片、土師質土器片、陶磁器片、碁石形土製品、鉄釘、寛永通寶等が出土している。

第2節 基本層序の検討

調査区内（A 2 f9～A 2 f0区）にテストピットを設定し、深さ2.4mまで掘り下げ、第3図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層は、16～34cmの厚さの耕作土層で、極暗褐色をしている。

第2層は、13～37cmの厚さで、褐色をしたソフトローム層である。

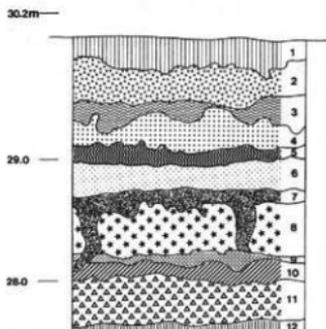
第3層は、1～32cmの厚さで、砂粒を少量含む、褐色をしたソフトローム層である。

第4層は、8～41cmの厚さで、砂粒と赤色・白色微粒子を微量に含む、褐色をしたハードローム層である。

第5層は、3～25cmの厚さで、砂粒と黄色微粒子を微量に含む、褐色をしたハードローム層である。

第6層は、15～37cmの厚さで、黄色微粒子を少量、赤色・白色微粒子と小礫を微量に含む、褐色をしたハードローム層である。

第7層は、5～22cmの厚さで、鹿沼パミス粒子を多量に含む、明褐色をしたハードロームと鹿沼パミスの混合土層である。



第3図 基本土層図

第8層は、32～54cmの厚さで、黄橙色をした鹿沼バミスの純粋層である。

第9層は、1～18cmの厚さで、鹿沼バミス粒子を中量含む、褐色をしたハードローム層である。

第10層は、9～21cmの厚さで、白色微粒子と小礫を少量含む、褐色をしたハードローム層である。

第11層は、25～41cmの厚さで、小礫を中量含む、にぶい褐色をしたハードローム層である。

第12層は、2～11cmの厚さで、砂質を帯びた、褐色をしたハードローム層である。

住居跡などの遺構は、第2層上面で確認され、第2層から第3層にかけて掘り込まれている。

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

今回の調査で、縄文時代の竪穴住居跡1軒、古墳時代の竪穴住居跡2軒、平安時代の竪穴住居跡1軒を検出した。竪穴住居跡は調査区の南側の斜面部に集中しており、住居跡間の重複はなく、遺存状態は比較的良好であった。以下、検出された竪穴住居跡の特徴や出土遺物について記載する。

第1号住居跡（第4・5区）

位置 調査区西部、B2区。

規模と平面形 長軸5.55m、短軸5.42mの方形である。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は28～60cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅17～32cm、下幅5～10cm、深さ4～6cmで、断面形はU字状である。

壁溝土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------|
| 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 | 2 褐色 ローム粒子多量 |
|--------------------------|--------------|

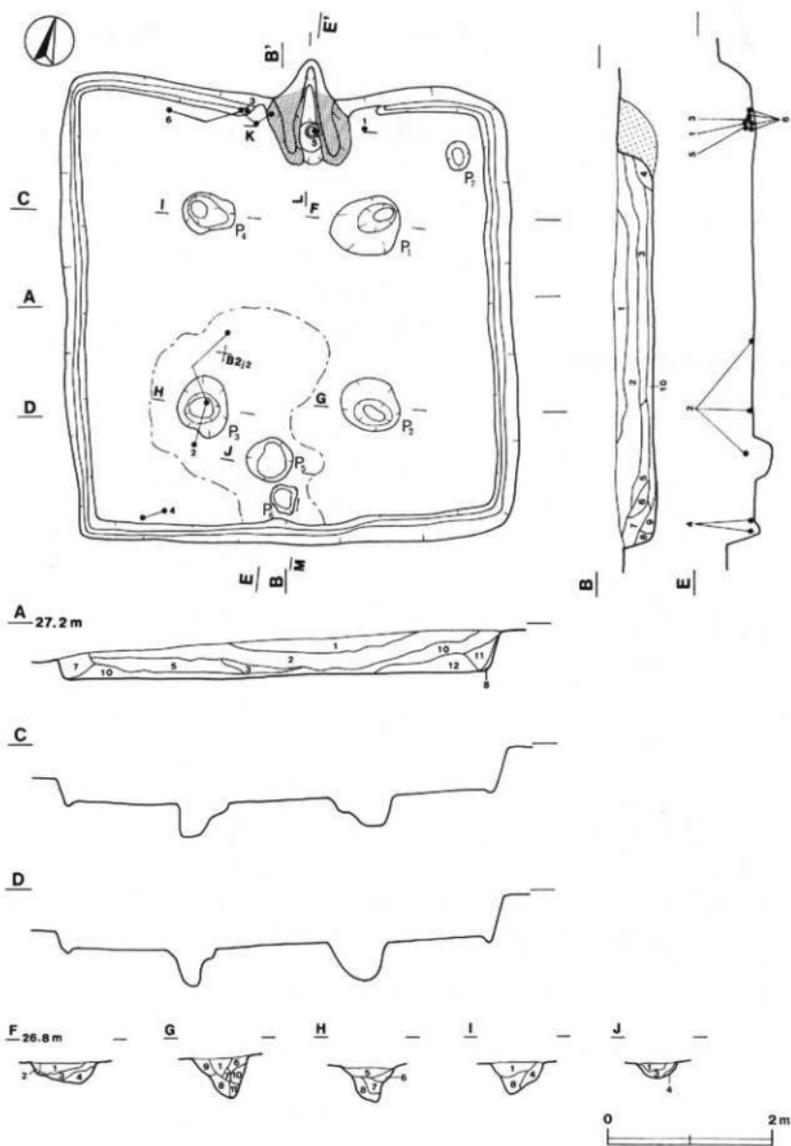
床 平坦で、出入口施設から中央部手前にかけて、やや踏み固められている。

ピット 7か所（P1～P7）。P1～P4は長径58～87cm、短径48～78cmの楕円形または不整形楕円形、深さ36～47cmでいずれも主柱穴である。P5は径55cmの円形、P6は長径39cm、短径35cmの不整形楕円形、深さ13～22cmでいずれも出入口施設に伴うピットである。P7は長径35cm、短径29cmの楕円形、深さ14cmで、性格は不明である。

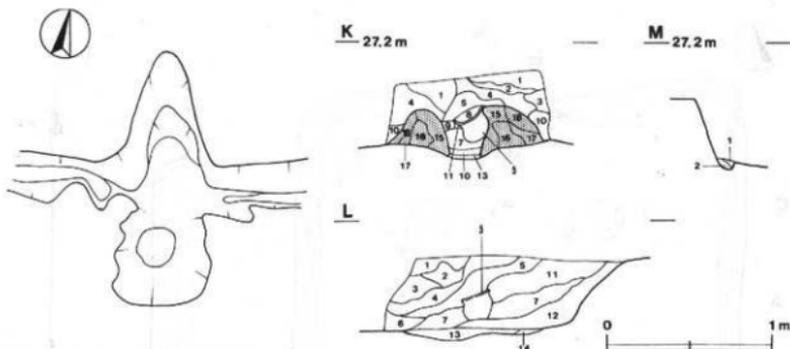
P1～P5土層解説

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 黒色小ブロック・ローム粒子中量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 褐色 ローム小ブロック中量 | 8 褐色 ローム中ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム中・小ブロック少量 | 9 褐色 ローム小ブロック少量 |
| 4 褐色 ローム粒子多量 | 10 褐色 ローム粒子多量・ローム小ブロック少量 |
| 5 暗褐色 黒色粒子中量、ローム粒子少量 | 11 褐色 ローム中ブロック少量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量 | |

竪 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒、ロームブロックを混ぜて構築されている。規模は、煙道部から突口部まで132cm、最大幅100cm、壁外への掘り込みは52cmである。火床面は床面を6cmほど掘りくぼめており、浅い皿状をしている。西側袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆三角形で、外傾して立ち上がる。



第4图 第1号住居跡実測图(1)



第5図 第1号住居跡実測図(2)

覆土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------------|---------|---|
| 1 棕褐色 | 砂粒少量、焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | 砂粒・粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量、砂粒微量 | 12 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・砂粒・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック少量 火床面上の燃焼灰の堆積層 |
| 4 褐色 | 砂粒中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい褐色 | 小礫・砂粒・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 15 暗褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 内面は赤変 |
| 6 にぶい褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム大ブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 16 褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ローム大ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 竈内部の芯材の粘土期 |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量、小礫・焼土小ブロック・砂粒中量、焼土大ブロック・炭化粒子少量 | 17 褐色 | ローム粒子多量、砂粒・粘土粒子少量 |
| 8 褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、焼土粒子・ローム粒子少量、炭化物微量 | 18 黒褐色 | ローム小ブロック・砂粒・粘土粒子・炭化粒子少量 |
| 9 にぶい褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | | |
| 10 明褐色 | ローム粒子多量、ローム中・小ブロック・砂粒・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

覆土 12層からなり、黒色土・ロームがブロック状に堆積していることや不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

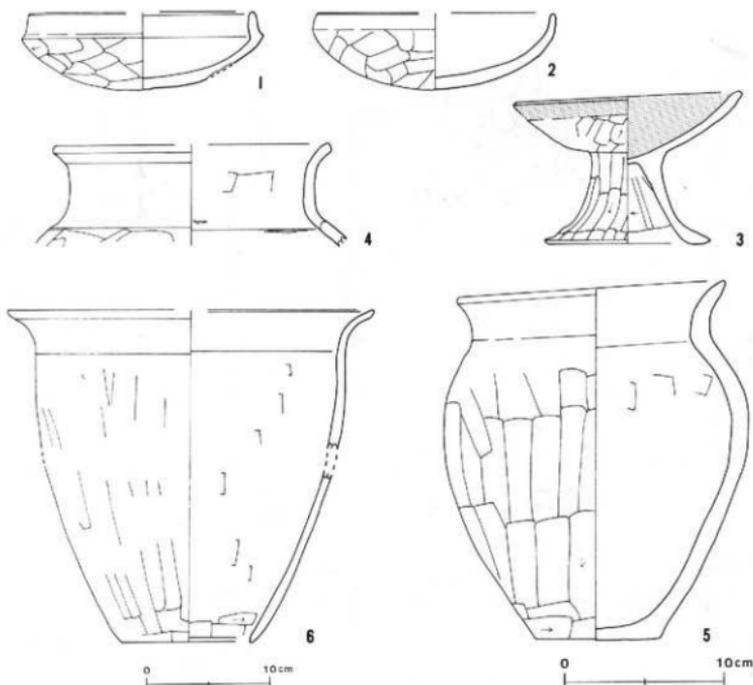
- | | | | |
|-------|-------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | 黒色小ブロック中量、ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、黒色小ブロック少量 | 8 褐色 | ローム大ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量 | 9 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、小礫・砂粒少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 黒色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子中量 | 12 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物 土師器片161点、及び混入した縄文土器片11点が出土している。1の坏が竈東側、2の坏がP3付近、3の高坏と6の瓶が竈西側、4の甕が南西コーナー部のそれぞれ覆土下層から、5の甕が竈に据えられた様には正位の状態出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀後葉）と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第6図 1	土師器 環	A [13.9]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 石英 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 2 60% P L 14 覆土下層
		B 4.9				
2	土師器 環	A [14.6]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横ナデ。	長石 石英 砂粒 にぶい褐色 普通	P 3 70% P L 14 覆土下層
		B 4.8				



第6図 第1号住居跡出土遺物実測図

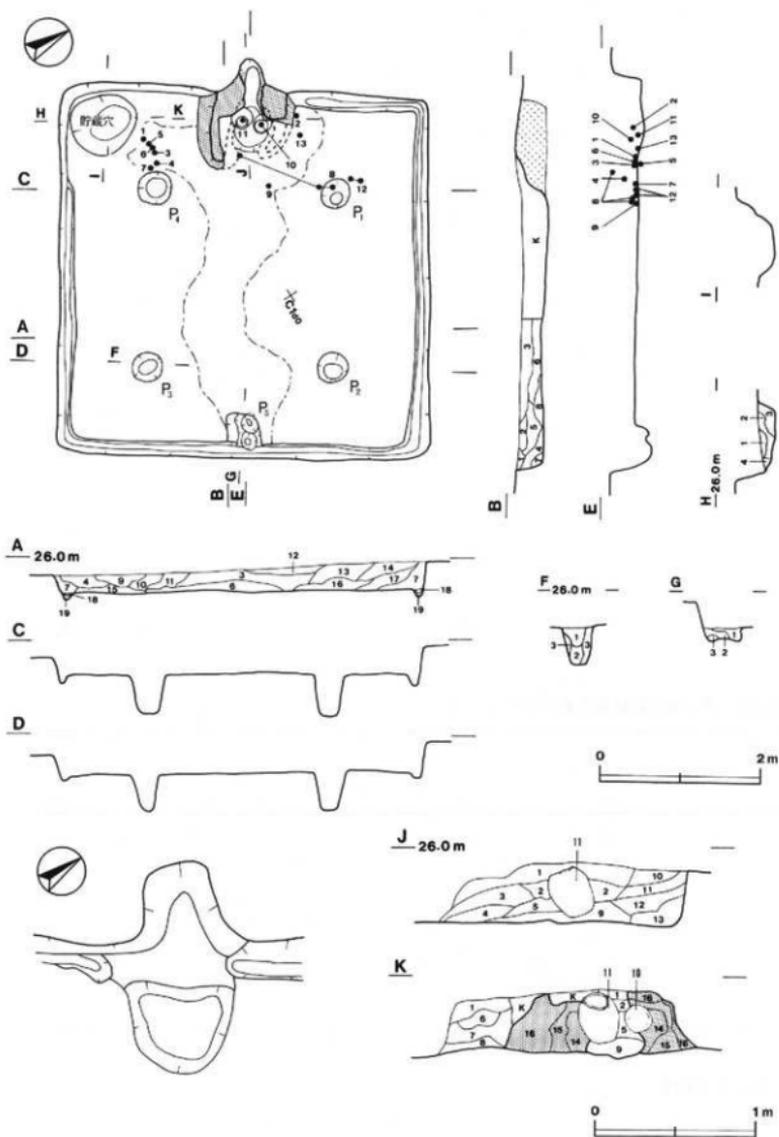
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第6図 3	高 土 器	A 14.2	坏部一部欠損。脚部はハの字状に開き、腹部はわずかに広がる。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横ナデ。脚部内・外面へラ削り。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 石英 砂粒 にぶい橙色 普通	P 4 90% P L 14 覆上下層
		B 9.4				
		D 10.2				
		E 5.6				
4	壺 土 器	A [17.0]	体部から口縁部の破片。頸部はほぼ直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	P 5 5% P L 14 覆上下層
		B (6.5)				
5	壺 土 器	A 16.7	完形。平底。体部は内彎して立ち上がり、上位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへラ削り、下端横位のへラ削り。内面へラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	P 7 100% P L 14 壺内 外面塚付着
		B 22.1				
		C 7.6				
6	瓶 土 器	A [29.8]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、腹部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへラ削り、下端横位のへラ削り。内面へラナデ。下端へラ削り後、ナデ。	長石 石英 砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 8 60% P L 14 覆上下層
		B [27.0]				
		C 10.7				

第2号住居跡 (第7図)

位置 調査区西部、C 1 d9区。

規模と平面形 長軸4.61m、短軸4.55mの方形である。

主軸方向 N-55°-W



第7図 第2号住居跡実測図

壁 壁高は33~54cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 西コーナー部を除いて、巡っている。上幅12~30cm、下幅3~13cm、深さ9~14cmで、断面形はU字状である。

壁溝土層解説

18 褐色 ローム中ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 19 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量

床 平坦で、南東壁から竈にかけて、やや踏み固められている。

ピット 5か所（P1~P5）。P1~P4は径37~41cmの円形、深さ48~52cmでいずれも主柱穴である。P5は長径47cm、短径42cmの不整楕円形で、深さ20cmの出入り口施設に伴うピットである。

P3土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量

P5土層解説

1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・焼土粒子少量 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量
2 に近い褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量、ローム中ブロック少量

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長径80cm、短径72cmの楕円形、深さ21cmで、断面形は逆台形状をしている。

貯蔵穴土層解説

1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大・中ブロック少量 3 に近い褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量
2 褐色 ローム大・小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

竈 北西壁中央部に付設されている。東側袖部から西側袖部にかけて攪乱を受けており、西側袖部と東側袖部の一部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。袖部と思われる粘土痕と、火床面と思われる位置に焼土塊が確認できることから、規模は、煙道部から焚口部まで「117」cm、最大幅「120」cm。壁外への掘り込みは44cmと推定される。火床面は床面を7cmほど掘りくぼめており、皿状を呈し、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で、外傾して急に立ち上がる。

竈土層解説

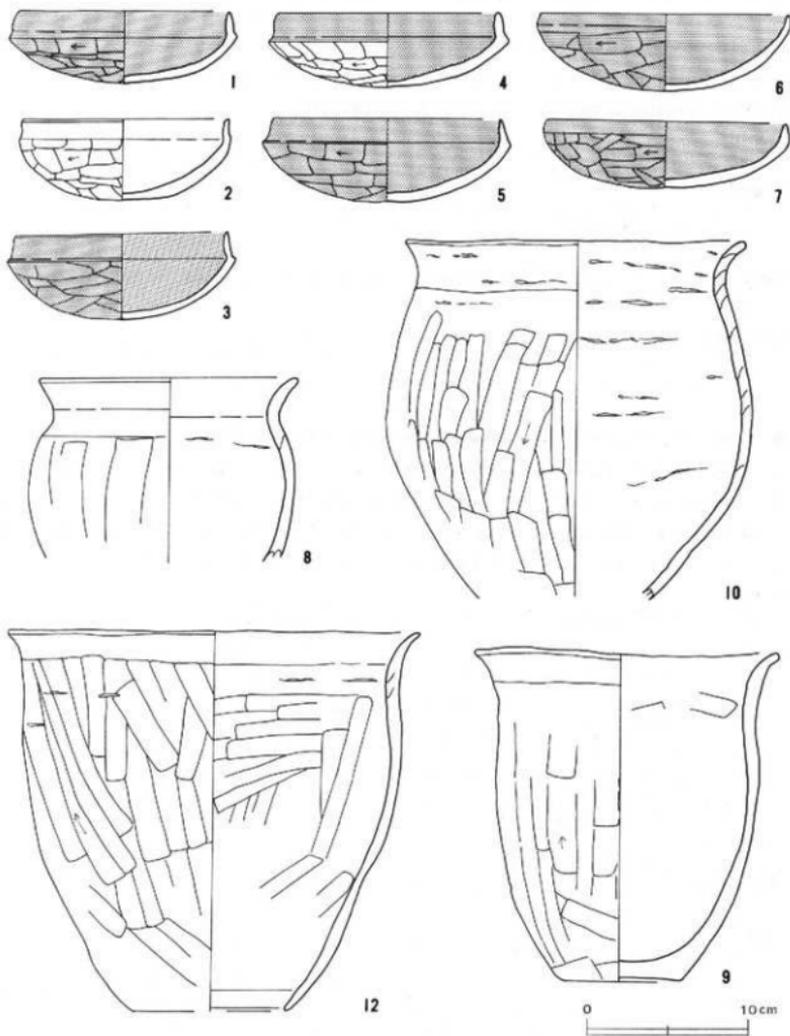
1 褐色 小礫・砂粒・焼土粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 9 赤褐色 焼土大ブロック多量、火床面
2 褐色 砂粒・焼土粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 10 に近い褐色 砂粒・粘土粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 褐色 小礫・砂粒・粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 11 暗褐色 砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
4 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 12 褐色 焼土粒子多量、砂粒・粘土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 に近い暗褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子・炭化粒子中量、炭化物・ローム粒子少量 13 に近い褐色 砂粒・粘土粒子・ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・砂粒・炭化粒子少量、焼土粒子微量 14 暗赤褐色 焼土粒子多量、砂粒・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化物少量、内面は赤変
7 灰褐色 ローム小ブロック・粘土粒子中量、砂粒・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量 15 褐色 砂粒・粘土粒子多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量、竈袖部の志材の粘土層
8 褐色 ローム粒子中量、砂粒・粘土粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 16 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・砂粒・粘土粒子・炭化粒子少量

覆土 17層からなり、ロームブロックを多く含有し、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2 褐色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 7 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量
3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 8 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量 9 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 10 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
11 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量

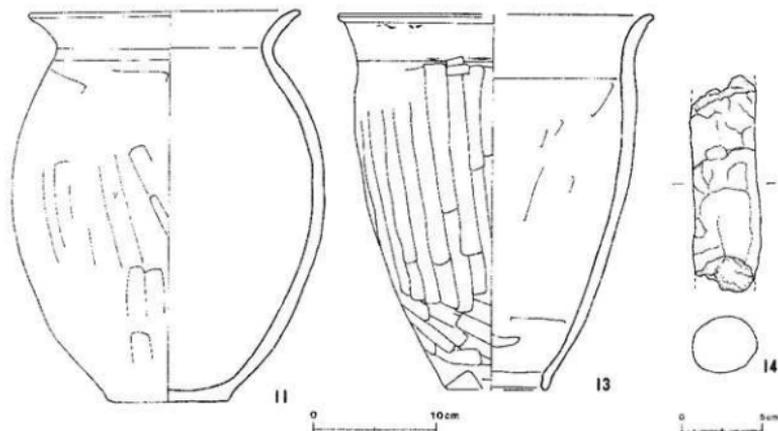
- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 12 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 15 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 13 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 14 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |



第8図 第2号住居跡出土遺物実測図(1)

遺物 土師器片219点、支脚1点、及び混入した縄文土器片19点が出土している。ほとんどの遺物は竈周辺と竈内に集中している。4の坏が竈周辺の覆土中層から、1～3、5の坏、13の甗が覆土下層から、8の小形甗が覆土上層と床面直上から、6と7の坏、9の甗、12の甗が床面直上から、10と11の甗が竈内火床面上部からはほぼ正位の状態で並んで、14の支脚が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 10と11の上師器甗が竈の火床面上部からはほぼ正位の状態と並んで出土していることから、天井部には2か所の甗を掛ける掛け口が東西に並んであげられていた可能性が考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀後葉）と考えられる。



第9図 第2号住居跡出土遺物実測図(2)

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	坏 土師器	A 12.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 砂粒 にふい粉色 普通	P 9 100% P L 14 覆土下層
		B 4.5				
2	坏 土師器	A 12.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部は器内を減じながら、ほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい粉色 普通	P 10 95% P L 14 覆土下層
		B 5.0				
3	坏 土師器	A 13.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 黒褐色 普通	P 11 90% P L 14 覆土下層
		B 5.4				
4	上 土師器	A 13.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P 12 95% P L 14 覆土中層
		B 4.6				
5	坏 土師器	A 13.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 砂粒 にふい粉色 普通	P 13 95% P L 14 覆土下層
		B 5.2				
6	坏 土師器	A 15.3	定形。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に平。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 砂粒 褐色 普通	P 14 100% P L 14 床面直上
		B 4.7				
7	上 土師器	A 14.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に平。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 針状風物 砂粒 にふい粉色 普通	P 15 95% P L 14 床面直上
		B 4.1				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8区 8	小形土師器	A 160 B (110)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ、輪積み痕有り。	長石 石英 玄緑 砂粒 赤い黄褐色 普通	P16 40% P L15 覆土上層底面直上
9	土師器	A 188 B 203 C 7.2	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上縦位のヘラ削り。下位縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石 石英 小礫 砂粒 赤い黄褐色 普通	P17 80% P L15 底面直上内面直上層
10	土師器	A (209) B (22)	底部、口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。内・外面に輪積み痕を残す。	長石 石英 赤色焼了 砂粒 赤い黄褐色 普通	P18 80% P L15 竈火床面上部
第9区 11	土師器	A 223 B 321 C 10.0	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以下縦位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 小礫 砂粒 藍色 普通	P19 90% P L15 竈火床面上部
第8区 12	土師器	A 253 B 235 C [9.4]	底部、体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は器内を減じながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面に輪積み痕を残す。	長石 雲母 小礫 砂粒 藍色 普通	P20 90% P L15 床面直上内面直上層
第9区 13	土師器	A [26.6] B 30.7 C [8.0]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上縦位のヘラ削り。下位縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。下層縦位のヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 赤い黄褐色 普通	P21 50% 内面直上層 覆土下層

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
14	支那	(13.3)	4.3	(228.4)	覆土中	D P1

第3号住居跡 (第10・11区)

位置 調査区西部，C 2 e2区。

規模と平面形 長軸7.59m，短軸7.33mの方形である。

主軸方向 N-24°-W

壁 壁高は23～59cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 各コーナー部を除いて，巡っている。上幅16～46cm，下幅8～17cm，深さ4～8cmで，断面形はU字状である。

壁土層解説

1 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量 2 明褐色 ローム粒子少量
床 平坦で，南東壁から着手前にかけて，踏み固められている。各コーナー部には，浅い掘り込みが見られる。
ピット 9か所 (P1～P9)。P1～P4は長径90～102cm，短径85～100cmの楕円形，深さ67～82cmでいずれも主柱穴である。P5は長径118cm，短径65cmの不整楕円形で，深さ40cmの出入り口施設に伴うピットである。P6～P9は長径55～84cm，短径42～54cmの不定形，深さ10～14cmでいずれも補助柱穴である。

P1土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大・中ブロック・砂粒・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・新土粒子微量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量

P3土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量

P4土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量

P5土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム中・小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量、ローム大ブロック微量

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長径110cm、短径97cmの不整形円形、深さ37cmで、断面形はU字状をしている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|--|--------------------|
| 1 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量、炭化物・砂粒少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 3 黒褐色 砂粒・ローム粒子少量 |
| 2 褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、砂粒・粘土粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 4 暗褐色 砂粒・ローム粒子少量 |
| | 5 暗褐色 砂粒少量・ローム粒子微量 |

竈 北西壁中央部に付設されている。天井部の一部と同袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで171cm、最大幅104cm、壁外への張り込みは65cmである。火床面は床面を30cmほど張りくぼめており、皿状をしている。天井部と袖部内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。西側袖部は東側袖部に比べて、粘土で厚く作られている。煙道部の平面形は逆U字形で、最初緩やかで、のち急に外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 にい褐色 砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 | 8 灰褐色 砂粒少量、焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 砂粒・粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 | 9 褐色 砂粒・焼土粒子少量 |
| 3 にい褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、炭化物微量 | 10 灰褐色 砂粒・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量、ローム中・小ブロック・ローム粒子・砂粒微量 | 11 黒褐色 砂粒・ローム粒子少量 |
| 5 にい褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量、焼土中ブロック・砂粒・炭化粒子・ローム粒子少量 | 12 灰褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・砂粒・粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 6 にい褐色 砂粒中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量、火床面の燃焼灰の堆積層 | 13 暗褐色 焼土粒子少量、焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 7 暗褐色 砂粒・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 14 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量、粘土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | 15 暗褐色 ローム粒子中量、粘土小ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量、焼土大ブロック・ローム大ブロック微量 |

竈袖部土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1 灰褐色 砂粒・白色粘土粒子中量、竈袖部の芯材の粘土層内面は赤色 | 4 褐色 ローム粒子微量 |
| 2 灰褐色 砂粒・白色粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 焼土粒子中量 |
| 3 灰褐色 砂粒・白色粘土粒子少量 | 6 黒褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

覆土 10層からなり、ロームブロックを多く含有し、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

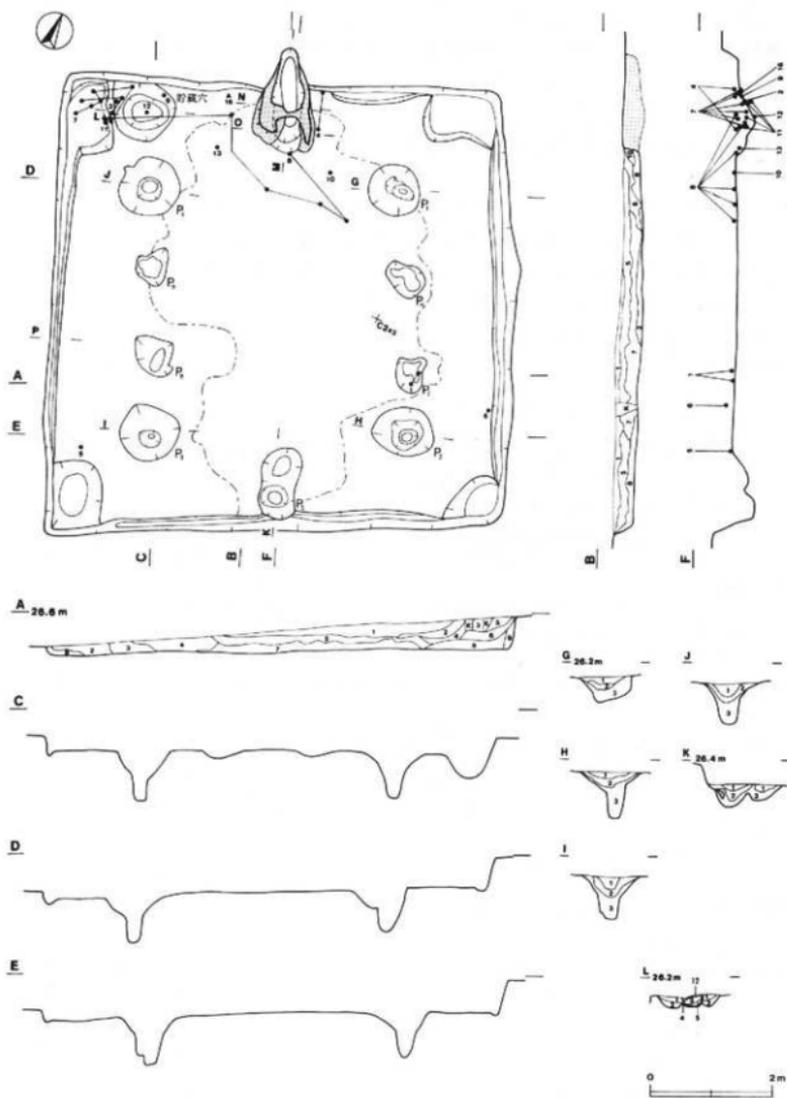
土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量、砂粒少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、砂粒・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・砂粒・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック中量、焼土粒子少量、砂粒・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・砂粒・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 ローム小ブロック・砂粒・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 炭化粒子少量、ローム小ブロック・砂粒・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量 | 9 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム小ブロック・砂粒・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 10 褐色 砂粒・粘土粒子少量、焼土粒子・ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量 |

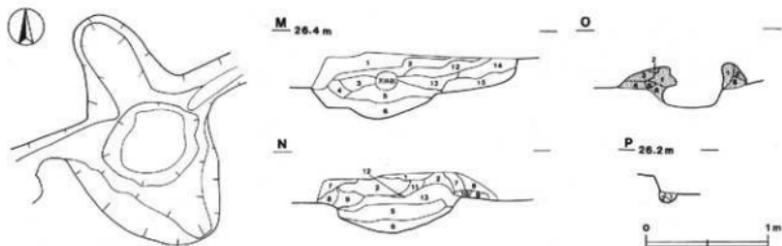
遺物

土師器片1246点、須恵器片11点、支脚1点、及び混入した細文土器片35点が出土している。図示したものは、すべて土師器である。1の環がP7の上面から、6の小形甕が東コーナー部の覆土中層から、4の環が西側壁、5の環が南コーナー部、13の甕と16の支脚が西側のそれぞれ覆土下層から、8の甕が竈周辺の床面直上と覆土下層から、10の甕が竈手前の床面直上から、2の環、7、9、11、12の甕が貯蔵穴内及び貯蔵穴周辺の覆土下層から、3の環が覆土中からそれぞれ出土している。14と15は須恵器製の体部片で、外面に平行叩き、内面に当て具痕が見られる。

所見 本跡は、北東壁側と南西壁側の主柱穴の間に、深さ10～14cmのピットが2か所ずつ確認できることから、補助柱穴を伴う住居跡と考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀後葉）と考えられる。



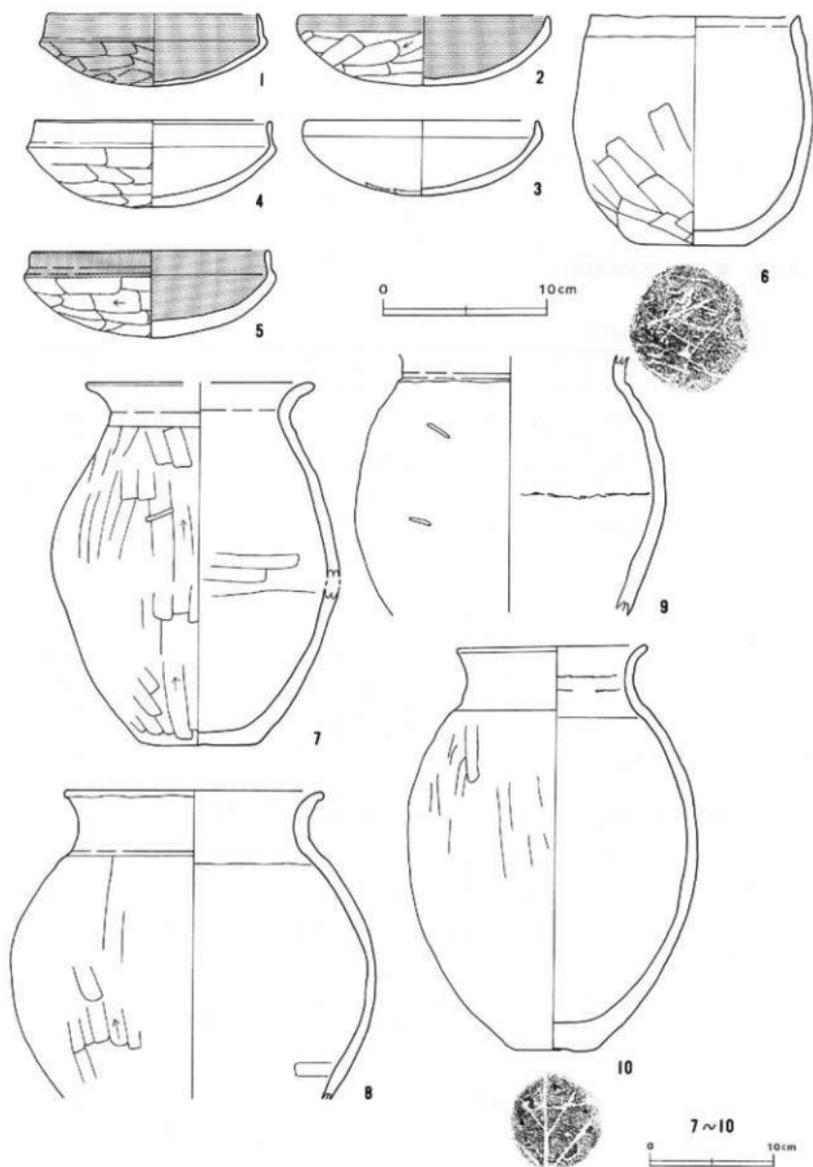
第10图 第3号住居跡实测图(1)



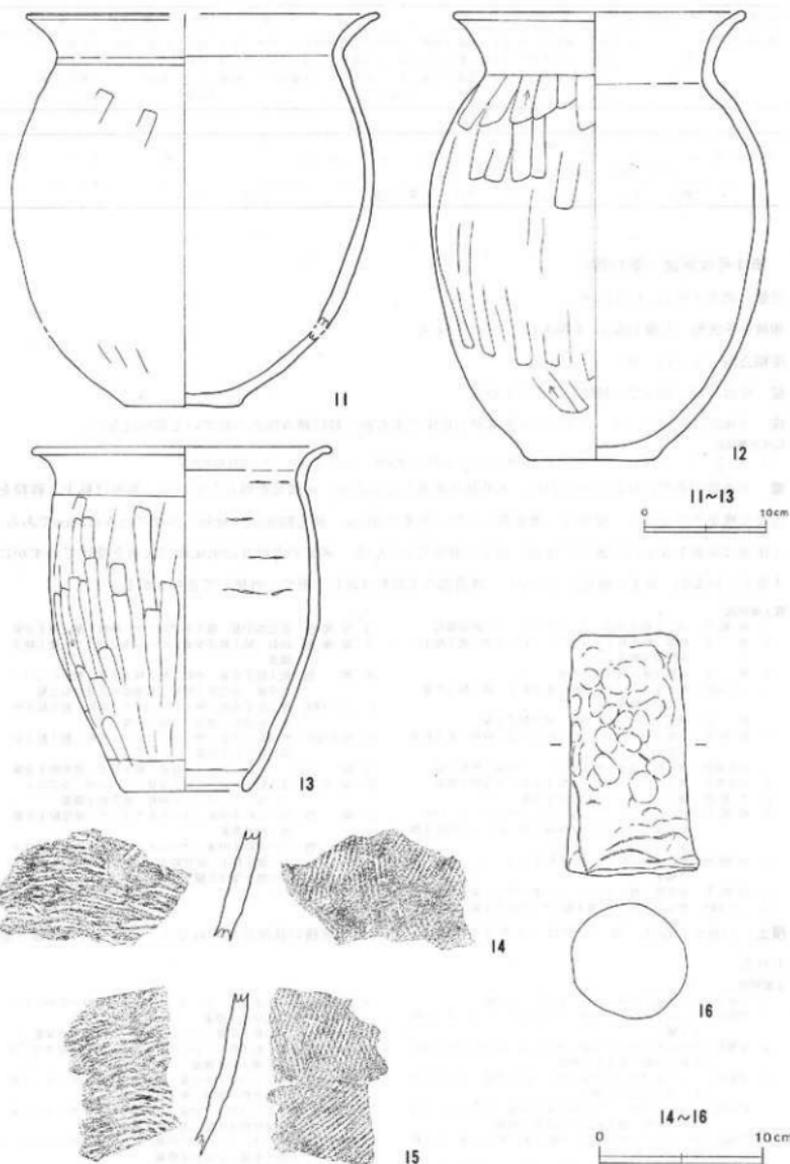
第11図 第3号住居跡実測図(2)

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 1	土 師 器	A 128 B 45	底部、体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。器内は全体的に薄い。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P22 75% P.L15 二次焼成痕 P7の上面
	土 師 器	A [15.1] B 45.3	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P24 50% 貯蔵穴内
3	土 師 器	A 142 B 46	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	石英 小礫 砂粒 褐色 普通	P26 95% P.L15 二次焼成痕 覆土中
	土 師 器	A 144 B 54	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P27 95% P.L15 覆土下層
5	土 師 器	A 143 B 53	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P28 90% P.L15 覆土下層
	小形 変 器	A 128 B 140 C 62	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。体部中に最大径をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のへラ削り、内面ナデ。底部木葉痕。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 浅黄褐色 普通	P29 60% P.L15 外面塚付着 覆土中層
7	土 師 器	A [18.4] B [29.2] C 8.8	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のへラ削り、内面へラナデ。	長石 石英 赤色粒子 砂粒 にぶい褐色 普通	P30 70% P.L15 貯蔵穴内
	土 師 器	A 21.1 B (24.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は器内を増しながら外反し、端部は丸味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のへラ削り、内面へラナデ。	長石 雲母 砂粒 浅黄褐色 普通	P31 60% P.L15 床面上 覆土下層
9	土 師 器	B (20.8)	体部から頸部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部との境に稜をもつ。	頸部内・外面横ナデ。体部内・外面摩滅のため調整痕不明。内面輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P32 60% P.L15 貯蔵穴内
	土 師 器	A 15.3 B 33.0 C 7.5	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中に最大径をもつ。頸部はほぼ直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のへラ削り、内面ナデ。口縁部内面輪積み痕、底部木葉痕。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	P33 80% P.L16 床面上
第13図 11	土 師 器	A [28.7] B [31.7] C 9.4	底部から口縁部の破片。平底。底部は突出する。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はくの字状に外反し、端部は丸味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のへラ削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	P34 40% P.L16 外面塚付着 貯蔵穴内
	土 師 器	A 23.4 B 36.4 C 9.8	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のへラ削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 赤色粒子 砂粒 浅黄褐色 普通	P35 90% P.L16 貯蔵穴内



第12図 第3号住居跡出土遺物実測図(1)



第13图 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第13回 13	瓶 上 陶 器	A 241 B 277 C 99	体部一部欠損、無底式。体部は内脣気味に立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は気味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへう筋り。下縁へう筋り深。横ナデ。内面ナデ。下縁横ナデ。輪縁み直り。	長石 石英 雲母 砂粒 にふい黄褐色	P.36 95% P.L.16 覆土下層

図版番号	標 別	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
16	支 脚	14.9	8.2	1045	覆土下層	D.P.2 P.L.35

第4号住居跡 (第14圖)

位置 調査区西部、C 2 e5k。

規模と平面形 長軸4.05m, 短軸3.92mの方形である。

主軸方向 N-44°-W

壁 壁高は15~33cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、ロームブロックを混ぜた貼床であるが、特に踏み固められている部分はない。

貼床土層解説

14 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量

壁 北西壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を

混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで101cm, 最大幅86cm, 壁外への掘り込みは34cmである。

火床面は床面を9cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに

赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆J字形で、外傾して立ち上がる。

壁土層解説

1 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック・砂粒微量

2 褐色 砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

3 褐色 砂粒少量、炭化粒子微量

4 二色褐色 焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量

5 褐色 焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子少量

6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、砂粒・炭化粒子少量

7 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、砂粒少量

8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子微量

9 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量

10 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・砂粒・粘土粒子・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

11 暗褐色 砂粒・粘土粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

12 暗褐色 炭化物・焼土小ブロック・焼土粒子少量、砂粒微量

13 二色褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、砂粒微量

14 暗褐色 炭化物中量、焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子少量

15 暗褐色 砂粒・粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量

16 褐色 焼土粒子多量、砂粒・焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量 竈袖部の芯材の粘土層

17 二色褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子中量、炭化粒子微量 内面は赤変

18 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子少量、炭化粒子微量

19 褐色 ローム小ブロック・砂粒・粘土粒子・炭化粒子少量

20 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子微量

21 褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

22 褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 火床面下の火熱を受けた例

覆土 13層からなり、ロームブロックを多く含有し、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

2 混褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量

3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

4 混褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量

5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大・中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

6 無褐色 ローム中・小ブロック・砂粒・粘土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量

7 褐色 ローム粒子中量、ローム大・小ブロック少量、ローム中ブロック微量

8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量

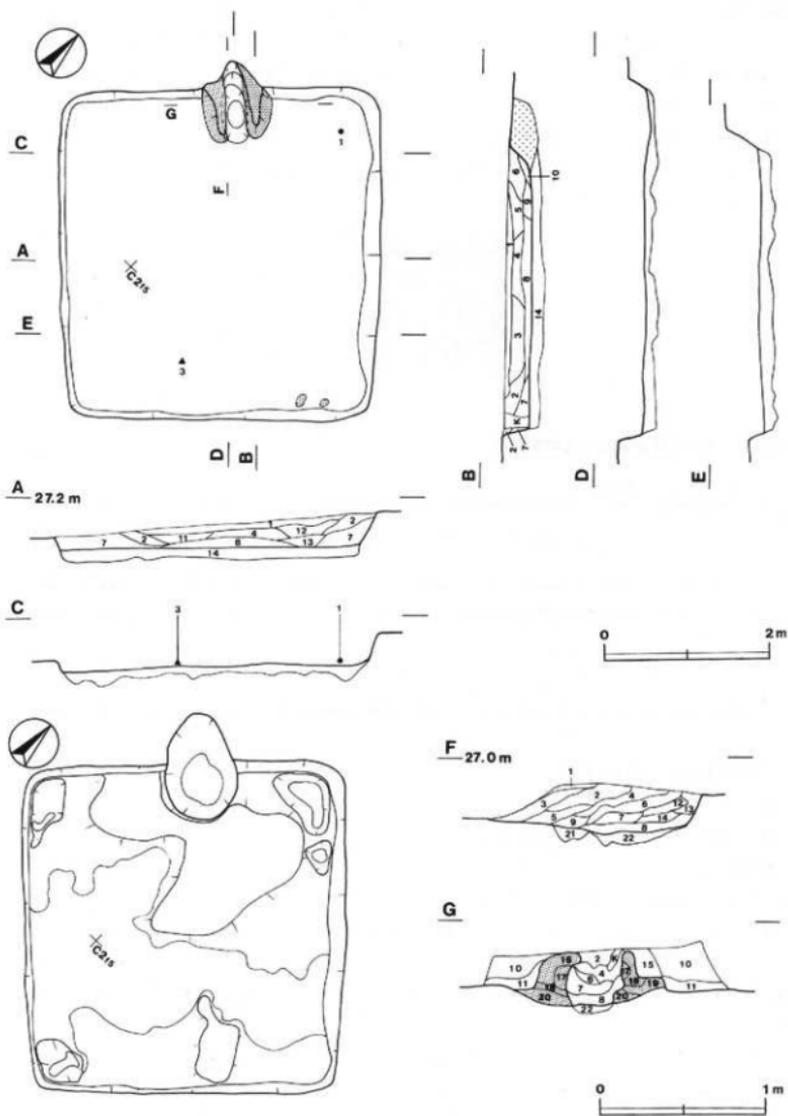
9 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大・中・小ブロック少量

10 暗褐色 砂粒・粘土粒子・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

11 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

12 混褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

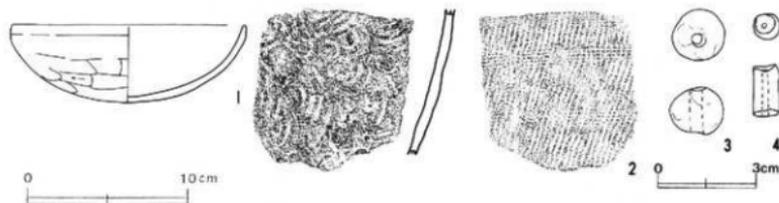
13 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量



第14图 第4号住居跡実測図

遺物 土師器片235点, 須恵器片1点, 土玉1点, 土製管玉形模造品1点, 及び混入した縄文土器片15点が出土している。1の土師器片が北コーナー部の覆土下層から, 3の土玉が南東壁寄りの床面直上から, 4の管玉形模造品が竈の竈口部付近からそれぞれ出土している。2は須恵器甕の体部片で, 外面に平行叩きが, 内面に同心円の当て具痕が見られる。

所見 竈内や貼床の状況から, 本跡は短期間しか使用されなかった住居跡と考えられる。3の管玉形模造品が竈竈口部付近から出土しており, 竈祭祀に使用された可能性がある。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 古墳時代後期(6世紀後葉)と考えられる。



第15図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 1	土師器 土師器片	A [143] B 4.7	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内側に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へナゲリ、内面ナデ。	石灰 長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P 37 25% P L 16 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
3	土玉	3.2	2.9	0.7	27.5	床面直上	D P 3 P L 35
4	管玉形模造品	0.8	(1.7)	0.1	(1.1)	竈竈口部	D P 4 P L 34

第5号住居跡(第16・17図)

位置 調査区西部, C 2j5区。

規模と平面形 長軸9.00m, 短軸8.88mの方形である。

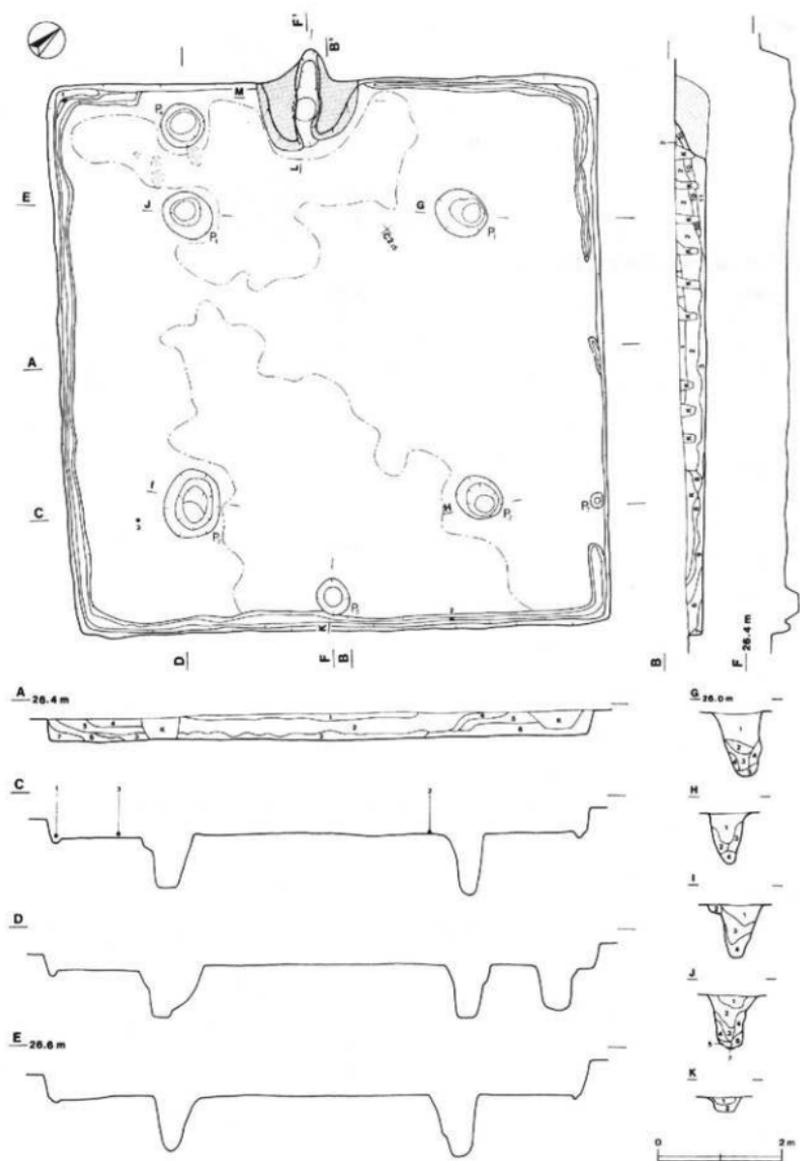
主軸方向 N-52°-W

壁 壁高は32~65cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

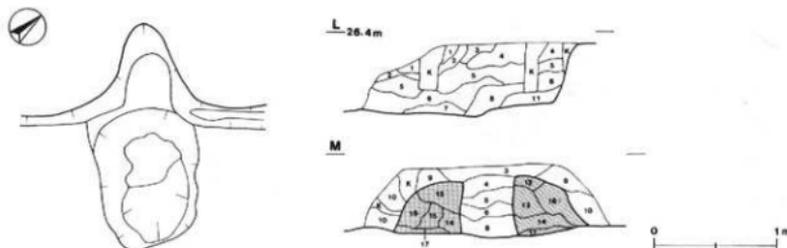
壁溝 北東壁の一部を除いて, 巡っている。上幅15~35cm, 下幅4~18cm, 深さ4~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 竈の手前, 南東壁から中央部西側にかけて, 踏み固められている。竈西側に粘土塊が点在している。

ピット 7か所(P1~P7)。P1~P4は長径80~110cm, 短径67~91cmの楕円形, 深さ84~102cmでいずれも支柱穴である。P5は長径60cm, 短径50cmの楕円形で, 深さ23cmの出入り口施設に伴うピットである。P6は径75cmの円形, P7は長径26cm, 短径22cmの楕円形, 深さ11~74cmでいずれも性格は不明である。



第16图 第5号住居跡実測图(1)



第17図 第5号住居跡実測図(2)

P1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 2 暗褐色 炭化物多量, ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・炭沼大ブロック・炭沼粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大・中ブロック・炭沼中ブロック・炭沼粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム大ブロック中量, ローム中ブロック・炭沼中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量

P2土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 2 にいり褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム大・中ブロック・炭沼粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・炭沼粒子少量, ローム大・中ブロック微量
- 4 暗褐色 炭沼粒子・粘土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

P3土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, 炭沼粒子微量
- 4 にいり褐色 炭沼粒子中量, ローム大・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

P4土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム大・中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・炭沼中・小ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大・中ブロック・炭沼大・中ブロック・炭沼粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量, 炭沼粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム大ブロック・炭沼中・小ブロック・炭沼粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 砂粒中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量

P5土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 にいり褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子微量

■ 北西壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで161cm、壁外への掘り込みは54cmである。両袖部は最大幅163cmで、特に、西側袖部は粘土で袖部をしっかりと厚く作っている。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめており、皿状をしている。袖部内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で、外傾して急に立ち上がる。

■土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子少量, ローム中ブロック・砂粒・炭化粒子微量
- 4 灰褐色 小礫・砂粒・粘土粒子・炭化粒子少量, 炭化物微量
- 5 にいり褐色 粘土粒子中量, ローム小ブロック・小礫・砂粒・ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 明褐色 焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・粘土粒子中量, 小礫・砂粒・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 灰褐色 粘土粒子多量, 砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 11 にいり褐色 砂粒・粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック中量, 砂粒・粘土粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 13 褐色 砂粒・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 14 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 15 にいり褐色 焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 16 褐色 焼土粒子中量, ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 砂粒・粘土粒子・ローム粒子微量
- 17 褐色 ローム粒子多量, ローム大・中ブロック・炭化粒子少量

■土層 11層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

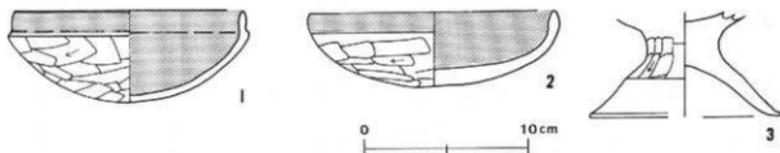
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|---------|---------------------------|
| 1 黒色 | ローム中ブロック・黒色小ブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム中・小ブロック・黒色小ブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック微量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 11 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子少量 | | |

遺物 土師器片1560点、須恵器片7点、及び混入した縄文土器片128点、石鏝1点、石鎌1点が出土している。

図示したものは、すべて土師器である。1の坏が西コーナー部の壁溝上面から、2の坏が南東壁の壁溝上面から、3の高坏が南コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、一辺が9m、床面積が80m²ほどの超大型の規模を有する住居跡である。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。



第18図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図	1 土師器	A 14.0	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 石英 雲母 針状鉱物 砂粒 褐色 普通	P 38 90% P L 16 壁溝上面
		B 5.6				
2	土師器	A 14.7	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P 39 75% P L 16 壁溝上面
		B 4.6				
3	高坏	B (6.3)	脚部から坏部の破片。脚部はハの字状に開き、中位にわずかな稜をもつ。端部はわずかに広がる。	脚部外面上半部へラ削り、下半部へラ削り後、横ナデ。内面横ナデ。	石英 雲母 針状鉱物 砂粒 褐色 普通	P 41 20% P L 16 覆土下層
		D [11.7]				
		E 4.5				

第6号住居跡（第19・20図）

位置 調査区西南部、D 2 g5区。

規模と平面形 長軸4.95m、短軸4.81mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は22~42cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

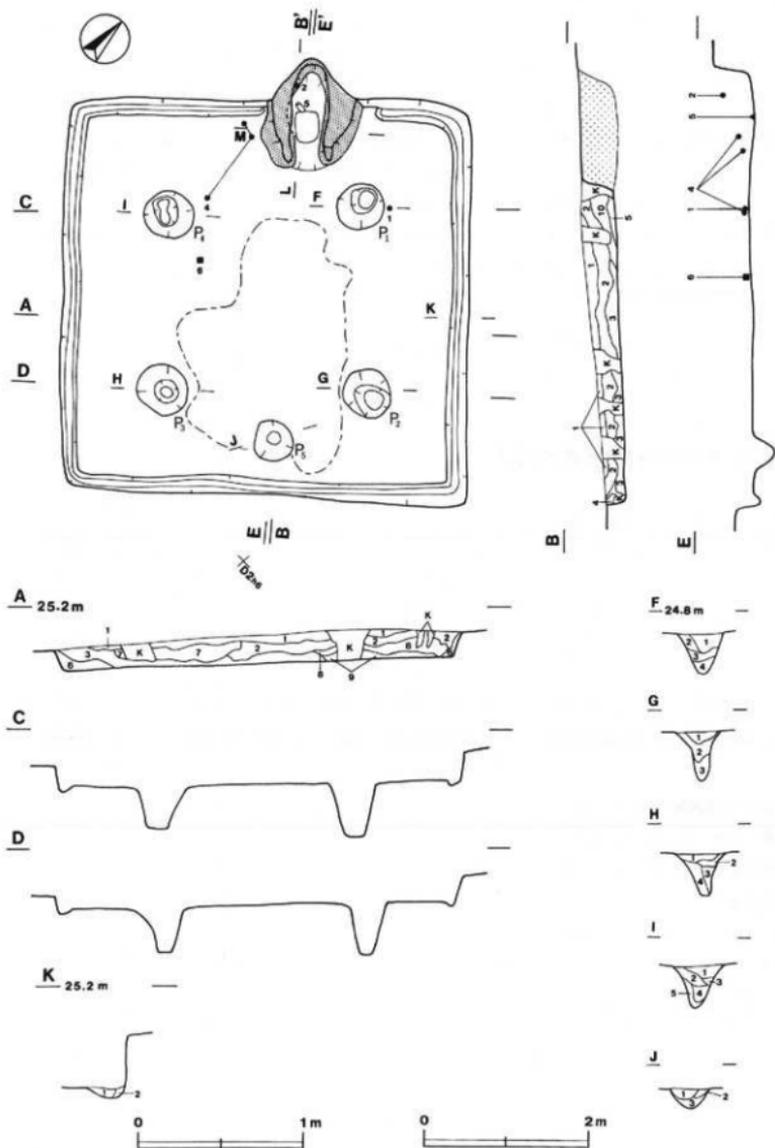
壁溝 全周している。上幅14~27cm、下幅5~13cm、深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

壁土層解説

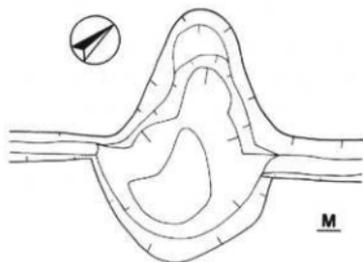
- 1 黒褐色 炭化粒子中量、砂粒・焼土粒子・ローム粒子微量
2 明褐色 ローム粒子中量、砂粒少量、炭化粒子微量

床 平坦で、出入り口部から中央部にかけて、やや踏み固められている。地山の鹿沼ブロックが床面全体に広く点在している。

ピット 5か所（P1~P5）。P1、P3、P4は径56~63cmの円形、P2は長径62cm、短径55cmの楕円形、深さ48~66cmでいずれも主柱穴である。P5は径50cmの円形で、深さ48cmの出入り口施設に伴うピットである。



第19图 第6号住居跡実測图(1)



L 25.2m



第20図 第6号住居跡実測図(2)

P1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子・砂粒・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子、砂粒・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子中量、砂粒・粘土粒子少量、炭化粒子微量

P2土層解説

- 1 暗褐色 砂粒・ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 炭化粒子・砂粒・ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量、ローム大・小ブロック・炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量、炭化粒子微量

P3土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・砂粒・粘土粒子・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 炭化粒子・砂粒・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、炭化物・砂粒・粘土粒子・炭化粒子少量
- 4 明褐色 炭化粒子・砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

P4土層解説

- 1 褐色 炭化粒子・砂粒・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 砂粒・粘土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 炭化粒子多量、砂粒・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 にい褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 5 にい褐色 粘土粒子多量、砂粒・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

P5土層解説

- 1 褐色 炭化粒子・砂粒・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黄褐色 炭化粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 砂粒・ローム粒子・炭化粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量

竈 北西壁のやや北寄りに付設されており、天井部は崩落しているが、両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで133cm、最大幅115cm、壁外への掘り込みは53cmである。火床面は床面を6cmほど掘りくぼめており、浅い皿状をしている。火床面及び両袖部の内壁から煙道部にかけて火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で、外壁に急に立ち上がる。

竈土層解説

- 1 明褐色 砂粒・粘土粒子・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 明褐色 砂粒・粘土粒子・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 にい暗褐色 焼土粒子中量、砂粒・粘土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 4 赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、砂粒・粘土粒子少量
- 5 赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量、砂粒・粘土粒子・焼土小ブロック少量
- 6 褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・砂粒・粘土粒子少量、炭化粒子微量

- 7 褐色 炭化粒子・砂粒・粘土粒子・ローム粒子・焼土粒子少量
- 8 褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子・炭化粒子少量 内面は赤変
- 11 暗赤褐色 砂粒・粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量 竈袖部の芯材の粘土層
- 12 明褐色 砂粒・粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量

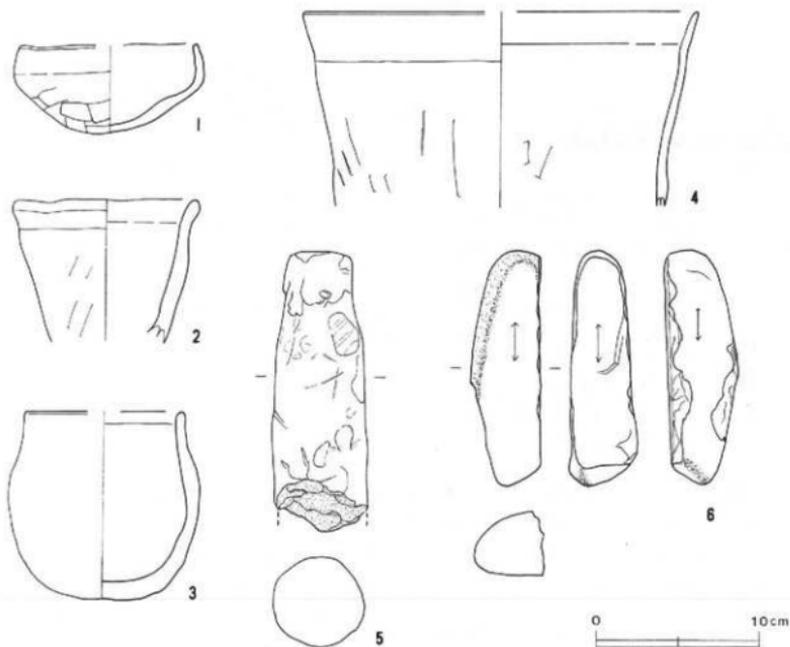
覆土 10層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 褐色 炭化粒子・砂粒・粘土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

- 6 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 7 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 9 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 10 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量

遺物 土師器片346点、支脚1点、砥石1点、及び混入した縄文土器片30点が出土している。1の坏がP1付近、6の砥石が中央部の覆土下層から、4の瓶が竈西側の覆土中層・下層と竈内から、2の小形鉢が竈内から、5の支脚が竈内から斜位の状態で、3の小形甕が竈の東側袖部内からそれぞれ出土している。所見 竈内や袖部内から土師器片が出土していることから、それらは竈の補強材として使用されていたと考えられる。また、床面から鹿沼バミスの広がりが確認されているが、地山の鹿沼粒子とロームの混合土層を床面として使用していたものと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀前半）と考えられる。



第21図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 1	坏 土師器	A [10.9] B 5.5	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P43 70% P L16 覆土下層
2	小形鉢 土師器	A 11.4 B (8.6)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は器内を減じながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩減のため調整痕不明。内面ナデ。	長石 赤色粒子 砂粒 にぶい橙色 普通	P45 50% P L16 竈内
3	小形甕 土師器	A [9.6] B 11.7	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内脣気味に立ち上がる。口縁部は器内を減じながらほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面に1条の沈線が走る。体部外面摩減のため調整痕不明。内面ナデ。	長石 石英 雲母 小塵 砂粒 にぶい橙色 普通	P46 60% P L16 竈東側袖部内

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色薄・焼成	備考
第22 1	瓶 土師器	A: 24.2 B: 11.9	腰部から口縁部の破片。腰部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面へラ振り、内面ヘラナデ。	灰白・赤色粘土 赤彩 にぶい黄褐色 普通	P 48 20% P L 16 覆上中・下層 器内

図版番号	種類	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)		
5	支脚	17.2	6.0	623.5	器内	DP 5 P L 35

図版番号	種類	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
6	灰石	14.5	4.3	4.0	337.4	泥岩	覆上層	Q 1 P L 37

第7号住居跡(第22・23図)

位置 調査区北部, B 3a4区。

層位関係 木跡は第2号溝と重複している。第2号溝が本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸7.93m, 短軸7.76mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は44~56cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、北東・南東・北西の各コーナー部を除いて、踏み固められている。南壁寄りと北東コーナー部に焼土塊が点在している。

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は長径80~84cm, 短径71~75cmの楕円形, 深さ65~73cmでいずれも土柱穴である。P5とP6は長径50~52cm, 短径42~45cmの楕円形, 深さ20~48cmでいずれも出入り口施設に伴うピットである。

P1~P6土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子多量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 | 5 灰褐色 砂粒少量, 焼上粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量, 焼上粒子少量, 焼土小ブロック微量 |

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長径84cm, 短径67cmの不整楕円形, 深さ36cmで、断面形はU字状をしている。

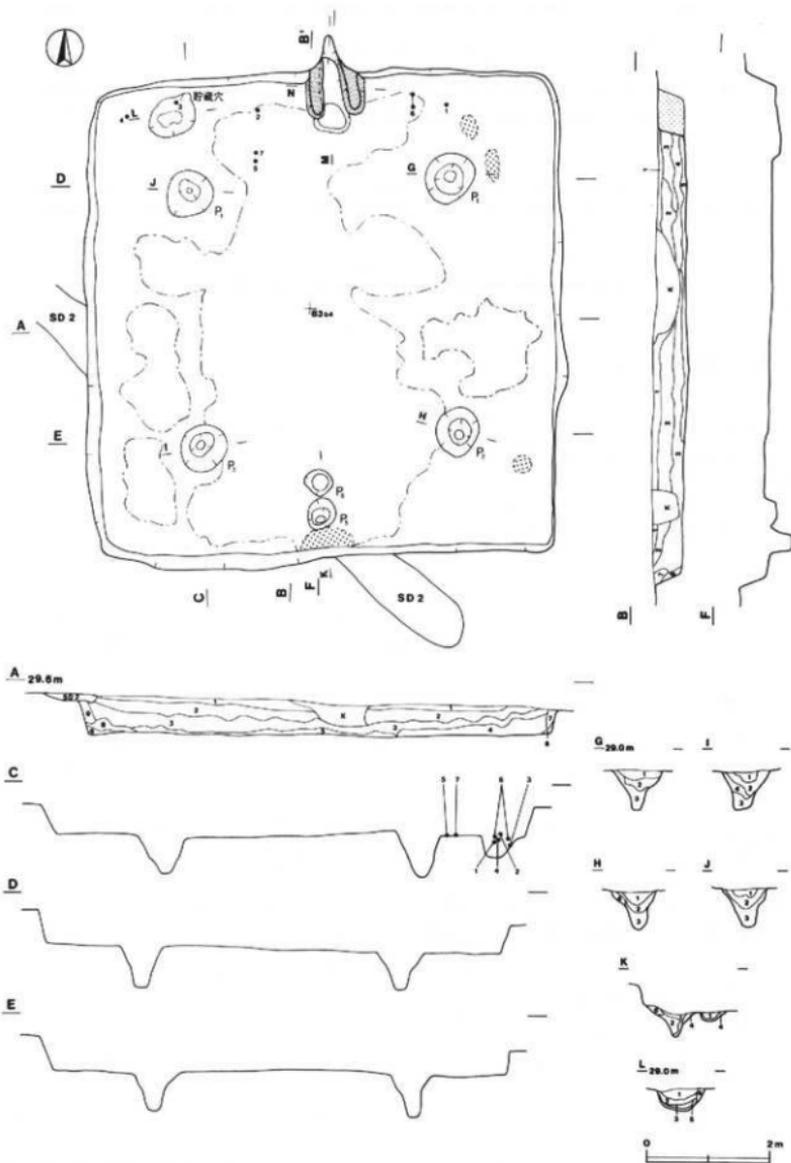
貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子多量 | 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| | 5 灰褐色 砂粒少量, 焼上粒子微量 |

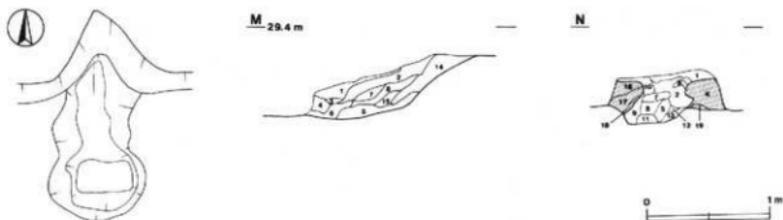
竈 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで162cm, 最大幅96cm, 壁外への掘り込みは61cmである。火床面は床面を14cmほど掘りくぼめており、皿状を呈し、火熱を受けてわずかに変色しているが、あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 褐色 砂粒・粘土粒子多量, ローム小ブロック・焼上粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 炭化物, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 砂粒・粘土粒子・焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 砂粒・焼上粒子少量 |
| 3 暗褐色 砂粒・粘土粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 砂粒・ローム粒子・焼上粒子少量 |
| 4 黒褐色 焼土中ブロック・砂粒・粘土粒子少量, 焼上粒子微量 | 9 褐色 ローム粒子中量 |
| 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 砂粒少量, ローム粒子微量 |
| | 11 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量 |
| | 12 褐色 砂粒・焼上粒子少量 |
| | 13 褐色 ローム中ブロック多量 |
| | 14 褐色 砂粒・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |



第22図 第7号住居跡実測図(1)



第23図 第7号住居跡実測図(2)

- 15 褐色 砂粒・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
 16 褐色 砂粒中量, ローム粒子少量
 17 褐色 砂粒中量

- 18 濃い赤褐色 砂粒・焼土粒子中量 内面は赤変
 19 褐色 白色粘土粒子中量

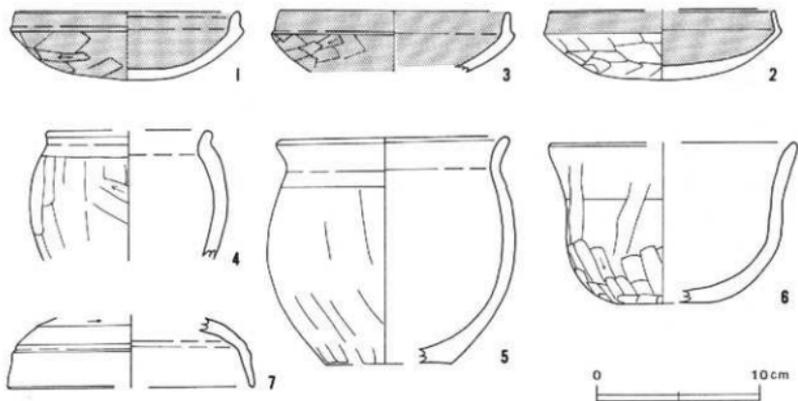
覆土 9層からなり, ロームブロックを含有し, 不自然な堆積の状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 黒色 炭化粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 明褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 | 8 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| | 9 明褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・炭化粒子少量 |

遺物 土師器片204点, 須恵器片1点, 及び混入した縄文土器片22点が出土している。ほとんどの遺物は竈周辺から北壁寄りに集中している。1と2の土師器杯, 4と5の土師器小形甕, 6の土師器鉢, 7の須恵器蓋が床面直上から, 3の土師器杯が貯蔵穴内からそれぞれ出土している。

所見 第2号溝が, 本跡の床面まで達していないため, 溝が掘り込んでいる範囲は, 南北方向の土層断面では確認できなかった。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 古墳時代後期(6世紀後半)と考えられる。



第24図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土土物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第2区 1	坏 土師器	A 135 B 4.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 針状炭素 にぶい橙色 普通	P49 95% P.L16 床面直上
	坏 土師器	A [137] B 4.3	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 石英 砂粒 赤色粒子 にぶい橙色 普通	P50 80% P.L16 床面直上
3	坏 土師器	A 13.9 B (3.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 赤色粒子 砂粒 にぶい橙色 普通	P51 25% P.L16 貯蔵穴内
	小形変 上陶器	A [9.8] B (7.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	P53 30% P.L16 床面直上
5	小形変 土師器	A 14.2 B 13.9 C [7.6]	碗形。体部、口縁部一部欠損。平底。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面側のへラ削り、内面ナデ。	長石 石英 赤色粒子 小塵 砂粒 橙色 普通	P54 70% P.L16 床面直上
	鉢 土師器	A [14.9] B 9.8 C 6.4	碗形。体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面から底部にかけてへラ削り。体部内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	P55 70% P.L16 次層直前 床直上
7	蓋 須恵器	A [14.8] B (4.3)	天井部から口縁部の破片。天井部から口縁部にかけて内彎しながら開く。	天井部、口縁部内・外面クロクナデ。縁部回転へラ削り。天井部と口縁部との境に1条の凹線がある。	長石 砂粒 灰黄褐色 良好	P56 20% P.L16 床面直上

第8号住居跡 (第25・26図)

位置 調査区北西部、A 2 J6区。

規模と平面形 長軸5.03m、短軸3.23mの長方形である。竈の両側に棚状施設をもち、竈東側の棚状施設は長さ182cm、奥行き52cm、床面からの高さ7cmほどで、竈西側の棚状施設は長さ197cm、奥行き56cm、床面からの高さ6cmほどである。

主軸方向 N-17-W

壁 壁高は10~33cmで、外傾して立ち上がる。竈東側の棚状施設からの壁高は18cmほどで、竈西側の棚状施設からの壁高は12cmほどである。

壁溝 竈両側の棚状施設の部分と南壁の一部を除いて、半周している。上側8~21cm、下側4~11cm、深さ4cmほどで、断面形はU字状である。

壁溝土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム大・小ブロック少量、炭化粒 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、ローム中ブロック少量

床 平坦で、出入り口付近と着手前から東壁にかけて、やや踏み固められている。

ピット 11か所 (P1~P11)。P1~P4、P6~P10は長径40~85cm、短径26~66cmの楕円形または不整形円形、P5は径45cmの円形、深さ24~66cmでいずれも壁外の支柱穴である。P11は長径49cm、短径37cmの楕円形で、深さ32cmの出入り口施設に伴うピットである。また、壁溝内には18か所の小ピットがあり、長径15~44cm、短径10~21cmの楕円形と径10~20cmの円形、深さ9~32cmでいずれも壁柱穴であると思われる。

P1土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、壁土粒子微量
4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
5 褐色 ローム粒子多量、壁土粒子微量
6 明褐色 ローム粒子多量、ローム大・小ブロック中量、壁土粒子微量

P2土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量
2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
3 にぶい褐色 ローム粒子多量、粘土粒子中量、炭化粒子微量
4 明褐色 ローム大ブロック・ローム粒子多量、ローム中・小ブロック中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量

P4土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 に近い褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 に近い褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P7土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、炭化物微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 4 明褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

P8土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

- 3 明褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量

P9土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 に近い褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 明褐色 ローム大ブロック多量、ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

竈 北壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで286cm、最大幅114cm、壁外への掘り込みは175cmである。火床面は床面を5cmほど掘りくぼめており、浅い皿状を呈し、火熱を受けてわずかに赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で、外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、砂粒・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 褐色 焼上小ブロック中量、砂粒・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 に近い褐色 焼上粒子多量、砂粒・粘土粒子中量、炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、小礫・砂粒・焼土粒子・粘土粒子少量
- 5 褐色 砂粒・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量
- 6 明褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・粘土粒子中量
- 7 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム中・小ブロック・炭化粒子少量、焼上粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子多量、ローム大・中ブロック少量
- 10 灰褐色 砂粒・粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼上小ブロック・炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・砂粒・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼上小ブロック・粘土粒子・ローム粒子微量
- 13 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼上小ブロック微量
- 14 暗褐色 焼上小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 15 褐色 ローム粒子中量、焼上小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 16 暗褐色 ローム粒子・焼上粒子中量、砂粒少量、火床面上の燃焼灰の堆積層
- 17 灰褐色 砂粒・粘土粒子中量、焼上粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量、竈袖部の芯材の粘土層
- 18 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、焼上小ブロック微量

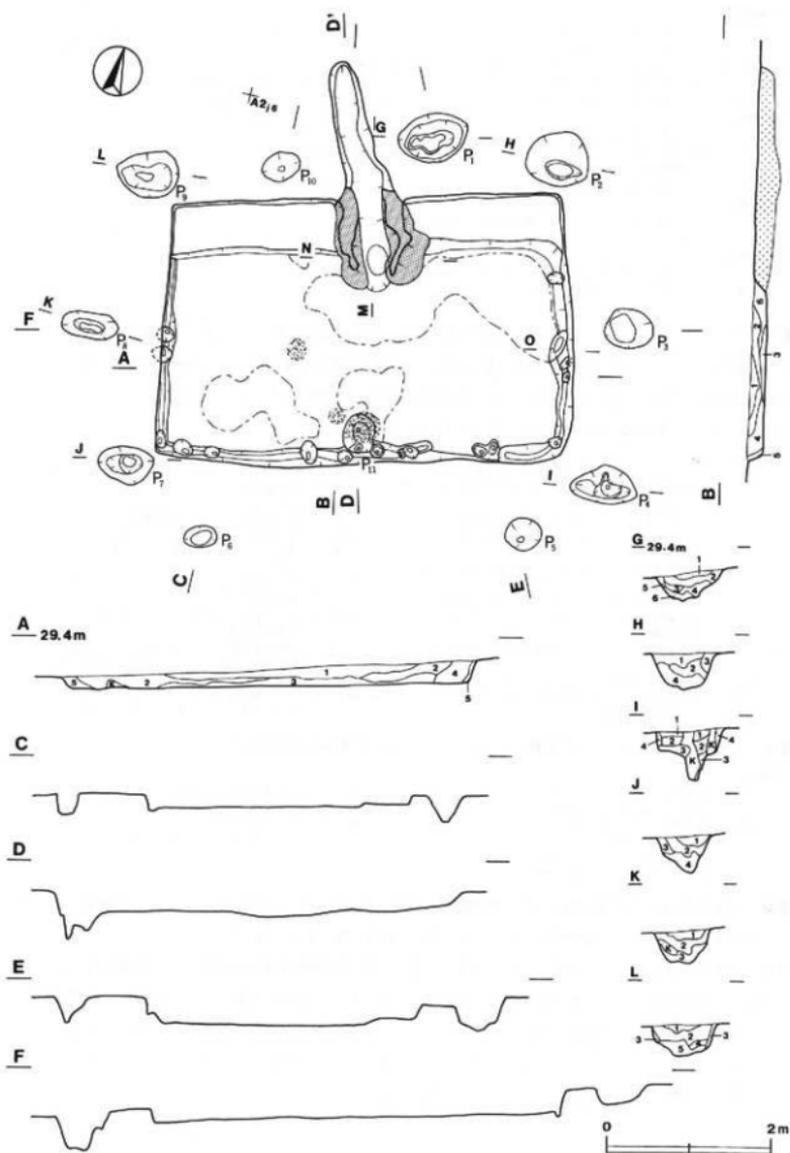
覆土 6層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

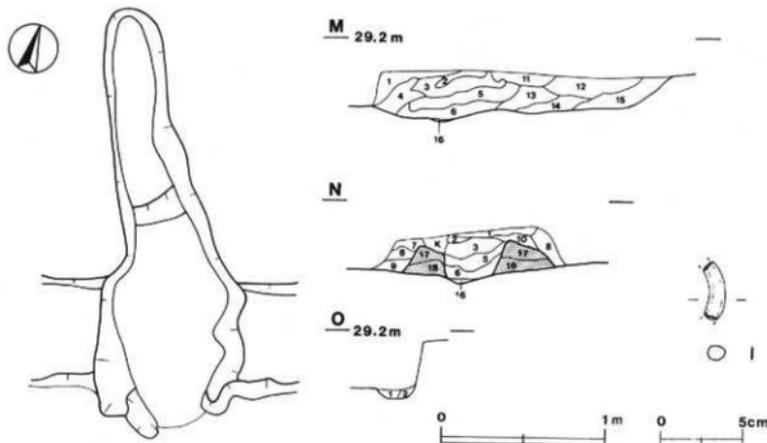
- 1 黒色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・砂粒・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、ローム小ブロック・砂粒・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片19点、不明土製品1点、及び混入した縄文土器片4点が出土している。覆土が薄かったことから、遺物は少なく、ほとんどが細片である。1の不明土製品が覆土中から出土している。

所見 本跡は、壁の外側に10か所の支柱穴を伴い、竈の両側には棚状施設が付設されている住居跡である。棚状施設は、地山のローム土を削り出して作られており、壁に粘土が貼られた様子は見られない。壁溝内には小ピットが18か所確認されており、壁柱穴であると思われる。竈の煙道部は長く構築されており、壁外の支柱穴よりも外側まで延びている。また、竈の火床面や床面の状況から、短期間しか使用されなかった住居と思われる。時期は、遺物の形骸や出土遺物から、平安時代前期と考えられる。



第25图 第8号住居跡実測図(1)



第26図 第8号住居跡・出土遺物実測図(2)

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第26図1	不明土製品	(3.5)	(1.3)	0.8	(4.9)	覆土中	DP6 P.L34

第9号住居跡 (第27・28図)

位置 調査区南西部, D27区。

規模と平面形 長軸9.12m, 短軸9.04mの方形である。

主軸方向 N-47°-W

壁 壁高は25~52cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 壁の残存率の悪い南コーナー部付近を除いて, 巡っている。上幅12~35cm, 下幅5~16cm, 深さ1~10cmで, 断面形はU字状である。

壁溝土層解説

9 褐色 ローム小ブロック中量

10 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

床 平坦で, 南東壁から竈及び西コーナー部にかけて, 広く踏み固められている。西コーナー部付近に焼土塊と粘土塊の広がりが見られる。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は長径90~113cm, 短径72~99cmの楕円形, 深さ64~75cmでいずれも支柱穴である。P5は長径89cm, 短径78cmの楕円形で, 深さ60cmの出入り口施設に伴うピットである。

P1~P5土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子中量

5 褐色 ローム粒子多量

2 黒暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

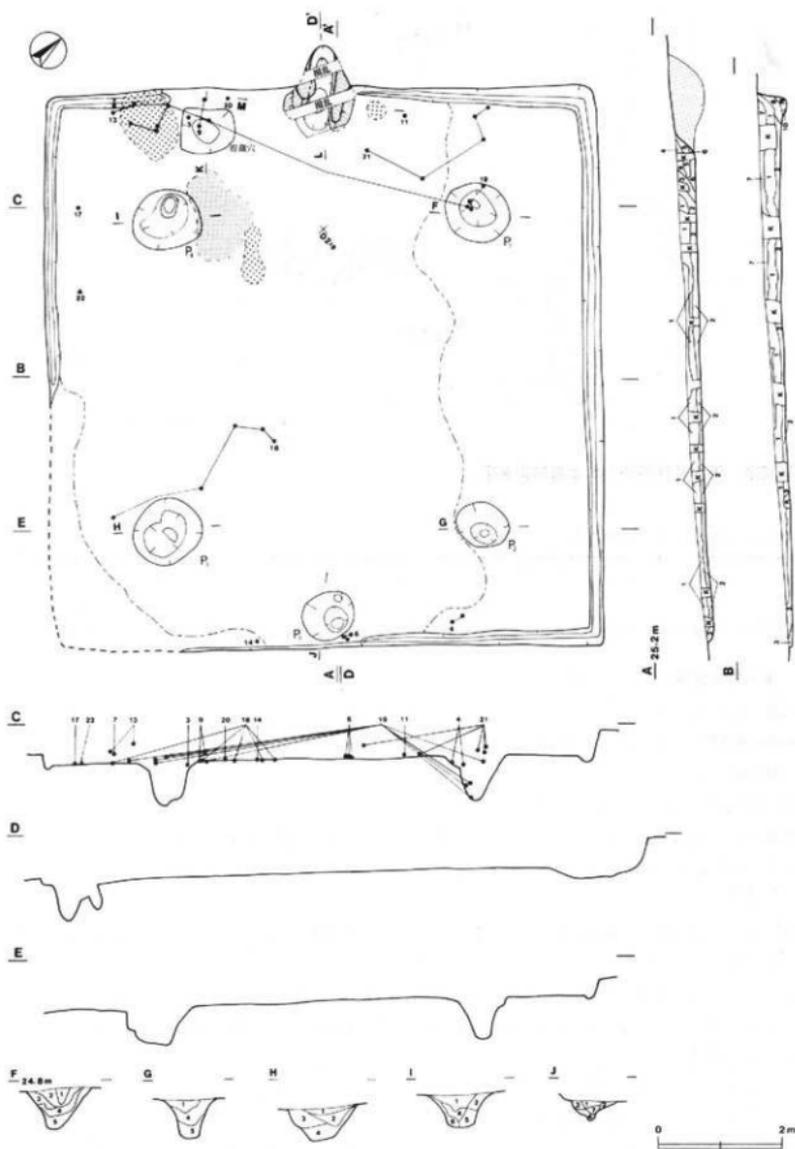
6 暗褐色 粘土小ブロック・ローム粒子中量

3 黒褐色 ローム中ブロック微量

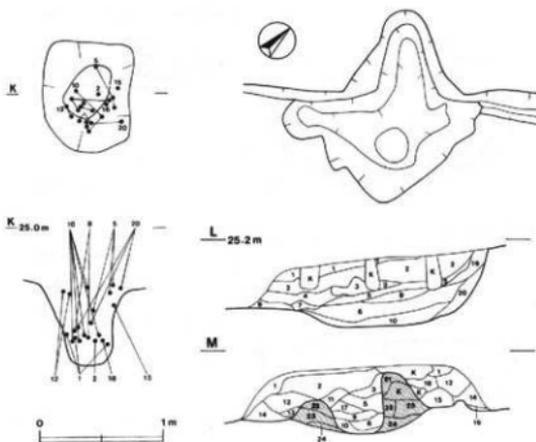
7 黒褐色 ローム粒子中量

4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

貯蔵穴 西コーナー部付近に付設されている。長径80cm, 短径69cmの不整楕円形, 深さ66cmで, 断面形はU字状をしている。



第27图 第9号住居跡実測图(1)



第27図 第9号住居跡実測図(2)

竈 北西壁中央部に付設されており、天井部は崩落している。両袖部が残存しているが、煙道部と両袖部の上部は攪乱を受けている。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで156cm、最大幅112cm、壁外への掘り込みは68cmである。火床面は床面を16cmほど掘りくぼめており、皿状を呈し、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で、外傾して急に立ち上がる。

覆土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 暗褐色 砂粒・粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、粘土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 灰褐色 砂粒・粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 暗褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 15 黒褐色 焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 16 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土中ブロック微量 | 17 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土大ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 紅褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量 | 18 暗赤褐色 ローム粒子少量、ローム大・中ブロック微量 |
| 7 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 19 暗褐色 砂粒・焼土粒子・粘土粒子少量、焼土中ブロック・ローム粒子微量 |
| 8 黒褐色 砂粒・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 20 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 9 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 | 21 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 10 紅褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量 火床面 | 22 褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子中量、炭化粒子微量 内面は赤変 |
| 11 暗褐色 焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 23 褐色 粘土粒子多量、砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量 竈壁部の芯材の粘土層 |
| 12 褐色 砂粒・粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 24 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、砂粒・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |

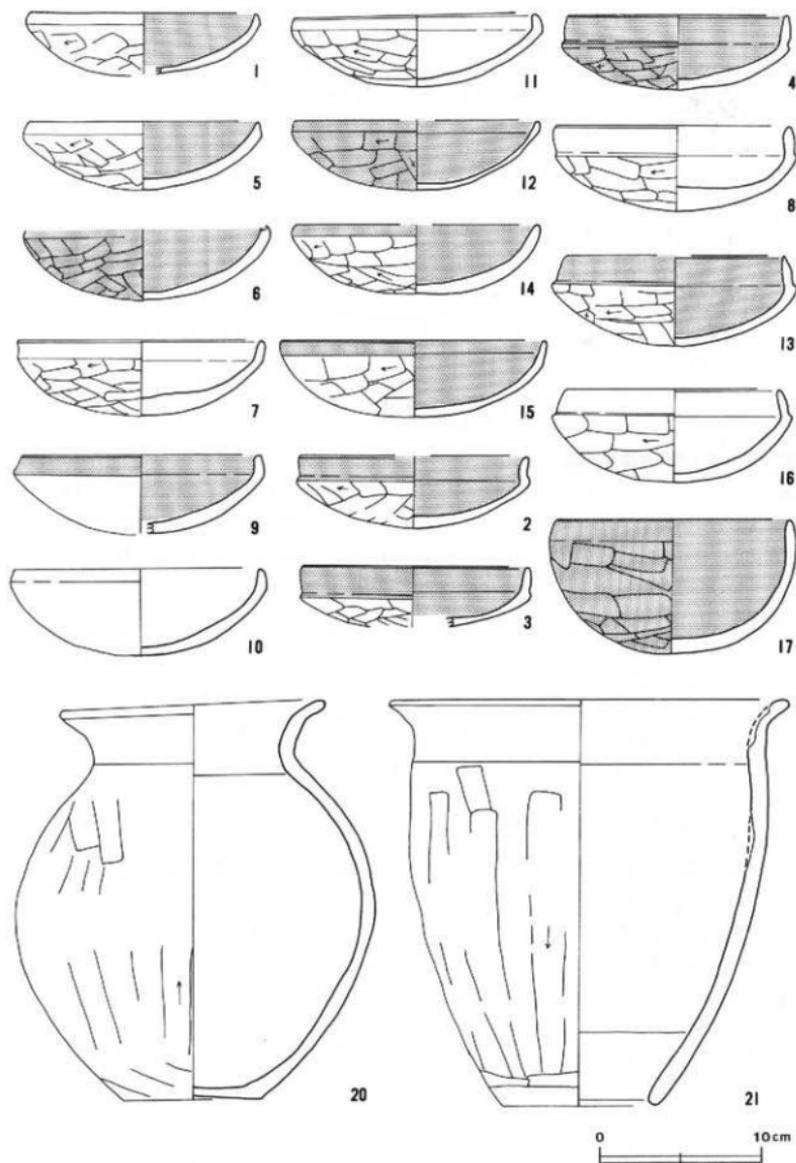
覆土 8層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 砂粒・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 砂粒・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量 | 7 黒褐色 ローム小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 砂粒・ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

遺物 土師器片2116点、土製品5点、及び混入した縄文土器片103点、陶器片1点、磁器片2点が出土している。

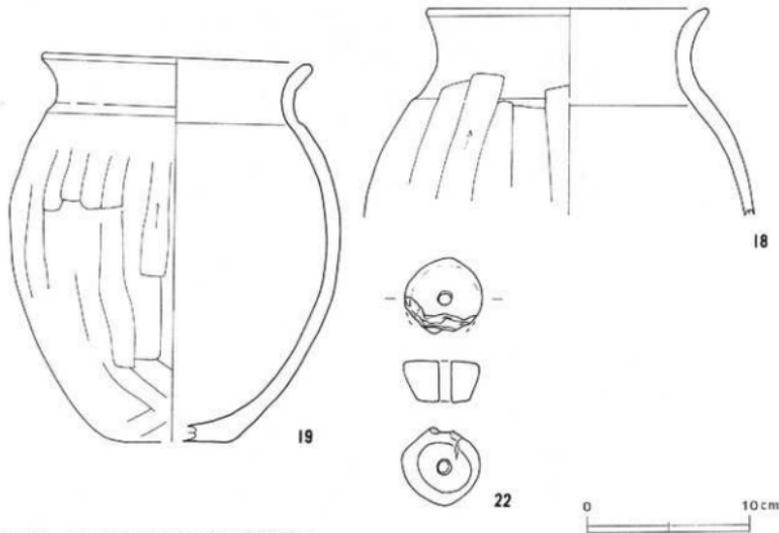
1, 2, 8, 16の坏が貯蔵穴内の覆土下層から、15の坏が覆土中層から、12の坏が覆土上層から、5の坏が覆土上層と中層から、10の坏が覆土上層と下層から、20の坏が覆土上層と下層及び竈西側の覆土下層から、3の



第29図 第9号住居跡出土遺物実測図(1)

坏が貯蔵穴の上面から、9の坏が貯蔵穴の上面と貯蔵穴北側の覆土下層から出土している。4、6、14の坏が南東壁寄りの覆土下層から、17の椀が西コーナー部の覆土下層から、7の坏が覆土中層から、13の坏が覆土上層と中層から、11の坏が竈北側の覆土下層から、21の甌が覆土中層と下層から、18の甕が中央部と北西壁及び南西壁寄りの覆土上層と下層から、19の甕がP1の上面と西コーナー部の覆土下層から、22の土製紡錘車が南西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、一辺が9m、床面積が82㎡ほどの超大形の規模を有する住居跡である。東側へ下る斜面部に構築されており、覆土が薄く、南コーナー部付近の壁の残存率が悪い。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀中葉）と考えられる。



第30図 第9号住居跡出土遺物実測図(2)

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	部 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第29図 1	坏 土 師 器	A 18.3 B (39)	底部、体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内面黒色処理。	長石 石英 砂粒 にふい黄褐色 普通	P57 80% P L17 貯蔵穴内
2	坏 土 師 器	A [139] B 4.4	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 針状炭物 砂粒 にふい黄褐色 普通	P59 60% 貯蔵穴内
3	坏 土 師 器	A 13.6 B (3.7)	底部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 浅黄褐色 普通	P60 85% P L17 貯蔵穴の上面
4	坏 土 師 器	A 13.2 B 4.6	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にふい橙色 普通	P61 80% P L17 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 5	坏 土師器	A 1.39	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内面黒色処理。	長石 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P62 85% P L 17 覆土上層・中層
		B 4.1				口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。
6	坏 土師器	B (4.4)	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 針状雲母 普通	
		A 14.8 B 5.6				体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部は直立する。
7	坏 土師器	A 14.1 B 5.2	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部はわずかに内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	
		A 14.3 B (4.8)				体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部はわずかに内彎する。
8	坏 土師器	A 14.9 B 5.3	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はほぼ直立し、口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	
		A 14.6 B 4.3				丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかに横をもつ。口縁部はわずかに内彎する。
9	坏 土師器	A [14.9] B 4.3	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。器肉は全体的に薄い。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	
		A [13.3] B 5.5				丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部は内彎する。
10	坏 土師器	A [14.7] B (4.1)	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。器肉は全体的に厚い。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	
		A 16.1 B 4.7				底部。体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。
11	坏 土師器	A 12.9 B 5.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横をもつ。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	
		A 14.3 B 8.1				体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに内彎する。
第30図 18	甕 土師器	A 17.3 B (12.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 普通	
		A 16.3 B 23.2 C (7.0)				底部。体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかに横をもつ。肩部はほぼ直立し、口縁部は外反する。
第30図 19	甕 土師器	A 21.4 B 32.3 C 11.0	底部。体部、口縁部一部欠損。平底。体部は球形で中位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上縦位のへラ削り、下位斜位のへラ削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 淡黄褐色 普通	
		A 21.5 B 25.0 C 9.2				底部。体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。
20	甕 土師器	A 21.4 B 32.3 C 11.0	底部。体部、口縁部一部欠損。平底。体部は球形で中位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上縦位のへラ削り、下位斜位のへラ削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 淡黄褐色 普通	
		A 21.5 B 25.0 C 9.2				底部。体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。

図録番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第30図22	紡錘車	4.6	2.6	0.8	(32.6)	覆上下層	D P 7 P L 35

第10号住居跡 (第31図)

位置 調査区西部, C 2 4区。

規模と平面形 長径4.06m, 短径3.32mの楕円形である。

主軸方向 N-33°-W

壁 壁高は30~48cmで, 外傾して緩やかに立ち上がる。

床 平坦で, 南寄りと中央部から北側にかけて, 踏み固められている。

ピット 16か所 (P 1~P 16)。P 1, P 2, P 5, P 7, P 11, P 13, P 15は長径19~35cm, 短径15~20cmの楕円形, 深さ15~28cmで, 規模や配列から柱穴と考えられる。P 3, P 4, P 6, P 8~P 10, P 12, P 14, P 16は長径17~35cm, 短径10~35cmの楕円形, 深さ10~35cmで, いずれも性格は不明である。

炉 南寄りに付設されており, 平面形は長径86cm, 短径56cmの楕円形で, 床面を18cmほど掘りくぼめた地床である。炉床面は皿状をしており, 火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	におみ砂色	泥土大ブロック多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	3	暗褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
2	褐色	ローム大・中ブロック・炭土粒子中量, 炭化粒子少量	4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

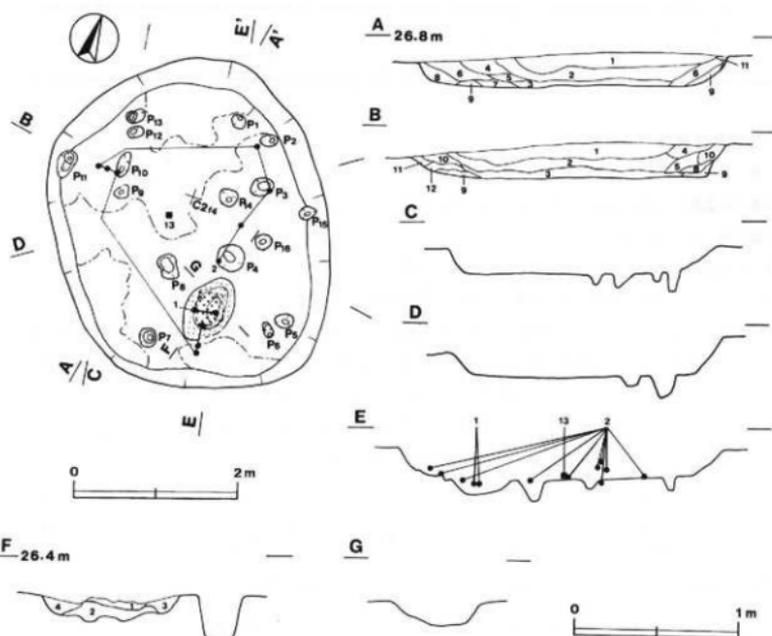
覆土 12層からなり, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量, 白色炭化粒子少量	7	暗褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量	8	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量	9	暗褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子少量	10	褐色	ローム粒子・白色炭化粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子・白色炭化粒子少量	11	褐色	ローム粒子・白色炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量	12	褐色	ローム小ブロック中量, 白色炭化粒子微量

遺物 縄文土器片160点, 石鏃3点, 剥片133点が出土している。1は深鉢の口縁部から胴部の破片で, 炉の上から, 2はほぼ完形の深鉢で, 覆土中層と下層及び床面直上からそれぞれ出土している。3は深鉢の口縁部片で, 口唇部にキザミをもち, 口縁部の輪積部に凹凸文が, 胴部に縦位の沈線が施されている。4は深鉢の口縁部片で, 口唇部に細い縦位の条線帯をもち, 口縁部には刺突文を3列施し, その下には結節平行沈線文と平行沈線文が施されている。5は深鉢の胴部片で, 沈線文が施されている。6と7は深鉢の口縁部片で, 口唇部にキザミをもち, 口縁部に貝殻波状文が施されている。8と9は深鉢の胴部片で, 沈線文が施されている。10は深鉢の胴部片で, キザミのある隆帯をもち, 沈線間に刺突文を充填している。11は浅鉢の口縁部片で, 隆帯間に貫通孔を巡らせている。また, 13の石鏃が中央部の覆土下層から, 12と14の石鏃が覆土中からそれぞれ出土している。さらに, 炉周辺の覆土中層から下層, 床面, ピット内及び炉から133点の剥片が出土している。

所見 本跡からは, 安山岩75点, チャート39点, 石英7点, 瑪瑙と頁岩各6点の剥片が出土しており, 石器製作の可能性が考えられる。時期は, 遺物の形態や出土遺物から, 縄文時代前期後葉 (興津式期) と考えられる。

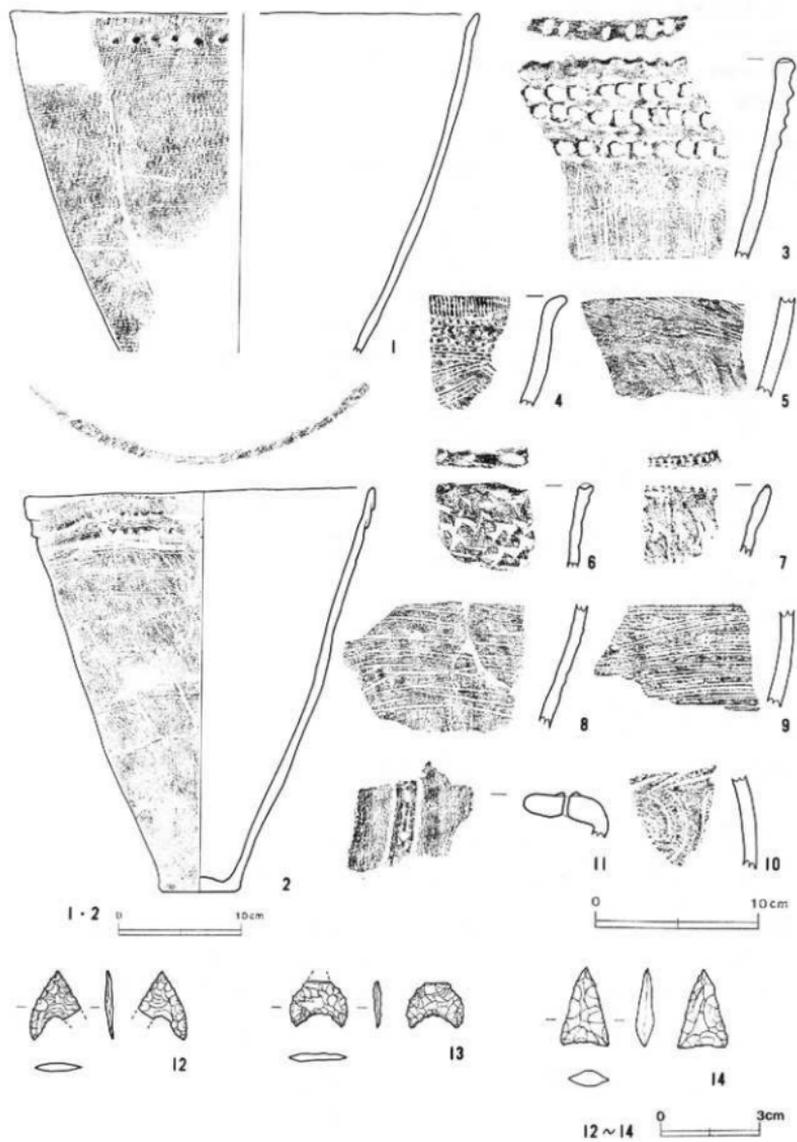


第31図 第10号住居跡実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 1	深鉢 縄文土器	A (38.0)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾して立ち上がり、口唇部はわずかに外反する。口唇部直下に条線帯を有し、口縁部に凹凸文が施されている。胴部には横位の貝殻線文が施文されている。	長石 雲母 砂粒 に、赤褐色 普通	P81 25% P.L17 伊上面 興津式
		B (27.4)			
2	深鉢 縄文土器	A 28.1	胴部、口縁部一部欠損。底径の小さい平底。胴部は外傾して立ち上がる。口縁部は輪積み部を段状にしている。口縁部の上段は条線帯をもち、下段には3本単位の刺突文が横方向に施され、上・下段とも下部にキザミを有する。胴部上位には3本一組の沈線文が横方向に二巡し、部分的に三巡し、斜方向にも施文されている。胴部中位にも一巡し、以下無文。胴部上位の沈線文と中位の沈線文の間を貝殻線文が横方向に充填されている。	長石 小礫 砂粒 褐色 普通	P82 80% P.L18 覆土中層・下層 床面直上 興津式
		B 32.8			
		C 6.2			

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
12	石 鏝	2.1	(1.5)	0.2	(0.5)	チャート	覆土中	Q2 P.L35
13	石 鏝	(1.4)	1.7	0.2	(0.6)	チャート	覆土下層	Q3 P.L35
14	石 鏝	2.4	1.5	0.6	1.3	チャート	覆土上中	Q4 P.L35



第32图 第10号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡（第33・34図）

位置 調査区中央部，C4h2区。

規模と平面形 長軸5.21m，短軸5.18mの方形である。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は52～83cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁の東側を除いて，通っている。上幅22～37cm，下幅5～16cm，深さ5～16cmで，断面形はU字状である。

壁土層解説

- 11 暗赤褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子 微量 12 褐色 ローム小ブロック少量

床 平坦で，南壁下から扉手前にかけて，踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は長径52～66cm，短径45～59cmの楕円形，深さ51～69cmでいずれも土柱穴である。P5は長径65cm，短径57cmの楕円形で，深さ59cmの出入り口施設に伴うピットである。

P1土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3 褐色 ローム中・小ブロック・炭化粒子中量，炭化粒子少量
4 褐色 炭化粒子少量，炭化粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

P2土層解説

- 1 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
4 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量

P3土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム中・小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
4 褐色 ローム中・小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5 褐色 炭化粒子少量，炭化粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量

P4土層解説

- 1 暗褐色 炭化物，ローム小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中・小ブロック・炭化粒子少量
4 褐色 ローム粒子中量，炭化物，炭化粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

P5土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中・小ブロック・炭化粒子少量
3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長径63cm，短径53cmの楕円形，深さ38cmで，断面形はU字状をしている。

貯蔵穴土層解説

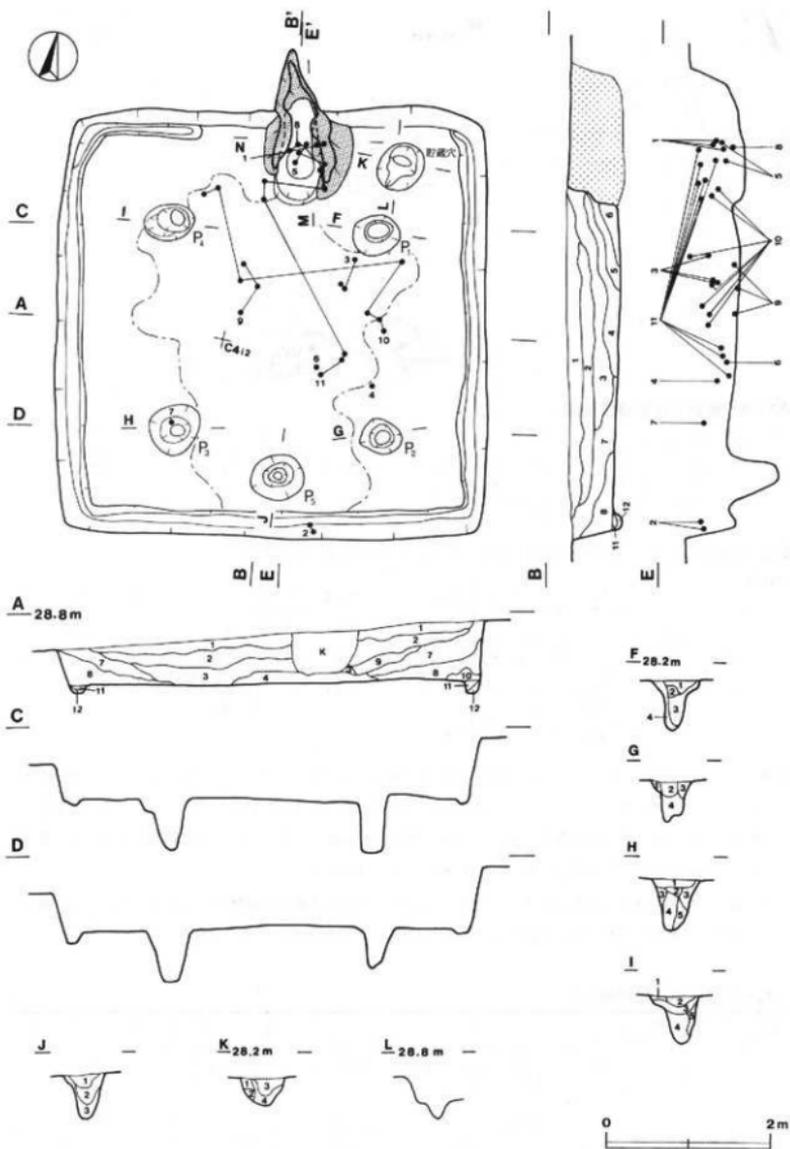
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム中・小ブロック・焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

竈 北壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混せて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで193cm，最大幅105cm，壁外への掘り込みは78cmである。

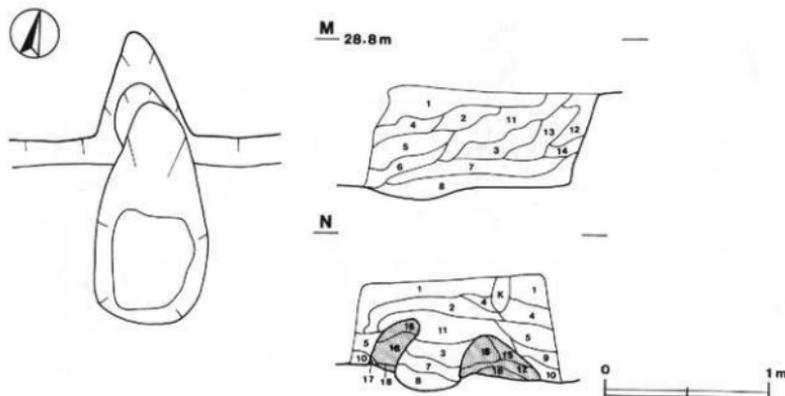
火床面は床面を16cmほど掘りくぼめており，皿状を呈し，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の平面形は逆三角形で，最初緩やかで，のち急に外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子多量，白色粘土粒子少量
3 暗褐色 白色粘土粒子中量，ローム粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5 褐色 ローム粒子中量，白色粘土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子中量
7 暗褐色 焼土粒子多量
8 暗褐色 炭土中ブロック多量
9 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
10 暗褐色 ローム粒子・白色粘土粒子中量
11 暗褐色 白色粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
12 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・白色粘土粒子微量
13 暗褐色 白色粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物・白色粘土小ブロック微量



第33图 第11号住居跡実測図(1)



第34図 第11号住居跡実測図(2)

- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| 14 暗褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・白色粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 15 暗褐色 | 焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・白色粘土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、砂粒微量 | 18 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 16 灰褐色 | 白色粘土大・中ブロック・砂粒・焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 竈軸部の芯材の粘土層内面は赤変 | | |

覆土 10層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

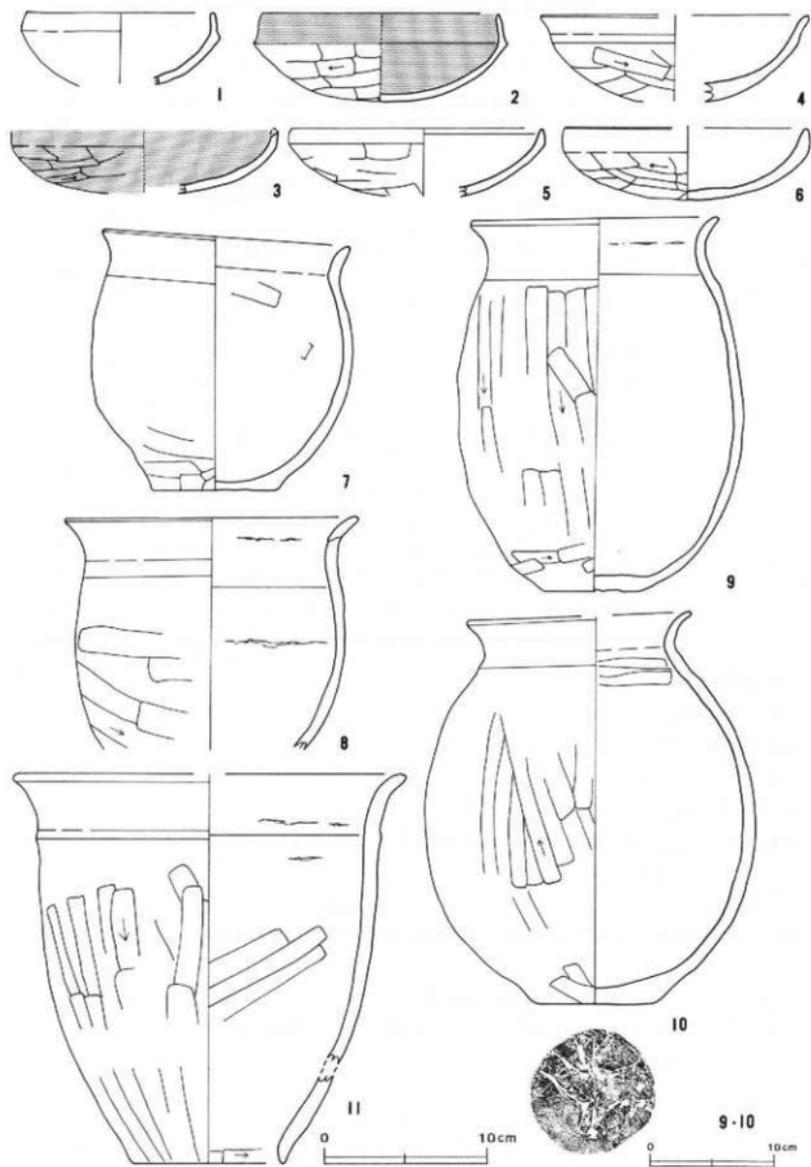
- | | | | |
|-------|---|--------|--------------------------------------|
| 1 黒色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 6 灰褐色 | 粘土粒子多量、ローム小ブロック・砂粒少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片886点が出土している。遺物は全体的に散在している。1と5の坏が竈内から、8の甕が火床面上部から逆位の状態で出土している。2の坏が南壁寄りの壁溝上部の覆土中層から、3と4の坏が中央部の覆土中層から、6の坏、9の甕が覆土下層から、10の甕が覆土中層と上層から、7の小形甕がP3上部の覆土中層から、11の甕が竈内から中央部の覆土下層にかけてそれぞれ出土している。

所見 竈内や袖部の脇から遺物が出土していることから、それらは竈の補強材として使用されていた可能性がある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀後葉）と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第35図 1	坏 土師器	A 11.5 B (4.4)	底部、腰部、口縁部一部欠損。腰部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかに稜をもつ。口縁部はわずかに内屈する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面摩擦のため調整痕不明。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 黄褐色 普通	P83 75% P L17 竈内
2	坏 土師器	A [14.4] B 5.4	底部から口縁部の破片。丸底。腰部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内屈する。	口縁部内・外面横ナデ。腰部外面へら削り、内面横ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい・褐色 普通	P85 45% P L18 壁溝上部



第35图 第11号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35回 3	坏 土師器	B [4.0]	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色焼成。	長石 雲母 砂粒 赤い褐色 普通	P86 40% P L 18 覆土中層
4	坏 土師器	A [16.2] B [3.3]	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は器内を減しながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P87 35% 二次焼成 覆土中層
5	坏 土師器	A [15.3] B [4.2]	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立し、口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 黒灰色 普通	P88 40% P L 18 器内
6	坏 土師器	A [15.0] B [4.6]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面厚減のため磨痕不明。	長石 石英 雲母 砂粒 浅黄色 普通	P89 80% P L 18 覆土下層
7	小形 土師器	A [15.3] B [16.0] C [7.5]	底部から口縁部の破片。平底。底部は尖出する。体部は内彎して立ち上がり、中央に最大径をもつ。口縁部は器内を減しながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。	長石 赤色粒小 砂粒 褐色 普通	P91 60% P L 18 覆土中層
8	壺 土師器	A [18.0] B [14.3]	体部下位以下欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中央部位のへラ削り、下位部位のへラ削り。内面ナデ。磨痕みあり。	長石 石英 砂粒 浅黄色 普通	P92 70% P L 18 火床面上部
9	壺 土師器	A [20.0] B [30.4] C [8.6]	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中央以上部位のへラ削り、下位部位のへラ削り。内面ナデ。口縁部内面に輪痕みあり。	長石 石英 砂粒 淡褐色 普通	P94 80% P L 18 覆土下層
10	壺 土師器	A [18.2] B [31.5] C [9.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、中央に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面部位のへラナデ。底部木葉痕。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	P95 75% P L 18 覆土中層・土層
11	瓶 土師器	A [24.0] B [23.9] C [9.2]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面部位のへラ削り、内面部位のへラナデ。下層部位のへラ削り、輪痕みあり。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	P96 50% P L 18 内面厚付差 器内覆土下層

第12号住居跡 (第36図)

位置 調査区中央部、C 3 18区。

規模と平面形 長軸6.43m、短軸6.39mの方形である。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は52~93cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周しており、第1竪の火床面付近まで壁溝が通っている。上幅25~42cm、下幅10~21cm、深さ4~13cmで、断面形はU字状である。

壁溝土層解説

16 黄褐色 ローム粒子中量

17 暗褐色 ローム小ブロック中量

床 平坦で、南東壁下から電手前にかけて、踏み固められている。第1竪の東側袖部の手前には、粘土塊が点在している。

ピット 6か所(P1~P6)。P1は径74cmの円形、P2~P4は長径71~84cm、短径53~70cmの楕円形、深さ65~85cmでいずれも主柱穴である。P5とP6は長径53~57cm、短径46~50cmの楕円形、深さ36~39cmでいずれも出入り口施設に伴うピットである。

P1土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック・炭化

4 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック・炭化

粒子少量

粒土・ローム粒子・炭化粒子少量

2 黒褐色 ローム中・小ブロック・炭化粒子少量、炭化粒子中量

5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブ

3 暗褐色 塊状粘土・ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化

ック塊

粒子少量

6 褐色 炭化大・中ブロック中量、ローム小ブロック・炭化

P 2 土層解説

1 暗褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	ローム小ブロック中層、ローム中ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・炭化小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 褐色	炭化粒子多量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム中・小ブロック・炭化小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量

P 4 土層解説

1 黒褐色	ローム中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 褐色	炭化粒子多量、炭化小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

題 2 か所。第1竈は、北西壁のやや北寄りに付設されており、天井部は崩落しているが、西側袖部が残存している。竈部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。東側袖部と思われる粘土塊が確認できることから、規模は、煙道部から焚口部まで110cm、最大幅 [104] cm、壁外への掘り込みは46cmと推定される。火床面は床面を11cmほど掘りくぼめており、皿状を呈し、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で、外傾して急に立ち上がる。

第1竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、砂粒・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 褐色	ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
3 褐色	炭化粒子微量
4 暗褐色	焼土小ブロック・ローム小ブロック・砂粒・炭化粒子少量
5 褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量

第1竈袖部土層解説

1 明褐色	砂粒・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 褐色	砂粒少量、炭化粒子微量
3 褐色	砂粒・焼土粒子少量
4 褐色	砂粒少量、焼土小ブロック微量

第2竈は、残存部分が少なく明確ではないが、煙道部と東側袖部の一部が確認できたことから、北西壁中央部に付設されていたと考えられる。規模は、煙道部から焚口部まで(47) cm、最大幅(83) cm、壁外への掘り込みは42cmである。煙道部は、火熱を受けてわずかに赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で、外傾して急に立ち上がる。

第2竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、砂粒・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 褐色	ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量、砂粒少量
4 暗褐色	ローム粒子中量、砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 明褐色	砂粒・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6 暗褐色	砂粒・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化小ブロック微量

覆土 15層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、砂粒少量
5 黒褐色	ローム粒子中量、砂粒少量
6 暗褐色	ローム粒子中量
7 暗褐色	ローム粒子中量
8 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

P 3 土層解説

1 暗褐色	ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム大・小ブロック・炭化小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	炭化小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 褐色	炭化粒子多量、炭化小ブロック少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	炭化小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量

P 5 土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子中量、炭化粒子少量

P 6 土層解説

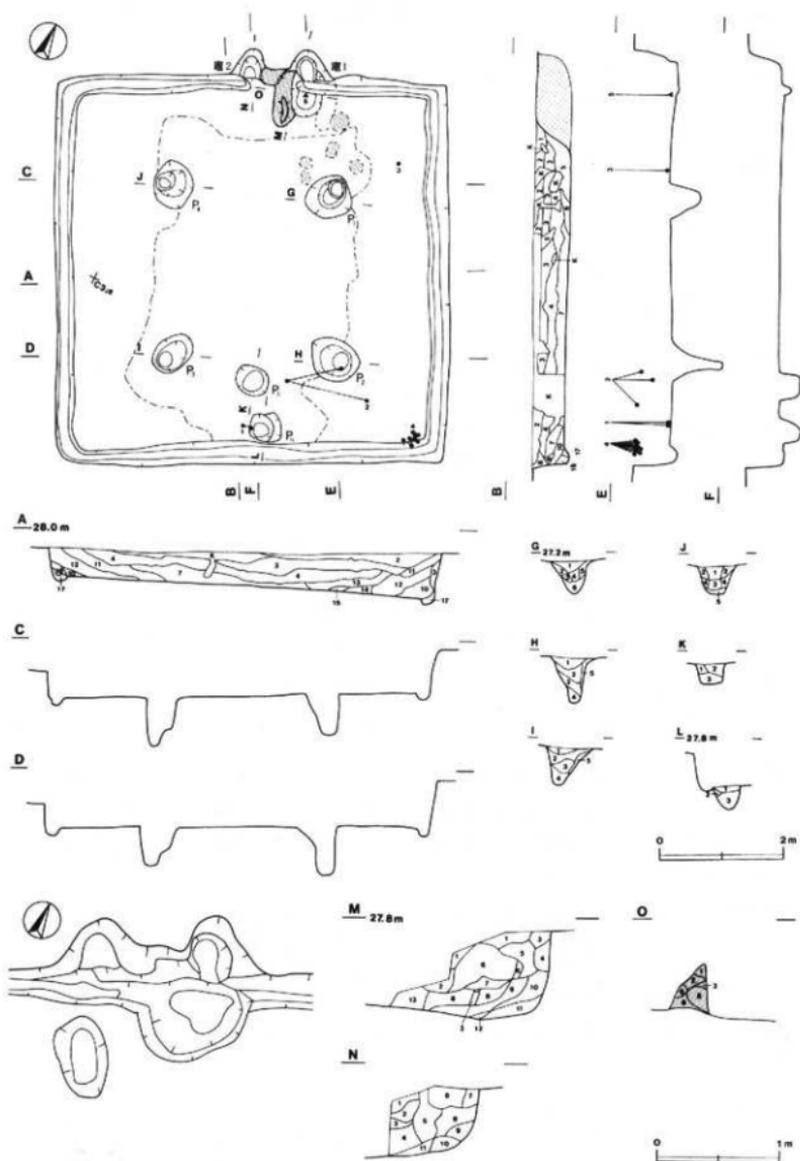
1 黒褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子多量、ローム中・小ブロック・炭化粒子少量

6 明褐色	砂粒・焼土粒子少量、炭化粒子微量
7 褐色	砂粒・焼土粒子少量
8 暗赤褐色	ローム粒子中量、砂粒少量
9 暗赤褐色	焼土小ブロック中量、砂粒・炭化粒子少量
10 暗褐色	焼土小ブロック・砂粒・炭化粒子少量
11 暗褐色	焼土小ブロック少量、ローム小ブロック微量
12 暗褐色	焼土粒子少量
13 暗褐色	砂粒・焼土粒子・ローム粒子少量

5 暗赤褐色	砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子少量、竈部部の芯材の粘土層 内面は赤変
6 褐色	砂粒中量

7 褐色	砂粒・焼土粒子・ローム粒子少量
8 暗赤褐色	ローム粒子中量、砂粒少量
9 暗褐色	砂粒少量、焼土粒子・ローム粒子微量
10 暗褐色	砂粒少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
11 暗褐色	砂粒・ローム粒子少量

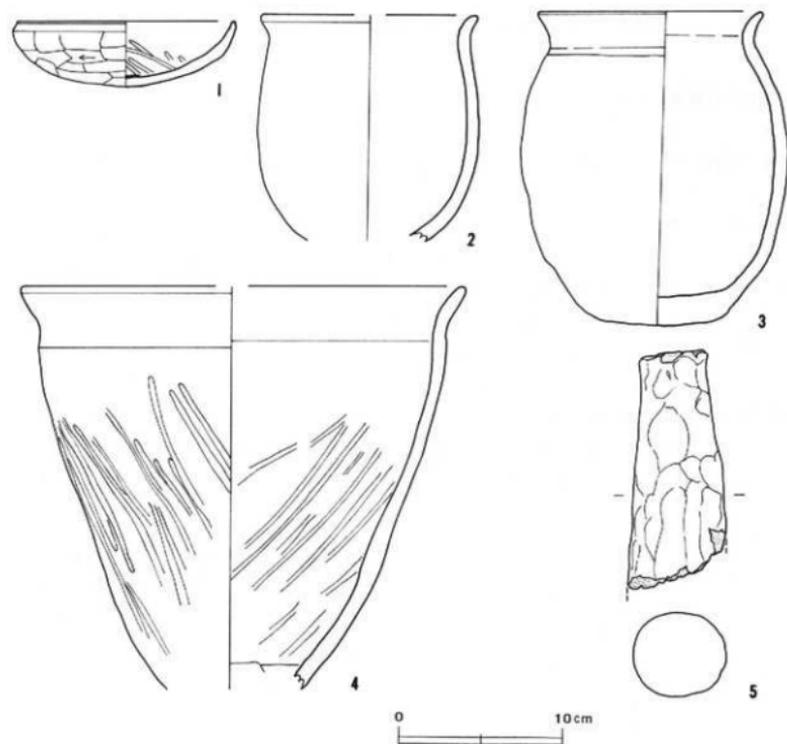
9 黒褐色	ローム粒子少量
10 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
11 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
12 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
13 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
14 暗褐色	砂粒少量、ローム粒子微量
15 黒褐色	砂粒・ローム粒子少量



第36图 第12号住居跡実測图

遺物 土師器片373点、須恵器片1点、支脚1点、及び混入した縄文土器片147点が出土している。図示したものは、すべて土師器である。1の坏が南東壁寄りの覆土下層から、2の小形甕が覆土上層と中層から、3の小形甕が北コーナー部の覆土下層から、4の甕が東コーナー部の覆土上層から、5の支脚が第1甕の火床面上部から立位の状態ですぐれ出土している。

所見 本跡は、甕の作り替えが行われた住居跡である。第2甕は、東側袖部の一部しか残存しておらず、火床面は床面を掘り下げて確認したことから、甕の構築順序は、第2甕から第1甕の順と考えられる。第2甕は煙道部の状況から、短期間しか使用されなかったものと考えられる。また、第1甕の火床面近くに壁溝が巡っていることから、壁溝を掘り込んでから、甕を構築したと考えられる。第1甕の手前の粘土塊は、甕がつぶれたときに粘土が拉散した可能性がある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。



第37図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・包洞・焼成	備 考
第37図 1	坏 土 師 器	A 132	口縁部一部欠損。丸底。体部は内押して立ち上がり、口縁部は丸く、口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面粗いへラ削き。	灰石 雲母 赤色粒子 砂粒 にふいば色 普通	P97 90% 覆上下部
		B 40				
2	小形 甕 土 師 器	A 1132	体部から口縁部の破片。体部は内押して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面部減のため調整痕不明。内面ナデ。	灰石 砂粒 にふいば色 普通	P98 30% 覆上中部・中下部
		B (138)				
3	小形 甕 土 師 器	A 139	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内押して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面部減のため調整痕不明。内面横ナデ。	灰石 雲母 砂粒 にふいば色 普通	P99 90% P.L.18 外蓋破片を 覆上下部
		B 194				
		C 7.3				
4	瓶 土 師 器	A [269]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面部減のため調整痕不明。内面横ナデ。	灰石 雲母 赤色粒子 砂粒 にふいば色 普通	P101 50% P.L.18 覆上上部
		B (247)				

図版番号	種 別	計 測 値			出 上 地 点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
5	瓦 輪	(14.6)	(6.0)	(451.5)	第1竪火床面上部	D P 8 P L 35

第13号住居跡 (第38区)

位置 調査区西南部、D 2 J5区。

規模と平面形 南北方向 (2.70)m、東西方向 (1.70)mである。本跡の南東壁と南西壁が調査区域外のため、平面形は不明である。

主軸方向 N-33°-W

壁 覆土が浅く、床面が露出しており、壁は確認できなかった。

床 全面が粘土質で、平坦で硬く締まっている。

ピット P 1は径37cmの円形で、深45cmの主柱穴である。

P 1土層解説

- | | | | |
|-------|--|---------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・砂粒・粘土粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量 | 4 にふいば色 | 砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |

竪 北西壁の西寄りが調査区域外であるが、北西壁の北寄りに構築されていたと推定される。火床面と思われる位置に焼土塊が残存していることから、規模は、煙道部から焚口部まで114cm、最大値 (72) cm、壁外への掘り込みは50cmと推定される。火床面は床面を4cmほど覆りくぼめており、浅い皿状を呈し、火熱を受けて亦変硬化している。

竪土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量、火床面下の火熱を受けた形 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・炭化少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、砂粒少量、焼土小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、火床面 | | |

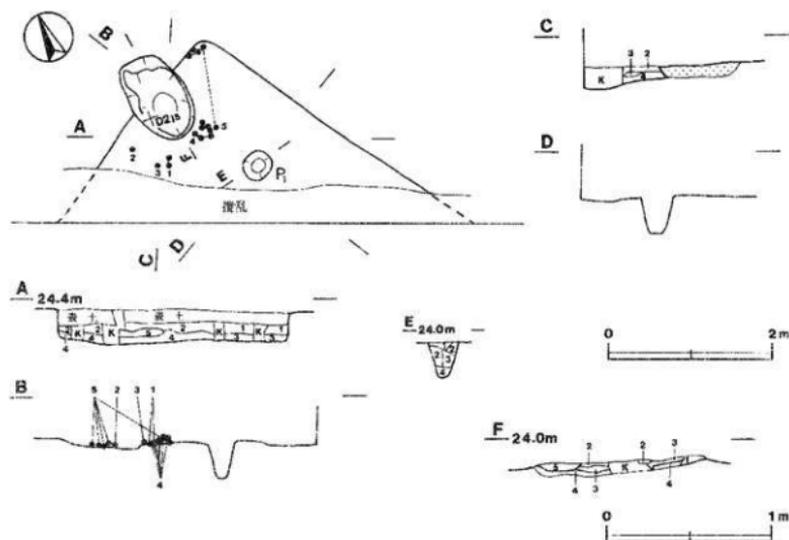
覆土 5層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|-------|--|
| 1 黒褐色 | 粘土大・中ブロック中量、ローム粒子中量、ローム小ブロック・砂粒・炭化粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂粒・粘土粒・ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂粒・粘土粒・ローム粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 砂粒・粘土粒子・焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、粘土中ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 褐色 | 粘土中・小ブロック・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量 |

遺物 土師器片115点、及び混入した磨製石斧1点が出土している。ほとんどの遺物は竜川辺に集中している。1の環、2と3の高環、4の甕、5の瓶がそれぞれ覆土下層からそれぞれ出土している。

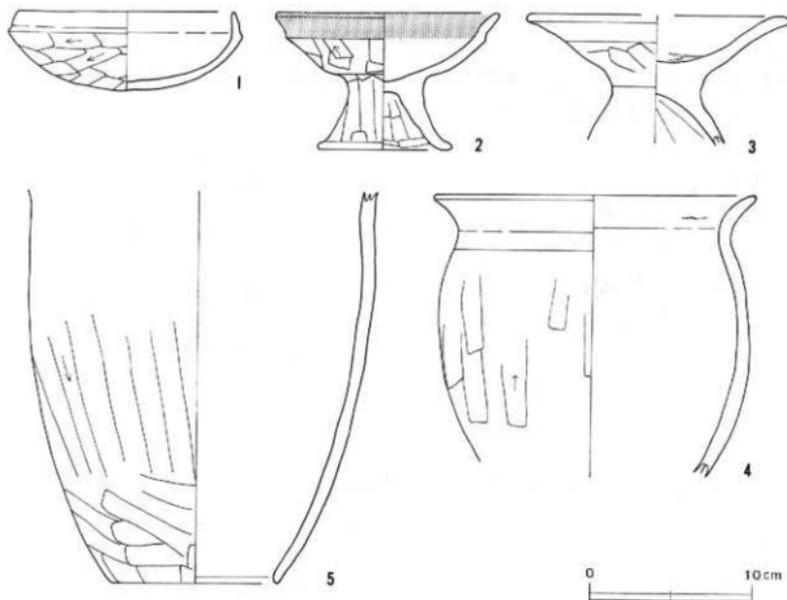
所見 擾乱のため壁の残存率が悪く、甕は焼床面の焼土塊のみ確認された。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。



第38図 第13号住居跡実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

図番番号	器種	寸法(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第38図 1	環	A 132	口縁部一部欠損。夫處、体部は内増して立ち上がり、口縁部との境に段をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P102 95% P L 19 覆土下層
	土師器	B 48				
2	高環	A 136	脚部一部欠損。脚部はハの字状に開き、脚部はわずかに外反する。環部は内増気味に立ち上がり、口縁部との境に段をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面横ナデ。脚部内・外面ヘラ削り、口縁部内・外面黑色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P103 95% P L 19 覆土下層
	土師器	B 84				
		D 82				
		E 44				
3	高環	A [16.1]	脚部から環部の破片、脚部はハの字状に開く。環部は内増気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。脚部外面ナデ、内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P104 40% P L 19 覆土下層
	土師器	B [7.8]				
		E [3.4]				
4	甕	A 19.5	体部から口縁部の破片。体部は内増して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 小塵 砂粒 にぶい褐色 普通	P106 60% P L 19 覆土下層
	土師器	B (17.6)				
5	瓶	B (23.9)	体部上位以上欠損。瓶底式。体部は内増気味に立ち上がる。	体部外面中位以上縦位のヘラ削り、下位縦位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P107 75% P L 19 覆土下層
	土師器	C 102				



第39図 第13号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡 (第40・41図)

位置 調査区南部, D 4 g3区。

規模と平面形 長軸9.07m, 短軸8.34mの方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は43~70cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅12~34cm, 下幅4~16cm, 深さ5~12cmで, 断面形はU字状である。

壁溝土層解説

16 褐色 ローム小ブロック中量

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。中央部と南コーナー部に, 焼土塊と炭化物の広がりが見られる。

ピット 9か所 (P1~P9)。P1~P4は長径50~63cm, 短径41~52cmの楕円形, 深さ80~104cmでいずれも主柱穴である。P5は長径107cm, 短径59cmの不整楕円形で, 深さ40cmの出入り口施設に伴うピットである。

P6, P8, P9は長径35~43cm, 短径29~35cmの楕円形, P7は径31cmの円形, 深さ20~37cmでいずれも補助柱穴である。

P1~P5土層解説

- 1 褐色 鹿沼粒子・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・鹿沼粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム中ブロック多量, 鹿沼粒子中量
- 5 褐色 鹿沼粒子・ローム粒子中量

- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 7 褐色 鹿沼粒子多量
- 8 褐色 ローム中ブロック中量
- 9 暗褐色 鹿沼粒子微量
- 10 褐色 ローム小ブロック中量, 鹿沼粒子微量

貯蔵穴 北コーナー部に付設されている。長径145cm, 短径86cmの楕円形, 深さ38cmで, 断面形はU字状をしている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|------|-------------------------|-------|------------|
| 1 褐色 | 鹿沼粒子・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 | 4 褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・鹿沼粒子少量 | 5 褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック中量、鹿沼粒子微量 | 6 暗褐色 | 鹿沼粒子微量 |

■ 北西壁中央部に付設されているが、天井部は崩落しているが、両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒、ロームブロックを混ぜて構築されている。規模は、煙道部から狭口部まで196cm、最大幅88cm、壁外への掘り込みは89cmである。火床前は床面を12cmほど掘りくぼめており、皿状を呈し、火熱を受けて赤変酸化している。煙道部の平面形は逆U字形で、急に外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------------|--------|---|
| 1 褐色 | ローム小ブロック・砂粒少量、ローム粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 濃い黄褐色 | 粘土小ブロック中量、砂粒・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 14 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | 粘土中ブロック中量、砂粒少量、ローム粒子微量 | 15 褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 粘土小ブロック・砂粒・ローム粒子・焼土粒子少量 | 16 暗褐色 | 炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子多量、砂粒少量 | 17 灰褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 薬桶部の芯材の粘土層 内面は赤変 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、砂粒少量 | 18 暗褐色 | 焼土小ブロック・ローム小ブロック・砂粒・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 内面は赤変 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量 火床直下の火熱を受けた層 | 19 暗褐色 | 焼土小ブロック・砂粒・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 8 暗褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 9 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 10 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子 | | |
| 11 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 12 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 | | |

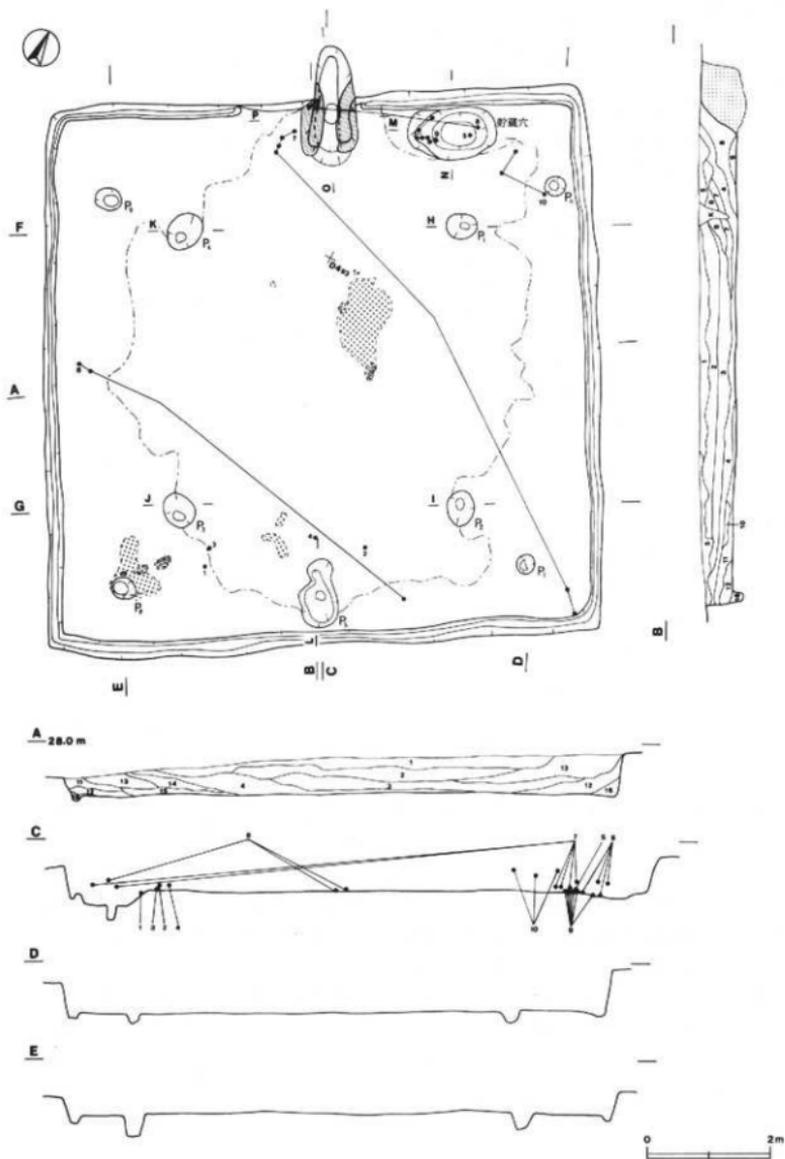
■ 覆土 15層からなり、ロームブロックを含有し、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

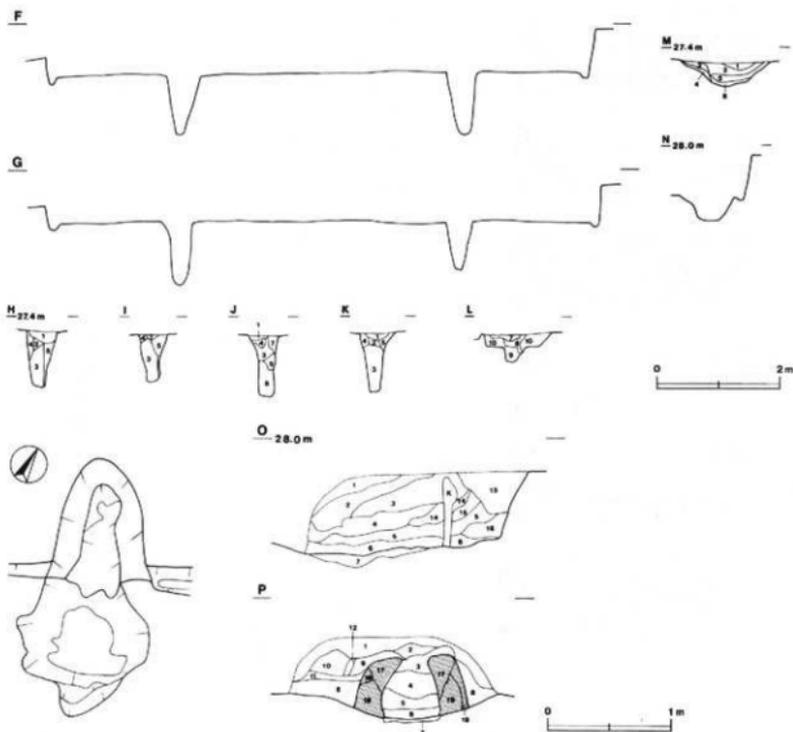
- | | | | |
|-------|---|--------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・黒色砂子少量 | 8 暗褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック・黒色小ブロック少量、焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・黒色粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・黒色砂子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 | 14 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量 |
| | | 15 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

■ 遺物 土師器片1729点、須恵器片5点、及び混入した縄文土器片54点、尖頭器1点、石鏃1点、磨石2点、陶器片2点、磁器片1点が出土している。ほとんどの遺物は竈側辺と貯蔵穴内、南東壁寄りに集中している。図示したものは、すべて土師器である。1と3の坏が南東壁寄りの床面直上から、2と4の坏が南東壁寄りの覆土下層から、5の坏と9の甕が貯蔵穴内から、6の坏が南西壁寄りの床面直上と南東壁寄りの覆土中層から、7の甕が竈西側の覆土下層と東コーナー部の覆土下層から、8の甕が貯蔵穴内と竈の西側袖部内から、10の甕が北コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

■ 所見 本跡は、一辺が9m、床面積が76㎡ほどの超大形の規模を有する住居跡である。主柱穴以外に各コーナー部に深さ20~37cmのビットが確認できることから、補助柱穴を伴う住居跡と思われる。竈の袖部内から8の甕が出土していることから、それらは竈の補強材として使用されていたと考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀後葉）と考えられる。



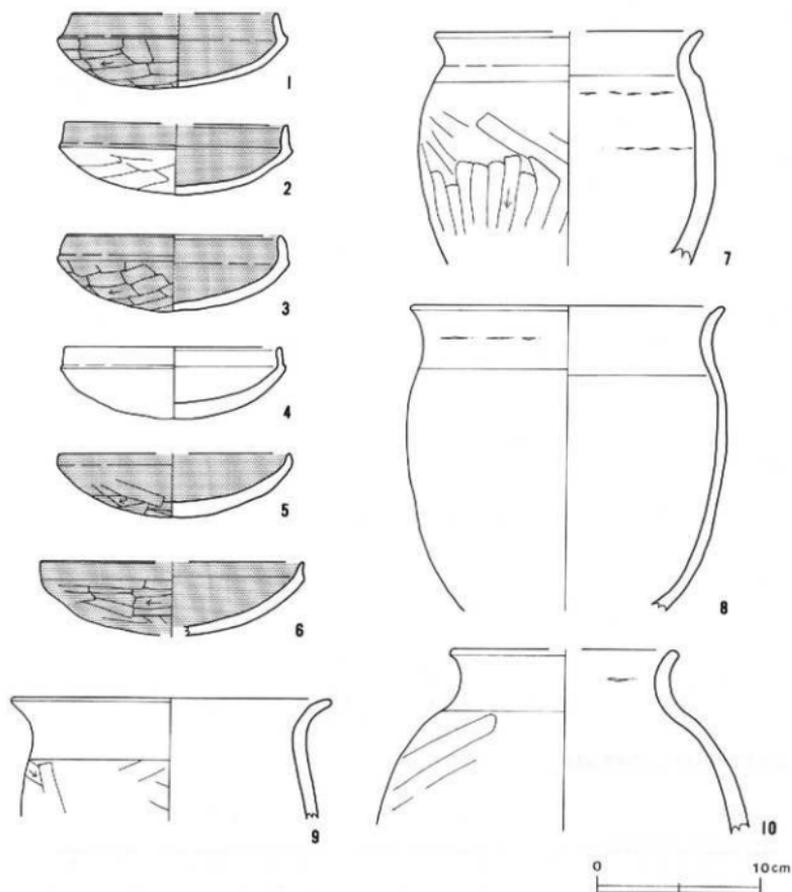
第40图 第14号住居跡実測图(1)



第41図 第14号住居跡実測図(2)

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	坏 土器	A [125]	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P108 86% P L19 床面直上
		B 4.6				
2	坏 土器	A [135]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P109 50% P L19 覆土下層
		B 4.3				
3	坏 土器	A 13.0	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。器内は全体的に厚い。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にふい褐色 普通	P110 80% P L19 床面直上
		B 4.7				
4	坏 土器	A 13.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器内を減じながら、ほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩滅のため調整取不明。	長石 石英 雲母 砂粒 にふい黄褐色 普通	P111 90% P L19 覆土下層
		B 4.4				



第42図 第14号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 5	坏 土 師 器	A [14.0]	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 浅黄褐色 普通	P112 95% P L 19 貯藏穴内
		B 3.9				
6	坏 土 師 器	A [16.1]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は直立し、口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P113 60% P L 19 床面直上 覆土中層 普通
		B (4.5)				
7	壺 土 師 器	A [16.1]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は器内を減じながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位斜位のへラ削り、中位層位のへラ削り。内面ナデ、輪襷み痕有り。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P115 60% P L 19 覆土下層
		B (14.3)				

採取番号	器種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第42回 8	土 器	A 19.3	体部から口縁部の破片。体部は内側して立ち上がり、口縁部は器肉を増しながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面厚減のため調整痕不明。内面ナデ。口縁部外面に輪積み痕を残す。	灰石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	P116 00% P.L19 貯蔵穴内龍瓦敷地内
		B (18.6)				
9	土 器	A 19.5	体部から口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ開り、内面ナデ。	灰石 石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P117 20% P.L19 貯蔵穴内
		B (7.3)				
10	土 器	A [14.0]	体部から口縁部の破片。体部は内側して立ち上がり、口縁部は口の状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面筋位のへラ開り、内面ナデ。口縁部外面に輪積み痕を残す。	灰石 雲母 砂粒 褐色 普通	P118 15% P.L19 覆土中切
		B (11.2)				

第19号住居跡 (第43図)

位置 調査区南部，D 3 g0区。

規模と平面形 長軸3.38m，短軸2.37mの長方形である。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高は12~39cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 凹凸があり，竈前面は周りの床面より一段高く，硬く踏み固められている。高まりの範囲は，長軸243cm，短軸203cmの不定形で，床面からの高さは4cmほどである。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1とP2は長径53~67cm，短径43~61cmの楕円形。深さ14~26cmでいずれも性格は不明である。

P1土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量，龍沼中ブロック・炭化粒子微量
2 褐色 黒色粒子微量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量，龍沼中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 龍沼小ブロック・ローム粒子微量
3 暗褐色 龍沼粒中量，黒色粒子微量
4 褐色 龍沼入ブロック・龍沼粒中量

竈 南コーナー部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで102cm，最大幅120cm，壁外への掘り込みは12cmである。火床面は床面を13cmほど掘りくぼめており，皿状を呈し，火熱を受けて赤変しているが，あまり硬化していない。西側袖部は東側袖部に比べて，粘土で厚く作られている。煙道部の平面形は逆U字形で，外傾して立ち上がる。

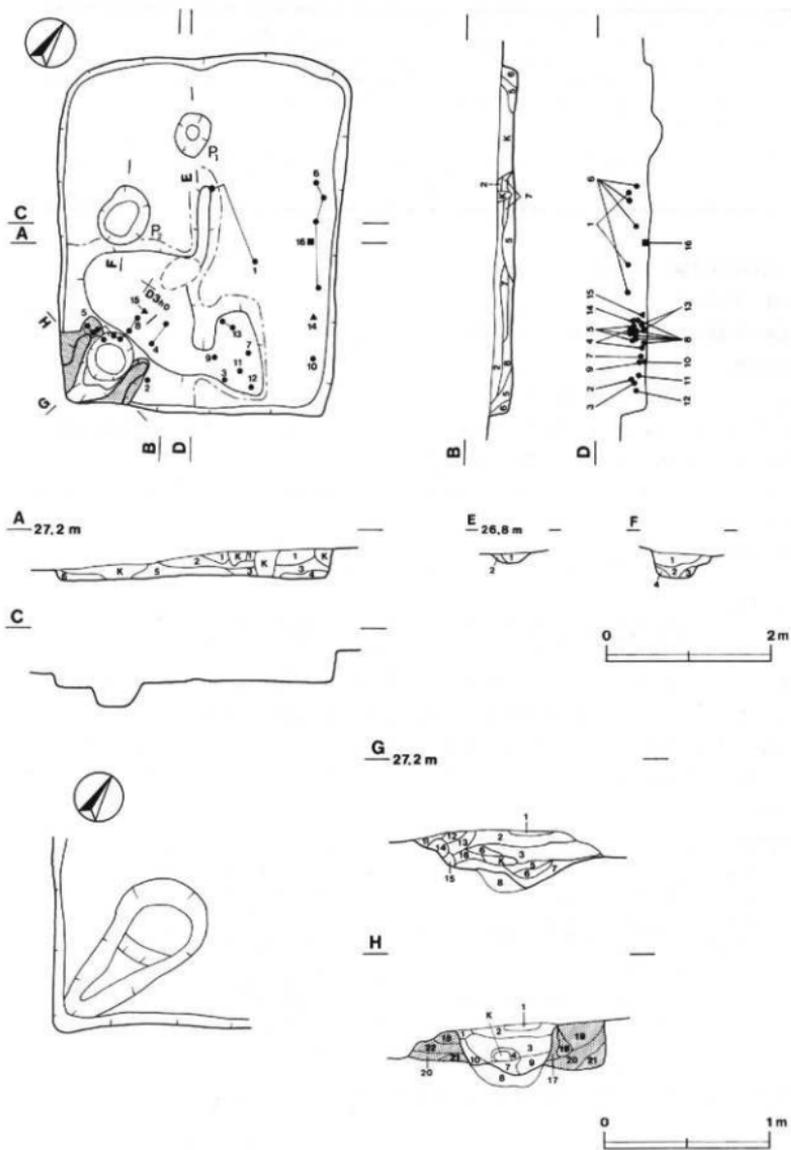
覆土層解説

- 1 極暗褐色 焼土小ブロック中量，炭化粒子微量
2 暗褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量
3 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
4 暗赤褐色 焼土粒子少量，焼土小ブロック中量
5 暗赤褐色 焼土大ブロック中量，焼土粒子少量
6 にぶい褐色 ローム中ブロック・焼土粒子少量
7 暗褐色 焼土粒中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 火床面
8 褐色 ローム中ブロック少量，焼土粒子微量 火床面下の火熱を受けた層
9 褐色 ローム中ブロック微量
10 褐色 砂粒少量
11 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
12 暗褐色 小礫・焼土粒少量
13 褐色 砂粒少量，焼土小ブロック・小礫・焼土粒子微量
14 黄褐色 小礫少量
15 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
16 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
17 褐色 砂粒・焼土粒子少量
18 にぶい褐色 粘土中ブロック中量，焼土粒子少量
19 暗褐色 砂粒・焼土粒子少量
20 褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
21 褐色 焼土小ブロック中量
22 にぶい褐色 白色焼土粒中量

覆土 8層からなり，不自然な堆積の状況が見られることから，人為堆積と思われる。

土層解説

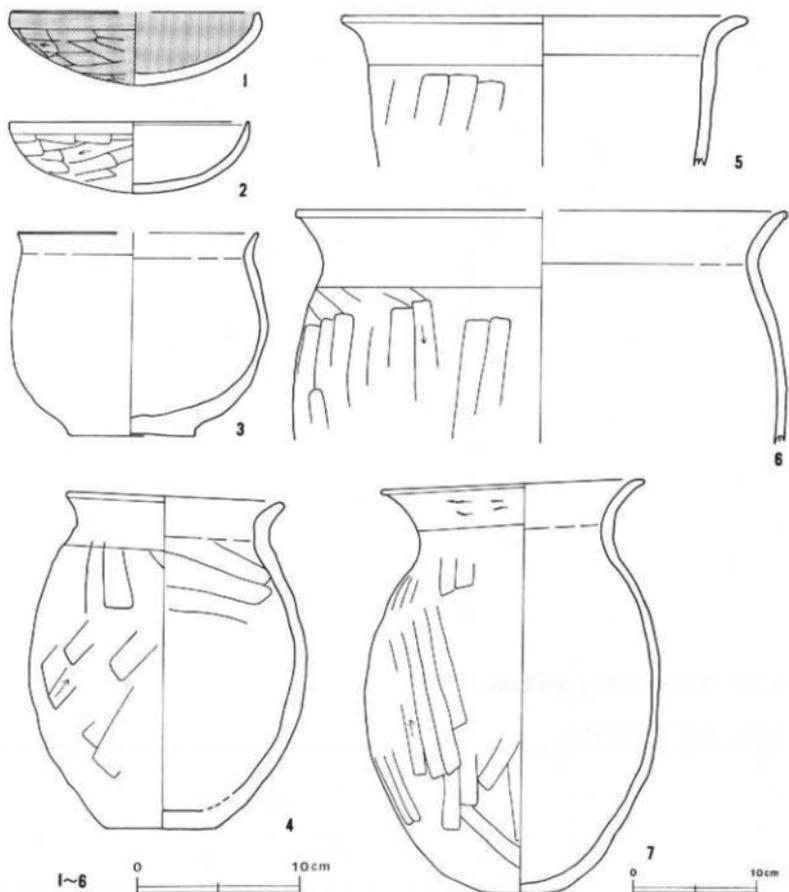
- 1 暗褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子少量
4 褐色 ローム小ブロック少量
5 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
6 褐色 ローム中ブロック中量
7 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量
8 暗褐色 ローム粒少量，炭質



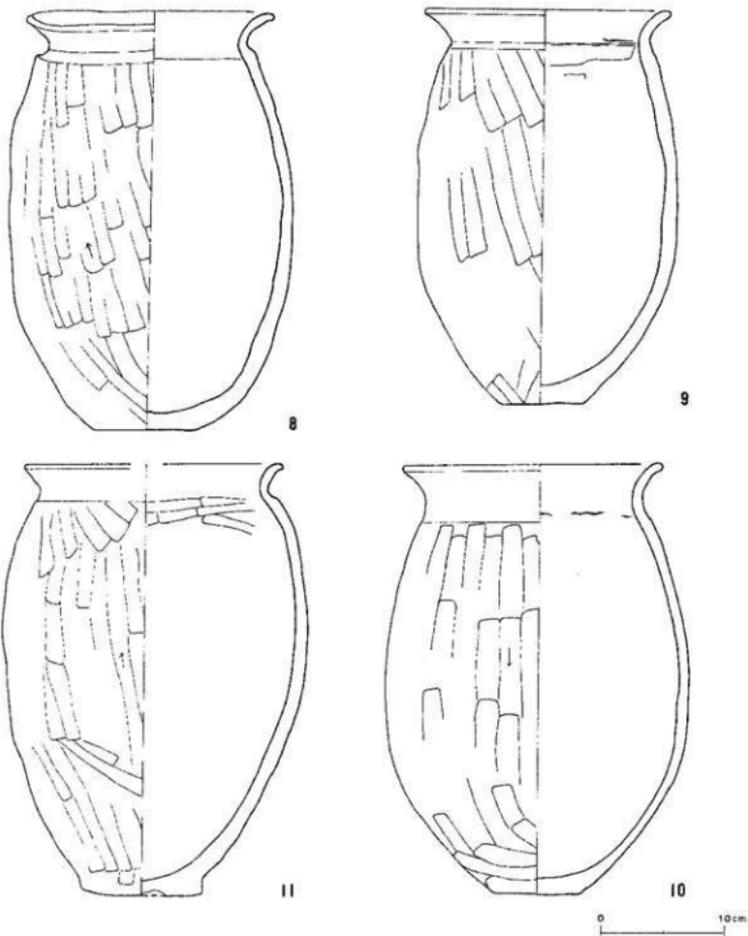
第43图 第19号住居跡実測图

遺物 土師器片310点、支脚2点、砥石1点、及び混入した縄文土器片5点が出土している。図示したものは、すべて土師器である。1の坏が中央部の覆土上層から、2の坏が竈東側の覆土中層から、3の小形甕、12の甕が南東壁寄りの覆土中層から、7、9、11、13の甕が覆土下層から、4の小形甕が竈手前の覆土中層と下層から、15の支脚が覆土下層から、5の甕が竈内と西側袖部内から、6の甕が北東壁寄りの覆土上層と中層から、10の甕が覆土下層から、14の支脚が覆土中層から、16の砥石が床面直上から、8の甕が竈内と竈手前の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、南コーナー部に竈が付設されている住居跡である。竈内や袖部内から土器片が出土していることから、土器片は竈の補強材として利用された可能性がある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。



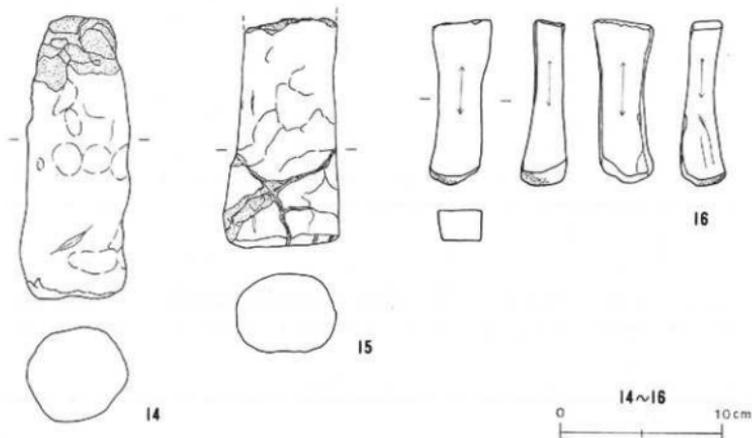
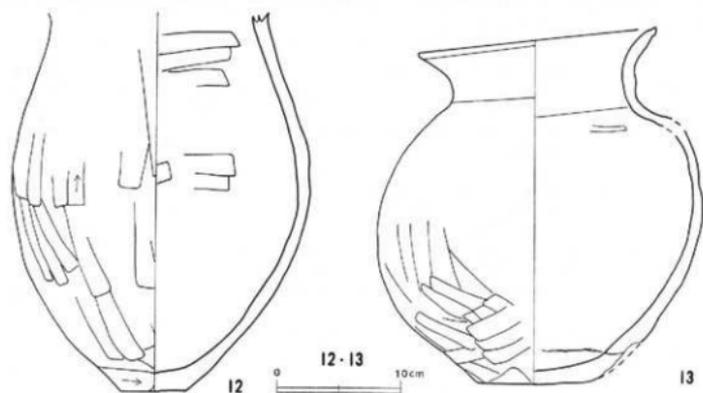
第44図 第19号住居跡出土遺物実測図(1)



第45図 第19号住居跡出土遺物実測図(2)

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44回 1	坏 土器	A [15.1] B 4.5	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 鈣状鉱物 砂粒 にぶい紺色 普通	P 119 45% P L 19 積土上層
2	坏 土器	A 14.5 B 4.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は欠る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 藍色 普通	P 120 100% P L 19 二次焼成層 積土中層



第46図 第19号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 3	小形 土師器	A [14.7]	体部、口縁部一部欠損。平底。底部は突出する。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩擦のため調整痕不明、内面ナデ。普通	長石 石英 砂粒 にふい 橙色 普通	P121 90% P L 19 覆土中層
		B 12.5				
		C 7.6				
4	小形 土師器	A 13.3	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。頸部はほぼ直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り、一部割離。内面横位のヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい 橙色 普通	P122 85% P L 19 覆土中層・下層
		B 20.6				
		C 6.9				
5	瓶 土師器	A 25.0	体部から口縁部の破片。体部は直線的に外反して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	P123 10% P L 20 甕内西側部内
		B (9.1)				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色面・焼成	備考
第44図 5	甕 土師器	A [301]	体部から口縁部の破片。体部は内野 灰味に立ち上がる。口縁部は外反し、 踵部は丸味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦 位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい橙色 普通	P124 15% P.L.20 覆土上層・中層
		B (142)				
7	甕 土師器	A 21.2	底部。体部。口縁部一部欠損。平底。 底径は小さく、体部は内野して立ち 上がり、中位に最大径をもつ。口縁 部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦 位のヘラ削り。内面ナデ。口縁部外 面に輪襷み痕を残す。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	P125 85% P.L.20 覆土下層
		B 33.7				
		C 4.9				
第45図 8	甕 土師器	A 19.8	底部。体部。口縁部一部欠損。平底。 体部は内野して立ち上がり、口縁部 との境に鋭角をもつ。口縁部は器肉を 減じながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦 位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	P126 85% P.L.20 竈内甕土中層
		B 34.0				
		C 8.2				
9	甕 土師器	A 19.8	底部。体部。口縁部一部欠損。平底。 体部は縦長く内野して立ち上がり、 中位に最大径をもつ。口縁部は外反 する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦 位のヘラ削り。内面縦位のヘラナデ。 口縁部内面に輪襷み痕を残す。	長石 雲母 砂粒 黒褐色 普通	P127 95% P.L.20 外面縦付着 覆土下層
		B 32.0				
		C 6.7				
10	甕 土師器	A 20.9	体部。口縁部一部欠損。平底。体部 は内野して立ち上がり、中位に最大 径をもつ。頸部はほぼ直立し、口縁 部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中 位以上縦位のヘラ削り。下位斜位の ヘラ削り。内面ナデ。頸部内面に輪 襷み痕を残す。	長石 雲母 砂粒 にふい橙色 普通	P128 80% P.L.20 外面縦付着 覆土下層
		B 35.1				
		C 6.8				
11	甕 土師器	A [20X]	体部。口縁部一部欠損。平底。底部 は突出する。体部は内野して立ち上 がり、中位に最大径をもつ。口縁部 は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中 位以上縦位のヘラ削り。下位斜位の ヘラ削り。内面縦位のヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	P129 70% P.L.20 外面縦付着 竈上下層
		B 25.1				
		C 9.8				
第46図 12	甕 土師器	B (30X)	底部から体部の破片。平底。底径は 小さく、体部は内野して立ち上がり、 中位に最大径をもつ。	体部外面縦位のヘラ削り。下層横位 のヘラ削り。内面横位のヘラナデ。	長石 石英 雲母 小塵 砂粒 にふい橙色 普通	P130 65% P.L.20 外面縦付着 覆土中層
		C 5.4				
13	甕 土師器	A 19.2	底部。体部。口縁部一部欠損。平底。 体部は内野して立ち上がり、中位に 最大径をもつ。頸部はほぼ直立し、 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中 位縦位のヘラ削り。下位斜位のヘラ 削り。内面ナデおよび縦位のヘラナ デ。輪襷み痕有り。	長石 雲母 小塵 砂粒 にふい黄褐色 普通	P131 70% P.L.20 外面縦付着 覆土下層
		B 28.9				
		C 8.6				

図版番号	器種	計測値			出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
14	支 脚	17.3	6.7	(574.9)	覆土中層	D P 9 P L 35
15	支 脚	(13.9)	7.0	(606.0)	覆土下層	D P 10 P L 35

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
16	炭 石	10.1	3.7	1.8	(120.0)	凝灰岩	断面直上	Q 9 P L 37

第20号住居跡 (第47・48図)

位置 調査区南部、E 3 b0区。

規模と平面形 長軸5.54m、短軸5.39mの隅丸方形である。

主軸方向 N-26°-W

壁 壁高は37～56cmで、外傾して立ち上がる。

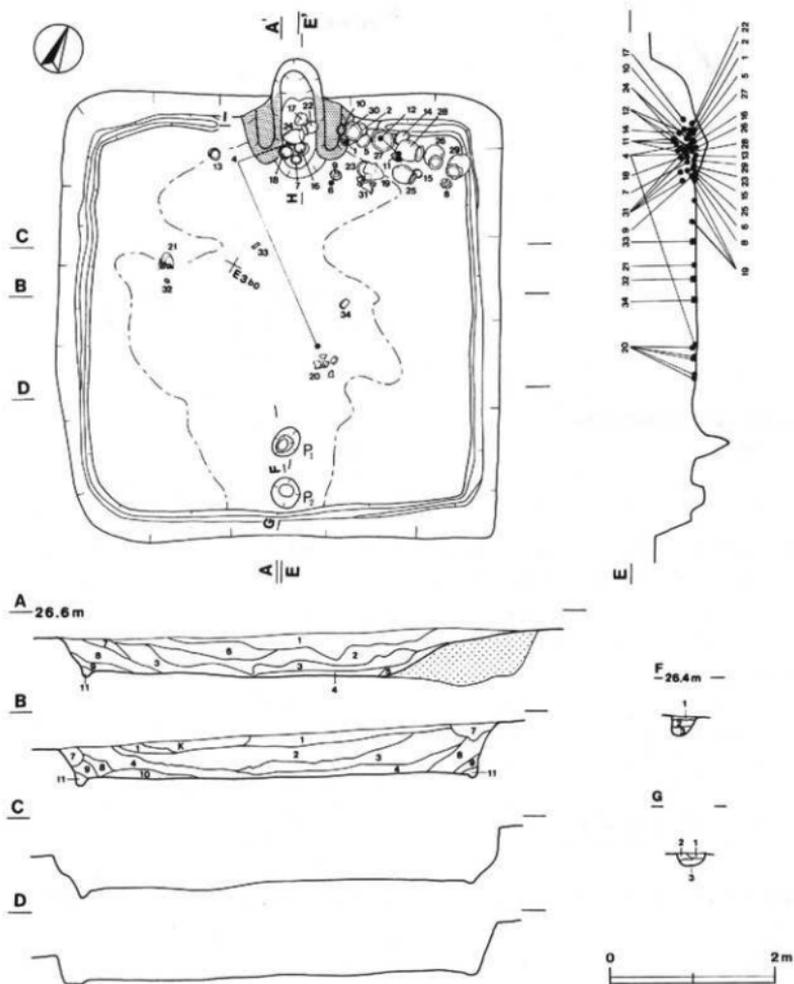
壁溝 全周している。上幅27～49cm、下幅4～8cm、深さ4～5cmで、断面形はU字状である。

壁土層解説

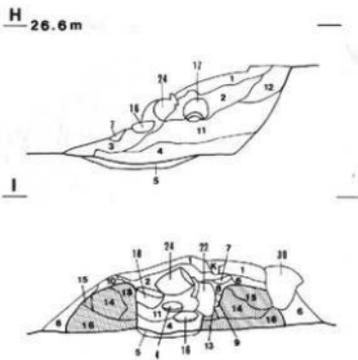
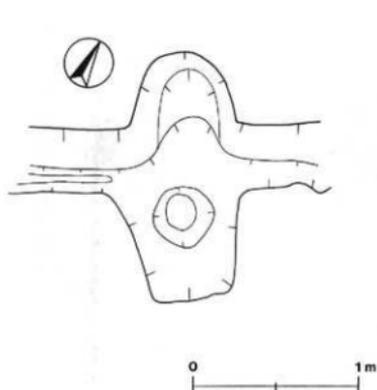
11 陶色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

床 平坦で、南東壁下から簾子前にかけて、踏み固められている。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径40cm、短径29cmの楕円形、P2は径38cmの円形、深さ16～42cmでい
ずれも出入り口施設に伴うピットである。



第47图 第20号住居跡実測图(1)



第48図 第20号住居跡実測図(2)

P 1 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭沼小ブロック・炭沼粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭沼小ブロック微量

P 2 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭沼粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量

竪 北西壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混せて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで147cm、最大幅136cm、壁外への掘り込みは47cmである。火床面は床面を17cmほど掘りくぼめており、浅い皿状を呈し、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で、外傾して緩やかに立ち上がる。

甌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、砂粒少量
- 2 褐色 砂粒・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 にいり褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、砂粒少量
- 4 暗赤褐色 焼土中ブロック中量、ローム小ブロック少量、砂粒少量、火床面
- 5 褐色 ローム粒子中量、砂粒・焼土粒子少量、火床面下の火熱を受けた層
- 6 暗褐色 砂粒中量
- 7 暗褐色 砂粒中量、ローム粒子微量
- 8 褐色 砂粒中量、焼土粒子微量
- 9 にいり褐色 砂粒中量、焼土粒子少量
- 10 にいり褐色 砂粒中量

- 11 褐色 砂粒・粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・焼土粒子・炭化粒子少量
- 12 褐色 ローム中ブロック中量、砂粒・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
- 13 褐色 砂粒・粘土粒子中量、焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量、内面は赤変
- 14 にいり褐色 砂粒・粘土粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量、竈袖部の芯材の粘土層
- 15 褐色 砂粒・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 16 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、砂粒・焼土粒子・炭化粒子微量

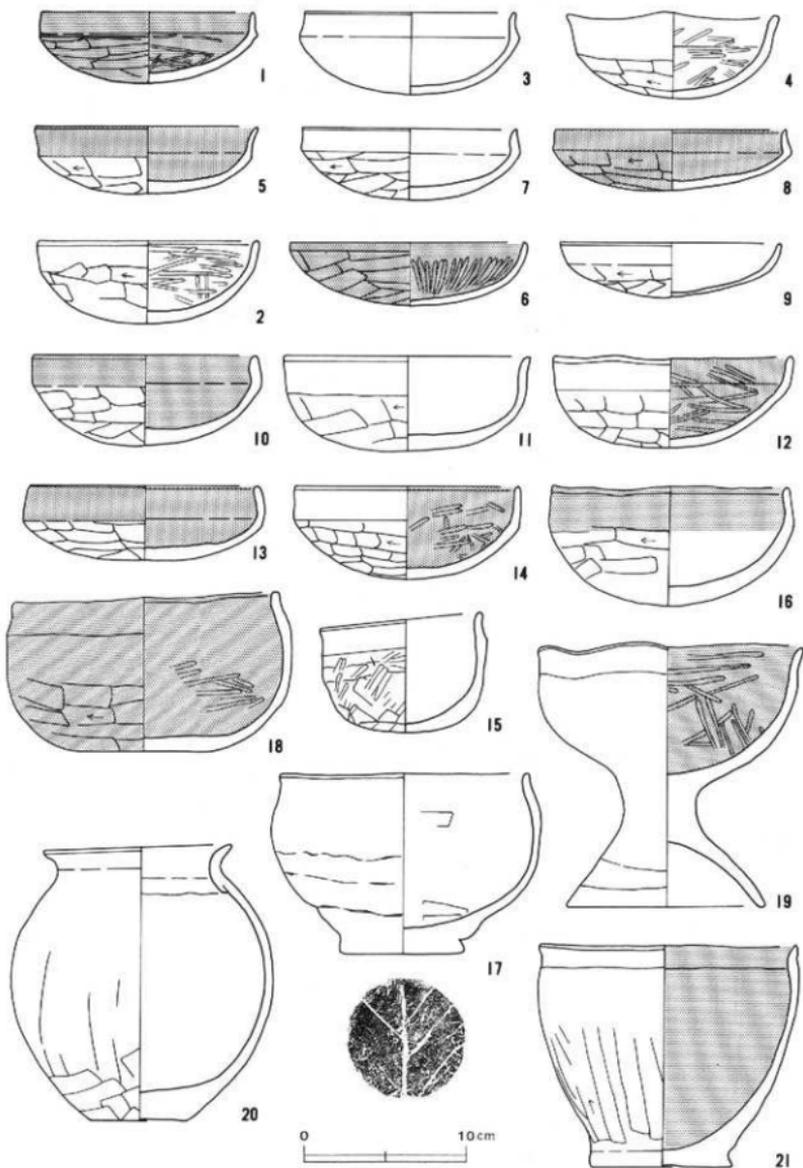
覆土 10層からなり、ロームブロックを多く含有し、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

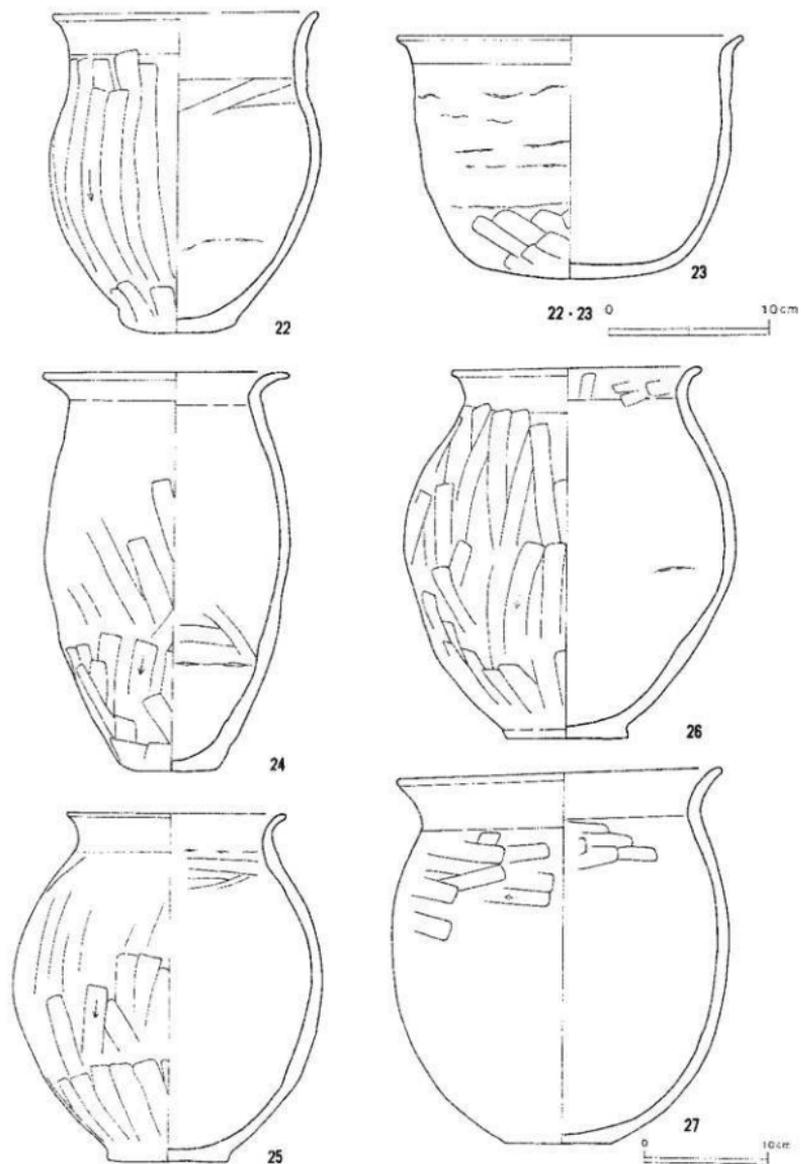
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・砂粒少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック・砂粒・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、炭化物・ローム小ブロック少量

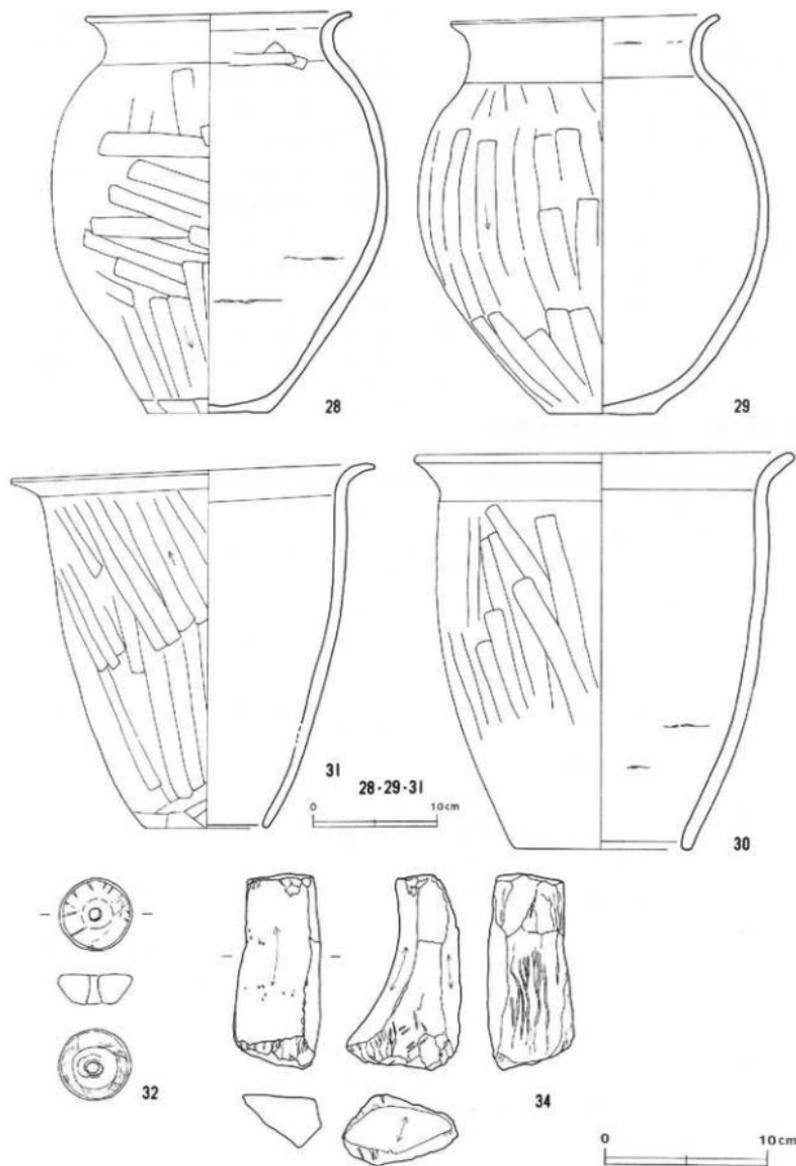
遺物 土師器片333点、石製紡錘車1点、砥石2点、及び混入した縄文土器片37点が出土している。ほとんどの遺物は竈内と竈北側に集中している。1, 2, 5, 6, 9, 10の環, 19の高環, 23の鉢, 28の甕, 30の甕が竈北側の覆土下層から、8, 12の環, 15の碗, 25~27, 29の甕, 31の甕が床面直上から、11, 14の環が覆土中層



第49图 第20号住居跡出土遺物実測図(1)



第50図 第20号住居跡出土遺物実測図(2)



第51图 第20号住居跡出土遺物実測図(3)



第52図 第20号住居跡出土遺物実測図(4)

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 1	土師器 環	A 13.0 B 4.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器内を減じながら直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面横位のへラ磨き。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 黒褐色 普通	P133 100% P L20 覆土下層
2	土師器 環	A 13.3 B 5.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもち、そのまま口縁部に至る。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り。口縁部内面から体部内面にかけて、横位のへラ磨き。	長石 赤色粒子 砂粒 黒褐色 普通	P134 95% P L20 覆土下層
3	土師器 環	A 12.9 B 5.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨減のための調整痕不明。内面ナデ。	長石 石英 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P135 100% P L20 覆土中
4	土師器 環	A 13.0 B 5.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り。口縁部内面から体部内面にかけて、横位のへラ磨き。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 褐色 普通	P136 100% P L20 甕内・覆土下層
5	土師器 環	A 13.5 B 4.1	体部。口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P137 90% P L21 覆土下層
6	土師器 環	A 14.3 B 3.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立し、口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面放射状のへラ磨き。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P138 95% P L21 覆土下層
7	土師器 環	A 13.1 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P139 95% P L21 甕内
8	土師器 環	A 14.0 B 3.8	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P140 100% P L21 床面直上
9	土師器 環	A 13.4 B 3.3	体部。口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもち、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 褐色 普通	P141 90% P L21 覆土下層
10	土師器 環	A 13.7 B 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい褐色 普通	P142 100% P L21 覆土下層
11	土師器 環	A 14.9 B 5.8	体部。口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 淡黄褐色 普通	P143 95% P L21 覆土中層

からそれぞれ出土している。7の環、18の碗が正位で、16の碗、24の甕が斜位で、17の鉢、22の小形甕が横位の状態、甕内からそれぞれ出土している。

4の環が中央部の覆土下層と甕内から、13の環が甕西側の覆土下層から、20の小形甕、33、34の砥石が中央部の覆土下層から、21の鉢が南西壁寄りの覆土下層から、32の石製紡錘車が床面直上から、3の環が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 甕内や甕北側の床面から、ほぼ完形品の環や甕が多量に出土していることから、本跡は、廃棄の際に住居の浄化のための祭祀的行為が行われた可能性が考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀中葉）と考えられる。

図解番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49回 12	坏 土師器	A 143	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り。口縁部内面から体部内面にかけて横位のへラ磨き。内面黒色処理。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P144 90% P.L.21 覆土直上
		B 56				丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は内傾する。
13	坏 土師器	A 140	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外向・内面黒色処理。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通	
		B 46				口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は内傾する。
14	坏 土師器	A 136	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面口縁部黒色処理。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通	
		B 57				口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は内傾する。
15	瓮 土師器	A 100	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は器内を減しながら、ほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、棒状工具によるナデ。内面横ナデ。体部外側に輪積み痕を残す。	長石 石英 雲母 砂粒 橙褐色 普通	
		B 74				口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は内傾する。
16	瓮 土師器	A 144	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面口縁部黒色処理。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通	
		B 73				口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は内傾する。
17	鉢 土師器	A 152	平底。底部は突出する。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨減のため調整不明。内面へラナデ。体部外側に輪積み痕を残す。底部太衆痕。	長石 石英 雲母 砂粒 橙褐色 普通	
		B 111				口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。
C 76	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	長石 雲母 小礫 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P151 85% P.L.21 覆土下層			
18			瓮 土師器	A 160	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面横位のへラ磨き。内・外面黒色処理。
	B 79	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。		長石 雲母 小礫 砂粒 にぶい黄褐色 普通		
19	高 土師器		A 169		口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削り。内面へラ磨き。器部内・外面ナデ。内面黒色処理。器部外側に輪積み痕あり。
		B 158	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通		
C 72	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通			P153 100% P.L.21 覆土下層	
20			小形 土師器	A 115	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は器内を増しながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位縦位のへラ削り。下位横位のへラ削り。内面ナデ。輪積み痕あり。
	B 169	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は器内を増しながら外反する。		長石 石英 赤色粒子 砂粒 にぶい褐色 普通		
C 59	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は器内を増しながら外反する。		長石 石英 赤色粒子 砂粒 にぶい褐色 普通		P153 100% P.L.21 覆土下層	
21		鉢 土師器		A 158	平底。底部は突出する。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のへラ削り。内面ナデ。内面黒色処理。
	B 136		平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 橙褐色 普通		
C 85	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	長石 雲母 小礫 砂粒 橙褐色 普通			P155 95% P.L.21 覆土下層	
第50回 22			小形 土師器	A 162	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへラ削り。内面ナデおよび斜位のへラナデ。輪積み痕あり。
	B 187	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。		長石 雲母 小礫 砂粒 橙褐色 普通		
C 70	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。		長石 雲母 小礫 砂粒 橙褐色 普通		P156 90% P.L.22 甕内	
23		瓮 土師器		A 213	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、上位はほぼ直立する。口縁部は器内を減しながら、短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位斜位のへラ削り。内面ナデ。体部外側に輪積み痕を残す。
	B 187		口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、上位はほぼ直立する。口縁部は器内を減しながら、短く外反する。	長石 雲母 小礫 砂粒 橙褐色 普通		
C 100	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、上位はほぼ直立する。口縁部は器内を減しながら、短く外反する。	長石 雲母 小礫 砂粒 橙褐色 普通			P157 100% P.L.21 甕面直上	
24			瓮 土師器	A 198	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位斜位。下位斜位。下層横位のへラ削り。内面ナデおよびへラナデ。輪積み痕あり。
	B 323	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は強く外反する。		長石 雲母 赤色粒子 小礫 砂粒 にぶい黄褐色 普通		
C 76	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は強く外反する。		長石 雲母 赤色粒子 小礫 砂粒 にぶい黄褐色 普通		P158 100% P.L.22 甕面直上	
25		瓮 土師器		A 177	平底。底部は突出する。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへラ削り。内面ナデおよびへラナデ。頸部内面に輪積み痕を残す。
	B 284		口縁部一部欠損。平底。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 浅黄褐色 普通		
C 96	口縁部一部欠損。平底。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。	長石 雲母 赤色粒子 小礫 砂粒 にぶい黄褐色 普通			P159 100% P.L.22 甕面直上	
26			瓮 土師器	A 202	平底。底部は突出する。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位縦位のへラ削り。内面ナデ。輪積み痕あり。
	B 301	口縁部一部欠損。平底。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。		長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通		
C 98	口縁部一部欠損。平底。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。		長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通		P160 95% P.L.22 覆土下層	
27		瓮 土師器		A 262	平底。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位縦位のへラ削り。内面横位のへラナデ。
	B 305		口縁部一部欠損。平底。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通		
C 86	口縁部一部欠損。平底。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通			P160 95% P.L.22 覆土下層	
第51回 28			瓮 土師器	A 213	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位縦位。下位横位のへラ削り。内面ナデ。輪積み痕あり。
	B 324	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は強く外反する。		長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通		
C 94	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は強く外反する。		長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい黄褐色 普通		P160 95% P.L.22 覆土下層	

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51図 29	土師器	A 21.8	口縁部一部欠損。平底。体部は球形で、中位に最大径をもつ。頸部は直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。口縁部内面に輪痕み痕が残る。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 にぶい褐色 普通	P161 95% P.L22 床面直上
		B 32.4				
		C 8.6				
30	土師器	A 23.4	無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。輪痕み痕有り。	長石 雲母 赤色粒子 小礫 砂粒 褐色 普通	P162 100% P.L22 覆土下層
		B 24.3				
		C 10.6				
31	土師器	A 29.3	体部、口縁部 部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位斜位。中位縦位。下端横位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P163 95% P.L22 床面直上
		B 29.5				
		C 9.8				

図取番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
32	紡錘車	4.5	1.9	0.7	57.0	滑石	床面直上	Q10 P.L37

図取番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第52図33	紙石	11.7	4.9	4.0	(156.9)	凝灰岩	覆土下層	Q11 P.L37
第51図34	紙石	11.9	5.2	7.0	(300.8)	凝灰岩	覆土下層	Q12 P.L35

第21号住居跡（第53図）

位置 調査区南東部，D4j5区。

規模と平面形 長軸6.74m，短軸6.69mの方形である。

主軸方向 N-27°-W

壁 壁高は10～75cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅16～32cm，下幅5～14cm，深さ3～7cmで，断面形はU字状である。

壁土層解説

9 褐色 ローム粒子中量，炭屑中ブロック少量

床 平坦で，中央部付近が踏み固められている。

ピット 8か所（P1～P8）。P1，P3，P4は長径79～91cm，短径69～71cmの楕円形，P2は径85cmの円形，深さ60～70cmでいずれも主柱穴である。P5とP6は長径56～69cm，短径44～56cmの楕円形，深さ14～23cmでいずれも出入り口施設に伴うピットである。P7とP8は径32～34cmの円形，深さ38～47cmでいずれも補助柱穴である。

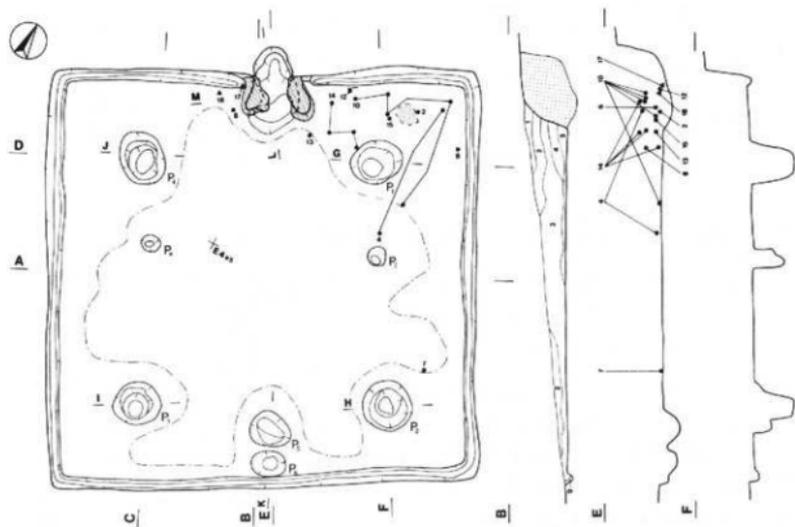
P1～P6土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，炭屑中ブロック少量 | 4 褐色 | ローム粒子少量，炭屑中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 炭屑中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | 炭屑中量，ローム中ブロック・炭屑中ブロック微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 7 褐色 | ローム粒子微量 |
| | | 8 褐色 | 炭屑中ブロック中量，ローム小ブロック微量 |

竈 北西壁中央部に付設されており，天井部は崩落しているが，両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は，煙道部から焚口部まで144cm，最大幅120cm，壁外への掘り込みは48cmである。火床面は床面を16cmほど掘りくぼめており，皿状を呈し，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の平面形は逆J字形で，外傾して急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，小礫・砂粒少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 小礫・砂粒・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，砂粒少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂粒・ローム粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量，砂粒少量，火床面下の燃焼灰の堆積層 |
| 4 褐色 | 小礫・砂粒少量，焼土粒子微量 | 9 褐色 | 焼土粒子少量，炭屑中ブロック少量，火床面下の火熱を受けた層 |
| 5 二色法褐色 | 白色粘土中量，砂粒少量 | | |



A 27.2 m

C

D

G 26.4 m

H

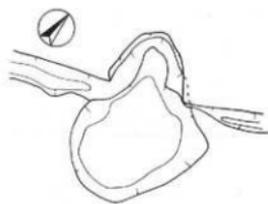
I

M

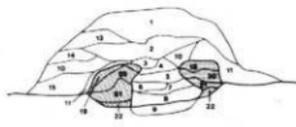
J

K 27.2 m

0 2m



L 27.2 m



0 1m

第53图 第21号住居跡実測图

- 10 褐色 小礫・砂粒・ローム粒子少量。炭化粒子微量
 11 暗褐色 ローム粒子中量、小礫・砂粒少量
 12 暗褐色 ローム粒子中量、砂粒少量
 13 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子微量
 14 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、砂粒・粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 15 暗褐色 砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量
 16 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック・粘土粒子・粘土粒子微量
 17 褐色 ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量

- 18 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
 19 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・砂粒・炭化粒子少量
 20 におい褐色 砂粒・粘土粒子少量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 電線部の芯材の粘土層
 21 におい褐色 焼土粒子少量、砂粒中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量 内面は赤変
 22 褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量

覆土 8層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

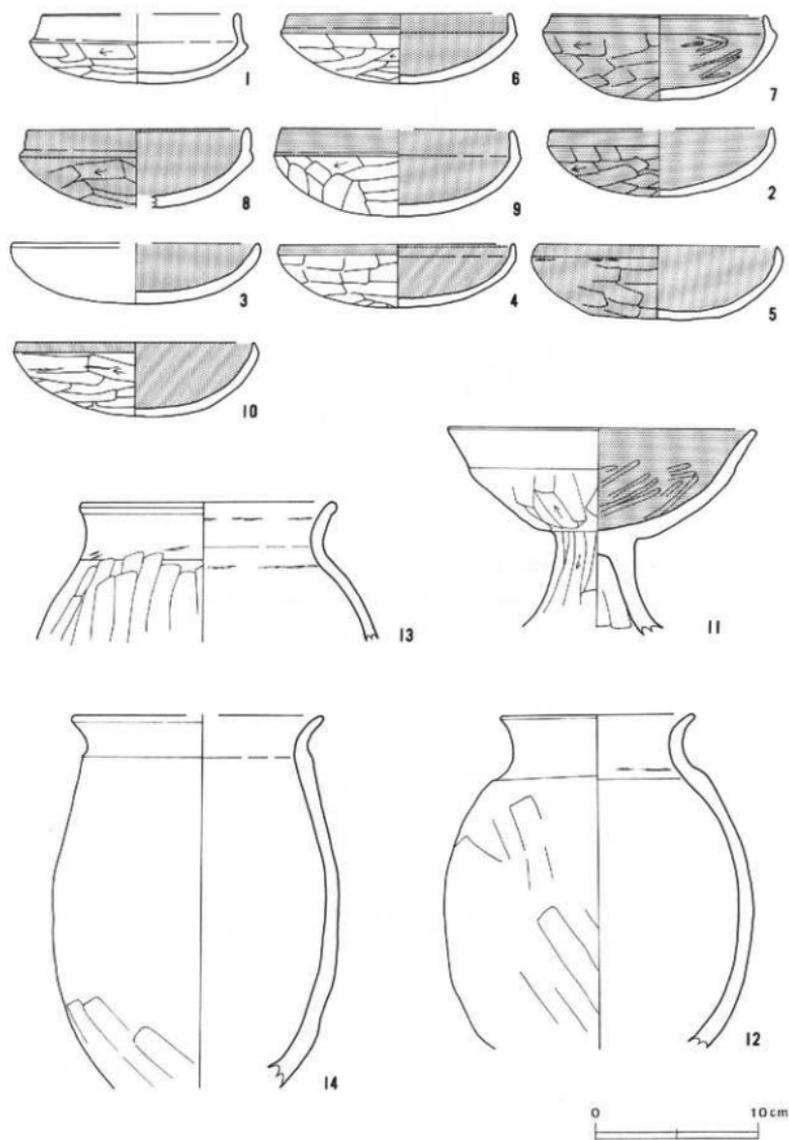
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子少量、小礫・ローム小ブロック・焼土粒子微量
 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・小礫・ローム粒子・焼土粒子微量
 4 暗褐色 小礫・ローム小ブロック・砂粒・ローム粒子・焼土粒子微量
 5 黒褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 6 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック微量
 8 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片952点、土玉1点、支脚2点、及び混入した縄文土器片36点、打製石斧1点、尖頭器1点が出土している。ほとんどの遺物は竈北側から北コーナー部にかけて集中している。2の坏、12の甕、15の甗が北コーナー部の覆土下層から、8の坏が覆土中層から、10の坏と14の甕が覆土中層と下層から、4の坏がP7付近の覆土下層と北コーナー部の覆土中層から、6の坏、17と18の支脚が竈西側の覆土下層から、7の坏が北東壁寄りの覆土下層から、13の甕が竈手前の覆土下層から、1、3、5、9の坏、11の高坏、16の土玉が覆土中からそれぞれ出土している。

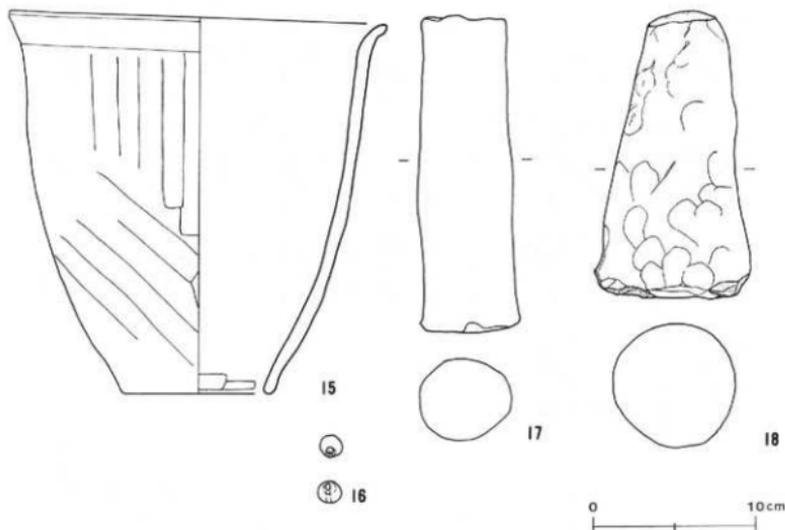
所見 本跡は、北東壁側と南西壁側の主柱穴の間に、深さ38~47cmのピットが確認できることから、補助柱穴を伴う住居跡と考えられる。東側卜る傾斜の強い場所に構築されており、南東壁の残存率が悪い。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀後葉）と考えられる。

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第54図 1	土師器 坏	A [12.0]	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内磨して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器内を減じながら内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 赤色粘土 砂粒 におい褐色 普通	P164 80% P L22 覆土中
		B 4.2				
2	土師器 坏	A [13.6]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内磨して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 針状炭物 砂粒 明赤褐色 普通	P165 65% P L22 覆土下層
		B 4.1				
3	土師器 坏	A [15.1]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内磨して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面厚減のため調整面不明。内面ナデ。内面黒色処理。	長石 石英 砂粒 褐色 普通	P166 55% P L22 覆土中
		B 3.7				
4	土師器 坏	A 14.2	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内磨して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外側・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 浅黄褐色 普通	P167 85% P L22 覆土中層・下層
		B 3.9				
5	土師器 坏	A [14.5]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内磨して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く、わずかに内傾し、端部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 におい褐色 普通	P168 45% P L22 覆土中
		B 4.6				
6	土師器 坏	A 13.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内磨して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外側・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 浅黄褐色 普通	P169 85% P L22 覆土下層
		B 4.3				
7	土師器 坏	A 13.1	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内磨して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器内を減じながら内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横位のへラ磨き。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P170 75% P L22 覆土下層
		B 5.2				



第54图 第21号住居跡出土遺物実測図(1)



第55図 第21号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 8	坏 土 師 器	A 134	底部、体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内摩して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	P171 70% P.L.22 覆土中層
		B 4.8				
9	坏 土 師 器	A 140	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内摩して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	P172 50% P.L.22 覆土中
		B 5.4				
10	坏 土 師 器	A 146	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内摩して立ち上がり、口縁部に至る。肩部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、輪積み痕有り。内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい橙色 普通	P173 95% P.L.22 覆土中層・下層
		B 4.6				
11	高 土 師 器	A 19.1	肩部中位以下欠損。肩部はハの字状に開く。坏部は内摩気味に立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面横位のヘラ磨き。肩部内・外面ヘラ削り。内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	P174 80% P.L.23 覆土中
		B (12.5)				
		E (5.8)				
12	美 土 師 器	A 11.9	体部から口縁部の破片。体部は内摩して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はコの字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り、内面ナデ。肩部内面に輪積み痕が残る。	長石 石英 小礫 砂粒 明赤褐色 普通	P175 50% P.L.23 覆土下層
		B (20.5)				
13	美 土 師 器	A 15.8	体部から口縁部の破片。体部は内摩して立ち上がる。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り、内面ナデ。輪積み痕有り。	長石 雲母 砂粒 明黄褐色 普通	P177 20% P.L.23 覆土下層
		B (9.6)				
14	美 土 師 器	A [15.4]	体部から口縁部の破片。体部は細長く、内摩して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器内を減じながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位斜位のヘラ削り、内面ナデ。	長石 石英 小礫 砂粒 にぶい橙色 普通	P178 50% P.L.23 覆土中層・下層
		B (23.5)				
第55図 15	瓶 土 師 器	A 23.2	体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は反く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部斜位のヘラ削り、下半部斜位のヘラ削り。内面ナデ、下縁ヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	P179 85% P.L.23 覆土下層
		B 23.6				
		C 9.0				

採取番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第55図16	土玉	1.5	1.3	0.4	2.3	覆土中	D P11 P L35

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
17	支脚	19.5	6.2	778.7	覆土上層	D P12 P L35
18	支脚	17.7	9.5	1306.5	覆土下層	D P13 P L34

第22号住居跡 (第56・57図)

位置 調査区南東部, D4g6区。

規模と平面形 長軸5.06m, 短軸5.05mの方形である。

主軸方向 N-41°-W

壁 壁高は26~56cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南コーナー部を除いて, 巡っている。上幅17~36cm, 下幅5~19cm, 深さ3~10cmで, 断面形はじ字状である。

壁溝土層解説

8 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量

床 平坦で, 出入り口部から第1竈, 第2竈にかけて, 踏み固められている。南東壁から中央部にかけて, 焼土塊と炭化物が点在している。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P4は長径38~44cm, 短径32~37cmの楕円形, 深さ33~39cmでいずれも主柱穴である。P6は長径40cm, 短径35cmの楕円形で, 深さ17cmの出入り口施設に伴うピットである。P5は長径43cm, 短径34cmの楕円形, 深さ11cmで, 性格は不明である。

P1~P4, P6土層解説

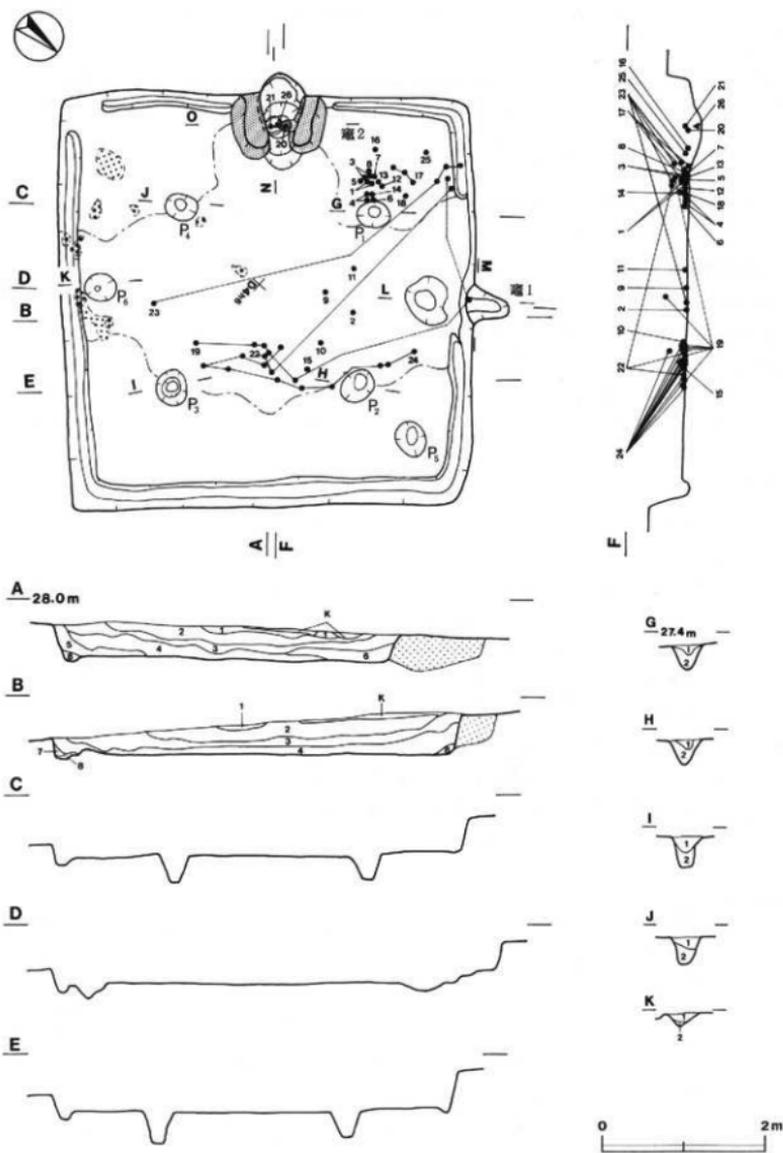
1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム大・中ブロック・ロー 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子少量

竈 2か所。第1竈は, 残存部分が少なく明確ではないが, 北西壁中央部に付設されていたと考えられる。両袖部とも残存しておらず, 火床部は床面を掘り下げて確認した。規模は, 煙道部から突口部まで126cm, 最大幅(60)cm, 壁外への掘り込みは41cmである。火床面は床面を11cmほど掘りくぼめており, 皿状を呈し, 火熱を受けてわずかに赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で, 外傾して急に立ち上がる。

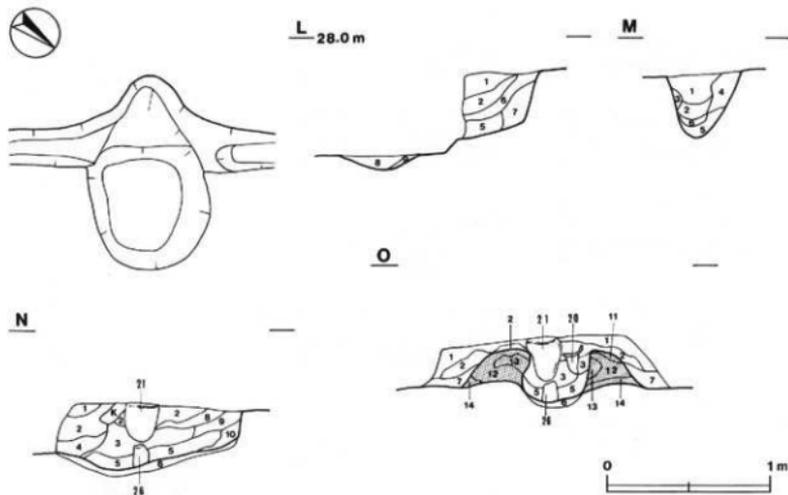
第1竈土層解説

1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量
 2 黒褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量
 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
 4 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
 5 黒褐色 ローム小ブロック・砂粒・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量
 8 暗褐色 ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土大ブロック・ローム小ブロック・砂粒・ローム粒子・粘土粒子少量 火床面上の燃焼灰の堆積層
 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第2竈は, 南西壁中央部に付設されており, 天井部は崩落しているが, 両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は, 煙道部から突口部まで120cm, 最大幅114cm, 壁外への掘り込みは28cmである。火床面は床面を16cmほど掘りくぼめており, 皿状を呈し, 火熱を受けて赤硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で, 外傾して急に立ち上がる。



第56図 第22号住居跡実測図(1)



第57図 第22号住居跡実測図(2)

第2竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量
- 2 暗褐色 砂粒中量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・砂粒・炭化粒子少量
- 4 褐色 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土大・小ブロック・焼土粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 火床面下の火熱を受けた層
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・砂粒・焼土粒子少量, 粘土粒子微量

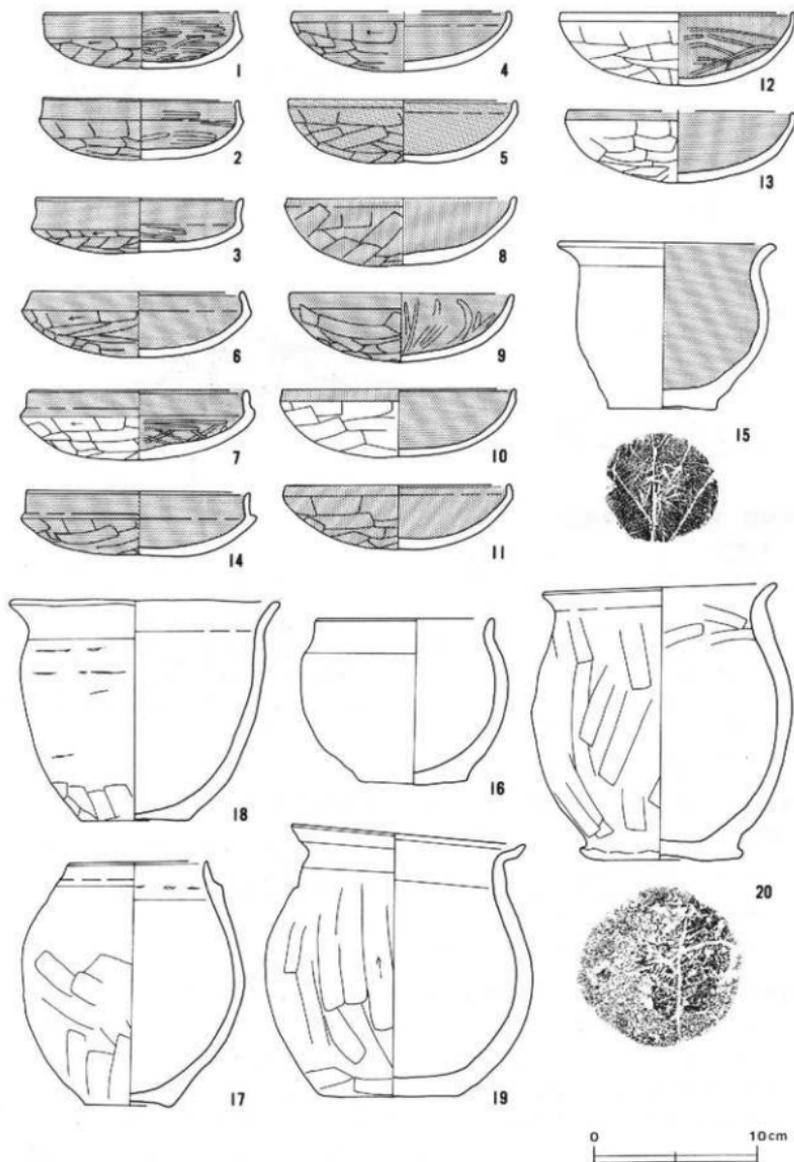
- 9 暗褐色 焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・砂粒・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 砂粒少量, 焼土粒子微量
- 12 褐色 砂粒少量, 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 竈無部の芯材の粘土層
- 13 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒多量, 焼土小ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子少量 内面は赤変
- 14 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量

覆土 7層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

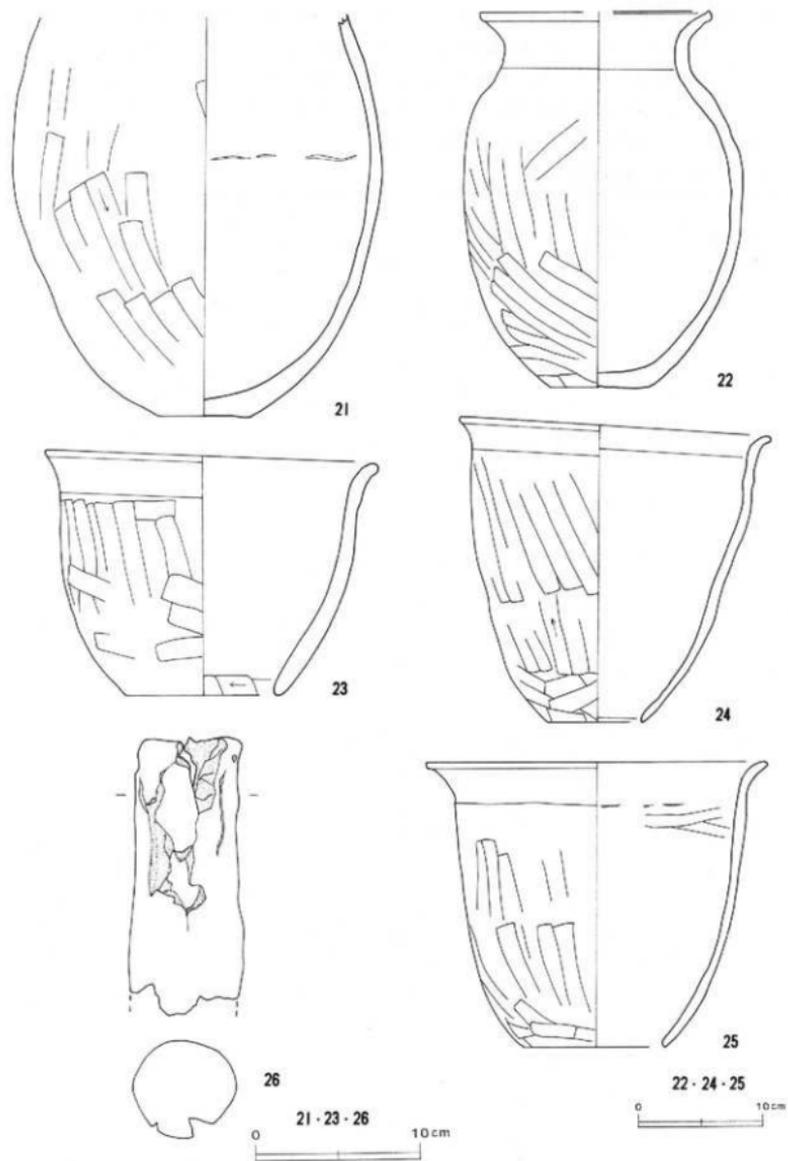
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム大・中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 砂粒・粘土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量

遺物 土師器片355点, 須恵器片1点, 支脚1点, 及び混入した縄文土器片7点が出土している。ほとんどの遺物は西コーナー部と中央部に集中している。図示したものは、すべて土師器である。1, 3~8, 12~14の坏, 17, 18の小形甕, 25の甕が西コーナー部の覆土下層から, 16の小形甕が床面直上から, 2, 9~11の坏, 15の小形甕が中央部の床面直上から, 24の甕が床面直上から覆土中層にかけて, 19の小形甕が中央部の床面直上から北西壁寄りと西コーナー部の覆土中層にかけてそれぞれ出土している。20の小形甕が第2竈の火床面上部から斜線で, 26の支脚が竈火床面から立位で, その上部には21の甕が正位の状態, 22の甕, 23の甕が中央部の床面直上と西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。



第58図 第22号住居跡出土遺物実測図(1)



第59图 第22号住居跡出土遺物実測図(2)

所見 本跡は、竈の作り替えが行われた住居跡である。第1竈は両袖部とも残存しておらず、火床面は床面を掘り下げて確認したことから、竈の構築順序は第1竈から第2竈と考えられる。第1竈は火床面の状況から、短期間しか使用されなかったものと考えられる。第2竈の26の支脚が竈火床面から立位で、その上部には21の甕が竈に据えられた様に正位の状態でも出土しており、使用されたままの状態と思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀中葉）と考えられる。

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第58図 1	坏 土 師 器	A 11.8	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面縁位のへラ削き。内・外面黒色処理。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 色色 普通	P180 90% P.L.23 覆上下層
		B 3.4				
2	坏 土 師 器	A 11.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り。口縁部内面から体部内面にかけて、縁位のへラ削き。内・外面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 色色 普通	P181 95% P.L.23 床面直上
		B 3.8				
3	坏 土 師 器	A 12.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面縁位のへラ削き。内・外面黒色処理。	赤石 赤色粒子 砂粒 砂粒 色色 普通	P182 90% P.L.23 覆土下層
		B 3.3				
4	坏 土 師 器	A 13.1	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 色色 普通	P183 80% P.L.23 覆上下層
		B 3.7				
5	坏 土 師 器	A 13.8	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	赤色粒子 砂粒 浅黄褐色 普通	P184 90% P.L.23 覆土下層
		B 3.9				
6	坏 土 師 器	A 12.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	長石 赤色粒子 砂粒 浅黄褐色 普通	P185 95% P.L.23 覆土下層
		B 3.9				
7	坏 土 師 器	A 13.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器内を減しながら、わずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り内面へラ削き。外面口縁部内面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 色色 普通	P186 100% P.L.23 覆上下層
		B 4.2				
8	坏 土 師 器	A 13.9	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 色色 普通	P187 90% P.L.23 覆土下層
		B 4.2				
9	坏 土 師 器	A 13.5	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は突出する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り内面放射状のへラ削き。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 色色 普通	P188 95% P.L.23 床面直上
		B 4.3				
10	坏 土 師 器	A 14.3	底部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 赤色粒子 砂粒 浅黄褐色 普通	P189 95% P.L.23 床面直上
		B 4.2				
11	坏 土 師 器	A 13.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く、わずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 色色 普通	P190 95% P.L.23 床面直上
		B 3.9				
12	坏 土 師 器	A 14.2	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面縁位のへラ削き。内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 色色 普通	P191 90% P.L.24 覆上下層
		B 4.4				
13	坏 土 師 器	A [31.9]	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 色色 普通	P192 90% 覆上下層
		B 4.4				
14	坏 土 師 器	A 13.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器内を減しながら、ほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 色色 普通	P193 100% P.L.24 覆土下層
		B 4.0				
15	小形 土 師 器	A 13.4	体部、口縁部一部欠損。平底。底部はわずかに突出する。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縁減のため溝型不明。内面ナデ。内面黒色処理。底部木製板。	長石 雲母 砂粒 色色 普通	P194 90% P.L.23 床面直上
		C 6.6				

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58回 16	小形変 土師器	A 10.8	体部 短欠胆。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縮減のため調整痕不明。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 棕色 普通	P195 90% P L 23 床面直上
		B 10.2				
		C 6.6				
17	小形変 土師器	A 8.4	体部、口縁部一部欠胆。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器肉を減しながら内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位斜位のヘラ削り、下位縦位のヘラ削り。内面ナデ。頸部内面に輪痕み痕が残る。	長石 雲母 赤色砂子 砂粒 にふい黄色色 普通	P196 90% P L 24 覆土下層
		B 13.0				
		C 3.0				
18	小形変 土師器	A 16.6	体部、口縁部一部欠胆。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位縦位のヘラ削り。内面ナデ。内面黒色処理。体部外面に輪痕み痕が残る。	長石 雲母 砂粒 棕色 普通	P197 85% P L 24 覆土下層
		B 13.5				
		C 6.3				
19	小形変 土師器	A 14.3	体部、口縁部一部欠胆。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は強く外反し、肩部は外上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、下端横位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 小礫 砂粒 にふい棕色 普通	P198 80% P L 24 床面直上
		B 16.6				
		C 8.4				
20	小形変 土師器	A 14.4	体部、口縁部一部欠胆。平底。底部は突出する。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は器肉を減しながら、強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位および斜位のヘラ削り。内面横位のヘラナデおよびナデ。底部木炭焼。	長石 雲母 砂粒 棕色 普通	P199 90% P L 24 第2電火床面上部
		B 16.9				
		C 10.1				
第50回 21	変 土師器	B (24.7)	体部 上位以上欠胆。平底。底径は小さく、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。輪痕み痕有り。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 棕色 普通	P200 80% P L 24 電火床面上部
		C 5.6				
		A [18.5]				
22	変 土師器	A [18.5]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。肩部はほぼ直立し、口縁部は外反する。肩部は上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位縦位、下位斜位、下端横位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にふい黄棕色 普通	P201 60% P L 24 外面炭付着 床面直上 覆土中層
		B 30.4				
		C 7.8				
23	瓶 土師器	A 20.4	底部、体部、口縁部一部欠胆。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部縦位のヘラ削り。下半部斜位のヘラ削り。内面ナデ。下端横位のヘラ削り。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 にふい棕色 普通	P202 80% P L 24 床面直上 覆土中層
		B 15.2				
		C 9.2				
24	瓶 土師器	A 25.3	底部、体部、口縁部一部欠胆。無底式。体部は外彎して立ち上がり。口縁部は強く外反し、肩部は丸味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上縦位のヘラ削り、下位斜位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 小礫 砂粒 棕色 普通	P203 80% P L 24 床面直上 覆土中層
		H 24.2				
		C 7.6				
25	瓶 土師器	A 27.6	体部、口縁部一部欠胆。無底式。体部は外彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上縦位のヘラ削り、下位斜位のヘラ削り。内面ナデおよび横位のヘラナデ。肩部内面に輪痕み痕が残る。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 棕色 普通	P204 90% P L 24 覆土下層
		B 23.0				
		C 11.2				

図版番号	種別	胎 土 質			出土地点	備 考
		長さ (cm)	径 (mm)	重量 (g)		
26	支 脚	(17.1)	(7.1)	(577.2)	電火床面	DP21 P L 34

第23号住居跡 (第60・61図)

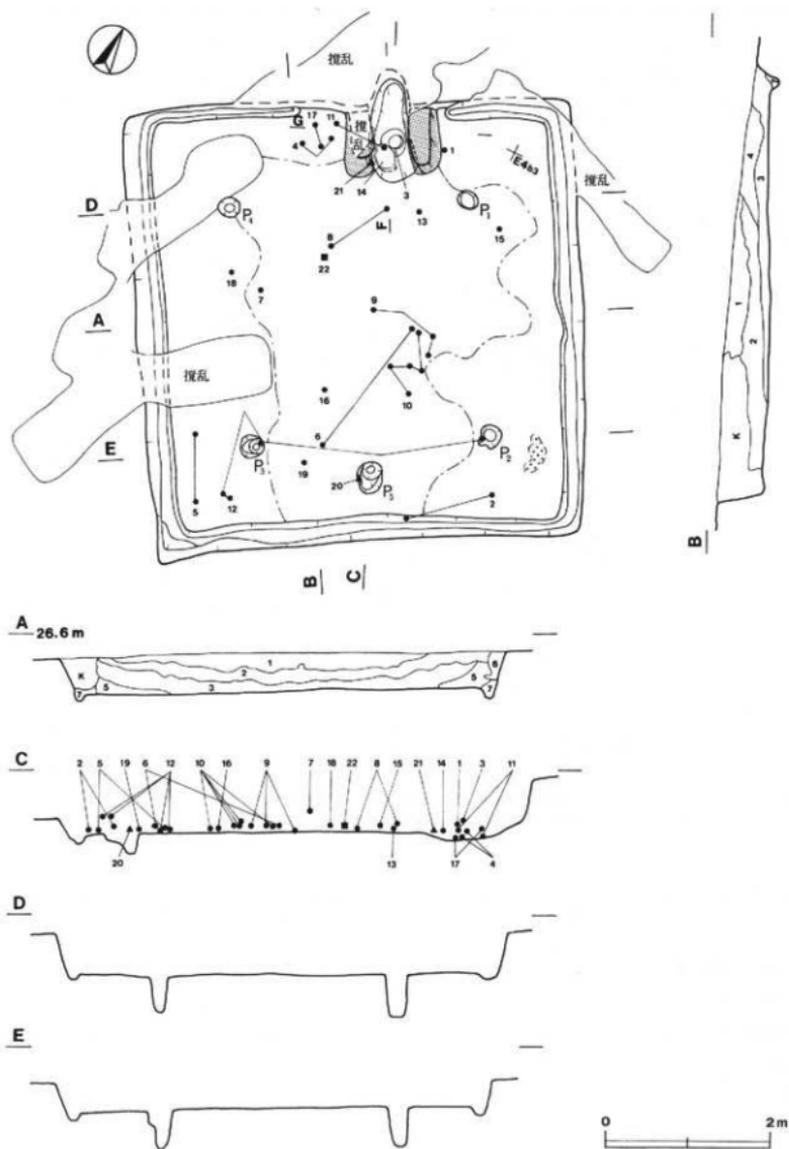
位置 調査区南部、E 4 b 2区。

規模と平面形 長軸5.42m、短軸5.40mの方形である。

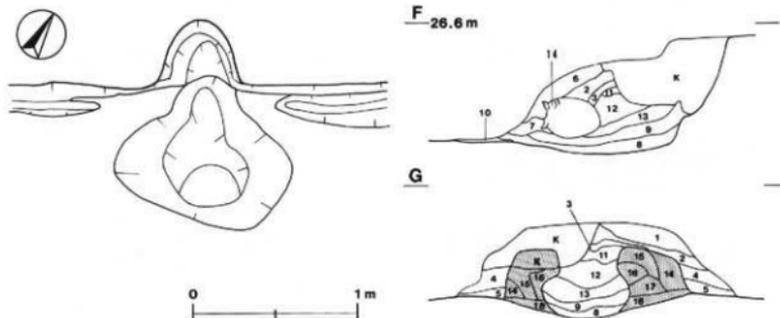
主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は45～57cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 掘乱を受けている南西壁の一部は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅 [17～38] cm、下幅 [7～14] cm、深さ [5～11] cmで、断面形はU字状と推定される。



第60图 第23号住居跡実測图(1)



第61図 第23号住居跡実測図(2)

壁土層解説

7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭粒少量, 炭化粒子微量

床 平坦で, 南西壁付近は攪乱を受けているが, 南東壁付近から竈手前にかけて, 踏み固められている。ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は径24~29cmの円形または不整形円形, 深さ47~57cmでいずれも主柱穴である。P5は長径39cm, 短径30cmの楕円形で, 深さ25cmの出入口施設に伴うピットである。

竈 北西壁のやや北寄りに付設されている。天井部は崩落しており, 煙道部から西側袖部の上部にかけて攪乱を受けており, 東側袖部と西側袖部の一部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は, 煙道部から焚口部まで [140] cm, 最大幅119cm, 壁外への掘り込みは [45] cmであると推定される。火床面は床面を12cmほど掘りくぼめており, 皿状をしている。東側袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

壁土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・砂粒少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 小礫中量, ローム粒子少量
- 3 黄褐色 小礫微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子・白色粘土粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 7 にいみ褐色 焼土粒子中量, 砂粒少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子中量, 砂粒少量 火床面
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量, 砂粒少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

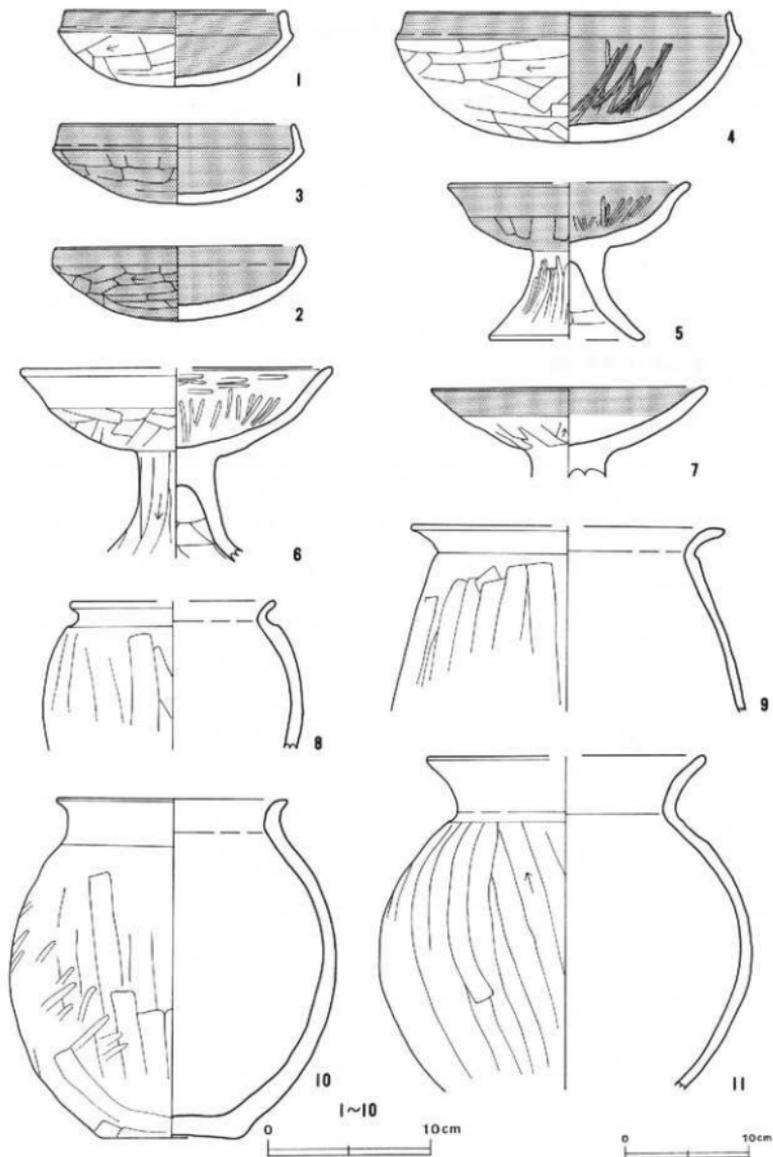
- 11 赤褐色 焼土小ブロック中量, 砂粒少量
- 12 にいみ褐色 小礫中量, 焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子少量
- 13 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・砂粒・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 14 褐色 砂粒少量, 小礫・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 15 黄褐色 砂粒少量, 炭化物・焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 16 赤褐色 焼土粒子中量, 小礫・砂粒少量, 焼土小ブロック微量 内面は赤変
- 17 にいみ褐色 小礫・砂粒・粘土粒子中量, 焼土小ブロック微量
- 18 明褐色 炭粒少量, 炭化中ブロック微量

覆土 6層からなり, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

土層解説

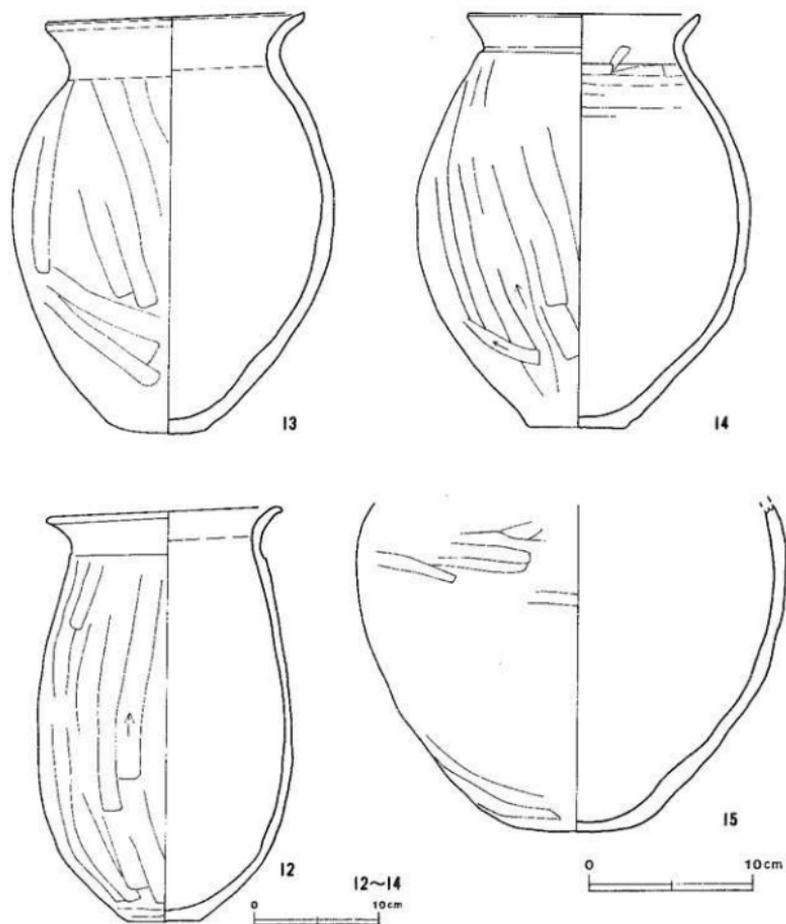
- 1 極暗褐色 ローム中・小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭粒少量・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック・炭粒中・小ブロック・炭粒少量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム中・小ブロック・炭粒中・小ブロック少量, 焼土小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片604点, 須恵器片1点, 土製品4点, 砥石1点, 及び混入した縄文土器片40点, 石鏃1点, 陶器片1点が出土している。図示したものは, すべて土師器である。1の環が竈北側の覆土下層から, 2の環, 19の瓶が南東壁寄りの覆土下層から, 12の甕が覆土中層と下層から, 3の環が正位で, 14の甕が横位の状態で竈火床面上部から, 21の支脚が西側袖部の内側から横位の状態で出土している。4の大形環, 17の瓶が竈西側の覆土下層と床面直上から, 5の高環が南コーナー部の覆土下層から, 6の高環, 9と10の甕, 16と18の瓶, 22

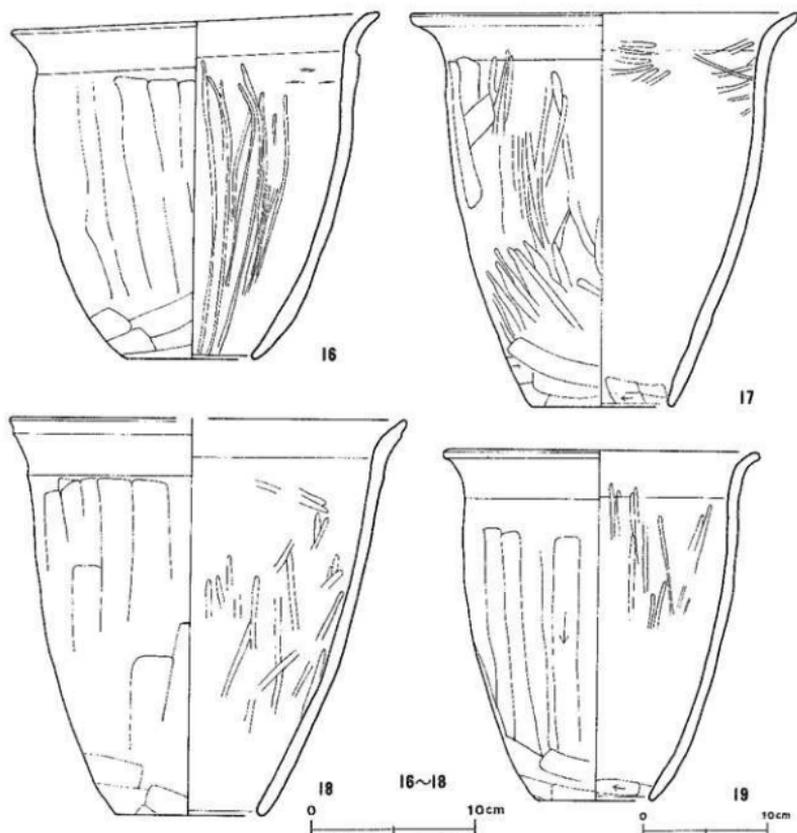


第62図 第23号住居跡出土遺物実測図(1)

の砥石が中央部の覆土下層から、7の高坏が覆土中層から、8の小形甕、13と15の甕が竈手前の覆土下層から、11の甕が竈内と竈西側の床面直上から、20の支脚がP5の上面から横位の状態ですぐ出土している。所見 3の土師器坏が竈の火床面上部から正位の状態ですぐ出土しており、竈祭祀に使用された可能性がある。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀中葉）と考えられる。



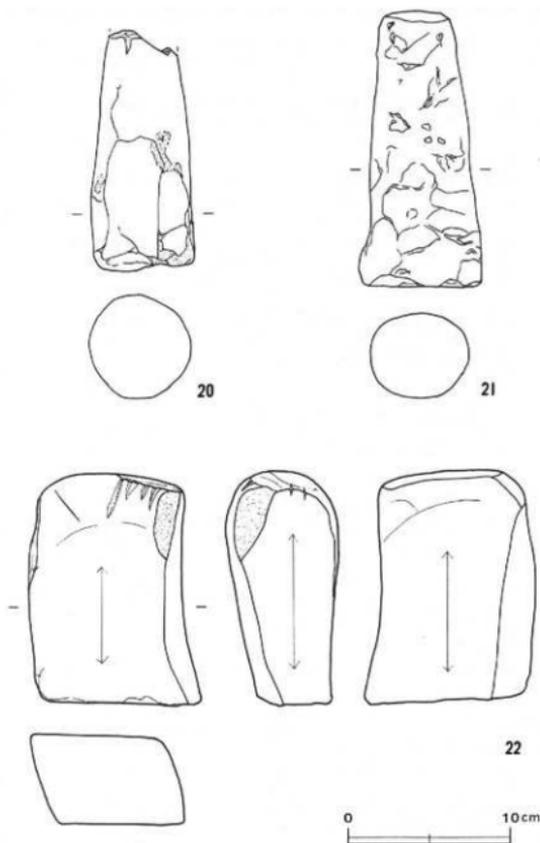
第63図 第23号住居跡出土遺物実測図(2)



第64図 第23号住居跡出土遺物実測図(3)

第23号住居跡出土遺物観察表

四版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第62図 1	坏 土師器	A 13.3	底平。口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部との境に線をもち、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	P206 95% P.L.25 覆土下層
		B 4.7				
2	坏 土師器	A 15.0	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	P207 85% P.L.25 覆土下層
		B 4.5				
3	坏 土師器	A 14.2	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部との境に線をもち、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にふい・黄橙色 普通	P208 90% P.L.25 燻火灰面上部
		B 4.9				



第65図 第23号住居跡出土遺物実測図(4)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 4	大形 土師器	A 20.0 B 8.0	底部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器内を減じながら内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面放射状のへラ磨き。外面口縁部・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	P209 80% P L25 覆土下層 床面直上
5	高土 坏器	A [14.8] B 9.6 D [9.5] E 5.3	脚部から坏部の破片。脚部はハの字状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面放射状のへラ磨き。脚部外面へラ磨き、内面へラ削り。坏部内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	P210 40% P L25 覆土下層
6	高土 坏器	A [19.1] B (11.8) E (6.3)	脚部から坏部の破片。脚部はハの字状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面横ナデ、内面横位のへラ磨き。体部外面へラ削り、内面放射状のへラ磨き。脚部内・外面へラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	P211 40% P L25 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)			器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
		長さ	径	重量				
第62図 7	高土師器	A 17.0 B (5.5)			坏部の破片。坏部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面ヘラ削り、内面ナデ。口縁部内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂鉄 にふい橙色 普通	P212 40% P.L.25 覆土中層
	小形土師器	A [12.5] B (9.1)			体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器肉を減じながら、短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面縦位のヘラ削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂鉄 黄褐色 普通	P213 30% P.L.25 覆土下層
9	土師器	A [19.2] B (11.4)			体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面縦位のヘラ削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 小礫 砂鉄 にふい黄褐色 普通	P214 30% P.L.25 覆土下層
	土師器	A 14.1 B 20.8 C 8.7			底部体部、口縁部一部欠損。平底。体部は球形で、中に最大径をもつ。口縁部はほぼ直立し、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面中位以上縦位のヘラ削り後、ヘラ状工具によるナデ、下位斜位のヘラ削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂鉄 褐色 普通	P215 70% P.L.25 覆土下層
11	土師器	A [22.5] B (27.0)			体部から口縁部の破片。体部は球形で、中に最大径をもち、口縁部との境にわずかな稜がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面縦位のヘラ削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂鉄 褐色 普通	P216 25% P.L.25 甕内床面直上
	土師器	A 19.0 B 33.5 C 5.7			底部、体部一部欠損。底径の小さい平底。体部は細長く、内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面縦位のヘラ削り、下端横位のヘラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 小礫 砂鉄 褐色 普通	P217 70% P.L.25 外面埋付着 覆土中層・下層
13	土師器	A 20.8 B 34.1 C 7.2			体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面中位以上縦位のヘラ削り、下位斜位のヘラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 小礫 砂鉄 にふい橙褐色 普通	P218 80% P.L.25 外面埋付着 覆土下層
	土師器	A 18.2 B 33.5 C 8.0			体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中に最大径をもち、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面縦位のヘラ削り、内面ナデおよび横位のヘラナデ。	長石 石英 雲母 小礫 砂鉄 褐色 普通	P219 90% P.L.25 甕内床面上部
15	土師器	B (20.0) C 7.3			底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	外部外面ヘラ削り後、一部削ナデ、内面ナデ。	長石 雲母 砂鉄 褐色 普通	P220 60% P.L.25 覆土下層
	土師器	A 22.5 B 21.4 C 7.8			体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面中位以上縦位のヘラ削り、下位斜位のヘラ削り、内面縦位のヘラ削り、輪預み痕有り。	長石 雲母 小礫 砂鉄 にふい橙褐色 普通	P221 80% P.L.25 覆土下層
17	土師器	A 23.8 B 24.1 C 8.5			底部から口縁部の破片。無底式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、肩部は外上方へわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面中位以上ヘラ削り後、粗いヘラ磨き、下位斜位のヘラ削り、内面上位横位のヘラ磨き、下層横位のヘラ削り。	長石 雲母 小礫 砂鉄 にふい橙褐色 普通	P222 60% P.L.25 覆土下層直上
	土師器	A [24.5] B 24.3 C 8.8			底部から口縁部の破片。無底式。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反し、肩部直下に稜が通る。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面中位以上縦位のヘラ削り、下位斜位のヘラ削り、内面縦位のヘラ磨き。	長石 石英 雲母 小礫 砂鉄 褐色 普通	P223 50% P.L.25 覆土下層
19	土師器	A 25.5 B 28.4 C 9.4			体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外部外面中位以上縦位のヘラ削り、下位斜位のヘラ削り、内面縦位のヘラ磨き、下層横位のヘラ削り。	長石 雲母 砂鉄 にふい橙褐色 普通	P224 85% P.L.25 覆土下層

図版番号	植別	計測値			出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
第65図20	支脚	(14.7)	6.4	(480.8)	P 5 の上面	DP 14 P.L.34
21	支脚	17.0	7.5	750.8	甕内側縁部の内側	DP 15 P.L.34

図版番号	種別	計測値				石膏	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第66図22	瓦石	14.4	10.5	6.7	(1452.6)	砂岩	覆土下層	Q13 P.1,35

第24号住居跡 (第66・67図)

位置 調査区南東部, E 4 a 8区。

規模と平面形 長軸6.00m, 短軸5.13mの長方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は12~71cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅13~33cm, 下幅3~9cm, 深さ4~12cmで, 断面形はU字状である。

壁土層解説

7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

床 平坦で, 北東壁寄りと南・西コーナー部を除いて, 広く踏み固められている。南コーナー部で焼土塊が点在している。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1, P2, P4は径57~60cmの円形, P3は長径63cm, 短径46cmの楕円形, 深さ48~66cmでいずれも土柱穴である。P5は長径34cm, 短径30cmの楕円形で, 深さ29cmの出入り口施設に伴うピットである。

P1~P5土層解説

1 極暗褐色 炭化物・炭化粒子少量, ローム小ブロック・焼土小

3 暗褐色 粘土粒子多量, 粘土小ブロック中量, 焼土粒子・砂

ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量

粒・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒少量

2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム

粒子・焼土粒子微量

竈 北西壁中央部に付設されており, 天井部は崩落しているが, 両側部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は, 煙道部から突口部まで167cm, 最大幅121cm, 壁外への掘り込みは89cmである。火床面は床面を5cmほど掘りくぼめており, 浅い皿状をしている。袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で, 外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色 砂粒少量, 小礫・焼土粒・ローム粒子微量

11 暗赤褐色 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐色 砂粒少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

12 暗褐色 砂粒・炭化粒子微量

3 褐色 砂粒多量, 焼土粒子微量

13 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 火床

4 褐色 砂粒中量, 炭化粒子微量

14 褐色 砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

5 赤褐色 砂粒多量, 焼土中ブロック・焼土粒子少量

15 暗褐色 小礫少量

6 褐色 砂粒中量, 焼土中ブロック少量

16 褐色 焼土粒子多量, 焼土中・小ブロック・砂粒・粘土粒

7 褐色 砂粒中量, 焼土粒子少量

8 暗赤褐色 砂粒多量, 焼土中量, 火床面

9 赤褐色 砂粒多量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 小礫微量

17 褐色 砂粒中量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒

10 褐色 砂粒中量, 小礫微量

18 褐色 焼土粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

覆土 7層からなり, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色 ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック・ロ

5 暗褐色 砂粒・粘土粒子中量, 炭化物・焼土粒子・炭化粒子

ーム粒子・焼土粒子微量

少量, ローム粒子微量

2 極暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒

6 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・ロ

子・炭化粒子微量

ーム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

3 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム

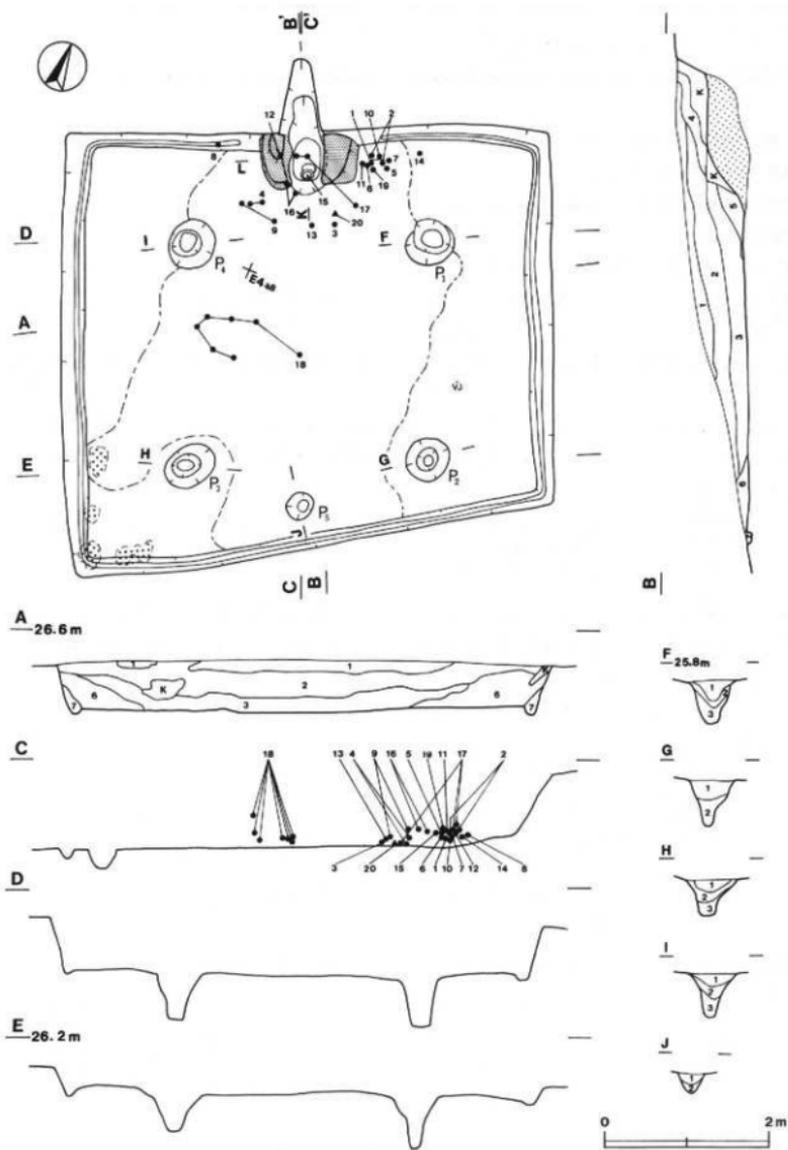
7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒

粒子・焼土粒子微量

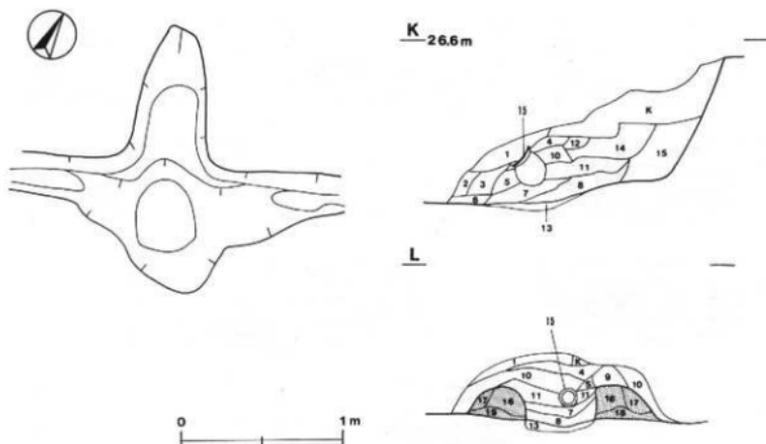
子・炭化粒子微量

4 暗褐色 焼土中・小ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブ

遺物 土師器片1512点, 土製品5点, 及び混入した縄文土器片34点, 打製石斧1点が出土している。ほとんどの遺物は中央部から竈周辺にかけて集中している。1, 2, 5~7の環, 10と11の腕, 14の小形差, 19の瓶が



第66图 第24号住居跡実測图(1)



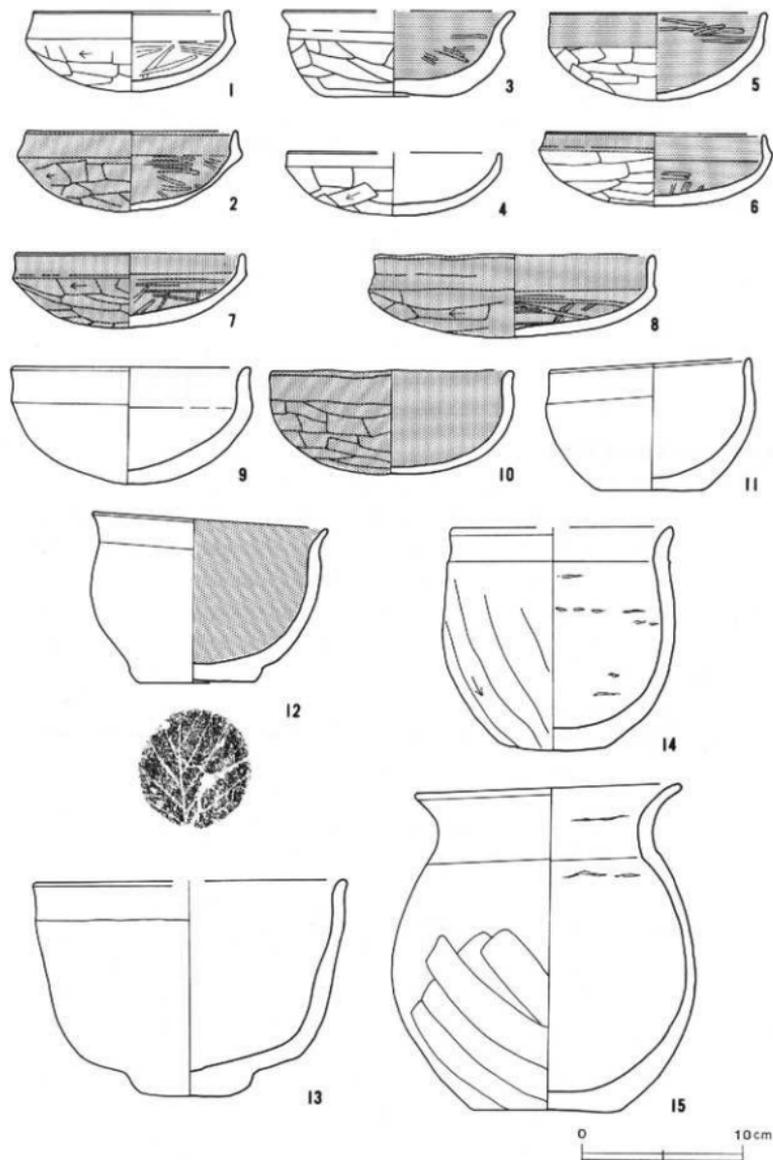
第67図 第24号住居跡実測図(2)

竈北側の覆土下層から、3の坏、20の支脚が竈手前の床面直上から横位の状態で、4の坏が床面直上と覆土下層から、9の椀、13の鉢、16の甕が覆土下層からそれぞれ出土している。8の大形坏が竈西側の壁溝上面から、12の小形鉢が竈西側袖部上面から、15の小形甕が竈内火床面上部から斜位の状態で、17の甕が竈内と西側袖部内及び竈手前の床面直上から、18の甕が中央部の覆土中層と下層からそれぞれ出土している。

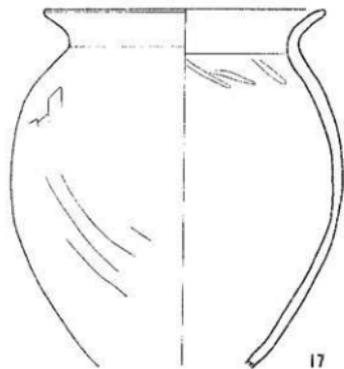
所見 本跡は、東側へ下る斜面部に構築されており、覆土が薄く、南東壁の残存率が悪い。竈内や袖部内から土師器片が出土していることから、それらは竈の補強材として使用されていたと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀中葉）と考えられる。

第24号住居跡出土遺物観察表

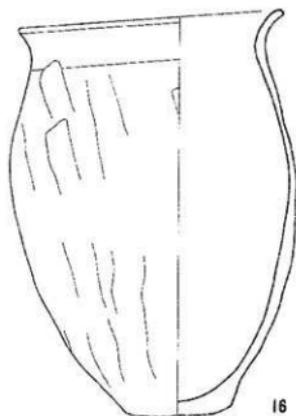
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	坏 土師器	A 12.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P225 100% P L 27 覆土下層
		B 4.9				
2	坏 土師器	A 12.9	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横位のへラ磨き。内・外面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P226 95% P L 26 覆土下層
		B 5.0				
3	坏 土師器	A [14.3]	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器内を減じながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横位のへラ磨き。内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P227 70% P L 26 床面直上
		B 5.2				
		C 8.4				
4	坏 土師器	A [13.2]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P228 55% P L 27 覆土下層・床面直上
		B 3.9				
5	坏 土師器	A 13.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面横ナデ。内面横位のへラ磨き。体部外面へラ削り、内面厚減のため調整痕不明。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P229 90% P L 26 覆土下層
		B 5.4				
6	坏 土師器	A 13.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は器内を減じながら内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。口縁部外面・内面黒色処理。	雲母 赤色粒子 砂粒 にぶい褐色 普通	P230 95% P L 26 覆土下層
		B 4.5				



第68図 第24号住居跡出土遺物実測図(1)

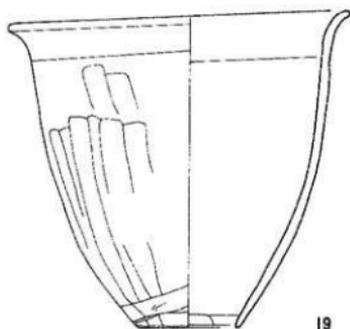


17



16

16 · 17 · 19



19



20



18



第69图 第24号住居跡出土物実測图(2)

図版番号	器 種	寸法(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第68図 7	坏 土 師 器	A 140	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。内・外面黒色焼成。	長石 雲母 砂粒 にぶい棕色 普通	P231 95% P.L26 覆土下層
		B 4.6				
8	大形 坏 土 師 器	A 17.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。内・外面黒色焼成。	長石 雲母 砂粒 浅黄褐色 普通	P232 100% P.L26 埋溝上面
		B 5.1				
9	甗 土 師 器	A 14.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。器内は全体的に厚い。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨減のため調整痕不明。内面ナデ。	長石 石英 去母 砂粒 棕色 普通	P233 90% P.L27 覆土下層
		B 7.1				
10	甗 土 師 器	A 14.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は器内を埋しながら、ほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色焼成。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P234 95% P.L27 覆土下層
		B 6.5				
11	輪 土 師 器	A 12.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部は器内を減しながら直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨減のため調整痕不明。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	P235 90% P.L27 覆土下層
		B 8.2				
		C 6.6				
12	小形 鉢 土 師 器	A 14.1	体部、口縁部一部欠損。平底。底部は突出する。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は器内を減しながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨減のため調整痕不明。内面ナデ。内面黒色焼成。底部木炭灰。	長石 小礫 砂粒 にぶい赤褐色 普通	P236 70% P.L27 二次焼成板 遺物調査部上面
		B 10.4				
		C 7.9				
13	鉢 土 師 器	A [19.2]	底部から口縁部の破片。平底。底部は突出する。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨減のため調整痕不明。内面ナデ。	長石 雲母 小礫 砂粒 赤色 普通	P237 50% P.L27 覆土下層
		B 13.2 C [7.3]				
14	小形 甗 土 師 器	A [13.4]	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削位のへラ削り、内面ナデ。輪縁み盛有り。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 棕色 普通	P238 90% P.L27 覆土下層
		B 13.7				
		C 6.2				
15	小形 甗 土 師 器	A 16.3	平底。体部は球形で、中に最大径をもつ。底部はほぼ直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削位のへラ削り。内面ナデ。輪縁み盛有り。	長石 石英 去母 砂粒 棕色 普通	P239 100% P.L27 竈火床面上部
		B 33.0 C 9.0				
第69図 16	甗 土 師 器	A 31.3	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は細長く、内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削位のへラ削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 棕色 普通	P240 90% P.L27 覆土下層
		B 33.0				
		C 8.5				
17	土 甗	A [22.6]	体部から口縁部の破片。体部は球形で、中に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削位のへラ削り。内面ナデおよび輪縁工具によるナデ。	石英 雲母 小礫 砂粒 にぶい棕色 普通	P241 30% P.L27 外面覆付着溝内
		B (29.0)				
18	甗 土 師 器	A [24.7]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は器内を減しながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削位のへラ削り、下層削位のへラ削り。内面ナデ。下層削位のへラ削り。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 棕色 普通	P242 65% P.L27 覆土中層・下層
		B 20.9				
		C 8.0				
19	甗 土 師 器	A 27.5	丸底。体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削位のへラ削り、下層削位のへラ削り。内面ナデ。下層削位のへラ削り。	長石 石英 小礫 砂粒 にぶい褐色 普通	P243 90% P.L27 覆土下層
		B 25.5				
		C 8.0				

図版番号	器 種	引 測 値			出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
20	支 脚	19.7	6.7	733.9	床面直上	DP16 P.I.34

第25号住居跡 (第70・71図)

位置 調査区東部、D5Ⅱ区。

規模と平面形 長軸7.69m、短軸7.28mの方形である。

主軸方向 N-36°-W

壁 壁高は23~96cmで、外積して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅13~46cm, 下幅5~17cm, 深さ8~10cmで, 断面形はU字状である。

壁溝土層解説

17 褐色 焼沼粒子少量

16 褐色 焼沼粒子中量

床 全体的に平坦で, 壁溝の内側はほぼすべてが, ロームブロックを混ぜた粘土で, 南東壁から竈にかけて, 踏み固められている。四方の壁周辺には炭化材と焼土塊の広がりが見られる。

貼床土層解説

17 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼沼小ブロック・焼沼粒子・炭化粒子少量

ピット 5か所(P1~P5)。P1, P2, P4は長径75~115cm, 短径60~73cmの楕円形または不整楕円形, P3は径86cmの円形, 深さ68~73cmでいずれも主柱穴である。P5は径50cmの円形で, 深さ42cmの出入り口施設に伴うピットである。

P1~P5土層解説

1 暗褐色 炭化物中量, 焼沼粒子少量

9 褐色 ローム小ブロック中量

2 褐色 炭化物中量, 焼沼粒子少量

10 褐色 ローム中ブロック・焼沼粒子少量

3 褐色 炭化物少量, 炭化粒子微量

11 褐色 焼沼粒子中量

4 褐色 ローム中ブロック・焼沼粒子少量

12 褐色 焼沼小ブロック中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量

5 褐色 焼沼粒子少量, 炭化粒子微量

13 褐色 ローム小ブロック中量

6 褐色 ローム中ブロック多量

14 褐色 ローム小ブロック中量

7 褐色 ローム小ブロック中量, 焼沼粒子少量

15 褐色 ローム粒子中量

8 褐色 ローム粒子中量, 焼沼粒子少量

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長径103cm, 短径95cmの不整楕円形, 深さ36cmで, 断面形は逆舟形状をしている。

貯蔵穴土層解説

1 褐色 ローム中ブロック・焼沼粒子少量

3 褐色 焼沼粒子中量

2 褐色 焼沼小ブロック中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量

竈 北西壁中央部に付設されており, 天井部は崩落しているが, 両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は, 煙道部から焚口部まで179cm, 最大幅132cm, 壁外への掘り込みは82cmである。火床面は床面を15cmほど掘りくはめており, 皿状をしている。西側袖部の内壁及び火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の平面形は逆U字形で, 外傾して急に立ち上がる。

竈土層解説

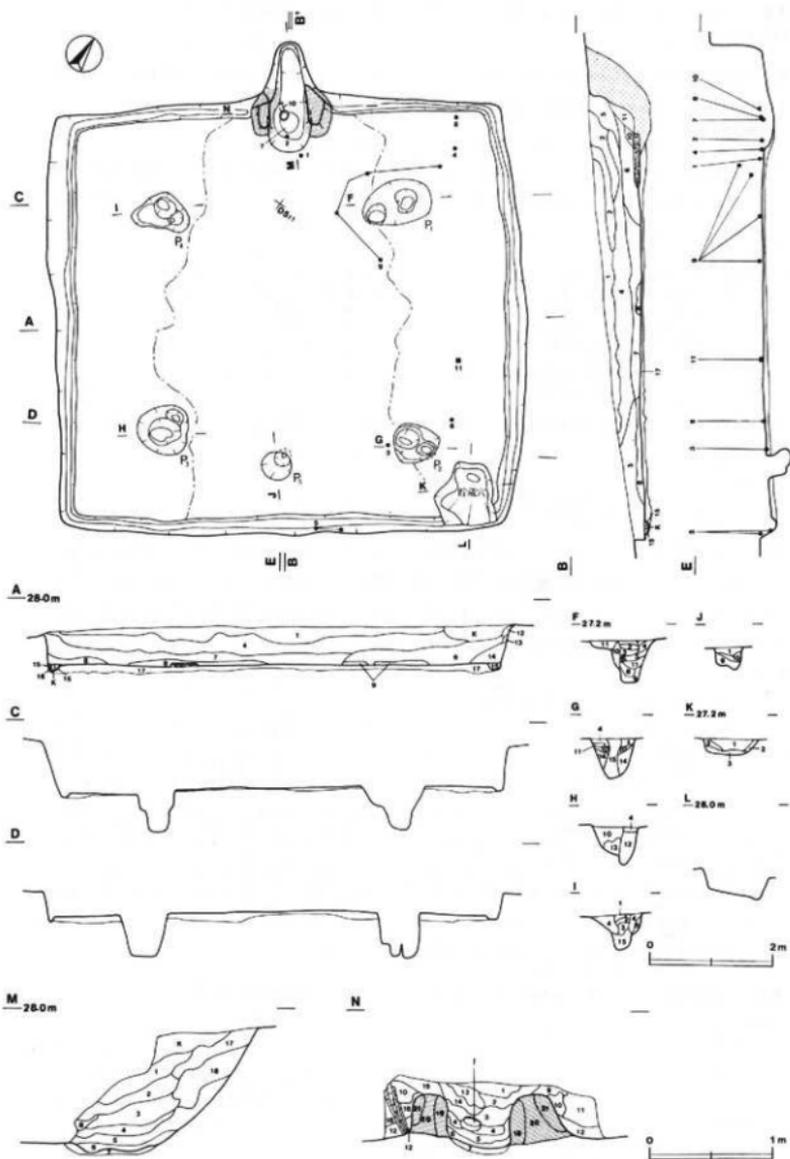
- 1 暗褐色 砂粒・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 砂粒・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 砂粒中量, 炭化物・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・砂粒・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 砂粒・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 火床面上の燃焼灰の堆積層
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子少量, 火床面下の火熱を受けた層
- 8 暗褐色 砂粒・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 9 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土大・中ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 焼沼粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 11 黄褐色 焼沼粒子多量, 焼沼大ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

- 12 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 13 褐色 焼土小ブロック・砂粒中量, 炭化物・焼土粒子・炭化粒子少量
- 14 褐色 炭化物中量, 焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 15 暗褐色 ローム小ブロック中量, 砂粒・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 16 暗褐色 焼沼粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 17 暗褐色 砂粒中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 18 褐色 砂粒・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 19 暗赤褐色 砂粒・焼土粒子中量, 内面は赤変
- 20 褐色 砂粒・粘土粒子多量, 焼土粒子微量, 竈袖部の石材の粘土層
- 21 暗褐色 砂粒・粘土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量

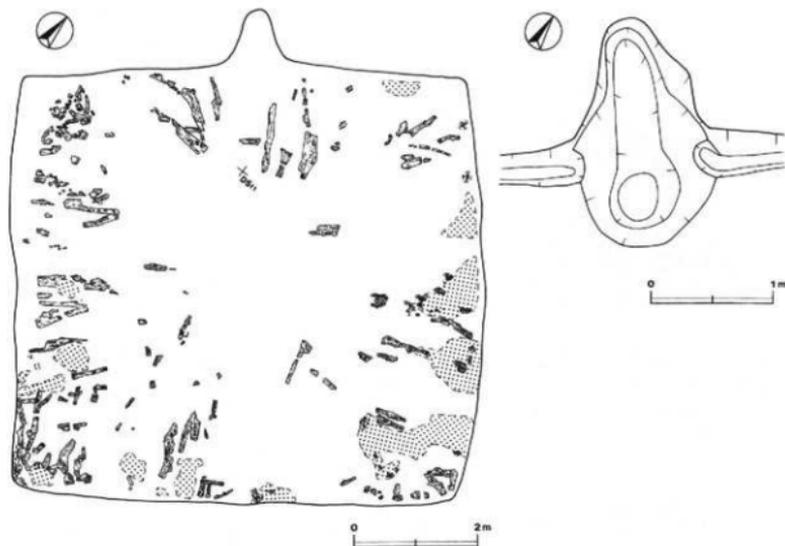
覆土 14層からなり, 不自然な堆積の状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム大・中ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・黒色粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・焼沼粒子・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・炭化粒子少量, 炭化物・焼土粒子・ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 8 暗褐色 炭化粒子中量, 炭化物・焼土粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 9 褐色 ローム小ブロック少量, 焼沼中ブロック・炭化粒子微量



第70图 第25号住居跡実測图(1)

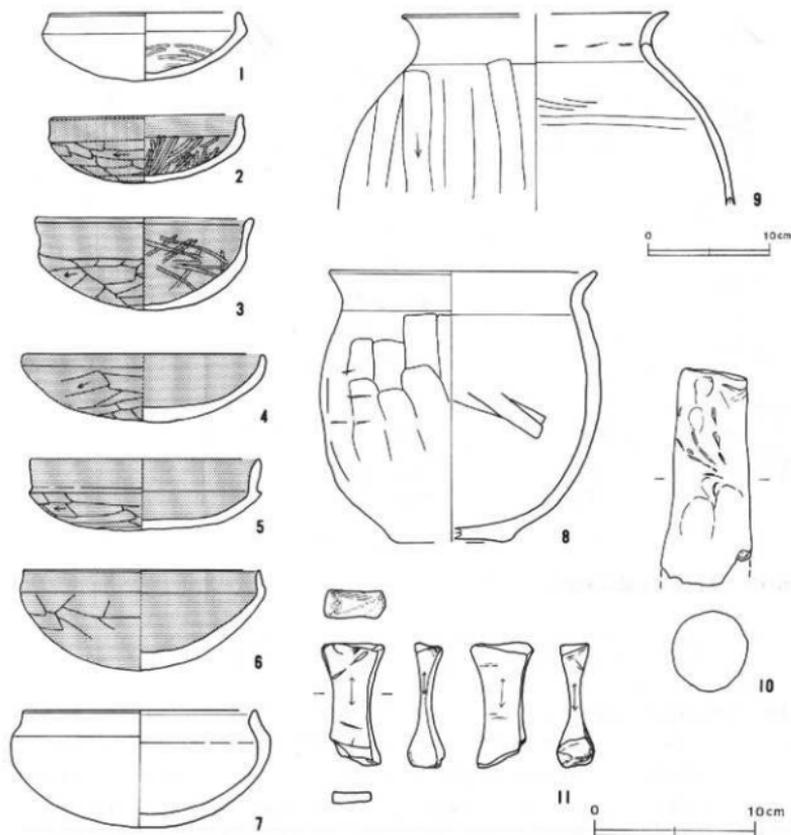


第71図 第25号住居跡実測図(2)

- | | | | |
|---------|---------------------------------|---------|--------------|
| 10 褐色 | ローム小ブロック・炭化物・ローム粒子少量, 炭屑 | 12 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | 小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |

遺物 土師器片606点, 須恵器片1点, 支脚1点, 砥石1点, 及び混入した旧石器剥片1点, 縄文土器片3点が出土している。図示したものは, すべて土師器である。1の坏が竈手前の覆土下層から, 2の坏が竈内から逆位で, 10の支脚が横位で, 7の椀が火床上部から正位の状態出土している。3の坏がP2付近の床面直上から, 6の坏が覆土下層から, 4の坏, 8の小形甕が北コーナー部の床面直上から, 5の坏が南東壁の壁溝上面から, 9の甕がP1周辺の覆土中層と下層及び床面直上から, 11の砥石が北東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は, 壁周辺に炭化材と焼土塊が広がっているのが確認できることから, 焼失家屋と考えられ, 人為的に埋め戻された可能性がある。炭化材は柱材や梁材及び桁材はなく, 垂木材が壁から中央部に向かって規則的に遺存しており, 柱材が抜き取られた後に, 人為的に焼かれたものと思われる。また, 主柱穴の底面が二つに分かれていることから, 柱を立て替えた可能性もある。柱の立て替え順序は不明であるが, 壁と壁溝及び竈が共通していることから, 本跡は同所に建て替えられ, その後人為的に焼かれた住居跡であると思われる。時期は, 遺構の形態や出土遺物から, 古墳時代後期(6世紀中葉)と考えられる。



第72図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第72図 1	坏 土 師 器	A 11.7 B 4.2	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩減のため調整痕不明。内面横位のヘラ磨き。	長石 石英 雲母 砂粒 にふい黄褐色 普通	P244 75% P.L.28 覆土下層
2	坏 土 師 器	A 11.9 B 4.2	底部、体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石 雲母 赤色砂子 砂粒 黒色 普通	P245 80% P.L.28 竈内
3	坏 土 師 器	A 13.3 B 5.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 にふい黄褐色 普通	P246 90% P.L.28 床面直上
4	坏 土 師 器	A 14.8 B 4.2	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にふい黄褐色 普通	P247 80% P.L.28 二次焼成前 床面直上

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72回 5	土師器 土師器	A 142	口縁部一部欠損。九孔。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に線を付す。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P248 80% P L28 二次焼成痕 厚床上面
		B 44				
6	土師器 土師器	A 144	口縁部一部欠損。九孔。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に線を付す。口縁部は器内を減しながら内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	P249 95% 二次焼成痕 覆土下層
		B 62				
7	土師器 土師器	A 142	口縁部一部欠損。九孔。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境にわずかな線を付す。口縁部は内傾する。器内は全体的に厚い。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横ナデのため調整痕不明。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	P250 98% P L28 二次焼成痕 電火床面上部
		D 72				
8	土師器 土師器	A 165	底部、体部一部欠損。平底。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は器内を減しながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへラ削り、内面横位のへラナデ。体部外面に輪積み痕が残る。	長石 雲母 小礫 砂粒 にぶい褐色 普通	P251 90% P L28 床面直上
		B 169				
		C [72]				
9	土師器 土師器	A [21.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のへラ削り、内面横位のへラナデ。顔面内面に輪積み痕が残る。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P252 15% P L28 覆土中層・下層
		B (15.9)				

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
10	支脚	(13.4)	(5.6)	(387.8)	電内	DP17 P L34

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
11	磁石	7.6	3.8	0.8	(51.4)	凝灰岩	覆土下層	Q14 P L35

第26号住居跡 (第73回)

位置 調査区東部、D 5 c1区。

規模と平面形 長軸5.91m、短軸5.60mの方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は24~64cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅24~46cm、下幅5~12cm、深さ4~6cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、各コーナー部を除いて、広く踏み固められている。第1竈手前に、粘土塊の広がりが見られる。

ピット 7か所 (P1~P7)。P1~P4は長径74~83cm、短径54~70cmの楕円形または不整形円形、深さ54~73cmでいずれも支柱穴である。P5は長径106cm、短径44cmの長楕円形で、深さ28cmの出入り口施設に伴うピットである。P6とP7は長径48~53cm、短径34~46cmの楕円形、深さ8~15cmでいずれも性格は不明である。

P1~P5土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・粘土小ブロック・焼土粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
2 褐色	炭沼大ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量、炭沼粒子・焼土粒子微量
3 暗褐色	炭沼粒子・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	9 褐色	ローム小ブロック微量
5 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量

竈 2か所。第1竈は、北西壁のやや北寄りに付設されており、天井部は崩落しているが、両側部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで128cm、最大幅113cm。壁外への掘り込みは43cmである。火床面は床面を14cmほど掘りくぼめており、皿状を呈し、火熱を受けて赤変し、

煉瓦状に硬化している。東側袖部は西側袖部に比べて、粘土で厚く作られている。煙道部の平面形は逆U字形で、外傾して急に立ち上がる。

第1 竈土層解説

1	にんい黄色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	にんい赤褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	小礫・炭化粒子・ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
5	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
6	にんい赤褐色	焼土粒子中量
7	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子微量
8	赤褐色	焼土大ブロック多量
9	暗赤褐色	焼土粒子多量
10	暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化物微量 火床面上の燃焼灰の堆積層
11	にんい赤褐色	焼土粒子中量、小礫・炭化粒子微量
12	灰褐色	小礫少量、炭化粒子微量
13	黒褐色	ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
14	暗褐色	ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
15	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量

第2 竈は、残存部分が少なく明確ではないが、床面を掘り下げて火床面が確認できたことから、北西壁中央部に付設されていたと考えられる。規模は、煙道部から焚口部まで169cm、最大幅(80)cm、壁外への掘り込みは54cmである。火床面は床面を17cmほど掘りくはめており、皿状を呈し、火熱を受けて赤変しているが、あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で、外傾して急に立ち上がる。

第2 竈土層解説

1	にんい黄色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2	褐色	小礫・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
3	暗褐色	ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
5	褐色	小礫中量、砂粒少量
6	暗褐色	小礫少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量

16	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
17	暗褐色	焼土粒子・ローム粒子少量、焼土中・小ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
18	暗褐色	焼土粒子中量、砂粒・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量
19	褐色	ローム中ブロック中量
20	褐色	ローム中ブロック・焼土粒子微量
21	褐色	焼土粒子少量、焼土中・小ブロック・小礫・炭化粒子微量
22	暗赤褐色	砂粒・焼土粒子・粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 内側は赤変
23	灰褐色	粘土粒子多量、砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量 竈袖部の芯材の粘土層
24	にんい黄色	粘土粒子中量、焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子・炭化粒子少量
25	にんい黄色	砂粒・粘土粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量
26	褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

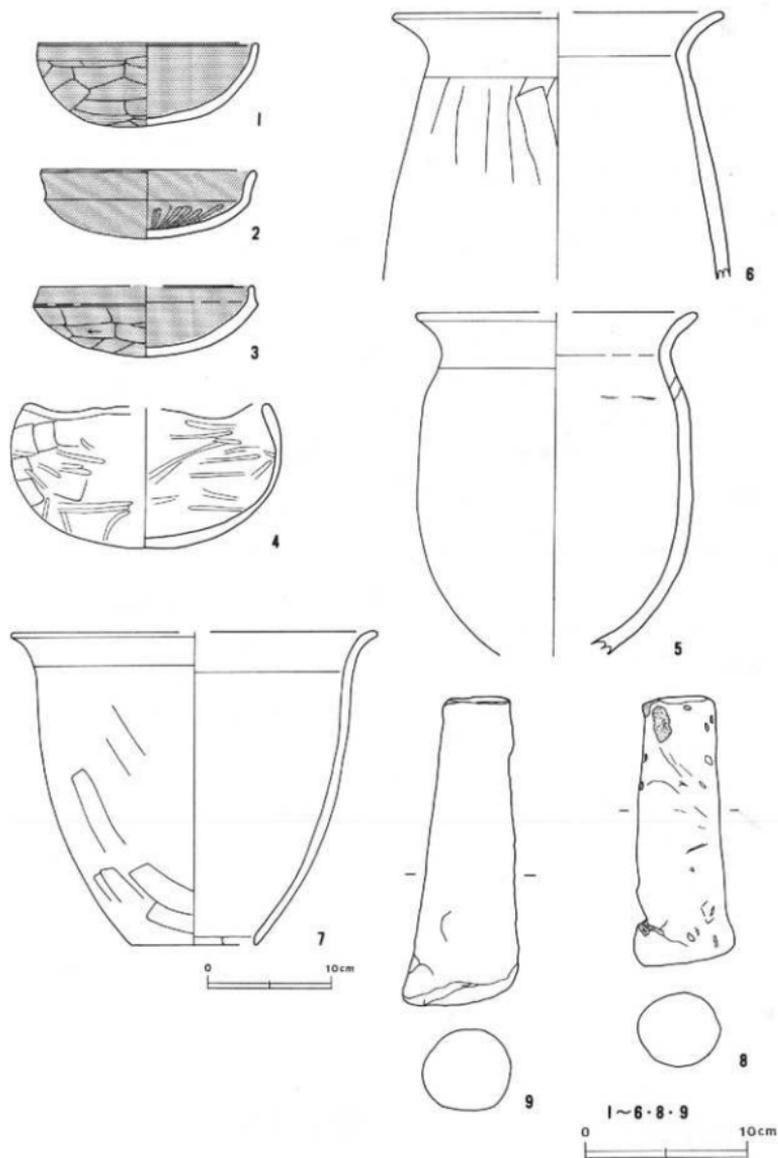
覆土 11層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

7	黒褐色	ローム中・小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
8	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
9	暗赤褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック・炭化粒子微量
11	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片976点、支脚2点、及び混入した縄文土器片8点が出土している。1の坏が東コーナー部の床面直上から、2の坏が覆土中から、3の坏がP3の上面から、4の坏がP4の上面から、5の甕が第1 竈内から、また、9の支脚が第1 竈内から横位の状態で、6の甕が北コーナー部の床面直上とP6・P7の上面から、7の甕が北コーナー部の床面直上とP1の上面から、8の支脚がP1の上面からそれぞれ出土している。所見 本跡は、竈の作り替えが行われた住居跡である。第2 竈は西側袖部が残存しておらず、火床面は床面を掘り下げて確認したことから、竈の構築順序は、第2 竈から第1 竈と考えられる。第2 竈は火床面の状況から、短期間しか使用されなかったものと考えられる。また、第1 竈の西側袖部は、第2 竈の東側袖部の一部を利用して構築された可能性がある。第1 竈の手前の粘土塊は、竈がつぶれたときに粘土が竈外に排出されたものと思われる。時期は、遺物の形態や出土遺物から、古墳時代後期(6世紀中葉)と考えられる。



第74図 第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表

区画番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第74区 1	土 罎 器	A 13.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 赤色砂子 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P253 95% P L28 床面直上
		B 5.1				P254 70% P L28 覆土中
2	土 罎 器	A 13.2	底部、体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	
		B 4.1				
3	土 罎 器	A [12.9]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石 砂粒 にぶい褐色 普通	P256 50% P L29 P 4の上層
		B 4.3				
4	土 罎 器	A [14.6]	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は器内を増しながら内傾する。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り後、粗いへラ磨き。内面の口縁部から体部にかけて、横位のへラ磨き。	長石 石英 雲母 小塵 砂粒 にぶい褐色 普通	P257 25% P L28 第1層内
		B 8.8				
5	土 罎 器	A [17.3]	体部から口縁部の破片。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、粗いへラ磨き。内面の口縁部から体部にかけて、横位のへラ磨き。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P258 20% P L28 扉縁上 19.19の直上
		B [21.0]				
6	土 罎 器	A [20.4]	体部から口縁部の破片。体部は丸底・的に内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P259 40% P L28 床面直上 P1の上層
		B [16.4]				
7	土 罎 器	A [29.7]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は内脣気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、内面ナデ。下層横位のへラ削り。	長石 雲母 小塵 砂粒 褐色 普通	P259 40% P L28 床面直上 P1の上層
		B 25.2				
		C [10.0]				

区画番号	器種	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
8	支 脚	16.6	6.2	436.8	P 1の上層	D P18 P L34
9	支 脚	18.9	6.8	653.7	第1層内	D P19 P L34

第27号住居跡 (第75区)

位置 調査区東部、C 5 14区。

重複関係 本跡は第3号溝と重複している。第3号溝が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.20m、短軸6.19mの方形である。

主軸方向 N-42°-W

壁 壁高は29~87cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 第3号溝に掘り込まれた東コーナー部付近は確認できないが、ほぼ全周していると推定される。上幅[20~51]cm、下幅[6~21]cm、深さ[2~14]cmで、断面形はU字状と推定される。

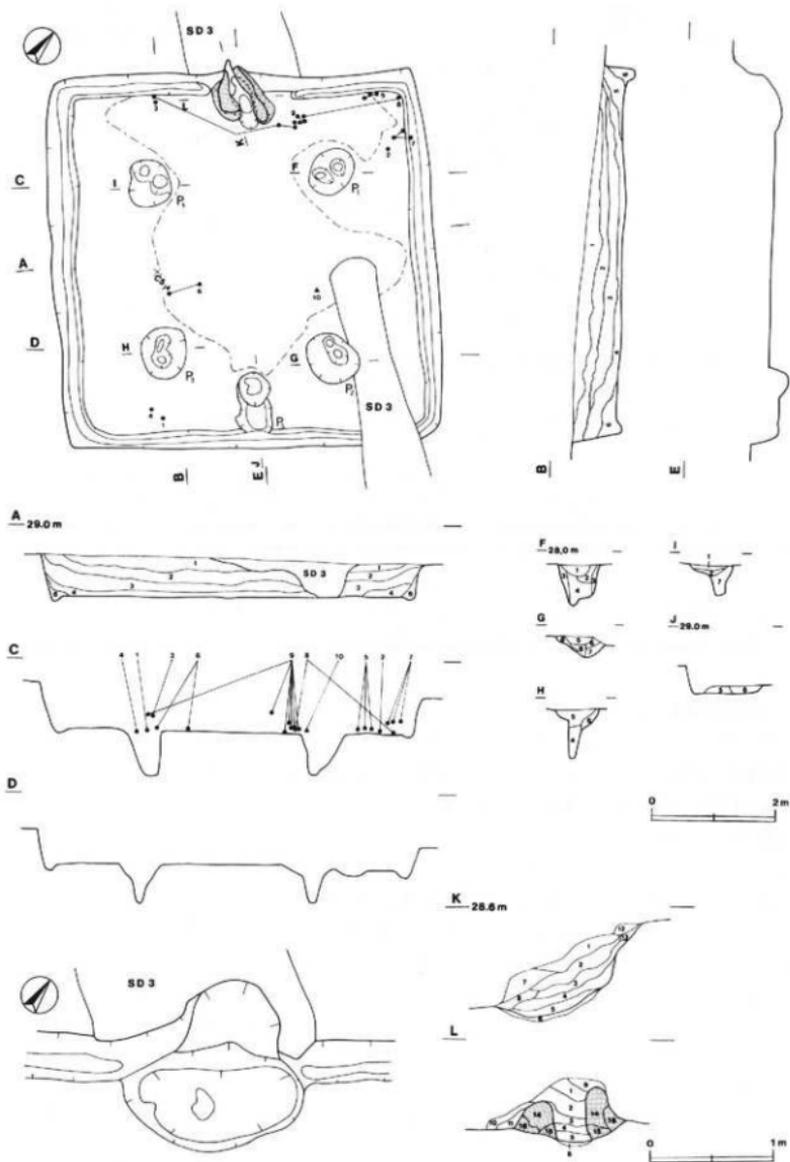
床 平坦で、出入り口部から北西壁下にかけて、踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は長径76~92cm、短径67~83cmの楕円形、深さ69~91cmでいずれも主柱穴で、それぞれ底面が2つに分かれている。P5は長径95cm、短径55cmの不整楕円形で、深さ30cmの出入り口施設に伴うピットである。

P1~P5土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中・小ブロック・焼土粒子微量	5 褐色	ローム小ブロック少量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量	7 褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
4 褐色	焼土粒子中量、ローム中・小ブロック少量	8 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

竈 北西壁中央部に付設されており、天井部は崩落しているが、両側部が残存している。竈部は粘土と砂粒を



第75図 第27号住居跡実測図

混ぜて構築されている。規模は、煙道部から焚口部まで122cm、最大幅94cm、壁外への掘り込みは28cmである。火床面は床面を14cmほど掘りくぼめており、皿状を呈し、火熱を受けて赤変硬化している。両袖部及び焚口部は北西壁に対して、斜めに作られている。煙道部の平面形は逆三角形で、最初縁やかで、のち急に外傾して立ち上がる。

覆土層解説

1 灰褐色	砂粒多量、粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量	8 暗褐色	焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	9 暗褐色	砂粒中量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 灰褐色	砂粒・粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
4 褐色	焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・砂粒・炭化粒子・粘土粒子少量	11 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
5 暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土大・小ブロック中量、炭化粒子少量、火床面	12 褐色	ローム粒子中量、砂粒・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量、火床面下の火熱を受けた焼	13 褐色	ローム粒子多量、砂粒微量
7 暗褐色	焼土中ブロック・ローム小ブロック・砂粒・焼土粒子少量、炭化粒子微量	14 灰褐色	粘土粒子多量、小塊・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土部の芯状の粘土層
		15 緑褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒中量、小塊・炭化粒子・粘土粒子少量、内面は赤変
		16 褐色	砂粒・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量

覆土 6層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

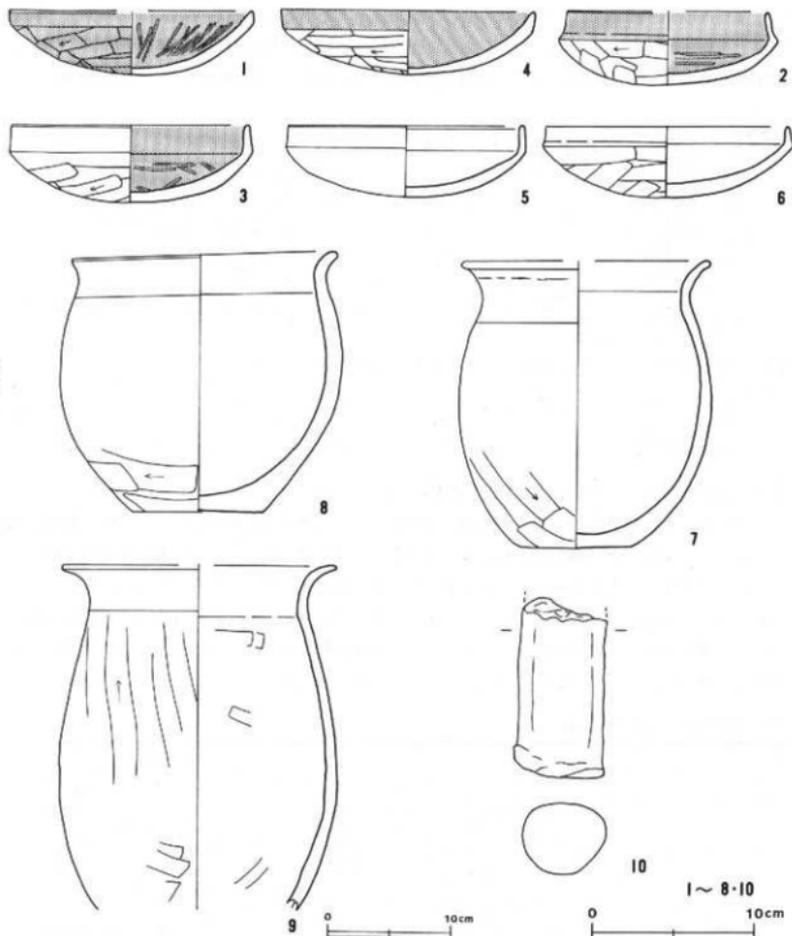
土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・黒色粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
3 極暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック微量	6 暗褐色	ローム粒子中量

遺物 土師器片330点、支脚1点、及び混入した縄文土器片1点が出土している。1と4の坏が南コーナー部の覆土下層から、2と5の坏が北コーナー部の覆土下層から、7の小形甕が覆土中層から、3の坏が竈西側の覆土中層から、6の坏と10の支脚が中央部の覆土下層から、8の小形甕が北コーナー部と竈北側の覆土下層から、9の甕が竈北側の覆土中層・下層と床面直上及び竈西側の覆土中層からそれぞれ出土している。所見 主柱穴の底面が二つに分かれていることから、柱を立て替えた可能性がある。柱を立て替える順序は不明であるが、壁と壁溝及び竈が共通していることから、本跡は同所に建て替えられた住居跡であると思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	坏	A 14.8	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部に凸る。口縁部は広く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ削き。内・外面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 黒色 普通	P260 50% P L29 覆土下層
	土師器	B 4.0				
2	坏	A 12.3	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部との境に接をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面横位のヘラ削き。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 棕色 普通	P261 60% P L29 覆土下層
	土師器	B 4.5				
3	坏	A 14.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部との境に接をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ削き。内面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 赤い黄棕色 普通	P262 95% P L29 覆土中層
	土師器	B 4.9				
4	坏	A 15.6	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部に凸る。口縁部は凸る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面横ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 赤い黄色 普通	P263 70% P L29 覆土下層
	土師器	B 4.0				
5	坏	A 14.4	底形、口縁部一部欠損。丸底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部との境に接をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削減のため調整痕不明。内面ナデ。	長石 石英 雲母 小塊 砂粒 棕色 普通	P264 80% P L29 二次焼成面 覆土下層
	土師器	B 4.1				
6	坏	A 14.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部との境に接をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 白色 普通	P265 90% P L29 二次焼成面 覆土下層
	土師器	B 4.5				
7	小形甕	A [15.3]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内壁して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位斜位のヘラ削り、内面ナデ。口縁部外面に輪轡み痕が残る。	長石 雲母 小塊 砂粒 棕色 普通	P266 65% P L29 覆土中層
	土師器	B 17.6				
	土師器	C 6.7				



第76図 第27号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 8	小形 土器	A 16.2	底部・体部・口縁部一部欠損。平底。 体部は球形で中位に最大径をもつ。 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下 位斜位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 にぶい褐色 普通	P267 70% P.L.29 外面薬付着 覆土下層
		B 16.0				
		C 8.0				
9	壺 土器	A [22.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎 して立ち上がる。頸部はほぼ直立し、 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中 位以上縦位のヘラ削り。下位斜位の ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P268 25% P.L.29 覆土中層・下層 瓦筋直上
		B (27.9)				

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)		
第76図10	支脚	(11.1)	5.6	(297.4)	覆土下層	D P 20 P L 34

第31号住居跡 (第77図)

位置 調査区南東部, E 4 16区。

規模と平面形 長軸 (4.44) m, 短軸 (4.16) mである。本跡の南壁と西壁が調査区域外のため, 平面形は不明である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は20~30cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 全面が砂粒混じりの粘土質で, 特に踏み固められている部分はない。

ピット 2か所 (P 1 ~ P 2)。P 1 と P 2 は長径37~47cm, 短径32~42cmの楕円形, 深さ12~15cmでいずれも土柱穴である。

P 1, P 2土層解説

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1 黒色 黒色粒子多量, 炭化粒子少量 | 3 黒褐色 黒色粒子中量, 砂粒・粘土粒子少量 |
| 2 に白い黒色 粘土粒子多量, 砂粒中量 | 4 に白い褐色 砂粒多量, 粘土粒子少量 |

竈 北壁の西寄りが調査区域外であるが, 北壁中央部に付設されていたと推定される。天井部は崩落しているが, 両袖部が残存している。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。規模は, 煙道部から焚口部まで130cm, 最大幅122cm, 壁外への張り込みは46cmである。火床面は床面を6cmほど割りくぼめており, 浅い皿状を呈し, 火熱を受けてわずかに赤変しているが, あまり硬化していない。煙道部の平面形は逆U字形で, 外傾して急に立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 灰褐色 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 5 灰褐色 小礫中量, 砂粒少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 砂粒少量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・砂粒・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 砂粒・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 小礫・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 4 に白い黒色 小礫・砂粒中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

竈袖部土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 砂粒中量 | 5 赤褐色 砂粒・焼土粒子中量 内面は赤変 |
| 2 黒褐色 白色粘土小ブロック中量 | 6 黒褐色 砂粒・黒色粒子少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子少量 | |
| 4 灰黄褐色 砂粒・粘土粒子中量 竈袖部の芯材の粘土層 | |

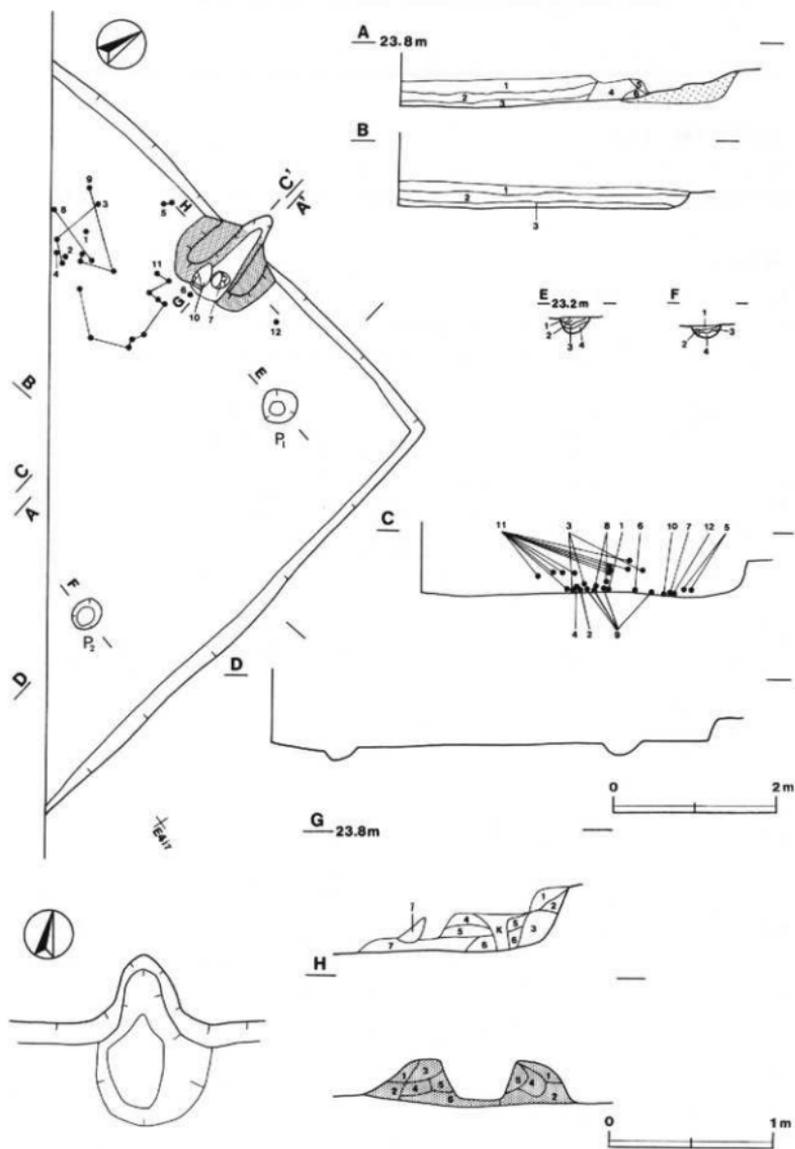
覆土 6層からなり, 自然堆積と思われる。

土層解説

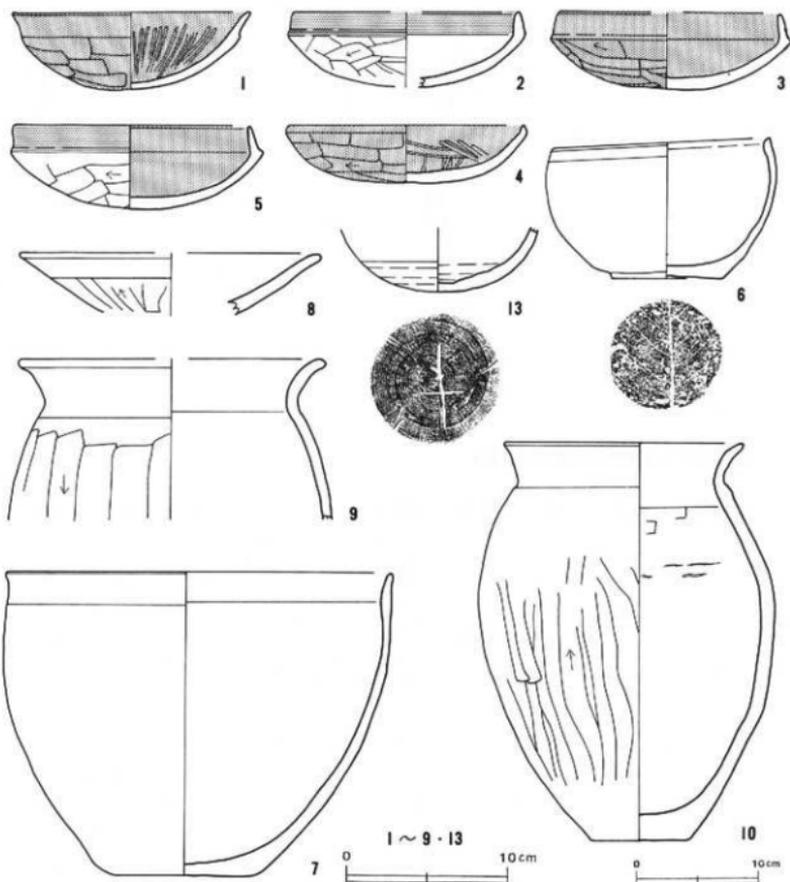
- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 砂粒少量 | 4 黒褐色 砂粒少量, ローム粒少量 |
| 2 黒色 砂粒少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 砂粒少量 |
| 3 黒褐色 砂粒少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 砂粒少量 |

遺物 土師器片262点, 須恵器片1点, 及び混入した縄文土器片29点が出土している。ほとんどの遺物は竈内及び竈周辺に集中している。1, 2, 4, 5の土師器片, 8の土師器高坏, 9の土師器甕が竈内側の覆土下層から, 3の土師器片が覆土中層と下層から, 6の土師器碗が竈手前の床面直上から, 11の土師器甕が覆土中層と上層から, 7の土師器鉢, 10の土師器甕が竈の火床面上から横位の状態で, 12の土師器甕が竈東側の床面直上から, 13の須恵器平瓶が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 竈の火床面や床面の状況から, 本跡は短期間しか使用されなかった住居跡と考えられる。時期は, 遺物の形態や出土遺物から, 古墳時代後期 (6世紀後半) と考えられる。



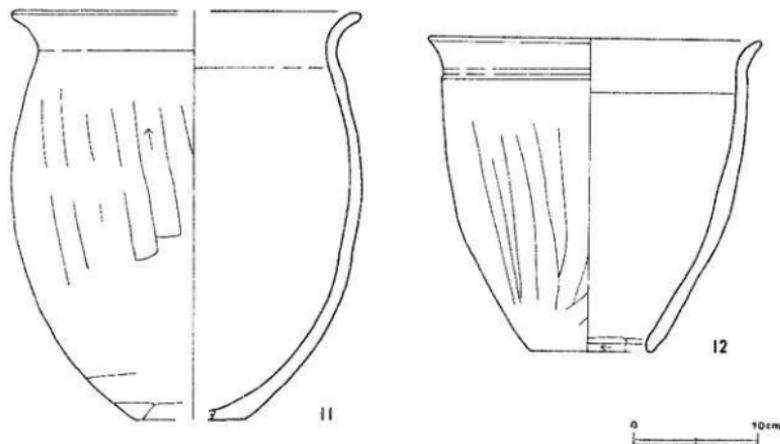
第77图 第31号住居跡実測图



第78図 第31号住居跡出土遺物実測図(1)

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 1	坏 土 器	A 14.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部との境に稜をもつ。口縁部は 外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ ラ削り、内面放射状のへラ磨き。内・ 外面黒色処理。	長石 雲母 小礫 砂粒 褐色 普通	P269 100% P L 30 覆土下層
		B 4.8				
2	坏 土 器	A [14.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎 して立ち上がり、口縁部との境に稜 をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ ラ削り、内面横ナデ。口縁部内・外 面黒色処理。	石英 砂粒 褐色 普通	P270 45% P L 30 覆土下層
		B (4.7)				
3	坏 土 器	A [13.8]	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部 は内彎して立ち上がり、口縁部との 境に稜をもつ。口縁部は内反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ ラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色 処理。	長石 雲母 砂粒 にふい 褐色 普通	P272 70% P L 30 覆土中層・下層
		B 4.8				



第79図 第31号住居跡出土遺物実測図(2)

採取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・施成	備考
第78図 4	坏 土 罎 器	A 14.5	体部、口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部は平直。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面ヘラ過ぎ。内・外面黒色施成。	長石 石英 雲母 砂粒 に灰褐色 普通	P273 70% P L30 覆上下層
		B 3.6				
5	坏 土 罎 器	A 14.5	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。口縁部外面・内面黒色施成。	長石 雲母 砂粒 に灰褐色 普通	P274 50% P L30 覆上下層
		B 5.2				
6	碗 土 罎 器	A 13.5	体部、口縁部一部欠損。平底。底部はわずかに突出する。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦減のため調整痕不明。内面ナデ。底部木炭痕。	長石 雲母 砂粒 普通	P275 85% P L29 床面直上
		B 8.8				
		C 6.8				
7	鉢 土 罎 器	A 23.9	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦減のため調整痕不明。内面ナデ。	長石 雲母 小磯 砂粒 に灰褐色 普通	P276 90% P L30 *洗痕 重大柱上
		B 18.7				
		C 9.1				
8	高 土 罎 器	A 18.6	坏部の破片。坏部は外彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P277 30% P L30 覆上下層
		B (3.8)				
9	罎 土 罎 器	A [19.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、肩部は丸味を帯びている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	P278 15% P L30 覆上下層
		B (9.9)				
10	罎 土 罎 器	A 19.6	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、上位に最大径をもち、口縁部は外反し、口縁部は器内を減しながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデおよび縦位のヘラナデ。輪襷み痕有り。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P279 95% P L30 器底床面上
		B 32.7				
		C 8.1				
第79図 11	罎 土 罎 器	A [28.4]	底部、体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもち、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上縦位のヘラ削り。下位縦位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 雲母 砂粒 褐色 普通	P280 70% P L30 覆土小層・上層
		B 33.7				
		C [8.6]				
12	瓶 土 罎 器	A 27.0	体部、口縁部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に凹線が走る。口縁部はわずかに器内を減しながら外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ、下層襷み痕のヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 浅黄褐色 良好	P281 80% P L30 床面直上
		B 23.2				
		C 9.9				
第78図 13	平 瓶 罎 器	B (3.9)	底部から体部の破片。丸底。底部から体部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	体部、底部内・外面クロコナデ。底部凹板ヘラ削り。底部外面にヘラ気号。	長石 斜状雲母 砂粒 灰褐色 良好	P282 10% P L30 覆土中

2 竪穴状遺構

今回の調査で、調査区北部から2基、中央部から4基、南部から1基、計7基の竪穴状遺構が確認された。当初、第15・16・17・18・28・29・30号住居跡として調査した各遺構については、床面に踏み締められた硬化面が見られないこと、炉、竈、貯蔵穴及び柱穴等の内部施設が伴わない遺構がほとんどであること、そして、規模が一辺4m以下の小形である等のことから、居住を目的とした竪穴住居跡と区別できる。そのため、それらの遺構を第1～7号竪穴状遺構と改称した。以下、検出された竪穴状遺構の特徴や出土遺物について記載する。

第1号竪穴状遺構（第80図）

位置 調査区中央部、D4白区。

規模と形状 平面形は、長径3.56m、短径2.55mの楕円形で、深さ21～34cmである。底面はおおむね平坦で、楕円形を呈しているが、北側半分はわずかに深く掘り込まれている。壁は外傾して、立ち上がっている。

長径方向 N-16°-W

覆土 5層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

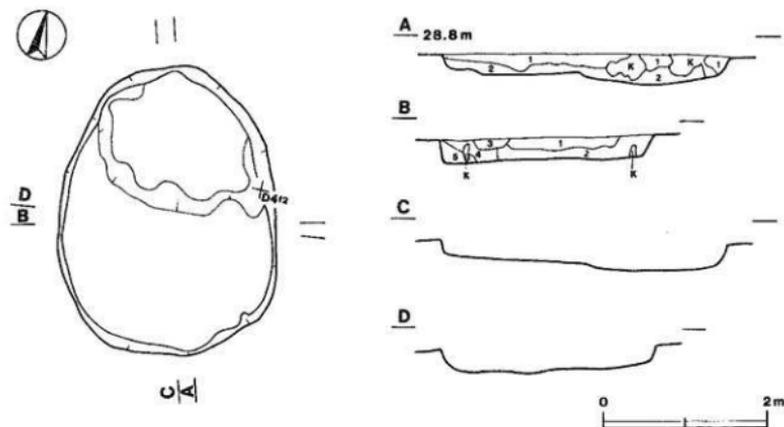
4 褐色 ローム小ブロック少量

2 褐色 ローム小ブロック中量

5 褐色 ローム中ブロック中量

3 暗褐色 ローム粒子微量

所見 出土遺物はなく、他の遺構との重複関係もないことから、本跡の性格や時期については不明である。



第80図 第1号竪穴状遺構実測図

第2号竪穴状遺構（第81図）

位置 調査区中央部、C219区。

規模と形状 平面形は、長軸3.05m、短軸2.63mの隅丸長方形で、深さ23～35cmである。底面は平坦で、隅丸長方形を呈している。壁は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-30°-E

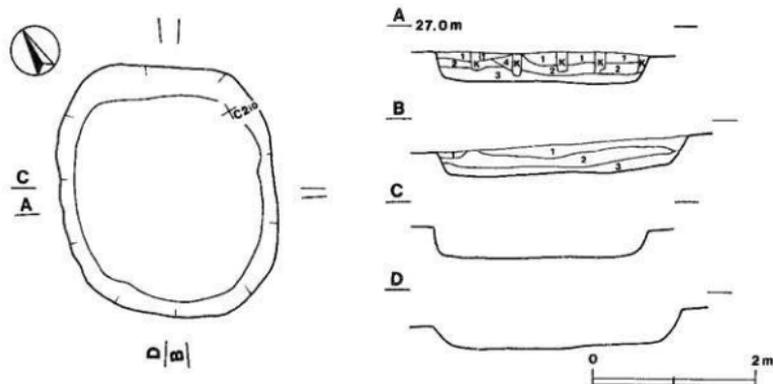
覆土 4層からなり、ロームブロックを含んでいる状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------------------|------|-------------------|
| 1 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム大ブロック微量 |
| 2 褐色 | ローム中ブロック少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム大ブロック多量、焼土粒子微量 |

遺物 覆土中から、土師器片4点、縄文土器片7点が出土している。

所見 遺物は少なく、ほとんどが細片であり、本跡の性格や時期については不明である。



第81図 第2号竪穴状遺構実測図

第3号竪穴状遺構 (第82図)

位置 調査区中央部、C 210区。

規模と形状 平面形は、長径3.50m、短径3.06mの楕円形で、深さ34~46cmである。底面は平坦で、不整形円形を呈している。壁は外傾して、立ち上がるが、南側は緩やかな立ち上がりである。

長径方向 N-23°-E

覆土 3層からなり、焼土ブロック、ロームブロックを含んでいる状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------|
| 1 明褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量 | 3 明褐色 | ローム大ブロック多量 |
| 2 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物 覆土中から、土師器片6点、縄文土器片10点、礫1点が出土している。

所見 遺物は少なく、ほとんどが細片であり、本跡の性格や時期については不明である。

第4号竪穴状遺構 (第83図)

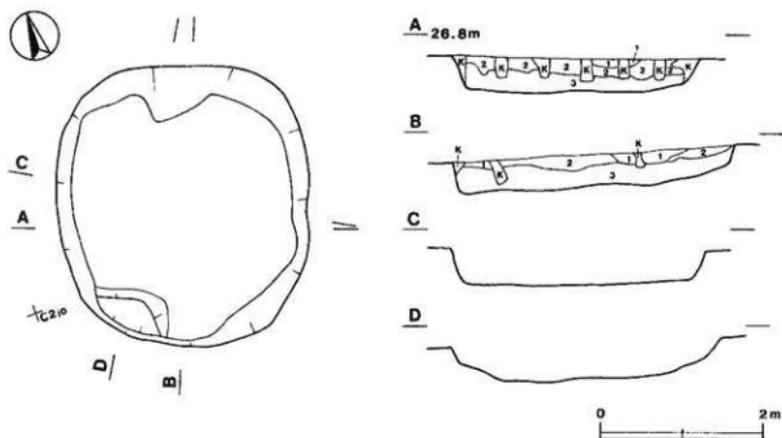
位置 調査区中央部、D 3b4区。

重複関係 第76号土坑が本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と形状 平面形は、長軸3.19m、短軸2.88mの隅丸長方形で、深さ22~50cmと推定される。底面は平坦で、隅丸長方形を呈している。壁は外傾して、立ち上がるが、南西壁は緩やかな立ち上がりである。

長軸方向 N-37°-E

覆土 11層からなり、ブロック状の堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。



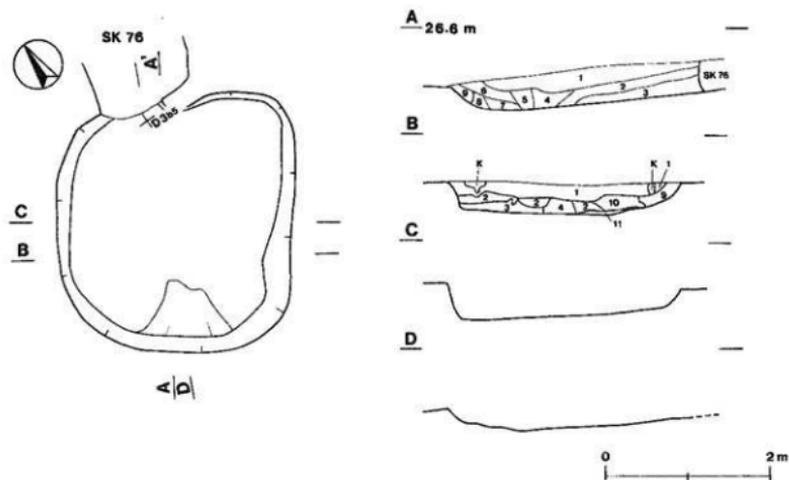
第82図 第3号竪穴状遺構実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭沼小ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | 炭沼大・中・小ブロック・炭沼粒子中量、炭化粒子少量 | 7 褐色 | ローム粒子中量、ローム中・小ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | 炭沼粒子中量、炭沼大・中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、ローム大ブロック中量 |
| 4 褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭沼小ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量 | 10 褐色 | ローム粒子中量、炭沼大・中・小ブロック・ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| | | 11 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物 覆土中から、縄文土器片1点が出土している。

所見 遺物は少なく、細片であり、本跡の性格や時期については不明である。



第83図 第4号竪穴状遺構実測図

第5号竪穴状遺構 (第84図)

位置 調査区南部, E4d4区。

規模と形状 平面形は、長軸3.81m, 短軸2.07mの隅丸長方形で、深さ6~15cmである。底面は平坦で、P1とP2の間の中央部が踏み固められており、P2の上面には炭化物が点在している。壁は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-65°-W

ピット 2か所 (P1・P2)。P1とP2は長径79~87cm, 短径69~71cmの楕円形、深さ16~21cmで、いずれも性格は不明である。

P1土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

P2土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

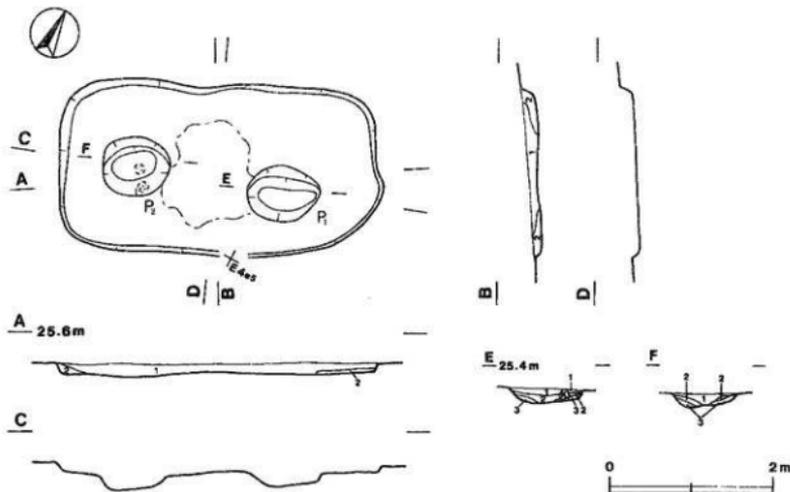
覆土 2層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物 覆土中から、土師器片39点, 縄文土器片18点, 燻1点が出土している。

所見 竪の痕跡はなく、住居として使用されたものかどうか不明である。時期は、ほとんどの遺物が細片であるため明確ではないが、古墳時代後期と考えられる。



第84図 第5号竪穴状遺構実測図

第6号竪穴状遺構 (第85図)

位置 調査区北部, B4h4区。

規模と形状 平面形は、長径3.68m, 短径3.23mの楕円形で、深さ14~25cmである。底面は平坦で、楕円形を呈している。壁は外傾して、緩やかに立ち上がっている。

長径方向 N-85°-W

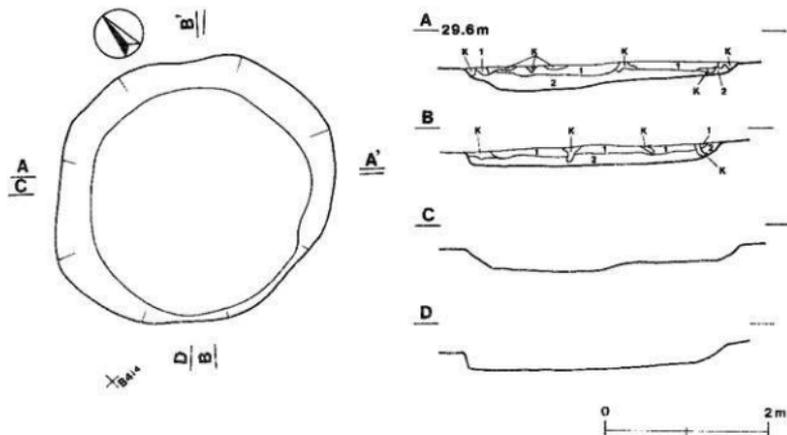
覆土 2層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、
ローム中ブロック微量

2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

所見 出土遺物はなく、他の遺構との重複関係もないことから、本跡の性格や時期については不明である。



第85図 第6号竪穴状遺構実測図

第7号竪穴状遺構 (第86図)

位置 調査区北部, B4i2区。

重複関係 第3号溝が本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と形状 平面形は、長軸6.40m、短軸3.64mの隅丸長方形で、深さ9~24cmと推定される。底面は平坦で、隅丸長方形を呈している。壁は外傾して、立ち上がっている。

長軸方向 N-37°-E

覆土 2層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

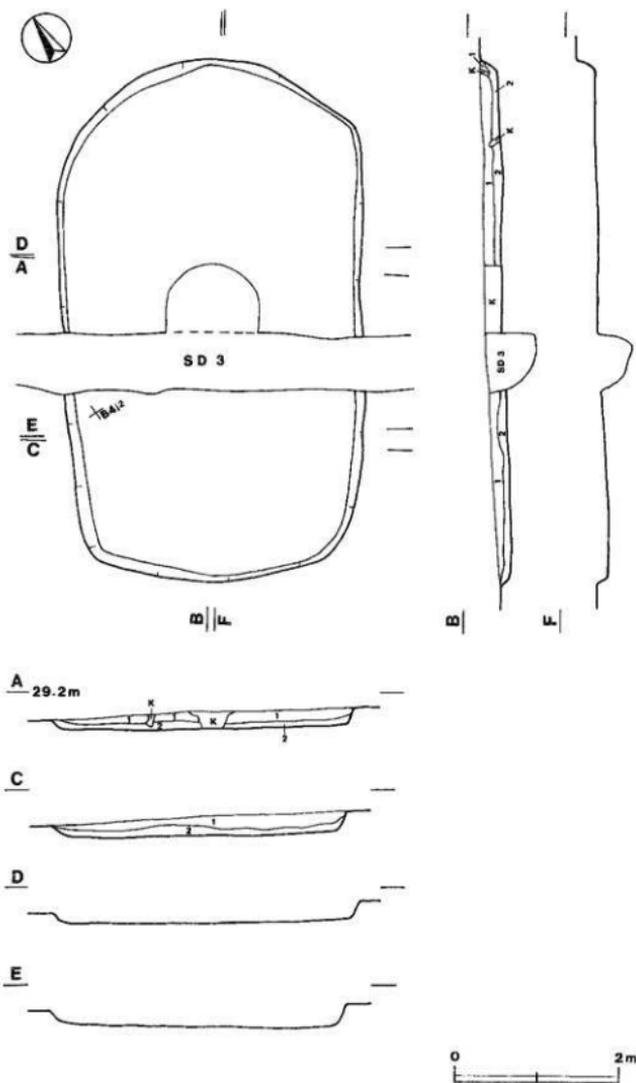
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

遺物 覆土中から、縄文土器片1点が出土している。

所見 遺物は少なく、細片であり、本跡の性格や時期については不明である。



第86図 第7号竖穴状遺構実測図

3 土坑

今回の調査で、当遺跡から、137基の上坑を抽出した。ここでは、土坑の形状、規模、覆土の状況及び出土遺物等に特徴があるものについて記述し、それ以外の土坑については一覧表に記載した。また、第115・116・117・118・122号上坑については、炭窯跡に関連する土坑であるので、5の炭窯跡の項に記載した。

第5号土坑（第87図）

位置 調査区北西部、B 2e3区。

重複関係 第6号上坑が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と形状 平面形は、長径2.30m、短径（1.27）mで楕円形、深さ186cmと推定される。底面は平坦で、断面形はU字状を呈している。壁は垂直に立ち上がり、北西壁と南東壁の一部がオーバーハングしたあと、上位で外傾する。底面に近いほど長径方向に平行に狭くなる。

長径方向 N-57°-W

覆土 13層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム大ブロック中量、ローム大・中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 炭屑粒子多量、ローム小ブロック中量
- 11 褐色 ローム中ブロック・炭屑粒子中量、ローム大ブロック少量
- 12 褐色 ローム大・中ブロック・炭屑粒子中量
- 13 暗褐色 炭屑粒子多量、ローム大・中・小ブロック中量

遺物 縄文土器片14点が出土している。遺物の大部分は覆土上層から出土している。1は深鉢の口縁部片で、覆土上層から出土している。2～5は深鉢の胴部片で、沈線文により文様を構成し、縄文を充填している。

所見 本跡は、西側へ下る傾斜面に構築されており、遺構の形態等から陥し穴と考えられる。時期は、縄文時代後期前葉（称名寺式期）の遺物が覆土上層から出土していることから、縄文時代後期前葉以前と考えられる。

第7号土坑（第88図）

位置 調査区西部、B 2j5区。

規模と形状 平面形は、長径2.52m、短径1.20mの楕円形で、深さ134cmである。底面は平坦で、断面形はU字状を呈している。壁は垂直に立ち上がり、北西壁の一部が部分的にオーバーハングし、上位で外傾する。底面に近いほど長径方向に平行に狭くなる。

長径方向 N-43°-W

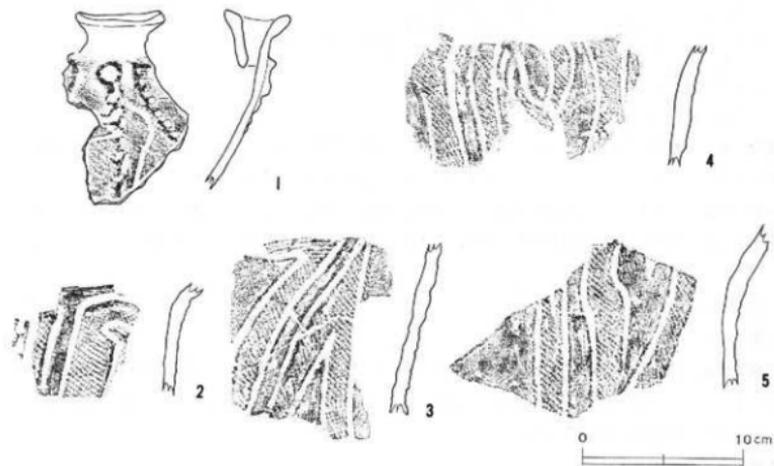
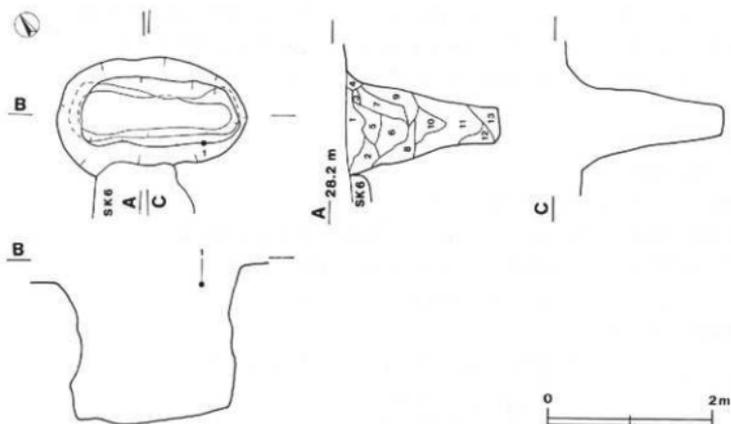
覆土 8層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム大・中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭屑粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子・炭屑粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭屑中ブロック・炭屑粒子少量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

所見 本跡は、西側へ下る傾斜面に構築されており、遺構の形態等から陥し穴と考えられる。遺物が出土して

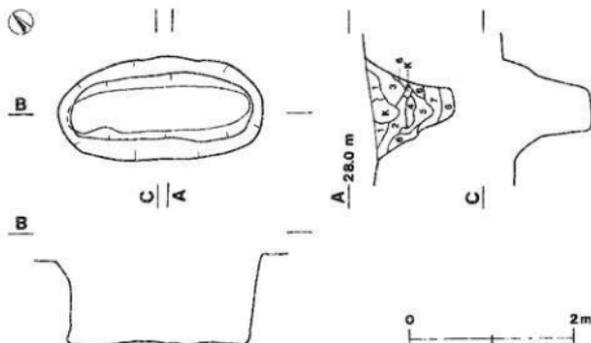
いないので、詳細な時期は不明であるが、縄文時代の構築と考えられる。



第87図 第5号土坑・出土遺物実測図

第5号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 1	深鉢 縄文土器	B (11.8)	口縁部片、波状口縁。波頂部に環状の突起をもつ。口縁部に円形の刺突文を巡らせ、キザミを有する隆帯を垂下させている。此帯で文様を構成し、縄文を充填している。	長石 石英 雲母 砂粒 赤褐色 普通	P299 10% P.L.30 覆土上層 形名不詳



第88図 第7号土坑実測図

第18号土坑 (第89図)

位置 調査区西部, C1e9区。

規模と形状 平面形は、径1.25mほどの円形で、深さ52cmである。底面は皿状で、楕円形を呈しているが、北西側はわずかに深く掘り込まれている。壁は外傾して、立ち上がっている。

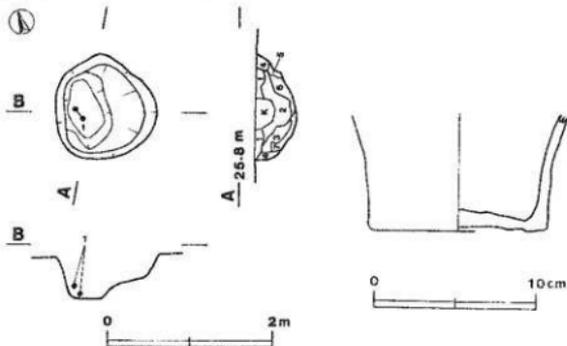
覆土 7層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック少量、焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 縄文土器片4点、土師器片2点が出土している。1は深鉢の底部から胴部の破片で、覆土下層から出土している。

所見 本鉢の時期は、出土土器から縄文時代前期後葉（浮島式期）と考えられる。



第89図 第18号土坑・出土遺物実測図

第18号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図	深鉢 縄文土器	B (7.3) C 11.0	底部から胴部の破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には縦位のヘラナデが施されている。	灰石 雲母 砂粒 褐色 普通	P.283 10% P.L.31 覆土下層 浮島式

第31号土坑 (第90図)

位置 調査区南西部, D 1 9区。

規模と形状 平面形は、長径2.08m, 短径1.69mの楕円形で、深さ13cmである。底面は皿状で、楕円形を呈しているが、南西側はわずかに深く掘り込まれている。壁は外傾して、立ち上がっている。

長径方向 N-53°-E

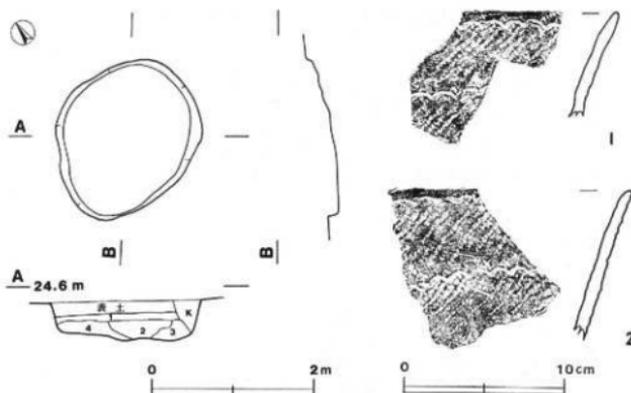
覆土 4層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 覆土中から、縄文土器片28点、土師器片5点が出土している。1と2は深鉢の口縁部片で、附加条の縄文の末端部の変化が口唇部直下と頸部に施されている。

所見 本跡の時期は、出土土器から縄文時代中期前葉（下小野式期）と考えられる。



第90図 第31号土坑・出土遺物実測図

第33号土坑 (第91図)

位置 調査区西部, C 2 d3区。

規模と形状 平面形は、長径2.26m, 短径1.37mの楕円形で、深さ115cmである。断面形はU字状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で、逆木を立てた跡と思われる小ピットが3か所長径方向に並んでいる。小ピットは径12~15cmの円形で、底面からの深さは11~18cmである。

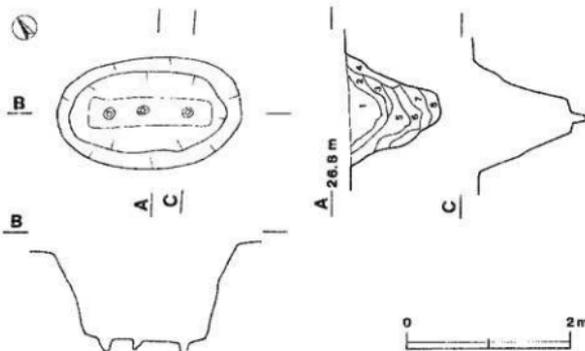
長径方向 N-57°-W

覆土 8層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 棕褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量
- 8 暗褐色 鹿沼小ブロック・鹿沼粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量

所見 本跡は、南側と西側へ下る傾斜面に構築されており、遺構の形態等から陥し穴と考えられる。遺物が出土していないので、詳細な時期は不明であるが、縄文時代の構築と考えられる。



第91図 第33号土坑実測図

第47号土坑 (第92図)

位置 調査区北部、B3e3区。

規模と形状 平面形は、長径2.29m、短径1.53mの楕円形で、深さ86cmである。底面は平坦で、断面形はU字状を呈している。壁は垂直に立ち上がり、上位で外傾する。

長径方向 N-68°-E

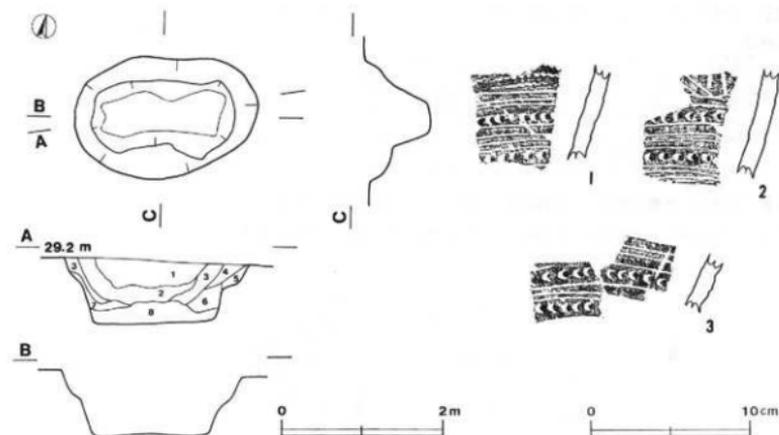
覆土 8層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

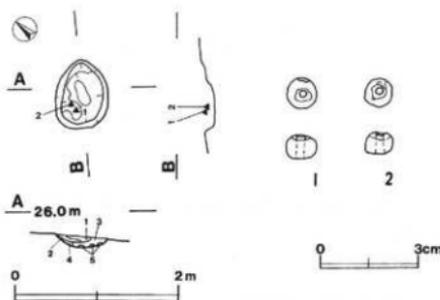
- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 濃い褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム大・小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物 覆土中から、縄文土器片8点が出土している。1～3は深鉢の胴部片で、平行沈線文と刺突文が施され、1には貝殻縁線文も施されている。

所見 本跡の時期は、出土土器から縄文時代早期中葉(田戸層式期)と考えられる。



第92図 第47号土坑・出土遺物実測図



第93図 第101号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、鹿沼粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・鹿沼粒子・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、鹿沼中ブロック・鹿沼粒子少量
- 5 褐色 鹿沼粒子・ローム粒子中量

遺物 土師器片1点、土製丸玉2点が出土している。1と2の土製丸玉が中央部西寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、土製丸玉が出土していることから、墓塚の可能性が考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代と考えられる。

第101号土坑 (第93図)

位置 調査区南部、E 4 c4区。

規模と形状 平面形は、長径0.83m、短径0.63mの楕円形で、深さ12cmである。底面はおおむね平坦であるが、北側から東側にかけてやや掘り込みが浅くなる。壁は外傾して、緩やかに立ち上がっている。

長径方向 N-46°-E

覆土 5層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

第101号上坑出土遺物観察表

図版番号	類別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第93図 1	丸玉	0.9	0.7	0.2	0.6	覆上中層	D P 28 P L 35
2	丸玉	0.8	0.7	0.2	0.5	覆上中層	D P 22 P L 35

第109号土坑 (第94図)

位置 調査区南部, D 3 i 2 k。

規模と形状 平面形は、長径3.03m、短径2.64mの不整形円形で、深さ57cmである。底面は凹凸である。壁は外傾して、緩やかに立ち上がっている。

長径方向 N-32°-E

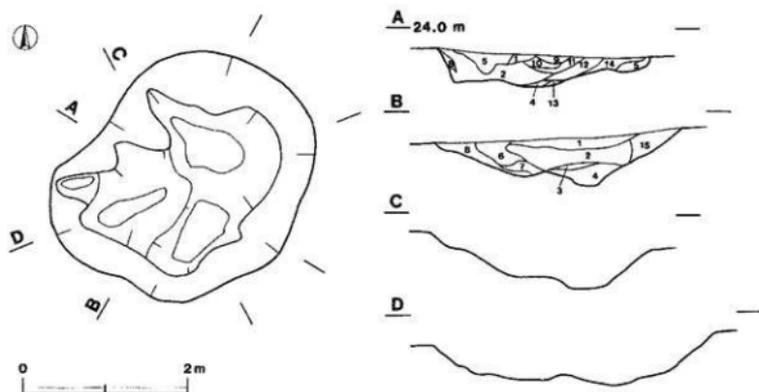
覆土 15層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子少量
- 3 にぶ黄褐色 砂質中層
- 4 黒色 砂粒ブロック中層
- 5 黒色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 7 黒色 ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量
- 9 にぶ黄褐色 砂質粘土粒子少量
- 10 暗褐色 砂質粘土粒子・黒色粒子少量
- 11 にぶ黄褐色 砂質粘土粒子少量
- 12 にぶ黄褐色 砂質粘土粒子中量
- 13 にぶ黄褐色 砂質粘土粒子中量
- 14 黒色 砂質粘土ブロック微量
- 15 褐色 砂質粘土ブロック微量

遺物 覆土中から、縄文土器片1点が出土している。

所見 本跡は、第1包含層の下面から検出されている。灰白色粘土層を掘り込んで構築されており、全面が粘土の底面であることから、粘土採掘を目的とした遺構の可能性が高い。遺物は少なく、細片であるため、本跡の時期については不明である。



第94図 第109号土坑実測図

第114号土坑 (第95図)

位置 調査区南部, E 3 a2区。

規模と形状 平面形は、長径2.90m, 短径1.94mの不整形円形で、深さ29cmである。底面は皿状である。壁は外傾して、緩やかに立ち上がっている。

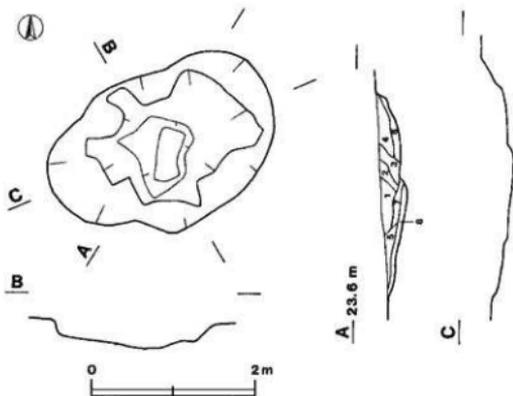
長径方向 N-62°-E

覆土 8層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黄褐色 粘土粒子少量, 小礫微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量
- 4 黒色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量
- 7 黄褐色 粘土粒子少量
- 8 黒褐色 粘土小ブロック微量

所見 本跡は、第1包含層の下面から検出されている。灰白色粘土層を掘り込んで構築されており、第109号土坑と掘り方が類似していることから、粘土採掘のために掘り込まれた可能性があると思われる。遺物が出土していないので、本跡の時期については不明である。



第95図 第114号土坑実測図

第127号土坑 (第96図)

位置 調査区東部, B 4 f9区。

規模と形状 平面形は、長径2.11m, 短径1.20mの楕円形で、深さ100cmである。底面は平坦で、断面形はじ字状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。底面に近いほど長径方向に平行に狭くなる。

長径方向 N-28°-W

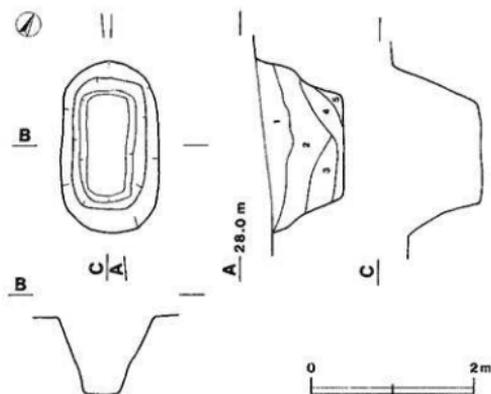
覆土 5層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 炭化小ブロック微量

遺物 覆土中から、縄文土器片1点が出土している。

所見 本跡は、東側へ下る傾斜面に構築されており、遺構の形態等から陥し穴と考えられる。遺物は少なく、細片であるため、詳細な時期は不明であるが、縄文時代の構築と考えられる。



第96図 第127号土坑実測図

第135号土坑 (第97図)

位置 調査区中央部, C4g6区。

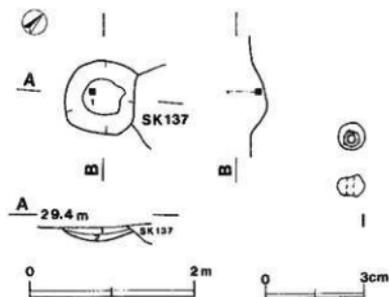
重複関係 第137号土坑が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と形状 平面形は、径0.85mほどの円形で、深さ22cmと推定される。底面は皿状で、不整形を呈している。壁面は外傾して、緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量



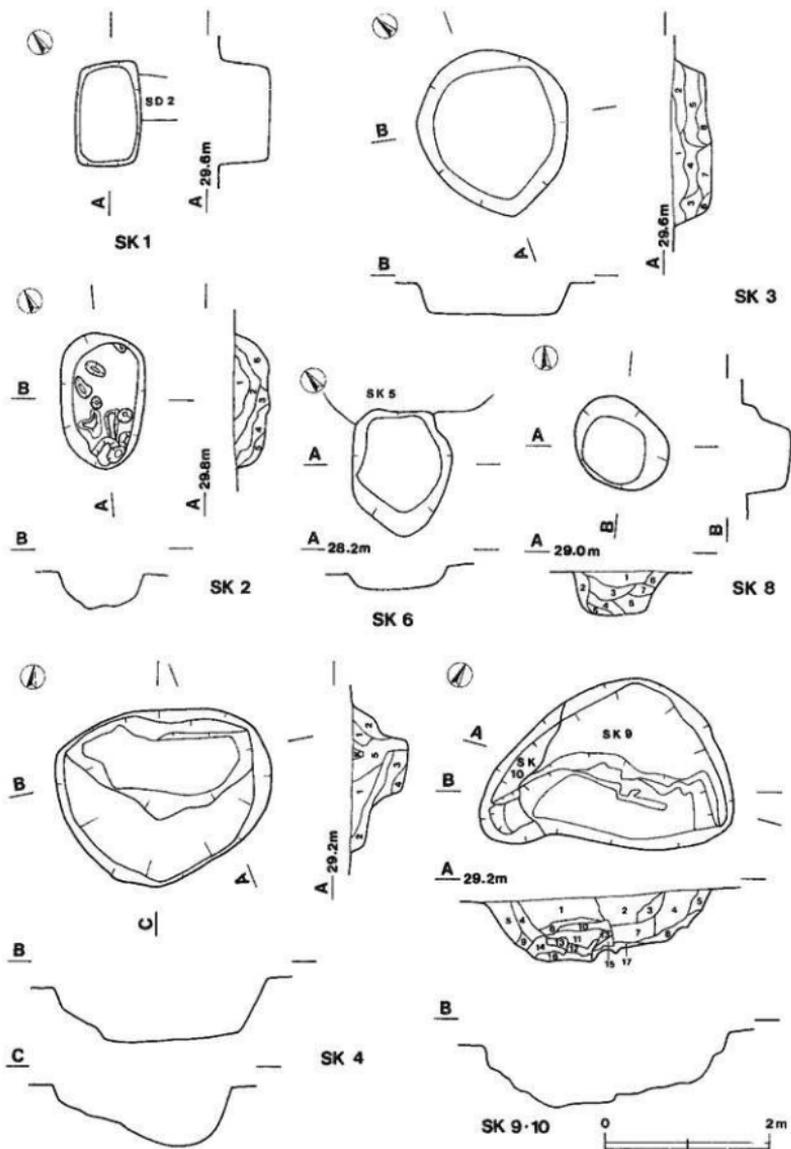
第97図 第135号土坑・出土遺物実測図

遺物 土師器片6点, 石製丸玉1点が出土している。1の丸玉が中央部の覆土下層から出土している。

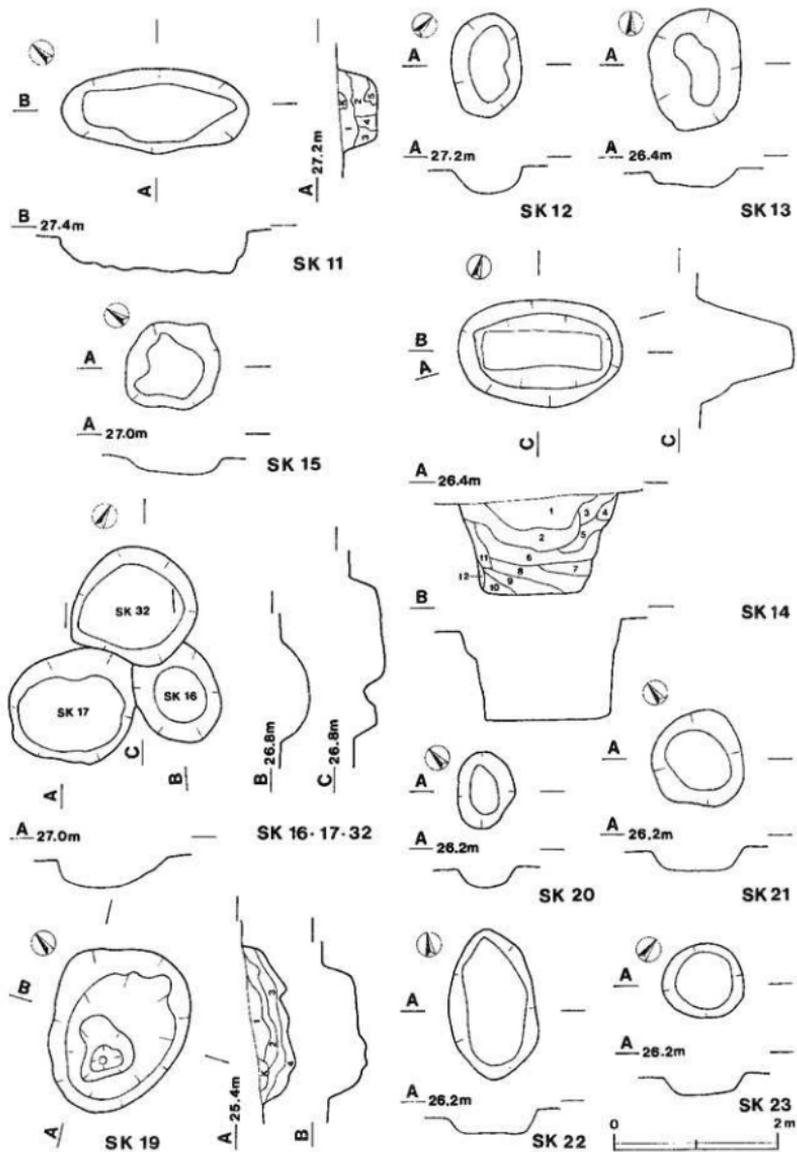
所見 本跡は、丸玉が出土していることから、墓塚の可能性が考えられる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、古墳時代と考えられる。

第135号土坑出土遺物観察表

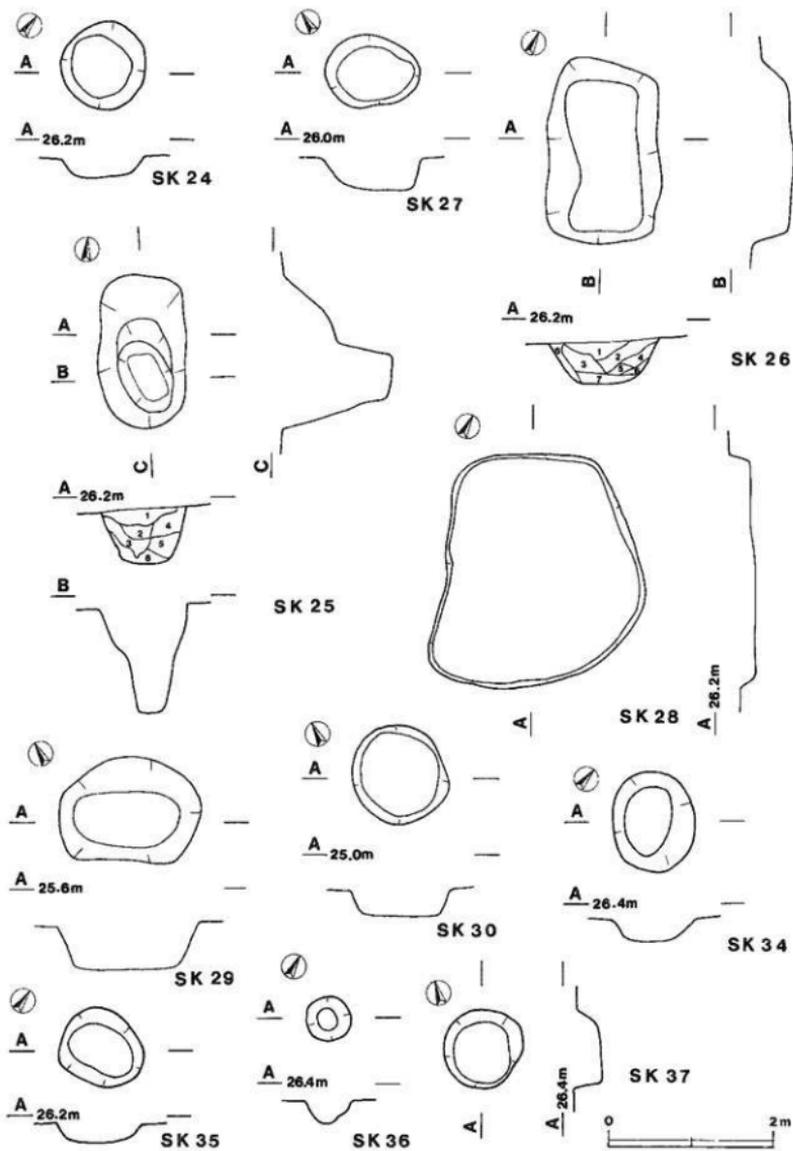
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第97図1	丸玉	0.9	0.7	0.3	(0.5)	滑石	覆土下層	Q16



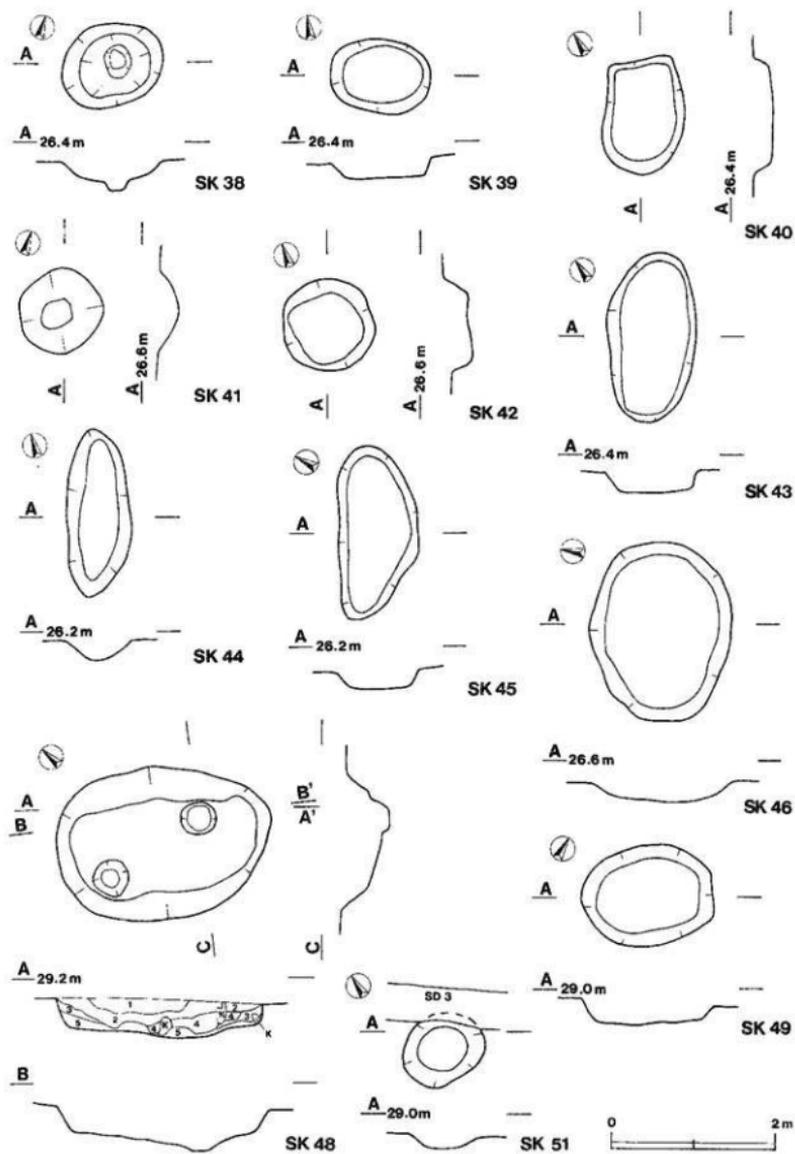
第98図 その他の土坑実測図(1)



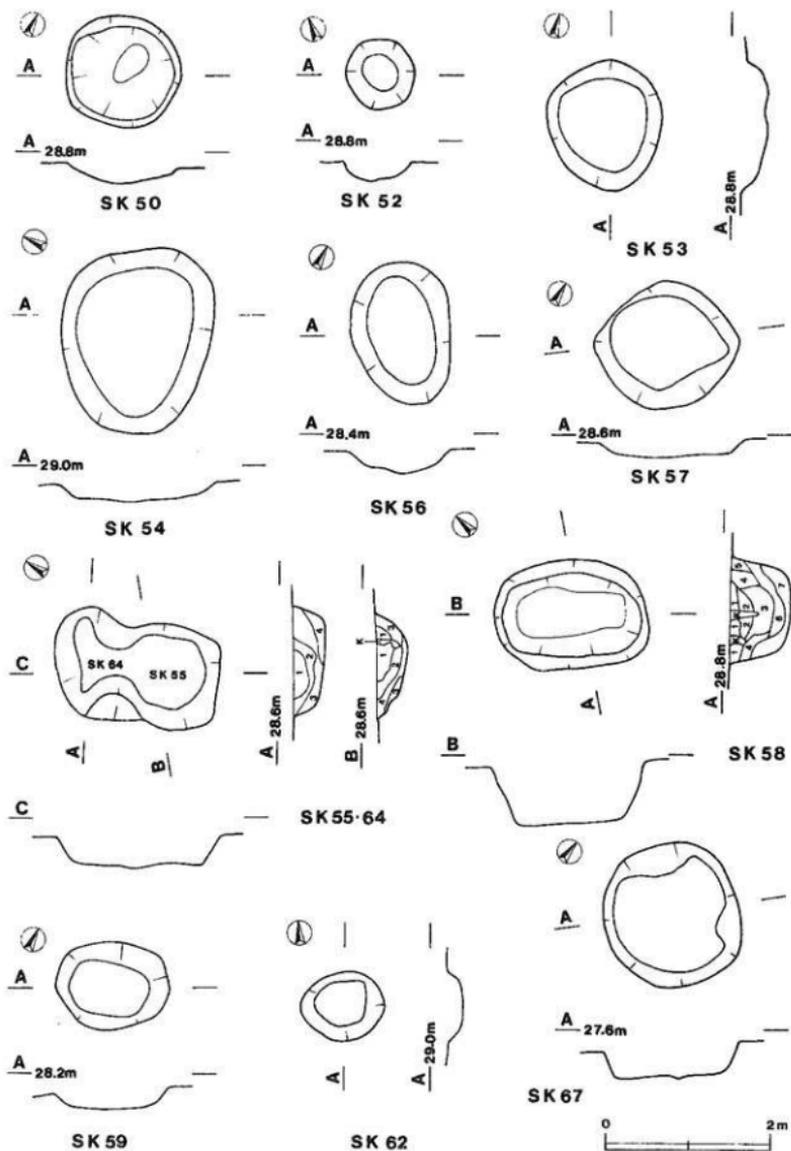
第99図 その他の土坑実測図(2)



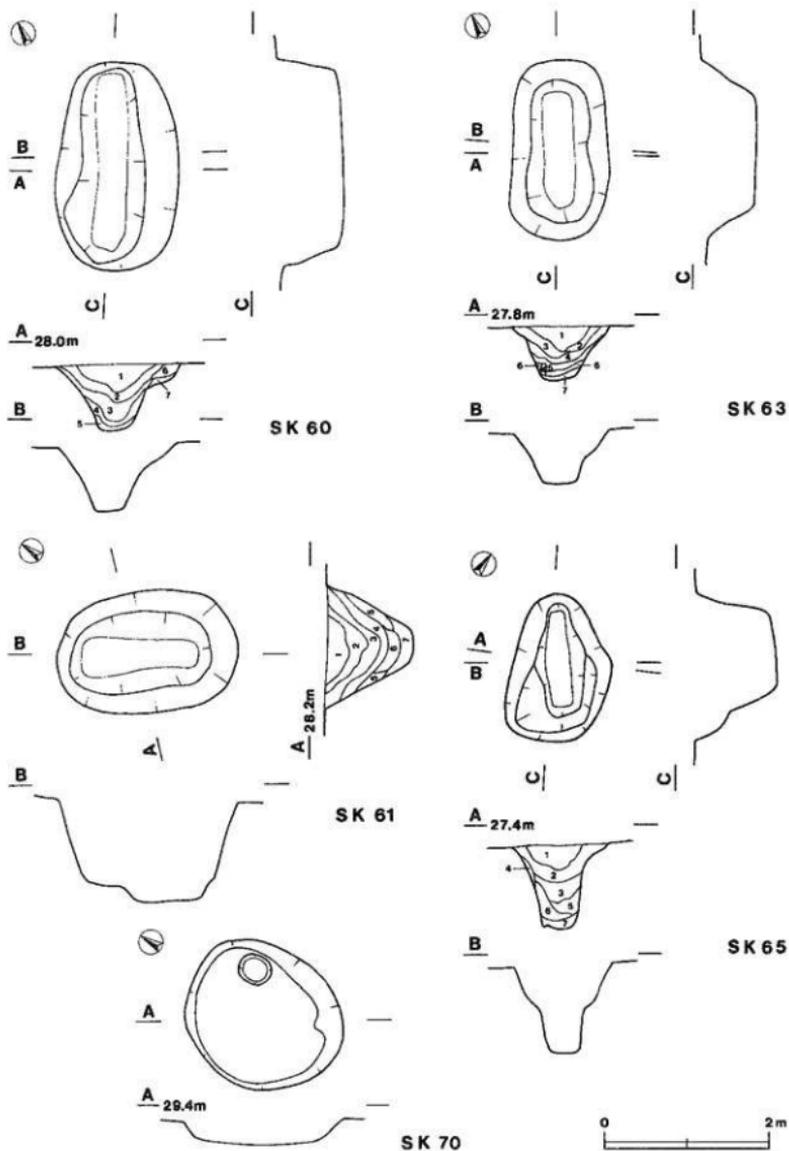
第100図 その他の土坑実測図(3)



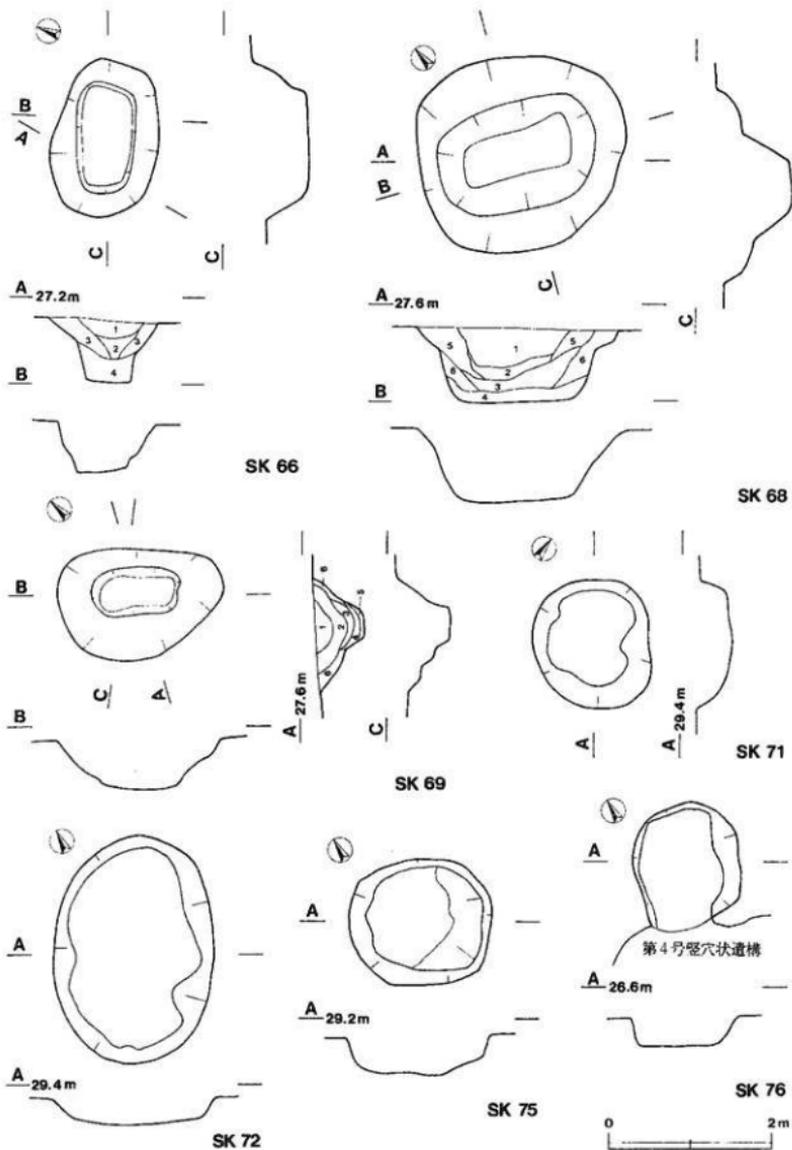
第101図 その他の土坑実測図(4)



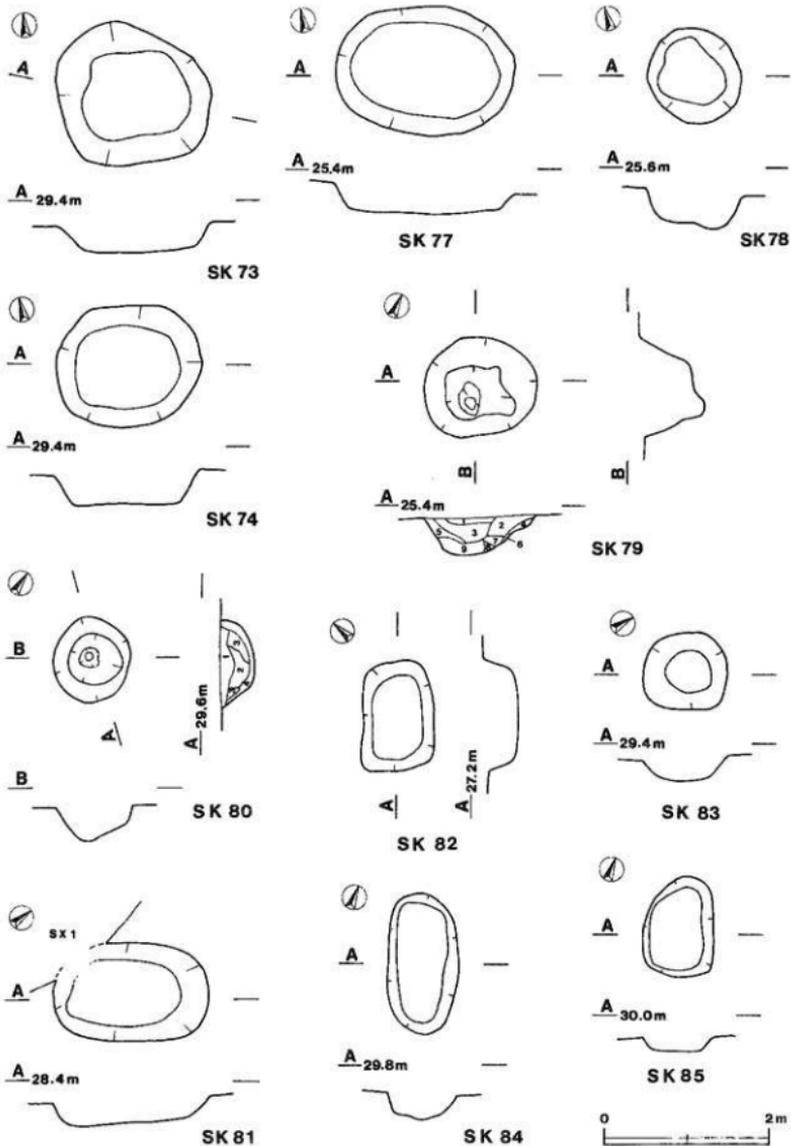
第102図 その他の土坑実測図(5)



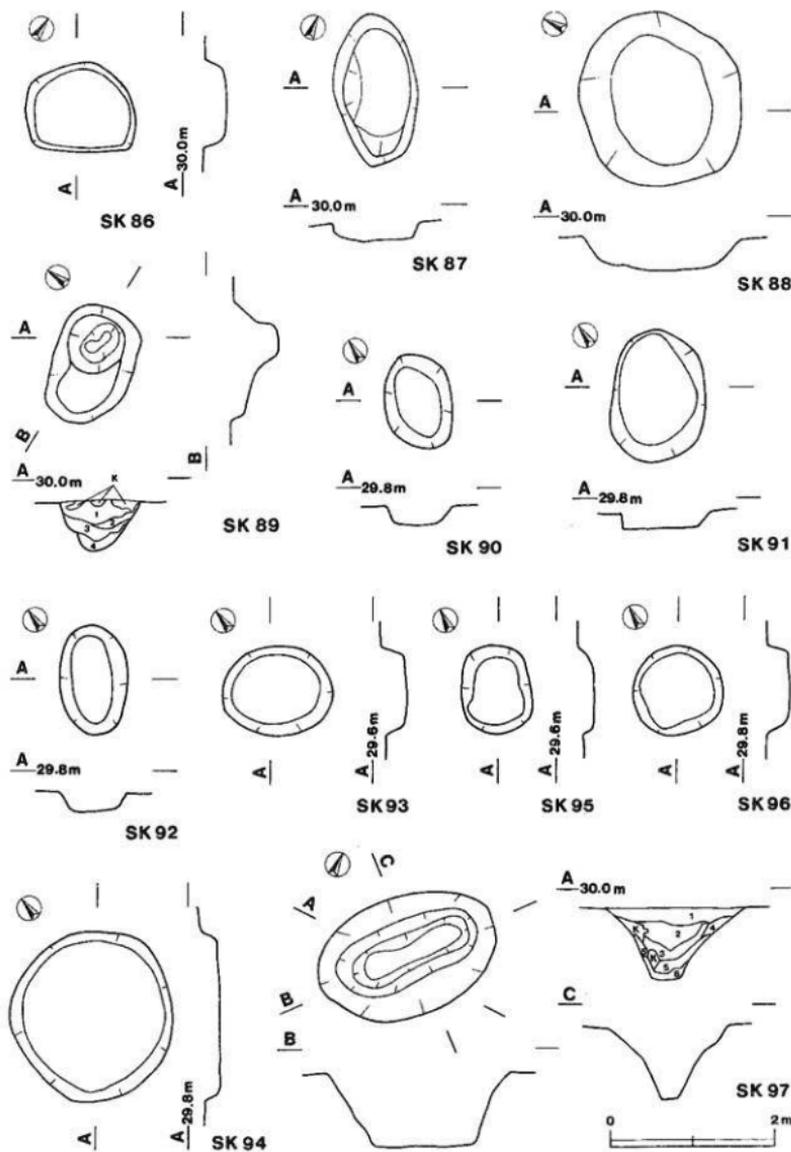
第103図 その他の土坑実測図(6)



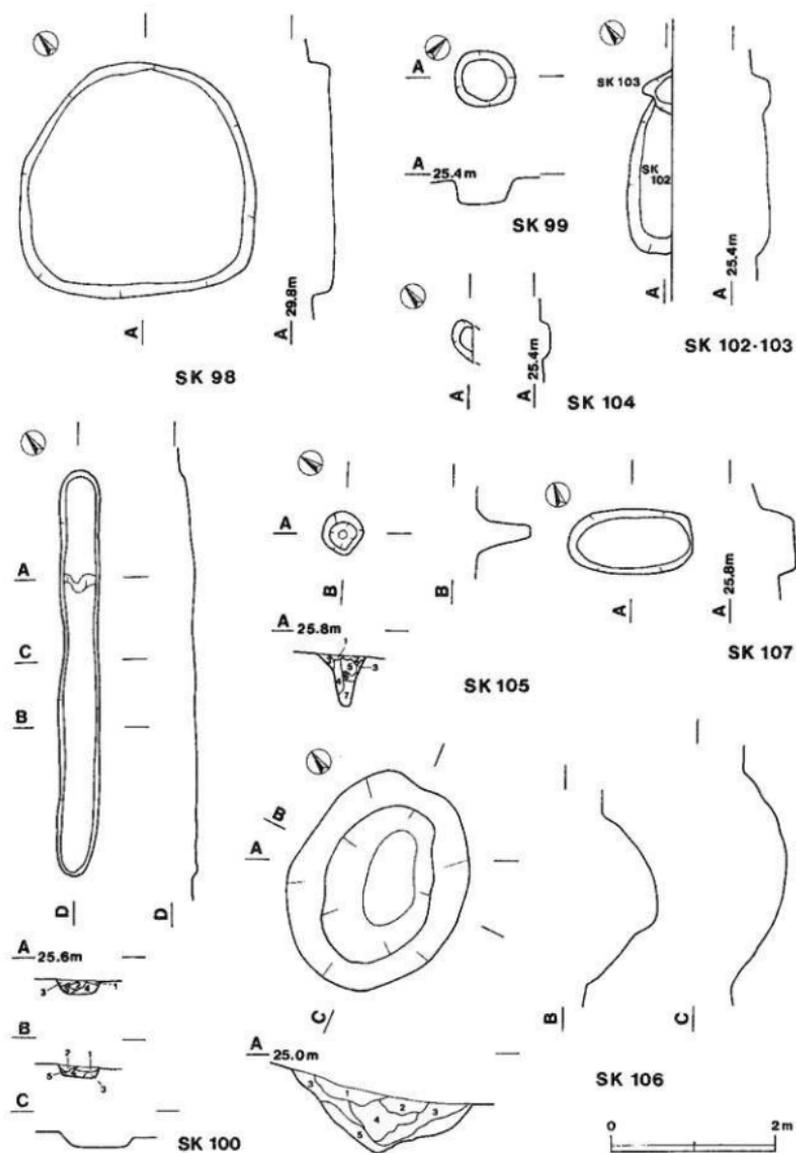
第104図 その他の土坑実測図(7)



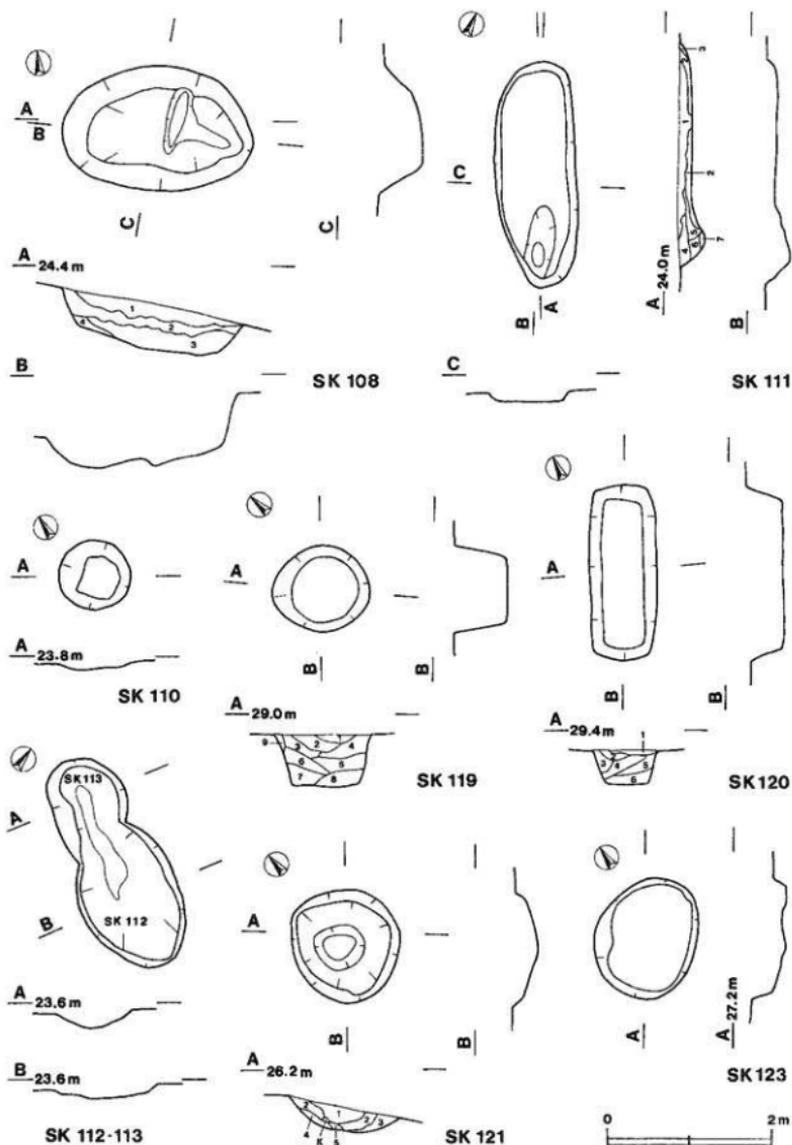
第105図 その他の土坑実測図(8)



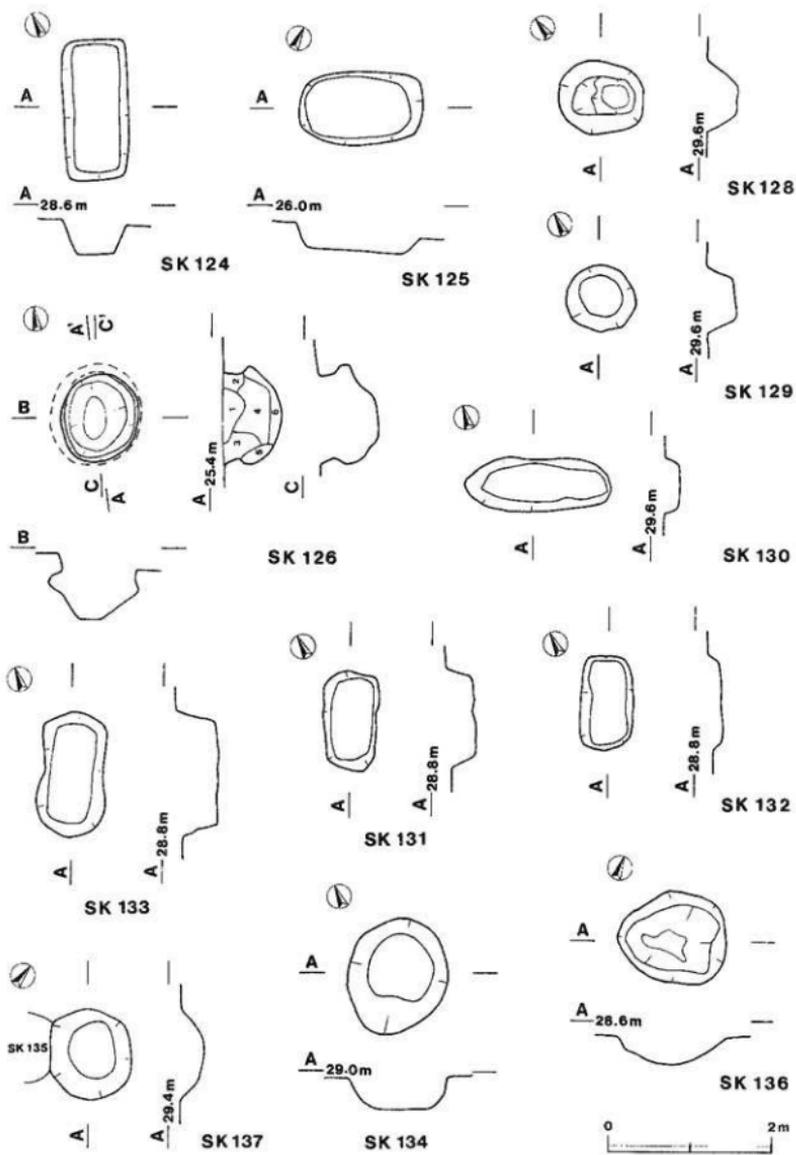
第106図 その他の土坑実測図(9)



第107図 その他の土坑実測図(10)



第108図 その他の土坑実測図(11)



第109図 その他の土坑実測図(12)

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム中中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム大・中ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム大・中ブロック少量、炭化粒子微量

第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム中ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・炭化粒子微量

第4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 鹿沼粒子・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・鹿沼粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・鹿沼粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 鹿沼粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 鹿沼粒子多量、鹿沼中・中・小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量

第8号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大・中ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、鹿沼粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 鹿沼粒子・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 鹿沼粒子中量、鹿沼中ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 鹿沼中ブロック・鹿沼粒子・ローム粒子中量、炭化粒子微量

第9・10号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム大・中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム大・中・小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム大・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中・小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム大・中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・鹿沼粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム中・小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 13 暗褐色 ローム中・小ブロック・鹿沼粒子・ローム粒子・炭化粒子少量

- 14 暗褐色 ローム中・小ブロック・鹿沼中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 15 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量
- 16 褐色 鹿沼中・中ブロック中量、ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量
- 17 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・鹿沼粒子少量、炭化粒子微量

第11号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック多量
- 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第14号土坑土層解説

- 1 黒褐色 黒色大ブロック多量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 7 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 10 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 11 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 12 褐色 ローム粒子中量

第19号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量
- 4 褐色 ローム中ブロック少量
- 5 褐色 砂粒少量
- 6 褐色 ローム中ブロック中量

第26号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量、白色粒少量
- 4 褐色 ローム小ブロック少量
- 5 褐色 焼土粒子、炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 7 褐色 鹿沼小ブロック・ローム粒子中量

第48号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

第55号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム大・中ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量

第64号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム大・中ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム大・中ブロック少量

第58号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量

第60号土壌土層解説

- 1 棕褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック微量

第61号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大・小ブロック・焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・炭化粒子少量

第63号土壌土層解説

- 1 棕褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量

第65号土壌土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量

第66号土壌土層解説

- 1 棕褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第68号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム大・中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大・中ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第69号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 炭化中ブロック・炭化粒子・ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム中・小ブロック微量

第79号土壌土層解説

- 1 棕褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子微量
- 5 棕褐色 ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

第80号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第89号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム大・中ブロック少量、ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム大・中・小ブロック少量

第97号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 棕褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第100号土壌土層解説 (SPA-A)

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、炭化中ブロック少量
- 5 褐色 炭化粒子・ローム粒子中量、炭化中・小ブロック少量

第100号土壌土層解説 (SPB-B)

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 棕褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗褐色 炭化中ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 炭化中ブロック多量

第105号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量

第106号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 5 暗褐色 焼土中量

第108号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第111号土壌土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子多量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 黒色粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 黒色粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第119号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭沼小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム大・中・小ブロック中量、炭沼中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム大・中ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・炭沼中・小ブロック・ローム粒子少許
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック微量

第120号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム大・中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム大・中ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量

第121号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、砂粒少量、粘土粒子・炭化粒子微量
- 4 にぶい褐色 粘土大・中ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量

第126号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 砂粒・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 砂粒・粘土粒子少量、ローム粒子微量

4 井戸跡

今回の調査で、調査区の北東部から井戸跡1基が確認された。以下、その特徴と出土遺物について記載する。

第1号井戸跡（第110図）

位置 調査区北東部，A5j7区。

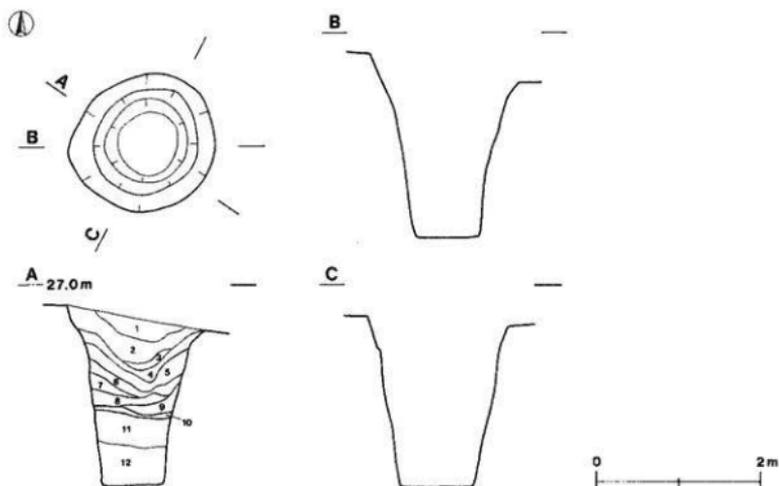
規模と形状 平面形は円形，断面形は確認面から0.67mの深さまで鐮鉢状をしており，そこから下は径0.90～1.41mの円筒形で，底面は平坦である。規模は上面径1.67～1.78m，底面径0.75～0.78m，深さ2.30mである。

覆土 12層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・黒色小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 砂粒・粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 黒色小ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 9 褐色 | 砂粒・ローム粒子中量，粘土粒子少量 炭分含む |
| 4 極暗褐色 | 黒色小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 10 暗赤褐色 | 炭化炭の層 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色小ブロック少量 | 11 灰褐色 | 砂粒中量，粘土粒子少量 |
| 6 褐色 | ローム粒子中量，ローム中・小ブロック・黒色小ブロック・粘土粒子少量 | 12 陶灰色 | 砂粒・粘土粒子中量 |

所見 出土遺物はなく，他の遺構との重複関係もないことから，本跡の時期については不明であるが，本跡の南側に溝が巡っていることから，溝と関連する可能性が考えられる。



第110図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

5 炭窯跡

今回の調査で、調査区南東部から炭窯跡1基、炭窯跡に関連する土坑5基が確認された。炭窯を構築するために、4基の粘土採掘坑が炭窯の北東側に掘り広げられ、採掘後は、炭窯付近の粘土採掘坑の上部に、天井部や窯壁部の崩落焼土や炭化物等が投棄されたものと考えられる。以下、検出された遺構と遺物について記載する。また、炭窯跡の掘り方については、炭窯跡に関連する土坑と共に、第112図に掲載した。

第1号炭窯跡（第111・112図）

位置 調査区南東部，E4c9区。

重複関係 本跡が第115号土坑を掘り込み、第122号土坑に掘り込まれていることから、第115号土坑より新しく、第122号土坑より古い。

規模と形状 平面形は、全長6.23m、最大幅（2.83）mの不整形円形と推定される。底面は南東側へ傾斜している。

長径方向 N-56°-W

壁 壁高は炭化室では52~80cmで、ほぼ垂直に立ち上がり、焚口部では28cmほど、前底部では22cmほどで、外傾して立ち上がる。壁面は、約20cmの厚さで山砂と粘土により構築され、凝灰岩等の切石によって補強され、火熱を受けて赤変し、硬く締まっている。

炭化室 平面形は、長径1.91m、短径1.75mの楕円形で、天井部は崩落している。底面はほぼ平坦で、窯底は火熱を受けて赤変硬化している。

焚口部 幅113cm、長さ32cmほどで、底面は鼠状である。閉塞部は幅42cm、長さ20cmほどで、凝灰岩等の切石により構築されている。

煙道部 奥壁中央部に位置し、ほぼ垂直に立ち上がる。切石によって補強され、火熱を受けて赤変し、硬く締まっている。

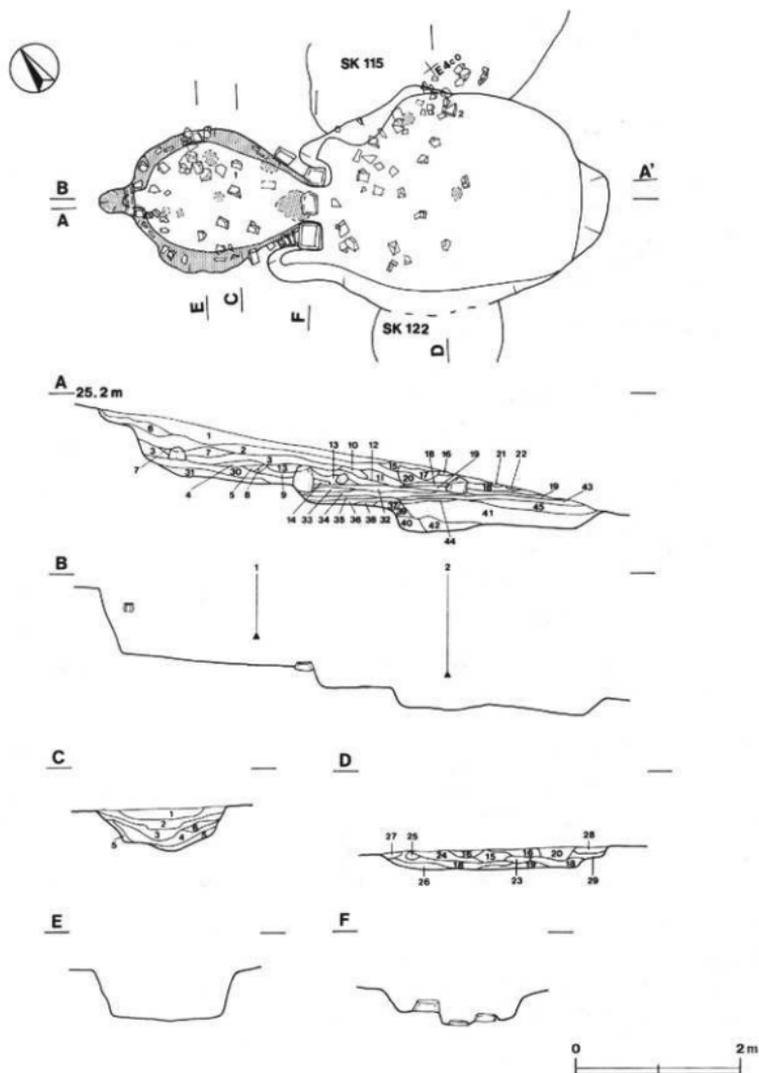
前底部 平面形は、長径3.45m、短径（2.83）mで楕円形と推定される。底面は、階段状に南東側へ傾斜している。炭化物・炭化粒子が広く散在している。

覆土 45層からなる人為堆積で、炭化室は焼土ブロック・焼土粒子を多量に含む赤褐色土、前底部は炭化物・炭化粒子を多く含む黒褐色土が堆積している。

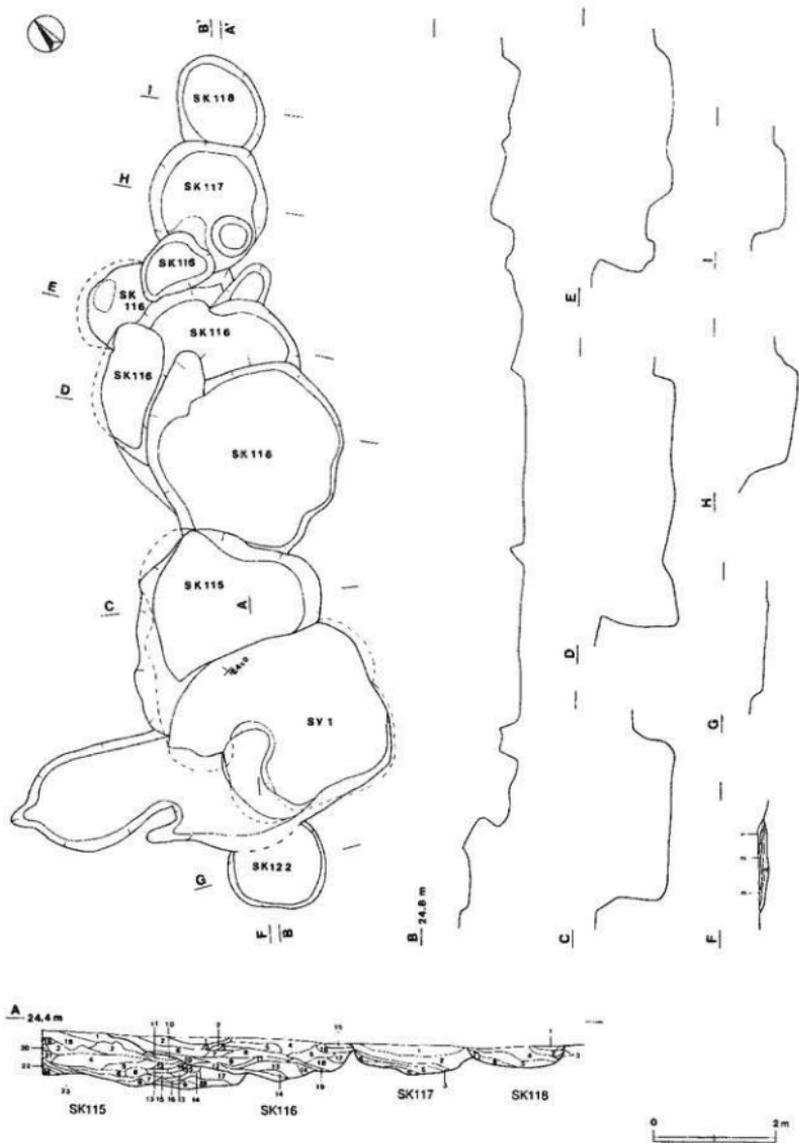
土層解説

1 黒褐色	焼土小ブロック・炭化物・焼土粒子中量	砂質	24 黒褐色	炭化物多量、焼土粒子中量	砂質
2 暗赤褐色	焼土小ブロック・炭化物多量、焼土中ブロック中量	砂質	25 黒褐色	炭化物多量、焼土粒子少量	砂質
3 赤褐色	焼けた砂層		26 黒褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量	灰を含む砂層
4 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量	焼けた砂層	27 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量	砂質
5 にいれ褐色	焼土小ブロック多量	焼けた砂層	28 黒褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量	砂質
6 赤褐色	焼土大・中ブロック多量、炭化粒子少量	焼けた砂層	29 黒褐色	炭化粒子多量、焼土粒子中量	砂質
7 暗赤褐色	焼土小ブロック・炭化粒子中量	焼けた砂層	30 赤褐色	焼けた砂層	
8 暗赤褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量	焼けた砂層	31 黒色	炭化粒子を含む砂層	
9 赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック中量	焼けた砂層	32 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量	飯糰状の砂層
10 暗赤褐色	焼土粒子多量、焼けた砂層		33 褐色	粘土少量	砂質
11 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量	焼けた砂層	34 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量、粘土小ブロック少量	
12 赤褐色	焼土粒子多量、炭化物中量	焼けた砂層	35 暗赤褐色	熱を受けた砂層	
13 暗赤褐色	焼土粒子中量	焼けた砂層	36 褐色	焼土小ブロック少量	
14 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	焼けた砂層	37 褐色	粘土層	
15 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、白色粘土粒子少量		38 浅褐色	粘土中ブロック多量	砂質
16 にいれ褐色	炭化粒子・白色粘土粒子少量		39 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・粘土中ブロック少量	
17 黒色	炭化物多量		40 褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量	
18 黒色	炭化粒子多量、焼土粒子中量	灰を含む砂層	41 にいれ褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化粒子中量	砂質
19 黒色	炭化粒子中量、焼土粒子少量	灰を含む砂層	42 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子微量	
20 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	灰を含む砂層	43 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量	
21 黒色	煤を多量に含む砂層		44 暗褐色	焼土小ブロック多量、炭化粒子少量	焼けた砂層
22 黒色	焼土粒子・炭化粒子少量	煤を多量に含む砂層	45 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・粘土粒子中量	砂質
23 暗赤褐色	炭化物・焼土粒子中量	砂質			

遺物 覆土中から、縄文土器片 8 点、瓦片 7 点、切石 122 点、礫 13 点が出土している。1 の棧瓦片が炭化室の壁面から、2 の棧瓦片が前底部の覆土上層からそれぞれ出土している。

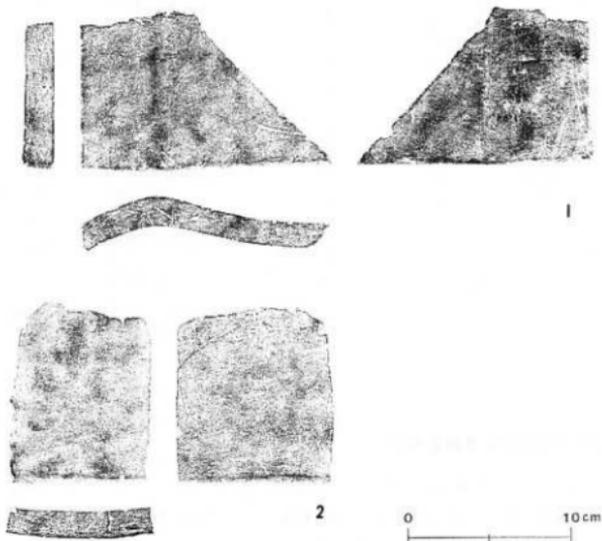


第111図 第1号炭窯跡実測図



第112図 第1号炭窯跡，第115～118・122号土坑出実測図

所見 本跡は、東側を下る斜面部に構築されている。焚口部から炭化室にかけて、火熱を受け粘土が赤変硬化していることから、かなりの高温が継続していたことがうかがえ、使用頻度は高かったと思われる。また、1と2の瓦片や切石は窯壁材として使用されていたものと思われる。時期は、遺構の形態や出土遺物から、近代と考えられる。



第113図 第1号炭窯跡出土遺物実測図

第1号炭窯跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第113図1	桧瓦	(9.5)	(15.3)	1.9	(335.7)	炭化室壁面	T2 P L35
2	桧瓦	(10.4)	(9.6)	1.6	(316.2)	前庭部覆土上層	T1 P L35

第115号土坑 (第111図)

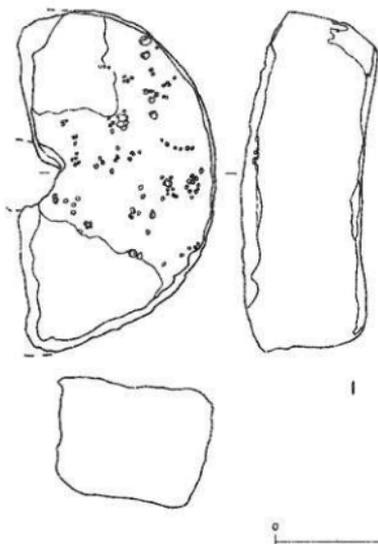
位置 調査区南東部, E 4 b0区。

重複関係 第1号炭窯跡と第116号土坑が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と形状 平面形は、長径3.01m, 短径(2.50)mで不定形, 深さ52cmと推定される。底面は平坦である。壁は北西壁が底面近くでオーバーハングしたあと, 垂直に立ち上がり, 上位で外傾する。

長径方向 N-41°-W

覆土 24層からなり, 不自然な堆積の状況が見られることから, 人為堆積と思われる。上層から中層にかけて, 焼土ブロック・焼土粒子や炭化物・炭化粒子等が多量に含まれている。



- 土層解説
- 1 暗赤褐色 小礫・炭化物・焼土粒子中量 砂質
 - 2 にいり褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、炭化物少量 砂質
 - 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子中量 砂質
 - 4 赤褐色 焼土粒子微量
 - 5 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
 - 6 暗褐色 ローム粒子中量
 - 7 暗褐色 粘土中ブロック中量
 - 8 黒色 炭化物中量
 - 9 橙褐色 粘土粒子中量
 - 10 暗赤褐色 ローム粒子少量
 - 11 黒褐色 炭化物中量、焼土大ブロック微量
 - 12 黒褐色 砂粒中量
 - 13 黒褐色 ローム粒子微量
 - 14 黒褐色 ローム小ブロック中量
 - 15 黒褐色 粘土大ブロック少量
 - 16 にいり褐色 粘土小ブロック多量
 - 17 黒褐色 ローム大ブロック・粘土中ブロック中量
 - 18 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化粒子中量、炭化物少量 砂質
 - 19 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子中量 砂質
 - 20 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量 砂質
 - 21 赤褐色 炭化粒子中量、炭化物・焼土粒子少量 砂質
 - 22 にいり褐色 粘土粒子多量、粘土小ブロック・炭化粒子中量 砂質
 - 23 明黄褐色 粘土中ブロック中量、焼土粒子少量 砂質
 - 24 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第114図 第115号土坑出土遺物実測図

遺物 覆土中から、土師器片11点、縄文土器片15点、石臼1点、瓦片2点、切石8点、礫10点が出土している。

所見 本跡は、灰白色粘土層を掘り込んでおり、底面は全面が粘土であることから、炭窟の構築のために粘土採掘を目的とした遺構であると思われる。1の石臼は敷石として、瓦片や切石は窯壁材として使用され、その後、天井部や窯壁部の崩落焼土や炭化物等と共に投棄されたものと思われる。時期は、第1号炭窟跡と同時期のものと思われることから、近代と考えられる。

第115号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値			石質	出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第114図1	石臼	27.5	10.8	(5157.3)	安山岩	覆土中	Q15 P.I.37 下臼 敷石への転用

第116号土坑 (第111図)

位置 調査区南東部、E 4 b0区。

重複関係 本跡が第115号土坑を掘り込み、第117号土坑に掘り込まれていることから、第115号土坑より新しく、第117号土坑より古い。

規模と形状 平面形は、長径(5.20)m、短径3.42mの不定形で、深さ126cmと推定される。底面は凹凸である。壁は北西壁が底面近くでオーバーハングしたあと、垂直に立ち上がる。

長径方向 N-14°-E

覆土 19層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。上層から中層にかけて、焼土ブロック・焼土粒子や炭化物・炭化粒子等が多量に含まれている。

土層解説

- 1 黒色 炭化物多量、焼土小ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化物少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 5 黒色 炭化物・ローム粒子中量、焼土粒子微量、砂質
- 6 黒褐色 炭化粒子多量、炭化物中量、炭化材・焼土粒子少量、焼土中ブロック微量、砂質
- 7 暗褐色 粘土小ブロック中量
- 8 黒褐色 粘土中ブロック・ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
- 9 にみ黄褐色 粘土小ブロック多量、ローム小ブロック中量
- 10 暗褐色 粘土粒子中量、砂質
- 11 黒褐色 粘土小ブロック中量
- 12 黒褐色 粘土大ブロック多量、ローム粒子少量
- 13 黒褐色 粘土大ブロック中量
- 14 にみ黄褐色 砂質
- 15 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 16 黒褐色 ローム小ブロック中量、炭化物微量
- 17 暗褐色 ローム小ブロック中量
- 18 にみ黄褐色 粘土大ブロック中量
- 19 黒褐色 粘土粒子多量、ローム粒子中量

遺物 覆土中から、土師器片26点、縄文土器片9点、小形磨製石斧1点が出土している。

所見 本跡は、灰白色粘土層を掘り込んでおり、底面は全面が粘土であることから、炭窯の構築のために粘土採掘が行われた遺構であると思われる。覆土上層から中層にかけて、焼土ブロック・焼土粒子や炭化物・炭化粒子等が多量に含まれていることから、天井部や窯壁部の崩落焼土や炭化物等が投棄されたものと思われる。時期は、第1号炭窯跡と同時期のものと思われることから、近代と考えられる。

第117号土坑（第111図）

位置 調査区南東部，E5a区。

重複関係 本跡が第116号土坑を掘り込み、第118号土坑に掘り込まれていることから、第116号土坑より新しく、第118号土坑より古い。

規模と形状 平面形は、長径(2.20)m、短径1.90mで楕円形、深さ58cmと推定される。底面は南側がやや掘り込みが深い、おおむね平坦である。壁は外傾して立ち上がる。

長径方向 N-8°-E

覆土 6層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量
- 3 にみ黄褐色 砂質
- 4 黒褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 粘土小ブロック多量、砂粒少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、砂粒少量、粘土中ブロック微量

遺物 覆土中から、土師器片1点が出土している。

所見 本跡は、灰白色粘土層を掘り込んでおり、底面は全面が粘土であることから、炭窯の構築のために粘土採掘が行われた遺構であると思われる。時期は、第1号炭窯跡と同時期のものと思われることから、近代と考えられる。

第118号土坑（第111図）

位置 調査区南東部，E5a区。

重複関係 本跡が第117号土坑を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と形状 平面形は、長径(1.46)m、短径1.40mの円形、深さ52cmと推定される。底面は平坦である。壁

は外傾して立ち上がる。

長径方向 N-10°-E

覆土 7層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 灰白色 砂粒・粘土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 粘土中ブロック中量、砂粒少量
- 7 暗褐色 粘土小ブロック中量、砂粒少量

所見 本跡は、灰白色粘土層を掘り込んでおり、第117号土坑と掘り方が類似していることから、粘土探掘のために掘り込まれた遺構であると思われる。遺物は出土していないが、時期は、第1号炭竈跡と同時期のものと思われることから、近代と考えられる。

第122号土坑（第111図）

位置 調査区南東部、E4c9区。

重複関係 本跡が、第1号炭竈跡の前庭部の南西隅の一部を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と形状 平面形は、長径1.60m、短径（0.98）mで不整形円形、深さ15cmと推定される。底面は平坦である。

壁は外傾して立ち上がる。

長径方向 N-47°-E

覆土 4層からなり、焼土ブロック・焼土粒子や炭化物・炭化粒子等を多く含有している状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・炭化粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
- 2 灰白色 砂粒多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 灰白色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒中量、炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

所見 本跡は、第1号炭竈跡の前庭部の一部を掘り込んでいるが、覆土上層から中層にかけて、焼土ブロック・焼土粒子や炭化物・炭化粒子等が多量に含まれており、第115・116号土坑と堆積状況が類似していることから、天井部や窓壁部の崩落焼土や炭化物等が投棄されたものと思われる。遺物は出土していないが、時期は、第1号炭竈跡と同時期のものと思われることから、近代と考えられる。

6 溝

今回の調査で、調査区北部から2条、北部から北東部にかけて1条、計3条の溝が確認された。ほとんどの溝は、平坦部では覆土が薄く、北東部の斜面部では掘り込みが増すものの、出土遺物がほとんどないことから、性格や時期は不明であるが、2条の溝は住居跡を掘り込んでいることから、古墳時代の後期以降と考えられる。また、調査区の北東部では、溝の北側に隣接して井戸跡が検出されており、井戸と関連する可能性も考えられる。さらに、最近の地籍図の準境と溝の位置がほぼ一致していることから、土地の区画溝的な役割にも利用されたものと思われる。

検出された溝（第115図、付図1）の特徴や遺物については、一覧表で記載し、平面図（付図1）、土層断面図及び土層解説を掲載する。

第1号溝土層解説（SPA～A）

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第1号溝土層解説（SPB～B）

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子微量

第2号溝土層解説（SPE～E）

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大・中ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子多量、ローム大・小ブロック少量

第3号溝土層解説（SPH～H）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第3号溝土層解説（SPI～I）

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第3号溝土層解説（SPJ～J）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム大・中・小ブロック中量、ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

第3号溝土層解説（SPK～K）

- 1 黒褐色 ローム大・小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム大ブロック中量、ローム中ブロック少量、炭化物・ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック少量、ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック少量、ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子微量

第3号溝土層解説（SPL～L）

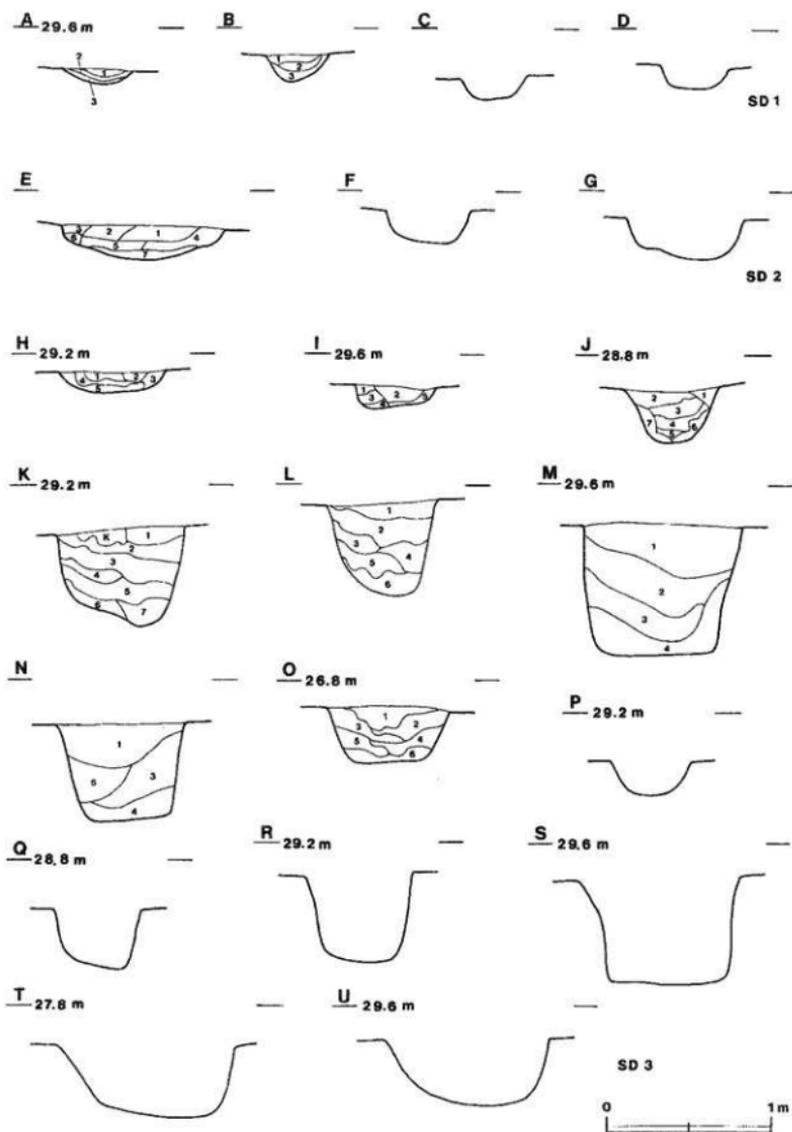
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム大・中ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム大・中ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム大・小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム大・小ブロック少量

第3号溝土層解説（SPM～M, SPN～N）

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム大ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第3号溝土層解説（SPO～O）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、焼土中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・龍沼中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、龍沼大・中・小ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、龍沼小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック・炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量



第115図 第1・2・3溝実測図

7 円形周溝状遺構

今回の調査で、調査区中央部から南部にかけて円形周溝状遺構4基が確認された。以下、それぞれの円形周溝状遺構の特徴と出土遺物について記載する。

第1号円形周溝状遺構（SX-1）（第116図）

位置 調査区中央部，D4d2区。

重複関係 本跡は，第81号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 周溝内径は約4.09mの円形で，周溝に囲まれた部分には掘り込み等関連する施設は見られない。周溝の上幅は0.31～0.56m，下幅は0.11～0.40mで，深さ0.15～0.28mである。断面形は逆台形状で，壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土 3層からなり，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

SPA～A土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

SPB～B土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

SPC～C土層解説

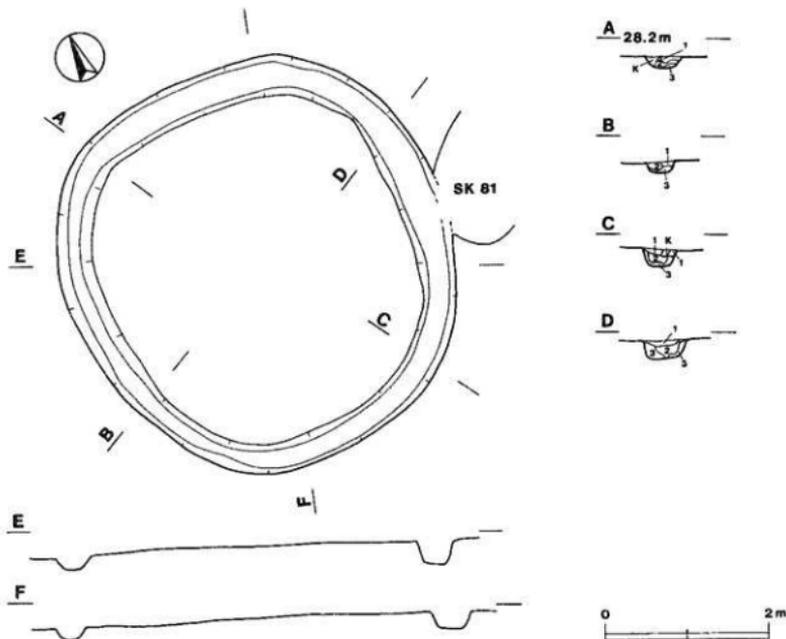
- 1 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

SPD～D土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物 視土中から，土師器片14点が出土している。

所見 遺物は少なく，ほとんどが細片であり，本跡の性格や時期については不明である。



第116図 第1号円形周溝状遺構実測図

第2号円形周溝状遺構(SX-2)(第117図)

位置 調査区中央部, D3d8区。

規模と形状 周溝内径は約3.65mの不整形円で、周溝に囲まれた部分には掘り込み等関連する施設は見られない。周溝の上幅は0.40~0.56m, 下幅は0.15~0.36mで、深さ0.18~0.25mである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土 5層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

SPA~A土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 鹿沼粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・鹿沼小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 鹿沼中ブロック少量, 鹿沼粒子・炭化粒子微量

SPB~B土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・鹿沼粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・鹿沼小ブロック・炭化粒子微量

SPC~C土層解説

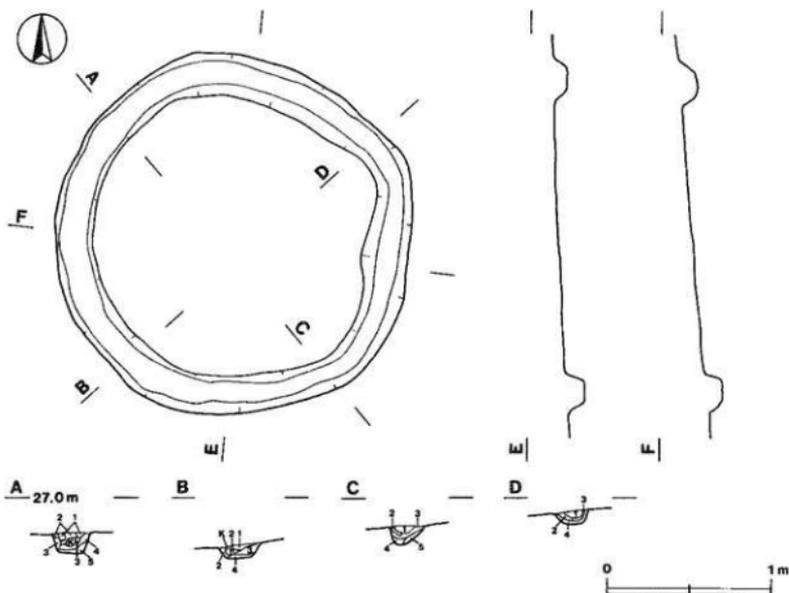
- 1 黒褐色 ローム大ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

SPD~D土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・鹿沼粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 覆土中から、土師器片11点が出土している。

所見 遺物は少なく、ほとんどが細片であり、本跡の性格や時期については不明である。



第117図 第2号円形周溝状遺構実測図

第3号円形周溝状遺構 (SX-3) (第118図)

位置 調査区南部, D 316区。

規模と形状 周溝内径は約1.73mの円形で, 周溝に囲まれた部分には掘り込み等関連する施設は見られない。周溝の上幅は0.33~0.49m, 下幅は0.15~0.30mで, 深さ0.16~0.29mである。断面形はU字状で, 壁は外傾して立ち上がる。底面は皿状である。

覆土 3層からなり, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

SPA~A'土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・鹿沼小ブロック・鹿沼粒子微量

SPB~B'土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 鹿沼中ブロック・鹿沼粒子微量

SPC~C'土層解説

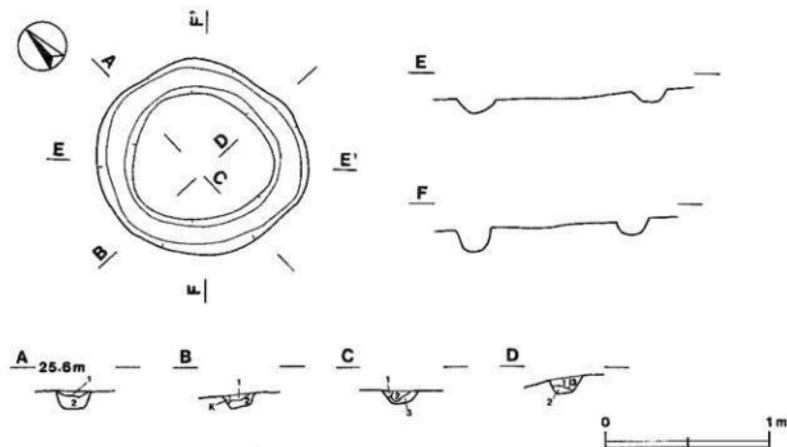
- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

3 褐色 ローム粒子多量

SPD~D'土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 鹿沼中ブロック・鹿沼粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 鹿沼粒子微量

所見 出土遺物はなく, 他の遺構との重複関係もないことから, 本跡の性格や時期については不明である。



第118図 第3号円形周溝状遺構実測図

第4号円形周溝状遺構 (SX-4) (第119図)

位置 調査区南部, E 4g8区。

規模と形状 周溝内径は約1.93mの円形で, 周溝に囲まれた部分は平坦である。周溝の上幅は0.26~0.41m, 下幅は0.17~0.31mで, 深さ0.08~0.18mである。断面形は逆台形状で, 壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。周溝に囲まれた平坦部の中央部と南側に長径0.86~1.00m, 短径0.22~0.30mの長楕円形で, 深さ0.11~0.20mの2か所の掘り込みがみられる。

遺構内土層1・2土層解説

4 灰褐色 砂粒多量

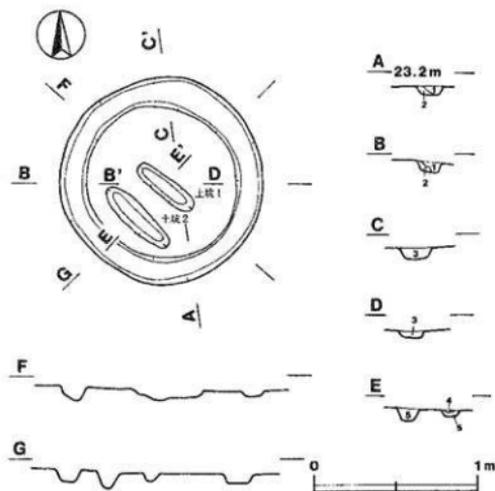
5 黒褐色 砂粒少量

覆土 3層からなり, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 灰褐色 砂粒・粘土粒少量, 炭化粒子微量
- 2 明黄褐色 砂粒中量, 粘土粒少量

3 暗褐色 砂粒・粘土粒少量, 炭化粒子微量



第119図 第4号円形周溝状遺構実測図

遺物 覆土中から、縄文土器片1点が出土している。

所見 遺物は少なく、細片であり、本跡の性格や時期については不明である。また、周溝に囲まれた平坦部の2か所の掘り込みについても、本跡に関連する施設かどうか不明である。

8 遺物包含層

今回の調査で、調査区の南部と南東部の谷部から遺物包含層2か所が確認された。以下、それぞれの特徴と出土遺物について記載する。

第1号遺物包含層(第120・121図)

位置 調査区南部、D3・E3区付近。

規模と形状 中央部から調査区域外の南方向に向かって谷津が形成されている。この谷頭の南北約37m、東西約25mに土器片等の包含がみられる。

覆土 8層からなり、自然堆積と考えられる。傾斜地に向かって、自然に流れ込んだと思われる黒褐色土や暗褐色土の堆積が確認された。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量	5 褐色 ローム粒子中量 砂質
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・黒色粒子微量	6 黒褐色 粘土質
3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色 ローム粒子微量
4 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量	8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・黒色粒子微量

遺物 覆土上層から中層にかけて縄文土器片164点、土製円板1点、台石1点、土師器片9点が出土している。縄文時代の遺物は1～14、古墳時代後期の遺物は15～17で、位置と層位を把握できた遺物は、14～17である。

1～12は深鉢の破片である。1と2は早期中葉田戸下層式の土器である。1は縁く外反する口縁部片で、口唇部直下に2条の沈線文が走り、その下部には縦位の沈線文が施されている。2は胴部片で、平行沈線文と刺突文が施文されている。

3と4は早期の無文土器である。3はやや外削ぎ状の口縁部片、4は胴部片で、いずれも横位のナデが施されている。

5と6は胎土に繊維が含まれる前期前葉黒浜式の土器である。5は口唇部が平坦な口縁部片で、結節した羽状縄文が施されている。6は口唇部が平坦で波状口縁を呈し、単節縄文が斜方向に施文されている。

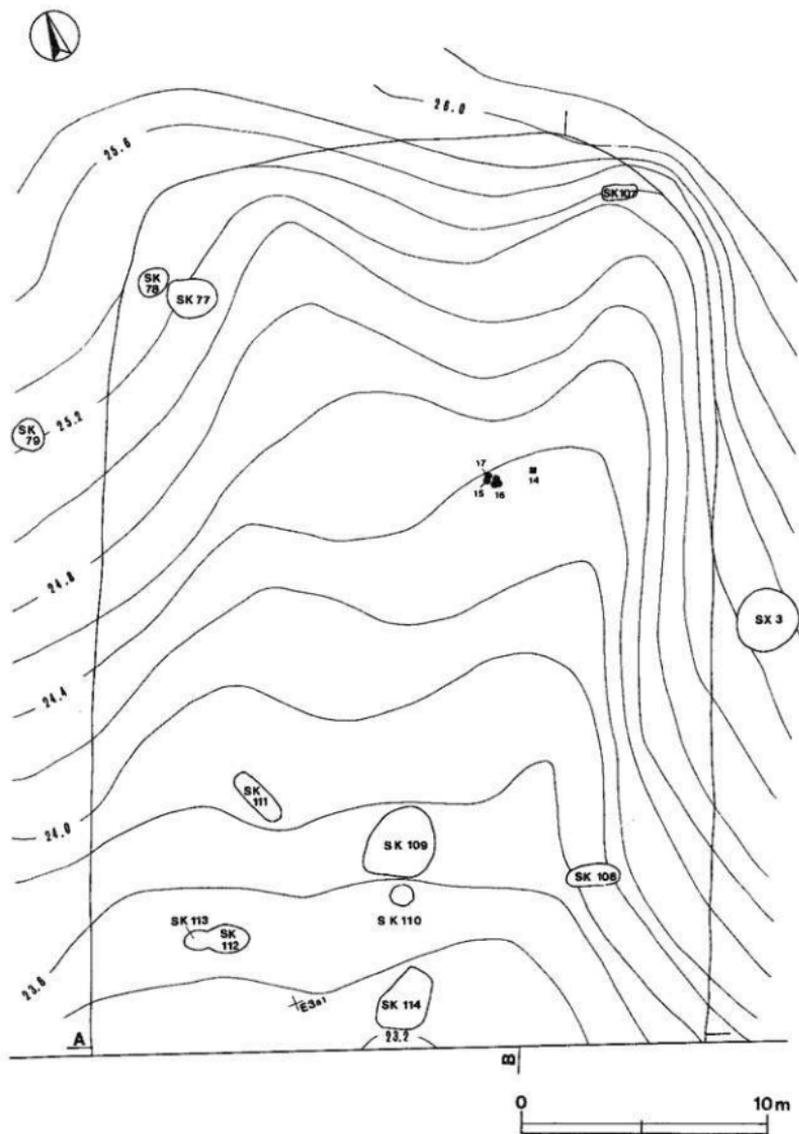
7～11は前期後葉浮島式の土器である。7と8は口縁部片、9～11は胴部片で、変形爪形文と沈線文が施されている一群である。10には変形爪形文の下部に貝殻波状文が施文されている。

12は前期後葉の土器の胴部片で、沈線による波状文が施されている。

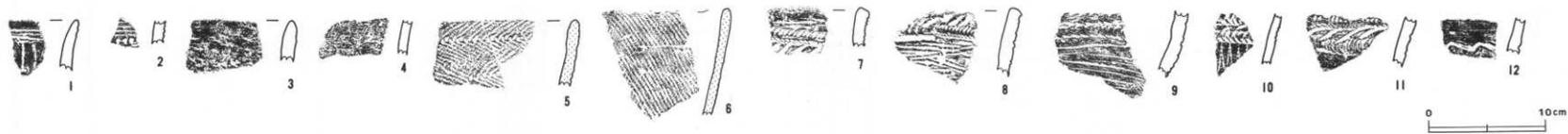
1～12の縄文土器片は覆土上層から中層にかけて出土している。13の土製円板は覆土中層から、14の台石はほぼ中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

15の土師器杯、16と17の輪がほぼ中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

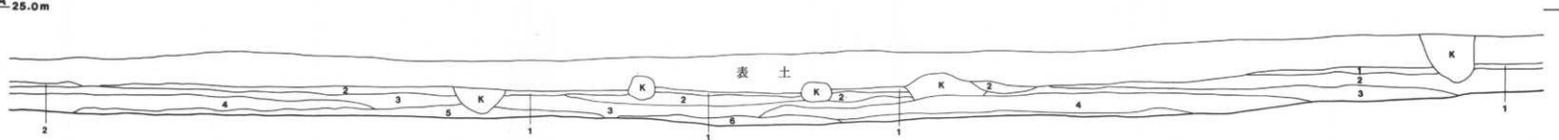
所見 縄文時代の遺物は覆土上層から中層にかけて出土しており、早期中葉田戸下層式から前期後葉浮島式までの土器を包含するが、浮島式の土器群が主体を占めている。古墳時代後期の遺物を包含する層は、覆土上層の第4層の上部と第7層である。ほとんどの土器片は接合関係がなく、摩滅していることから自然流入したものとと思われる。また、古墳時代後期の土師器片が覆土上層から出土していることから、この谷津は6世紀代には完全に埋まっていたものと考えられる。



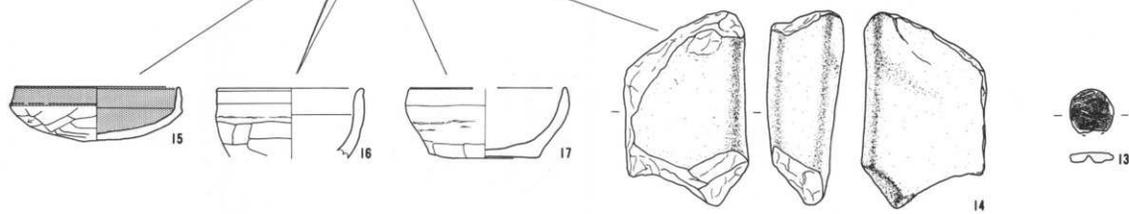
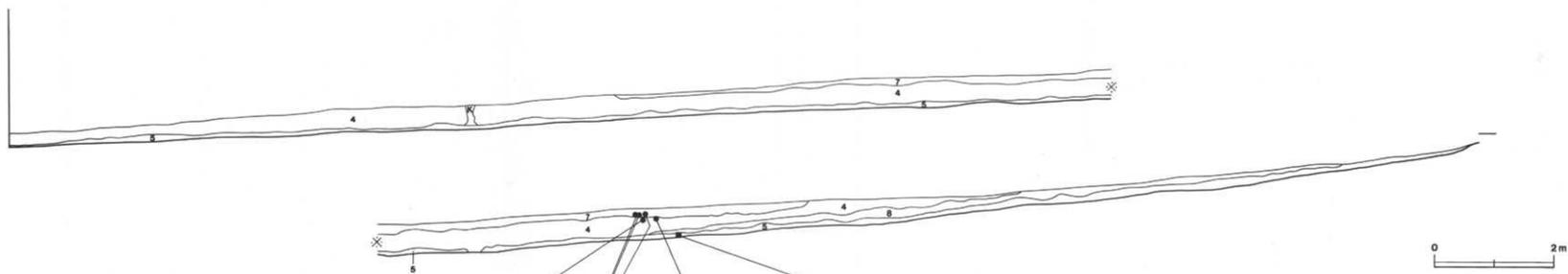
第120図 第1号遺物包含層平面図



A 25.0m



B 26.0m



第121图 第1号遗物包含层土层断面图·出土物实测图

第1号遺物包含層出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第121図B	土製円板	3.6	0.7	0.6	(10.8)	覆土中層	縄文土製銅器片板用 表面に貫通していない孔あり DP23 P.L35

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
14	台石	15.3	10.1	5.1	(1273)	砂岩	覆土下層 Q17 P.L37	

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
15	土器 環	A 13.2	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外向横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面・内面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P285 60% P.L31 覆土上層
		B 4.3				
16	土器 碗	A 11.7	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。肩部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内向横ナデ。体部外面に輪痕み痕が残る。	長石 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P285 20% P.L31 覆土上層
		B (5.5)				
17	土器 碗	A 12.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は直立し、肩部は失る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横ナデ。底部へラ削り。体部外面に輪痕み痕が残る。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P286 60% P.L31 覆土上層
		B 5.6				
		C 8.8				

第2号遺物包含層 (第122・124図)

位置 調査区南東部, E4区付近。

規模と形状 北側から調査区域外の南方向に向かって、谷津が形成されている。範囲は南北約27m, 東西約20mである。

覆土 7層からなり、自然堆積と考えられる。傾斜地に向かって、自然に流れ込んだと思われる暗褐色土や黒褐色土の堆積が確認された。

土層解説

1 暗褐色	ローム大・中・小ブロック少量	5 黒褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム小ブロック中量	6 黒褐色	小礫を含む砂質
3 褐色	ローム小ブロック中量	7 黒色	腐植土
4 黒褐色	ローム小ブロック中量 砂質		

遺物 縄文土器片1180点, 土製円板1点, 石鏝1点, 石匙1点, 石皿1点, 土器器片36点, 陶器片2点, 磁器片2点が出土している。縄文時代の遺物は1~53, 古墳時代後期の遺物は54, 55, 近世の遺物は56である。

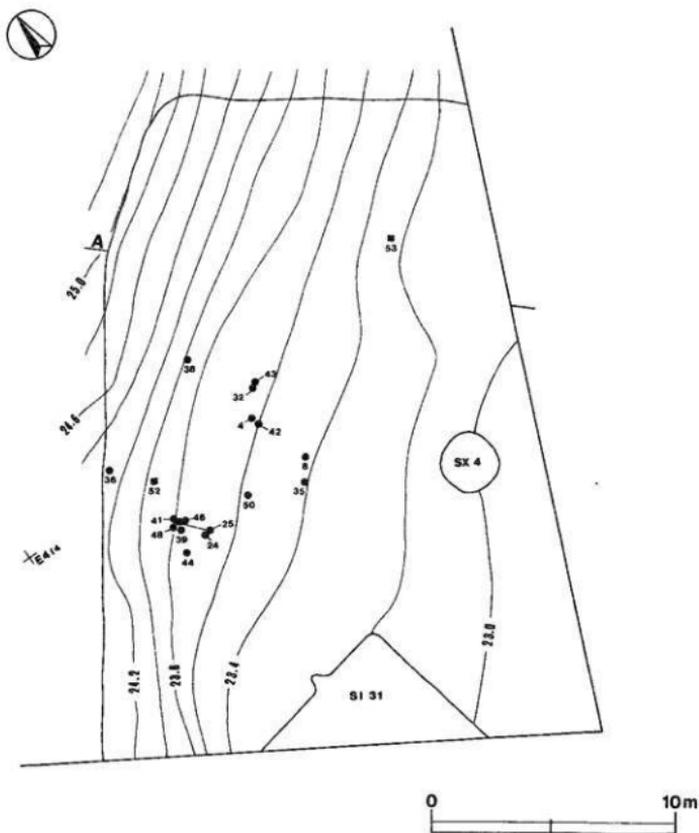
1~33, 35~49は深鉢, 34は浅鉢の破片である。1~7は早期の燃糸系土器の一群である。1~5は口縁部片である。1は肥厚した口縁で、口唇部直下から燃りの細かい燃糸文が施されている。2~4は断面へラ状を呈し、まばらな燃糸文が施されている。5はやや内削ぎ状の口縁を呈し、まばらな燃糸文が施されている。6と7は胴部片で、まばらな燃糸文が施されている。1~7は早期前葉稲荷台式期に属すると考えられる。

8~17は早期の沈線文系土器の一群である。8は胴部片で、細い沈線文が横位と斜位に施されている。9と10は口縁部片である。9は外削ぎ状の口縁を呈し、口唇部にキザミを有し、口唇部直下から2本単位の平行沈線文を2列配し、その間に横位の爪形文が充填されている。その下部には縦位の沈線文が施されている。10は口唇部にキザミを有し、2ないし3本の平行沈線文の間に爪形文が2列施され、沈線下には横位の貝殻腹縁文が施文されている。11~17は胴部片で、平行沈線文や爪形文、刺突文が施されている。11~13, 16には貝殻腹縁文も施文されている。8は早期中葉三戸式, 9~17は田戸下層式と考えられる。

18~22は早期の無文土器を一括した。18と19は口縁部片である。18は緩く外反する口縁を呈し、内・外面に指痕が見られる。19は外削ぎ状の口唇を呈し、横位のナデが施されている。20~22は胴部片である。20は横位のナデ, 21と22は縦位のナデが施されている。

23は早期後葉の貝殻条痕文系土器である。内・外面に横位の条痕文が施され、胎土に繊維が含まれている。

24-34は前期の土器を一括した。24は口縁部片、25は胴部片で、まばらな撫糸文を地文とし、木の葉文が施されている。26-30は口縁部片である。26の口唇部は棒状工具により押圧され、口縁部に平行沈線文が施されている。27は口唇部外面に縦位の細い条線帯を巡らし、口縁部に変形爪形文が施されている。28は口唇部に条線帯をもち、横位の沈線文と変形爪形文が施されている。29の口唇部は棒状工具により押圧され、縦い波状口縁を呈するものと思われる。口縁部には貝殻腹縁文が施されている。30は口唇部に凹凸文が施されている。31-33は胴部片である。31は横位の沈線文の間に凹凸文が、32は横位の沈線文が施されている。33は横位の沈線文の間に貝殻腹縁文が充填されている。24と25は前期後葉浮島Ⅰ式、26-32は浮島Ⅱ-Ⅲ式、33は興津式と考えられる。34は剥落部分が多いが、諸磯b式と思われる。また、35-38は胴部下位から底部にかけての破片で、浮島式に属すると考えられる。



第122図 第2号遺物包含層平面図

39は中期の加曾利E式土器の胴部片である。沈線による懸垂文間は磨り消している。40の上製円板は加曾利E式土器を再利用したもので、胴部片を円形に研磨している。

41～49は後期の土器を一括した。41～44は口縁部片である。41は波状口縁を呈し、波頂部に円形の刺突が加えられた突起を有する。口唇部直下に1条の沈線が走り、斜位のキザミを有している。口縁部は縄文を地文とし、曲線的沈線文で文様を描出している。42と43は緩い波状口縁を呈し、口縁部に2条の沈線が走り、胴部は懸垂文及び曲線の沈線文で文様を描出している。44は口唇部直下からR.L.の早節斜縄文が横位に施されている。45～49は胴部片で、早節斜縄文を地文とし、棒状工具による曲線の沈線文などで文様を描出している。41～49は後期前葉期之内1式と考えられる。50の蓋も胴之内式に属すると思われる。その他、縄文時代の遺物には51の石鏃、52の縦型石匙、53の石皿などが出土している。

古墳時代後期の遺物には、54の土師器杯、55の土師器甕などが、近世の遺物には56の瀬戸・美濃系陶器鉢などがある。

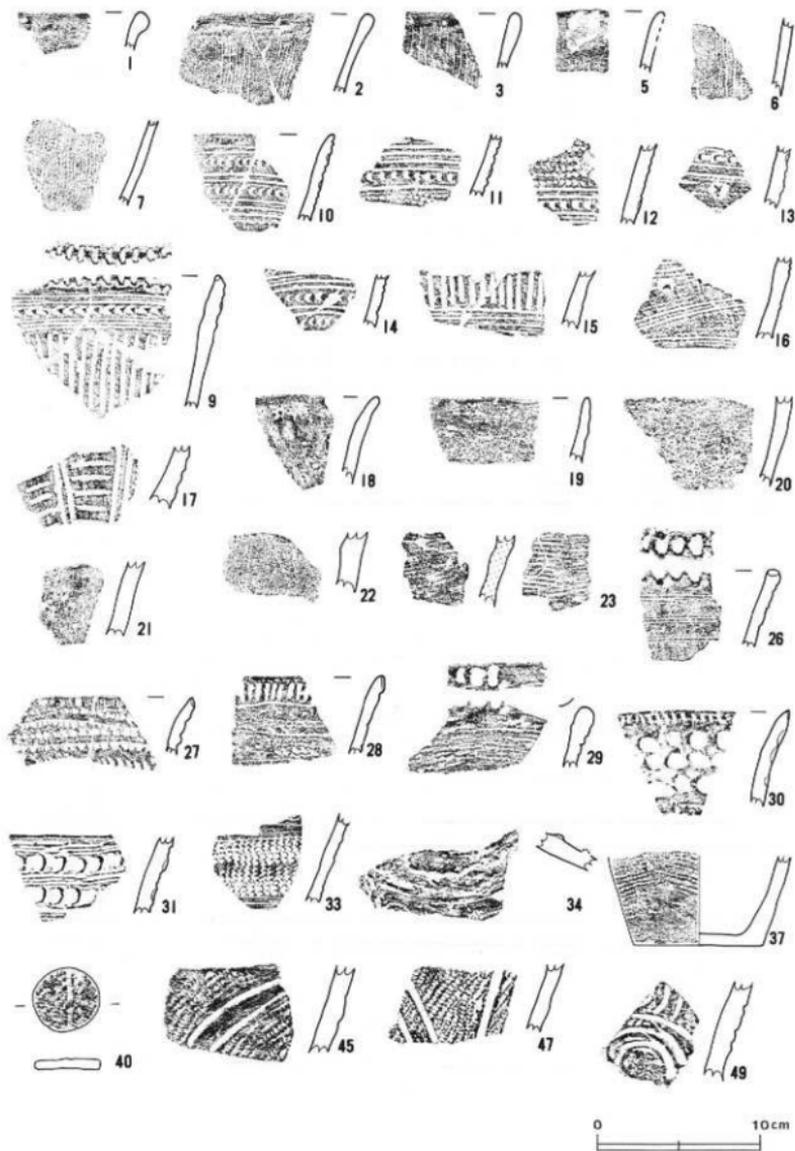
所見 本包含層は、縄文時代の遺物では早期前葉種何台式から後期前葉期之内式までの土器を包含するが、浮島式から興津式と堀之内式の土器の割合が多い。ほとんどの土器片は接合関係がなく、摩滅していることから自然流入したものである。また、本包含層を掘り込んで第31号竪穴住居跡が構築されていることから、この谷津は6世紀代には完全に埋まっていたものと考えられる。

第2号遺物包含層出土遺物観察表

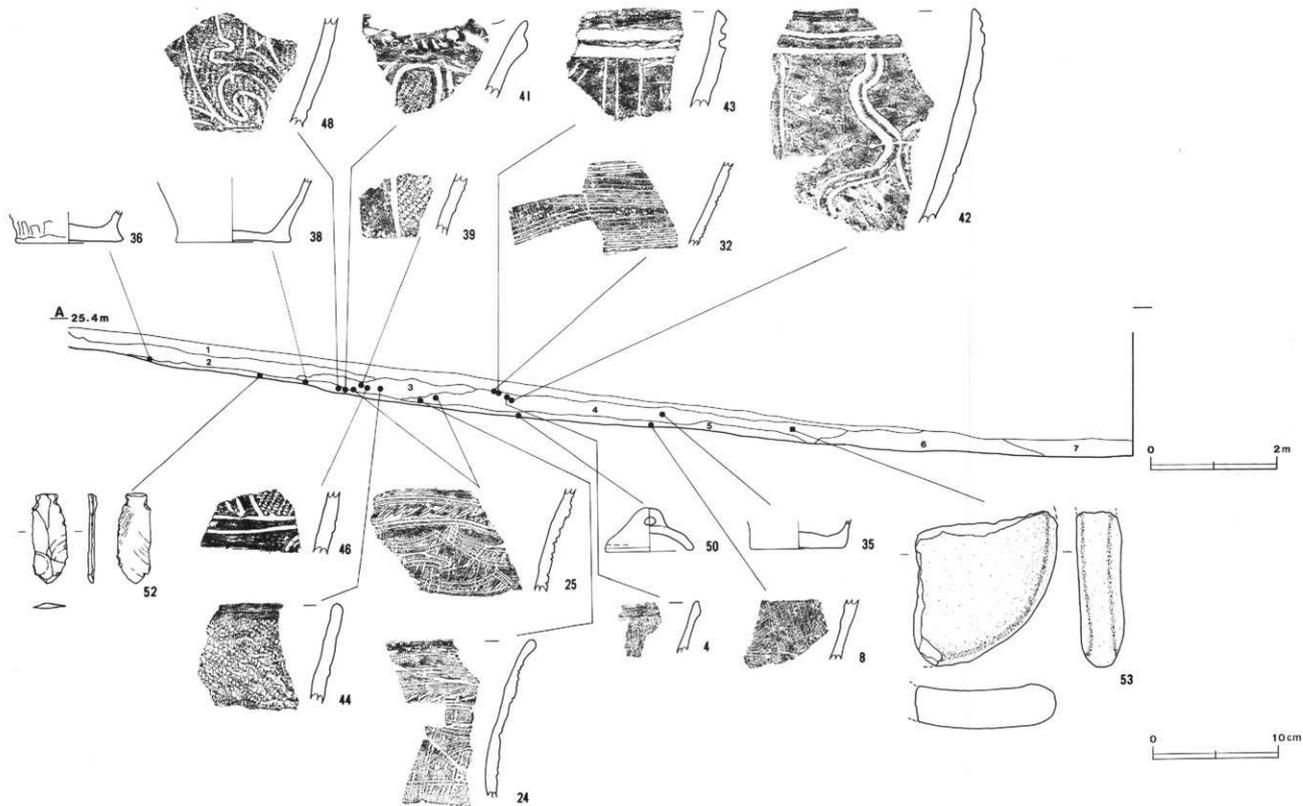
図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色澤・焼成	備考
第124回 35	深鉢	B (2.3)	底部片。胴部には縦位のヘラナデが施されている。	長石 雲母 砂粒 棕色 普通	P290 5% 覆土中層 浮島式
	縄文土器	C 7.6			
36	深鉢	B (2.6)	底部片。底部は横に突出する。胴部には縦位のヘラナデが施されている。	長石 砂粒 棕色 普通	P291 5% 覆土下層 浮島式
	縄文土器	C 8.7			
第123回 37	深鉢	B (3.6)	胴部下位から底部にかけての破片。胴部は緩く外傾して立ち上がる。胴部には懸垂文が横位に施されている。	長石 雲母 砂粒 棕色 普通	P292 10% 覆土上層 浮島式
	縄文土器	C [7.8]			
第124回 38	深鉢	B (5.1)	胴部下位から底部にかけての破片。底部は横にわずかに突出する。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には横位のナデが施されている。	長石 雲母 砂粒 棕色 普通	P293 10% 覆土下層 浮島式
	縄文土器	C 9.2			
50	蓋	A 7.1	胴部につまみをもつ。蓋文。拍瀬による整形後、横位のナデが施されている。	長石 雲母 砂粒 棕色 普通	P298 100% P.L.31 覆土下層 堀之内式
	縄文土器	B 3.5			
		G 1.5			

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第123回40	土製円板	4.2	0.7	15.1	覆土上層	加曾利E式土器胴部片転用 D P24 P.L.35

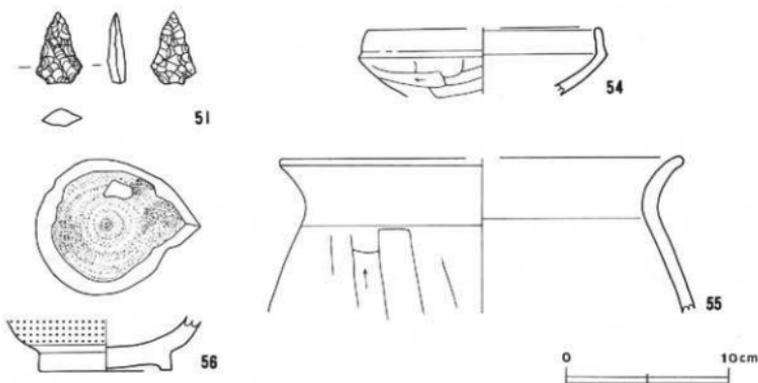
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第123回51	石鏃	2.2	1.4	0.5	0.9	瑪瑙	覆土上層	Q18 P.L.36
第13回52	縦型石匙	7.2	2.7	0.8	11.2	頁岩	覆土下層	Q19 P.L.36
53	石皿	(12.3)	(11.4)	3.6	(652.5)	安山岩	覆土中層	Q20 P.L.37



第123図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第124图 第2号遺物包含層土層断面図・出土遺物実測図(2)



第125図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第125図 54	坏 土器	A [14.1]	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がり、口縁部との境に 稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ ラ削り、内面横ナデ。	長石 雲母 針状鉱物 砂粒 にぶい橙色 普通	P288 15% 覆土上層
		B (4.1)				
55	壺 土器	A [25.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がる。口縁部は外反す る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦 位のヘラ削り、内面横ナデ。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	P289 5% 覆土中
		B (9.5)				
56	鉢 陶器	B (3.3)	高台部から体部の破片。高台部は短 く、直線的に開く。体部は内彎気味 に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 ヘラ削り。底部内面にトチンの痕跡 が残る。高台部削り出し。体部内・ 外面、底部内面灰釉施軸。	長石 砂粒 明黄褐色 普通	P287 10% 甕戸・美濃系 18C 覆土中
		D 8.0				
		E 1.2				

9 遺構外出土遺物

当遺跡からは、遺構に伴わない旧石器時代から近世までの土器片や土製品、石器等が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。(第126～129図)

遺構外出土石器・観察表(旧石器時代)(第126図)

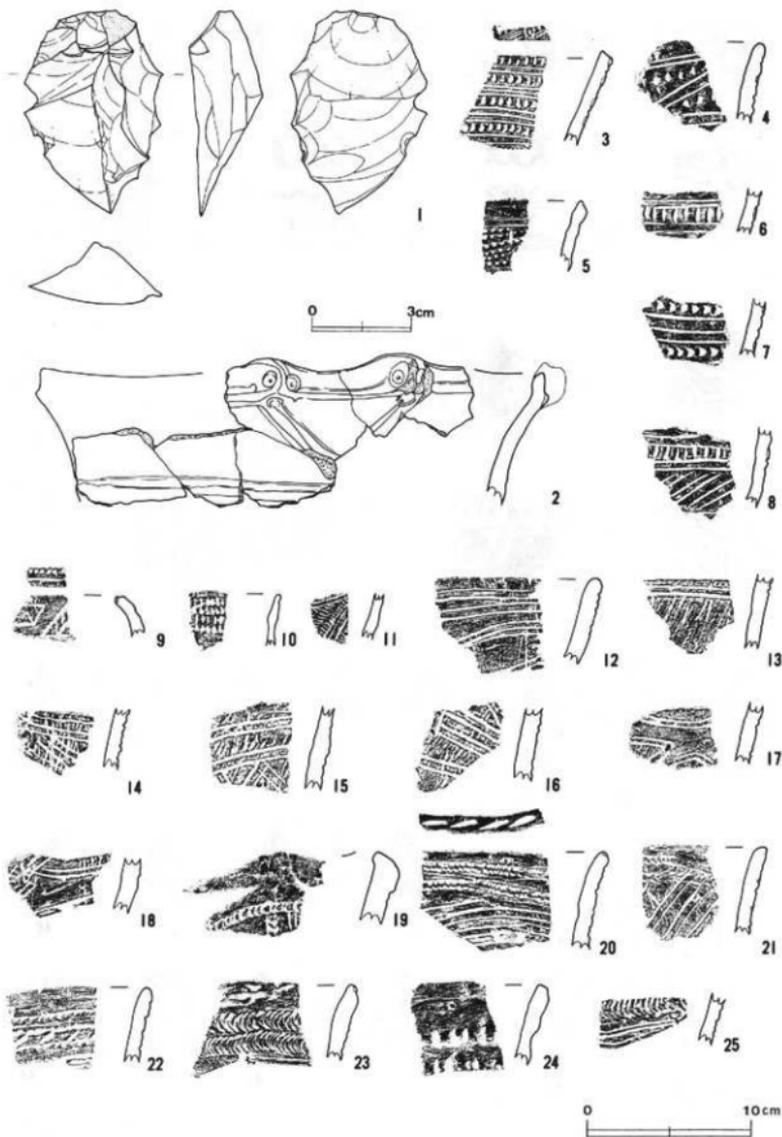
図版番号	種類	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	剥片	6.2	4.3	2.3	35.4	注質頁岩	S I - 25 覆土中	Q48 P L36

遺構外出土遺物観察表(縄文時代)(第126図)

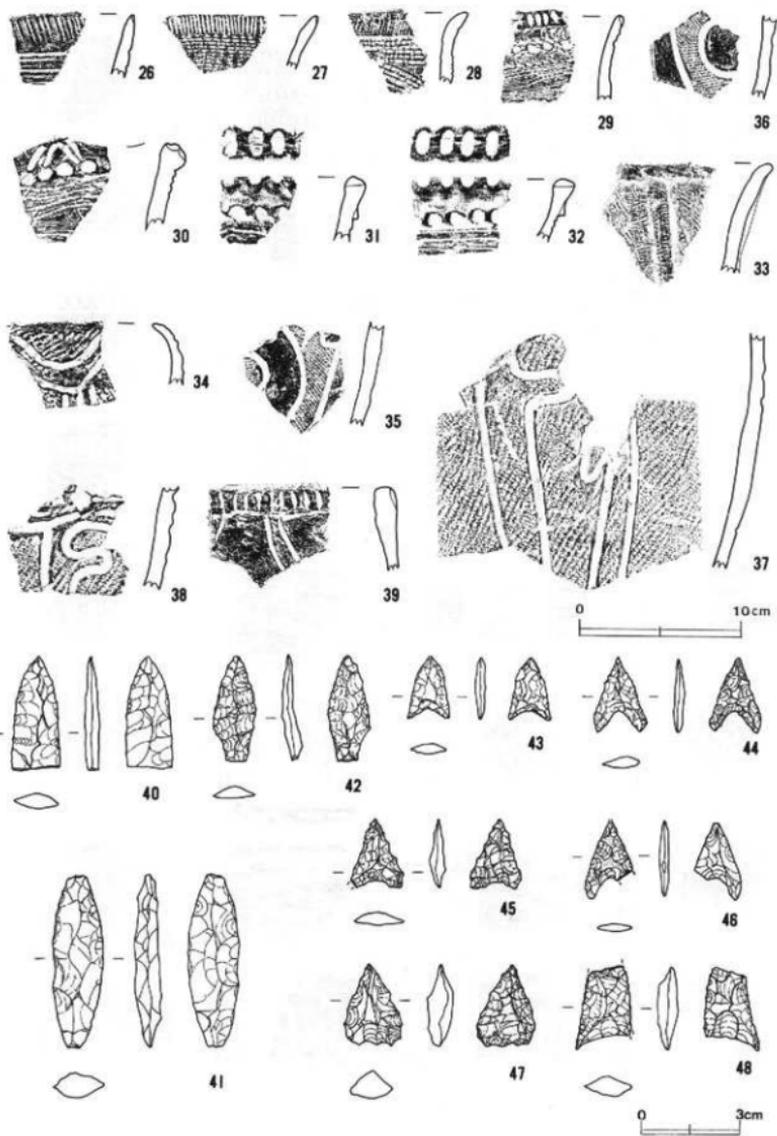
図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	深鉢形土器 縄文土器	A [31.0] B (S.8)	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部に管状の刺突が加えられた扇状の突起を有する。口唇部直下に1本の沈線が走る。口縁部には沈線がV字状に落下し、その下部に横位の沈線が走る。	灰石 空母 砂鉄 棕色 普通	P297 5% P.L.31 SI12覆土中 甕之内式

遺構外出土遺物観察表(縄文時代)(第126・127図)

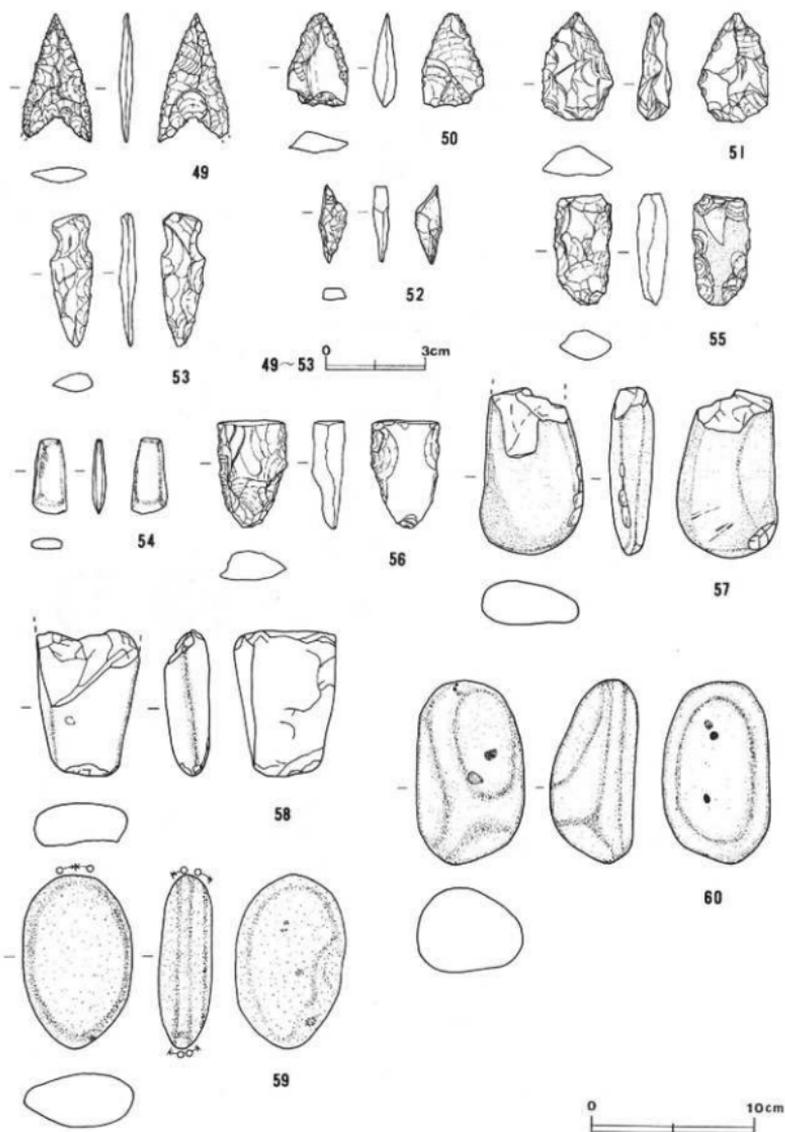
番	時期	型式	図版番号	器種・部分	器形及び文様の特徴	備考	
I	早中 期	中(下層)	3～5	深鉢形土器口縁部片	3は口唇部に縦位と斜位を組み合わせた沈線文が施され、口唇部には2ないし3本の平行沈線文の間に刺突文が充填されている。4は横位と斜位の平行沈線文の間に刺突文が施されている。5は口唇部は外削ぎ状で、2本の平行沈線文の下部に貝殻縁線文が施されている。	T P 78 - 83 P L 33 表上 試験トレンチ	
			6～8	深鉢形土器胴部片	6は平行沈線文の間に刺突文が施されている。7は平行沈線文の間に爪形状の刺突文が施されている。8は横位と斜位の平行沈線文の間に刺突文が充填されている。		
	常世	出口上層	9	深鉢形土器口縁部片	口唇部は内彎する。口唇部内端にキズミを有し、口唇部に1本の沈線文、口縁部には沈線文内に貝殻縁線文が施されている。	T P 84 SI - 10 覆土中	
			10 11	深鉢形土器胴部片 深鉢形土器胴部片	10は4段に爪形文が施されている。 11は横位と斜位の沈線文内に爪形文が施されている。	T P 85 - 86 P L 33 表土 東北南部系	
II	前後 期	洋島	12 13-18	深鉢形土器口縁部片 深鉢形土器胴部片	然赤文を地文とし、沈線文が横位に施されている。13～18は然赤文を地文とし、沈線文が横位や斜位に施されている。	T P 87 - 100 P L 33 表上・試験トレンチ Sk.115-116 覆土中	
			19-24	深鉢形土器口縁部片	19は波状口縁を呈し、爪形文が施されている。20は口唇部にキズミを有し、口唇部に爪形文とその下部に横位の沈線文が施されている。21は爪形文とその下部に斜位の沈線文が施されている。22は2段の爪形文の間に斜位の刺突文が充填されている。23は2段の変形爪形文とその下部に横位の沈線文が施されている。24は輪楕形を段状にし、その下層を押し込んでいる。		
			25	深鉢形土器胴部片	変形爪形文とその下部に横位の沈線文が施されている。		
		興洋	不明	26-32	深鉢形土器口縁部片	26～28は口唇部に刺み状の縦位の条線帯をもち、その下部に26は横位の平行沈線文、27は貝殻縁線文、28は結節沈線文が施されている。29は口唇部にキズミを有し、口唇部に2段の変形爪形文とその下部に横位の沈線文が施されている。30は口唇部にキズミと棒状工具による門形の押し込みがある。口縁部に爪形文とその下部に横位の沈線文が施されている。31と32の口唇部は棒状工具により押し込められ、口唇部の輪楕形には凹凸文が施され、その下部には平行沈線文が施されている。	T P 101 - 107 P L 33 表上 試験トレンチ・1429
				33	深鉢形土器口縁部片	口唇部から垂下する隆帯上に貝殻縁線文が施され、隆帯の両側には貝殻条線文が施されている。	T P 108 P L 33 試験トレンチ
III	中後 期	加賀利E	34	深鉢形土器口縁部片	口唇部は内彎する。口唇部は棒状工具による沈線で文様を構成し、刺突文を充填している。	T P 109 P L 33 表上	



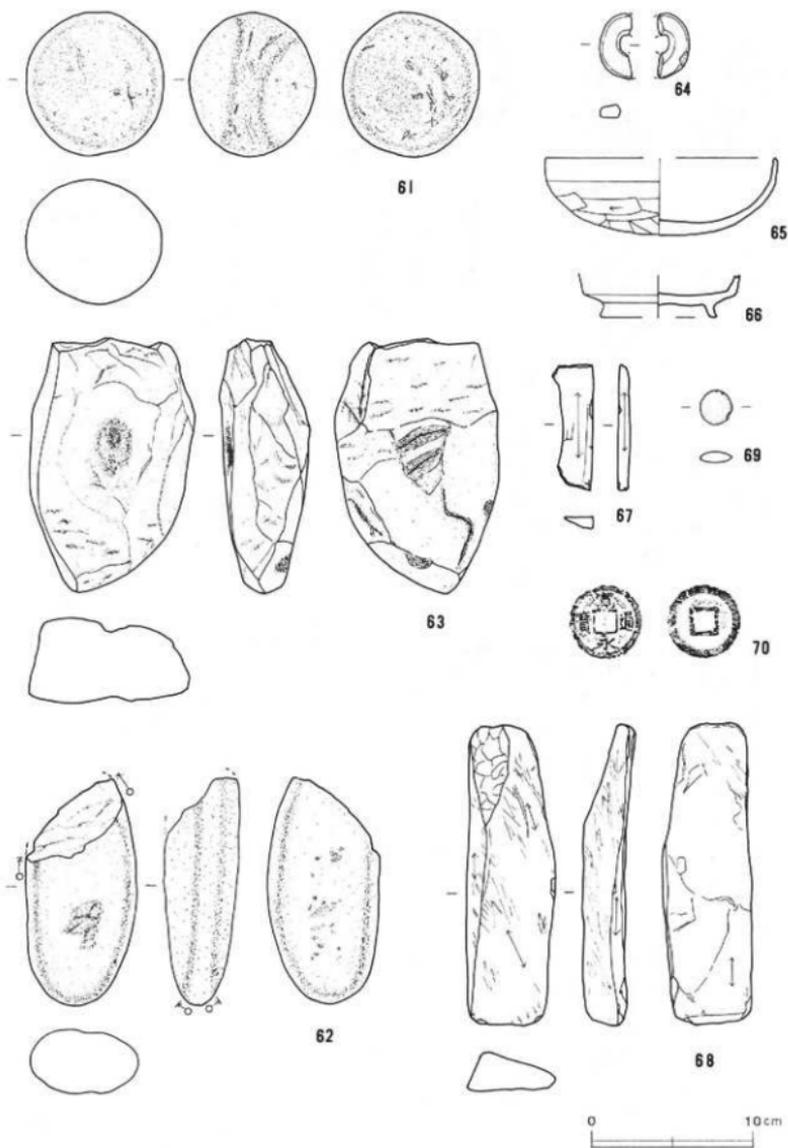
第126图 遗構外出土遺物実測図(1)



第127図 遺構外出土遺物実測図(2)



第128图 遺構外出土遺物実測図(3)



第129図 遺構外出土遺物実測図(4)

群	時期	型式	図版番号	器種・部分	器形及び文様の特徴	備考
Ⅱ	後 期 集	称名寺	35, 36	深鉢形土器胴部片	沈線文で文様を構成し、縄文を充填している。	T P110・111 P.L.33 表土・試掘グリッド
		堀之内	37, 38	深鉢形土器胴部片	縄文を地文とし、曲線的沈線文で文様を描出している。	T P112・113 P.L.33・34 SI-12 覆土中
V	後 期 集	安行	39	深鉢形土器口縁部片	口縁部は器内が広く、高下に縦位のキズミをもち、その下部には棒状工具による弧線文が描かれている。	T P114 P.L.33 試掘グリッド・試掘

遺構外出土石器一覧表（縄文時代）（第127・128・129図）

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
40	尖頭器	3.5	1.5	0.5	2.3	チャート	S I-21 覆土中	Q38 P.L.36
41	尖頭器	(5.3)	1.6	0.9	(6.9)	チャート	表土	Q40 P.L.36
42	有舌尖頭	3.2	1.3	0.6	1.7	チャート	試掘グリッド	Q27 P.L.36
43	石鏃	1.9	1.4	0.4	0.6	チャート	表土	Q21 P.L.36
44	石鏃	2.3	1.6	0.3	0.7	チャート	表土	Q24 P.L.36
45	石鏃	2.1	(1.5)	0.4	0.9	チャート	表土	Q23 P.L.36
46	石鏃	2.4	(1.4)	0.3	(0.5)	凝灰岩	S I-14 覆土上層	Q22 P.L.36
47	石鏃	2.5	1.8	0.8	2.9	チャート	表土	Q27 P.L.36
48	石鏃	(2.6)	1.7	0.6	(2.2)	チャート	S I-5 覆土中層	Q26 P.L.36
49	石鏃	3.9	2.1	0.5	1.9	頁岩	表土	Q30 P.L.36
50	石鏃	2.9	1.8	0.7	2.7	チャート	表土	未製品 Q28 P.L.36
51	石鏃	3.3	2.2	0.9	5.8	チャート	S I-14 覆土下層	未製品 Q39 P.L.36
52	石鏃	2.4	0.8	0.4	0.8	チャート	S I-5 覆土上層	Q25 P.L.36
53	縦型石匙	4.1	1.3	0.5	1.8	凝灰岩	S I-23 覆土下層	Q29 P.L.36
54	小形磨製石斧	5.0	2.1	0.5	11.8	凝灰岩	S K-116 覆土中	Q31 P.L.36
55	打製石斧	6.8	3.5	1.9	51.8	安山岩	S I-21 覆土中	Q35 P.L.36
56	打製石斧	6.6	4.2	2.0	59.2	安山岩	S I-24 覆土中	Q36 P.L.36
57	磨製石斧	10.3	6.3	2.8	(261.1)	砂岩	S I-13 覆土中	Q33 P.L.36
58	磨製石斧	8.9	6.8	2.6	(176.8)	砂岩	試掘トレンチ	Q34 P.L.36
59	磨石	10.7	6.7	3.4	331.6	砂岩	試掘トレンチ	Q41 P.L.36
60	磨石	11.2	6.6	5.5	563.6	凝灰岩	S I-14 覆土中	Q42 P.L.36
61	磨石	8.9	8.4	7.8	734.1	花崗岩	S I-14 覆土中	Q44 P.L.36
62	凹石	(13.9)	6.8	4.6	(521.7)	砂岩	表土	Q43 P.L.36
63	凹石	15.6	10.1	5.6	1083.8	砂岩	表土	Q47 P.L.36

遺構外出土土製品一覧表（縄文時代）（第129図）

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
64	塊状写真	4.1	(2.0)	0.9	(6.4)	表土	DP27 P.L.34

遺構外出土遺物観察表（古墳～平安時代）（第129図）

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	土質・色調・焼成	備考
65	坏 十部器	A [14.2] B 4.8	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は器地におおむねななめをもち、口縁部は器肉を減じながら直りする。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へり削り、内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい棕色 青濁	P285 50% P.L.31 試掘グリッド

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
66	高台付杯 須臾器	B (2.6) D [7.0] E 0.8	高台部から体部の破片。高台部はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、下位に横をもつ。	体部内・外面ロクロナデ。底部同転へう削り。高台部貼り付け、ロクロナデ。	灰石 小粒 砂粒 暗灰黄色 普通	P296 10% SI-5 覆土中

遺構外出土石製品一覧表 (第129図)

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
67	砥石	(7.7)	(2.5)	(0.8)	(16.4)	粘板岩	試掘トレンチ Q46 P L37	
68	砥石	18.4	5.5	3.4	(284.6)	粘板岩	表土 Q45 P L37	

遺構外出土製品一覧表 (近世) (第129図)

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	重量 (g)		
69	磨り粉鉢	2.2	0.7	2.4	試掘グリッド D P26	P L34

遺構外出土古銭一覧表 (近世) (第129図)

図版番号	銭種	計測値				初鑄年 (時代, 年号)	備考
		径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
70	寛永通寶	2.2	0.6	0.1	1.8	江戸 寛永15年 (1636)	表土 M1 P L37

遺構一覽表

表2 住居跡一覽表

住居跡 番号	位置	長短方向	平面形	面積(m ²) 跡跡×幅跡	壁高	床面	内 部 設 置					覆土	出 土 遺 物	時期	備 考 新旧関係(古→新)
							壁溝	柱穴	石礎穴	ヒツト	入土				
1	B 2 12	N-11'-W	方 形	5.50×5.42	28-60	平掘	全周	4	-	1	2	竈	土師器(坏、甕、甕、甌)	6 C 後	
2	C 1 49	N-55'-W	方 形	4.61×4.55	33-54	平掘	全周	4	1	-	1	竈	土師器(坏、小形甕、甕、甌)、土製品(支脚)	6 C 後	
3	C 2 62	N-24'-W	方 形	7.59×7.33	23-59	平掘	全周	4	1	4	1	竈	土師器(坏、小形甕、甕、甌)、土製品(支脚)	6 C 後	
4	C 2 65	N-44'-W	方 形	4.05×3.92	13-33	平掘	-	-	-	-	-	竈	土師器(坏)、土製品(土土、管玉形模造品)	6 C 後	
5	C 2 15	N-52'-W	方 形	9.00×8.68	32-65	平掘	全周	4	-	2	1	竈	土師器(坏、甕、甌)	6 C 後	
6	D 2 45	N-43'-W	方 形	4.35×4.31	22-42	平掘	全周	4	-	-	1	竈	土師器(坏、小形甕、甕、甌)、土製品(支脚)	6 C 後	
7	B 2 44	N-2'-W	方 形	7.81×7.76	44-56	平掘	-	4	1	-	2	竈	土師器(坏、小形甕、甕、甌)	6 C 後	本跡→SD-2
8	A 2 38	N-17'-W	長 方 形	5.03×3.23	16-33	平掘	下周	10	-	1	1	竈	土師器片	平安室	
9	D 2 17	N-47'-W	方 形	9.12×9.04	25-52	平掘	平掘	4	1	-	1	竈	土師器(坏、甕、甌)、土製品(物箱)	6 C 中	
10	C 2 44	N-33'-W	楕 圓 形	6.06×3.32	39-68	平掘	-	7	-	9	-	竈	縄文土器(漆器)、石器	縄文時代	
11	C 1 42	N-11'-W	方 形	3.21×3.18	32-83	平掘	全周	4	1	-	1	竈	土師器(坏、小形甕、甕、甌)	6 C 後	
12	C 2 18	N-23'-W	方 形	6.43×6.39	32-93	平掘	全周	4	-	-	2	竈	土師器(坏、小形甕、甕、甌)、土製品(支脚)	6 C 後	
13	D 2 15	N-33'-W	不 明	①2.70×①1.70	不明	平掘	-	1	-	-	-	竈	土師器(坏、甕、甌、甌)	6 C 後	
14	D 1 45	N-26'-W	方 形	9.07×8.34	43-70	平掘	全周	4	1	4	1	竈	土師器(坏、甕、甌)	6 C 後	
19	D 3 40	N-29'-W	長 方 形	3.36×2.37	12-39	門凸	-	-	-	2	-	竈	土師器(坏、小形甕、甕、甌)、土製品(支脚)	6 C 後	
20	K 1 30	N-36'-W	楕 圓 形	3.54×3.39	37-36	平掘	全周	-	-	-	2	竈	土師器(坏、甕、甌、高坏、小形甕、甕、甌)	6 C 中	
21	D 1 15	N-27'-W	方 形	6.74×6.69	10-75	平掘	全周	4	-	2	2	竈	土師器(坏、高坏、甕、甌)、土製品(瓦、支脚)	6 C 後	
22	D 4 05	N-41'-W	方 形	5.06×5.05	26-56	平掘	全周	4	-	1	1	竈	土師器(坏、小形甕、甕、甌)、土製品(支脚)	6 C 中	
23	E 1 62	N-22'-W	方 形	5.42×5.40	45-57	平掘	全周	4	-	-	1	竈	土師器(坏、大形坏、高坏、小形甕、甕、甌)	6 C 中	
24	E 1 48	N-22'-W	長 方 形	6.00×5.13	12-71	平掘	全周	4	-	5	1	竈	土師器(坏、大形坏、甕、甌)、小形甕、甕、甌)	6 C 中	
25	D 3 11	N-36'-W	方 形	7.69×7.28	23-96	平掘	全周	4	1	-	1	竈	土師器(坏、甕、小形甕、甕)、土製品(支脚)	6 C 中	遺失状況
26	D 3 11	N-45'-W	方 形	5.91×5.60	24-64	平掘	全周	4	-	2	1	竈	土師器(坏、甕、甌)、土製品(支脚)	6 C 中	
27	C 3 14	N-42'-W	方 形	6.20×6.19	29-87	平掘	全周	4	-	-	1	竈	土師器(坏、小形甕、甕、甌)、土製品(支脚)	6 C 後	本跡→SD-3
31	E 4 16	N-12'-W	不 明	①4.40×①4.15	20-30	平掘	-	2	-	-	-	竈	土師器(坏、甕、甌、高坏、甕、甌)、土製品(支脚)	6 C 後	

表3 竪穴遺構一覽表

住居跡 番号	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	竪 穴		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				跡跡×幅跡(m)	深さ(m)					
1	D 4 11	N-16'-W	楕 圓 形	3.56×2.55	21-34	外傾	平掘	自然		
2	C 2 19	N-30'-E	楕 圓 形	3.05×2.63	23-35	外傾	平掘	自然	縄文土器片、土師器片	
3	C 2 40	N-23'-E	楕 圓 形	3.50×3.06	34-46	外傾	平掘	人為	縄文土器片、土師器片	
4	D 3 34	N-37'-E	楕 圓 形	3.19×2.88	22-50	外傾	平掘	人為	縄文土器片	本跡→SK-76
5	E 4 44	N-65'-W	楕 圓 形	3.81×2.07	6-15	外傾	平掘	自然	土師器片	
6	B 4 34	N-85'-W	楕 圓 形	3.68×3.23	14-25	傾斜	平掘	自然	土師器片	
7	B 4 12	N-37'-E	楕 圓 形	6.40×3.64	9-24	外傾	平掘	自然	縄文土器片	本跡→SD-3

表4 土坑一覽表

◎印は本文中に記述

土坑 番号	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	竪 穴		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				跡跡×幅跡(m)	深さ(m)					
1	A 2 19	N-34'-E	長 方 形	1.24×0.76	59	外傾	平掘	人為	縄文土器片、土師器片	SD-2→本跡
2	A 3 12	N-18'-E	楕 圓 形	1.68×1.05	46	外傾	門凸	自然	土師器片	

神丸遺跡

土 坑 番 号	位 置	長短方向 (北緯方向)	平 面 形	規 模		壁 面	底 面	敷 土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				径差×径差(m)	深 S(cm)					
3	A 3j1	N-20°-E	楕 円 形	2.08 × 1.84	41	外傾	平頂	人為	土師器片	
4	B 2b6	N-67°-E	楕 円 形	2.25 × 2.06	68	外傾	平頂	人為		
Q5	B 2e3	N-57°-W	梅 田 形	2.30 × (1.27)	186	垂直	平頂	人為	縄文土器(深鉢)	隔土穴, 本跡→SK-6
6	B 2e3	N-29°-E	不 定 形	1.53 × 1.22	23	垂直	平頂	自然	縄文土器片, 土師器片	SK-5→本跡
Q7	B 2j8	N-45°-W	梅 田 形	2.52 × 1.20	131	垂直	平頂	人為		隔土穴
8	B 2j8	N-45°-W	楕 円 形	1.27 × 1.02	57	垂直	平頂	人為		
9	B 2b6	N-52°-E	不 定 形	(2.50) × 2.06	99	垂直	凹凸	人為		SK-10→本跡
10	B 2b6	不 明	不 明	(0.52) × (0.36)	91	傾斜	不明	人為		本跡→SK-9
11	C 2e1	N-44°-W	楕 円 形	2.31 × 1.03	31	傾斜	皿状	人為		
12	C 2e7	N-30°-W	楕 円 形	1.26 × 0.86	49	外傾	凹凸	自然		
13	C 2e1	N-7°-W	梅 田 形	1.46 × 1.09	22	傾斜	皿状	自然	土師器片	
14	C 1b0	N-75°-W	楕 円 形	1.98 × 1.32	114	外傾	平頂	人為	土師器片	
15	C 2a1	N-35°-W	不 定 形	1.14 × 1.03	21	傾斜	皿状	人為		
16	C 2a1	N-61°-W	梅 田 形	(1.35) × 0.97	36	傾斜	皿状	自然	縄文土器片	SK-17→本跡→SK-32
17	C 2a1	N-51°-E	楕 円 形	(1.32) × 1.36	36	傾斜	皿状	自然		本跡→SK-16→SK-32
Q18	C 1e9	-	円 形	1.28 × 1.23	52	外傾	皿状	人為	縄文土器(深鉢)	
19	C 1g8	N-75°-E	楕 円 形	2.00 × 1.79	49	外傾	凹凸	自然		
20	C 2g1	N-34°-E	梅 田 形	0.94 × 0.72	25	傾斜	皿状	自然		
21	C 2g1	-	円 形	1.20 × 1.14	26	傾斜	平頂	自然	土師器片	
22	C 2h2	N-3°-E	梅 田 形	1.85 × 1.05	29	傾斜	平頂	自然		
23	C 2h1	-	円 形	0.90 × 0.90	26	外傾	平頂	自然		
24	C 2h1	-	円 形	1.08 × 1.03	25	外傾	平頂	自然		
25	C 2j2	N-8°-W	隅丸長方形	1.87 × 1.15	122	外傾	平頂	人為		
26	C 2j1	N-26°-W	隅丸長方形	2.27 × 1.38	66	外傾	平頂	人為		
27	D 2b1	N-46°-W	楕 円 形	1.14 × 0.85	41	垂直	傾斜	自然		
28	C 2e1	N-30°-W	不 定 形	2.82 × 2.32	25	外傾	平頂	自然	縄文土器片	
29	D 1b9	N-46°-W	楕 円 形	1.71 × 1.28	56	外傾	平頂	自然		
30	D 1e9	-	円 形	1.19 × 1.12	36	外傾	平頂	人為		
Q31	D 1f9	N-53°-E	楕 円 形	2.08 × 1.69	11	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
32	B 2j1	-	円 形	1.59 × 1.47	42	外傾	平頂	自然		SK-17→SK-16→本跡
Q33	C 2d3	N-57°-W	楕 円 形	2.26 × 1.37	113	外傾	平頂	自然		隔土穴
34	C 2h2	N-42°-W	楕 円 形	1.23 × 1.03	27	外傾	皿状	自然		
35	C 2h2	N-78°-W	楕 円 形	1.07 × 0.87	25	傾斜	皿状	自然		
36	C 2g2	-	円 形	0.55 × 0.54	28	傾斜	皿状	自然		
37	C 2h3	N-37°-E	楕 円 形	0.99 × 0.92	32	外傾	平頂	自然		
38	C 2g3	N-46°-E	楕 円 形	1.26 × 1.02	38	傾斜	凹凸	自然	縄文土器片	
39	C 2g3	N-68°-W	楕 円 形	1.23 × 0.89	22	傾斜	平頂	自然		
40	C 2g2	N-28°-E	不 定 形	1.40 × 0.98	25	外傾	平頂	自然		
41	C 2g3	-	円 形	1.02 × 1.01	25	傾斜	皿状	自然		
42	C 2d3	N-17°-W	不 整 円 形	1.15 × 1.14	25	外傾	平頂	自然		
43	C 2d3	N-39°-E	楕 円 形	2.06 × 1.08	26	外傾	平頂	自然		
44	C 2g2	N-21°-E	長 梅 田 形	2.06 × 0.78	23	外傾	皿状	自然		
45	C 2j1	N-65°-E	不 定 形	2.13 × 0.98	23	外傾	平頂	自然	縄文土器片	
46	C 2g3	N-90°	楕 円 形	2.20 × 1.72	25	傾斜	皿状	自然	縄文土器片	
Q47	B 3e3	N-68°-E	楕 円 形	2.29 × 1.53	86	垂直	平頂	自然	縄文土器片	
48	B 2g3	N-43°-W	隅丸長方形	2.56 × 1.88	58	外傾	傾斜	自然		

土 坑 位 置	位 置	長短方向 (真軸方向)	平面形	規 規		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 新編四角(古一節)
				短邊×長邊× 深さ(cm)	深さ(cm)					
49	B 3 34	N-62°-E	梯形形	2.22 × 1.50	31	緩斜	平垣	自然	陶文土器片	
50	B 3 37	-	円形	1.42 × 1.35	20	緩斜	皿状	自然		
51	B 3 45	N-85°-W	扇形形	1.03 × 0.82	17	緩斜	皿状	自然		本館→SD-3
52	B 3 49	N-13°-W	扇形形	0.89 × 0.80	24	緩斜	皿状	自然		
53	B 3 49	N-26°-W	扇形形	1.55 × 1.39	31	緩斜	凹凸	自然		
54	B 1 41	N-65°-E	扇形形	2.02 × 1.86	23	緩斜	皿状	自然		
55	B 3 48	-	円形	1.29 × 1.28	38	外傾	凹凸	自然		SK-64と重複
56	B 3 37	N-44°-W	扇形形	1.76 × 1.23	30	緩斜	皿状	自然		
57	C 3 11	N-51°-E	扇形形	1.77 × 1.54	21	外傾	平垣	自然		
58	C 4 c1	N-41°-W	扇形形	1.88 × 1.35	74	外傾	平垣	自然		
59	C 3 e8	N-96°-E	扇形形	1.38 × 1.08	25	緩斜	皿状	自然		
60	C 3 e6	N-26°-E	扇形形	2.54 × 1.50	78	外傾	平垣	自然		
61	C 3 c4	N-42°-W	扇形形	2.19 × 1.49	125	外傾	凹凸	自然		
62	B 3 e1	N-85°-E	扇形形	1.00 × 0.83	22	緩斜	皿状	自然		
63	C 3 g7	N-23°-E	扇形形	2.23 × 1.18	65	緩斜	平垣	自然		
64	B 3 g8	N-38°-E	扇形形	1.38 × 0.90	38	外傾	平垣	自然		SK-56と重複
65	C 3 b4	N-34°-W	不整形円形	1.81 × 1.21	102	外傾	平垣	自然		
66	C 3 b4	N-72°-E	扇形形	1.93 × 1.31	62	外傾	平垣	自然		
67	C 3 g3	-	円形	1.77 × 1.54	36	外傾	平垣	自然		
68	C 3 g2	N-66°-W	不整形円形	2.38 × 2.39	91	外傾	半皿	自然	土師器片	
69	C 2 e8	N-39°-W	不整形円形	2.02 × 1.38	61	緩斜	皿状	自然		
70	C 4 e3	N-30°-E	扇形形	2.00 × 1.75	29	緩斜	平垣	自然		
71	C 4 d4	N-34°-E	扇形形	1.59 × 1.40	42	外傾	皿状	自然		
72	C 1 e5	N-27°-W	扇形形	2.75 × 1.98	32	外傾	半皿	自然		
73	C 4 d4	N-34°-W	不整形円形	1.96 × 1.79	32	緩斜	平垣	自然		
74	C 4 e4	N-79°-W	扇形形	1.78 × 1.50	42	緩斜	平垣	自然		
75	C 4 d3	N-96°-W	扇形形	1.73 × 1.52	52	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片	
76	D 3 a5	N-32°-E	扇形形	1.55 × 1.28	40	緩斜	平垣	人為		形4分型穴状遺構一本跡
77	D 3 c2	N-64°-W	扇形形	2.17 × 1.60	31	緩斜	平垣	自然		
78	D 3 c2	N-25°-W	扇形形	1.30 × 1.09	45	緩斜	凹凸	人為		
79	D 2 d9	N-69°-E	扇形形	1.37 × 1.21	72	外傾	凹凸	人為		
80	C 4 b6	N-23°-W	扇形形	1.04 × 0.94	42	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片	
81	D 4 d3	N-42°-E	扇形形	1.90 × 1.21	31	緩斜	皿状	自然		SK-1と重複
82	D 4 d4	N-46°-E	扇形形	1.28 × 0.85	40	外傾	皿状	自然	縄文土器片	
83	B 4 34	-	円形	1.61 × 0.94	27	緩斜	皿状	人為		
84	B 4 b5	N-15°-W	扇形形	1.75 × 0.85	32	外傾	皿状	自然		
85	B 4 b9	N-15°-W	扇形形	1.23 × 0.85	20	緩斜	平垣	自然		
86	B 4 g7	N-52°-E	不整形円形	1.32 × 1.06	25	緩斜	平垣	自然		
87	B 4 b9	N-29°-W	扇形形	1.87 × 1.03	28	外傾	平垣	自然		
88	B 4 b9	-	円形	2.12 × 2.01	49	緩斜	皿状	自然	土師器片	
89	B 4 b8	N-78°-E	扇形形	1.49 × 1.02	37	緩斜	凹凸	自然		
90	B 4 17	N-32°-E	扇形形	1.14 × 0.81	24	外傾	皿状	自然		
91	B 4 17	N-39°-E	扇形形	1.64 × 1.12	34	平直	平垣	自然		
92	B 4 17	N-35°-E	扇形形	1.36 × 0.84	23	緩斜	皿状	自然		
93	C 4 a7	N-54°-W	扇形形	1.37 × 1.10	30	外傾	平垣	自然		
94	B 4 16	-	円形	2.10 × 2.00	20	緩斜	平垣	自然		

土 壙 号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平面形	周 長		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新百穂苑(A~新)
				経線×緯線(m)	深さ(cm)					
95	C 4 a6	N-30°-E	楕円形	1.09 × 0.85	18	緩斜	平垣	自然		
96	C 4 b8	-	円形	1.19	28	外傾	崖状	自然	土師器片	
97	B 4 a0	N-46°-E	楕円形	2.27 × 1.47	90	緩斜	平垣	自然		
98	C 4 a7	-	不整形	2.88	30	外傾	平垣	自然	土師器片	
99	E 4 e4	-	円形	0.71 × 0.68	28	外傾	平垣	自然	縄文土器片	
100	E 4 e4	N-37°-E	長楕円形	4.49 × 0.48	15	外傾	平垣	人為	土師器片	
○101	E 4 e4	N-46°-E	楕円形	0.83 × 0.63	12	緩斜	平垣	人為	土師器片、土製品(丸玉)	
102	E 4 d3	不明	不明	(1.75) × (0.56)	14	緩斜	平垣	人為	縄文土器片、土師器片	本跡→SK-103
103	E 4 d5	不明	不明	0.50 × 0.37	24	外傾	平垣	人為	土師器片	SK-102→本跡
104	E 4 e6	不明	不明	10.29 × 0.23	11	緩斜	平垣	自然	縄文土器片、土師器片	
105	E 4 c5	-	円形	0.53	64	垂直	平垣	人為		
106	D 3 i3	N-59°-E	楕円形	3.62 × 2.15	87	緩斜	崖状	自然		
107	D 3 d7	N-72°-W	楕円形	1.52 × 0.78	39	外傾	平垣	自然	土師器片	
108	D 3 j4	N-73°-W	楕円形	2.33 × 1.54	87	外傾	緩斜	自然		
○109	D 3 i2	N-32°-E	不整形四角	2.03 × 2.04	57	緩斜	四凸	自然	縄文土器片	粘土探検坑
110	D 3 j2	-	円形	0.86	8	緩斜	崖状	自然		
111	D 3 b1	N-22°-W	楕円形	2.73 × 0.99	9	外傾	崖状	自然		
112	D 2 j0	N-65°-W	楕円形	(1.34) × 1.22	17	緩斜	平垣	自然		本跡→SK-113
113	D 2 j0	N-40°-W	楕円形	(1.12) × 0.94	21	緩斜	崖状	自然		SK-112→本跡
○114	B 3 a2	N-62°-E	不整形四角	2.90 × 1.94	29	緩斜	崖状	自然		粘土探検坑
○115	E 4 b0	N-41°-W	不整形	3.01 × (2.50)	52	垂直	平垣	人為	石製品(石Fi、石Fi)、土製品(瓦)	粘土探検坑、本跡→SK-116-ST-1
○116	E 4 b0	N-14°-E	不整形	(5.30) × 3.42	126	垂直	四凸	人為	縄文土器片、石器(小形磨製石斧)	粘土探検坑、SK-115-4跡→SK-117
○117	E 5 a1	N-X°-E	楕円形	(2.20) × 1.90	58	外傾	平垣	人為	土師器片	粘土探検坑、SK-116-4跡→SK-118
○118	E 5 a1	-	円形	(1.46) × 1.40	52	外傾	平垣	人為		粘土探検坑、SK-117→本跡
119	D 4 a6	N-32°-W	楕円形	1.21 × 1.07	65	外傾	平垣	人為	土師器片	
120	C 4 j9	N-19°-E	長方形	2.18 × 0.83	48	外傾	平垣	人為	土師器片	
121	D 5 c6	-	円形	1.42 × 1.32	30	外傾	崖状	自然		
○122	E 4 e9	N-47°-E	不整形四角	1.60 × (0.98)	15	外傾	平垣	人為		SY-1→本跡
123	C 5 i7	N-48°-E	楕円形	1.53 × 1.24	40	外傾	四凸	自然	土師器片	
124	D 4 b9	N-25°-E	長方形	1.75 × 0.78	42	外傾	平垣	人為	縄文土器片	
125	C 5 i8	N-60°-E	楕円形	1.51 × 0.79	30	緩斜	平垣	自然		
126	B 5 a8	N-15°-E	楕円形	1.10 × 0.94	75	緩斜	崖状	自然	土師器片	
○127	B 4 j9	N-28°-W	楕円形	2.11 × 1.20	100	外傾	平垣	自然	土師器片	陥L穴
128	A 2 h0	N-47°-W	楕円形	1.04 × 0.89	38	緩斜	崖状	自然		
129	A 3 h1	-	円形	0.84 × 0.82	38	緩斜	平垣	自然		
130	A 3 i1	N-72°-W	楕円形	1.79 × 0.66	20	外傾	平垣	自然		
131	D 4 c7	N-27°-E	楕円形	1.19 × 0.65	36	外傾	平垣	人為		
132	D 4 c7	N-25°-E	楕円形	1.17 × 0.64	14	緩斜	平垣	人為		
133	D 4 c7	N-27°-E	楕円形	1.53 × 0.73	49	外傾	平垣	人為		
134	C 4 g4	N-25°-E	楕円形	1.46 × 1.21	42	緩斜	崖状	自然	縄文土器片、土師器片	
○135	C 4 a5	-	円形	0.87 × (0.83)	22	緩斜	崖状	人為	土師器片、石製品(丸玉)	本跡→SK-137
136	D 1 a0	-	円形	1.25 × 1.21	25	緩斜	崖状	自然	土師器片	
137	C 4 g6	N-36°-W	楕円形	1.10 × 0.97	29	緩斜	崖状	自然	土師器片	SK-135→本跡

表5 溝一覽表(付図,第115図)

溝番号	位 置	方 向	幅				断面	断面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
			長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)					
1	A 2c7~ A 2j0	N-60°-W	17.6	0.32-0.50	0.18-0.30	28	縦斜	U字状	自然	縄文土器片, 土師器片	
2	B 3a1~ B 3c4	N-56°-W	18.6	0.36-0.90	0.21-0.70	25	縦斜	U字状	人為	土師器片	SI-7→本跡→5式-1
3	B 3b1~ C 5a0	N-58°-W (135.3)		0.36-1.20	0.12-0.70	136	外傾	逆U字状 U字状	人為	縄文土器片, 土師器片, 陶器片, 銅器片	SI-27, 第7号坐火状遺構, SK-51→本跡

表6 円形周溝状遺構一覽表

円形周溝状遺構番号	位 置	幅				断面	断面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
		径 (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)						
1	D 1d2	4.09	0.21-0.56	0.11-0.40	15-28	外傾	逆U形状	平坦	自然	土師器片	SK-81と重複
2	D 1d8	3.65	0.40-0.56	0.15-0.36	18-25	外傾	逆U形状	平坦	自然	土師器片	
3	D 1e6	1.73	0.33-0.49	0.15-0.30	16-20	外傾	U字状	階段	自然		
4	E 1g0	1.93	0.26-0.41	0.17-0.31	8-18	外傾	逆U形状	平坦	自然	縄文土器片	

第4節 まとめ

今回の調査で旧石器時代から近代までの遺構や遺物が検出され、これまでの先人の生活の一端について少なからず解明することができた。ここでは、時代ごとに調査の結果を記述し、まとめとする。

1 旧石器時代

珪質頁岩の剥片などが他の時代の遺構の覆土中から出土している。しかし、今回の調査では旧石器時代の明瞭な石器集中地点は検出されなかった。

2 縄文時代（第130図）

調査区域の西側を中心に当該期に属する竪穴住居跡1軒、土坑3基、陥し穴4基、調査区域南部から遺物包含層2か所を検出した。当遺跡は長い時代を通じて、当時の人々の生活と何らかのかかわりのあった場所であることがうかがえる。

第10号竪穴住居跡は、前期後葉（興津式期）の構築と考えられる。本跡からは、ほぼ完形の深鉢と共に石鏃3点、安山岩・チャート・石英・瑪瑙・頁岩などの剥片133点が出土しており、石器製作の可能性が考えられる。本跡は居住を目的とした竪穴住居跡と区別でき、一時的に使用されたものと思われる。また、本跡付近からは陥し穴も検出されていることから、当遺跡付近は縄文時代は狩猟の場としても利用されていたものとみられる。

第1号遺物包含層は、早期中葉田戸下層式から前期後葉浮島式までの土器を包含するが³¹、浮島式の土器群が主体を占めている。また、第2号遺物包含層は、早期前葉稲荷台式から後期前葉堀之内式までの土器を包含するが、浮島式から興津式と堀之内式の土器の割合が多い。ともに、土器片は自然流入したものと思われ、この谷津は6世紀代には完全に埋まっていたものと考えられる。

3 古墳時代（第130図）

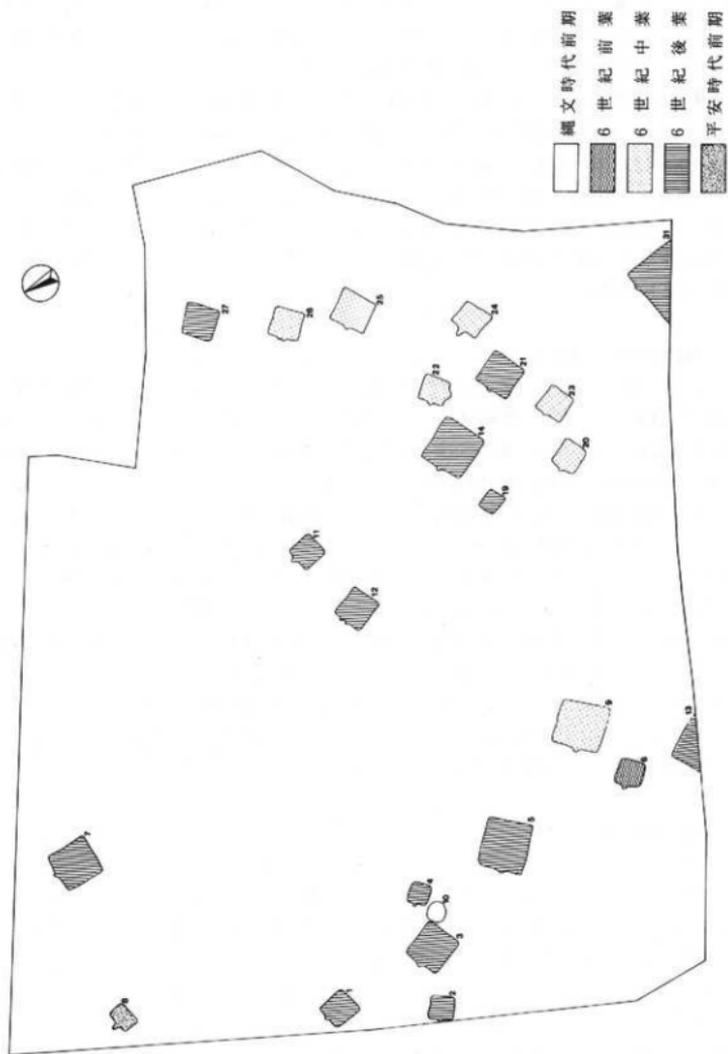
調査区域のほぼ全域から当該期に属する竪穴住居跡22軒、竪穴状遺構1基、土坑2基を検出した。そこで、出土遺物と住居跡との関係をもとに、当該期を3期に区分して、各期ごとに検討することにする。

I期 古墳時代後期（6世紀前葉）

調査区南西部の第6号竪穴住居跡の1軒が該当する。主軸方向はN-43°-W、平面形は方形で、規模は24㎡の中形の住居跡である³²。土器の構成は、土師器環・小形鉢・小形壺・甌などである。赤彩、黒色処理ともに施されず、在地性を感じさせる器形のものがある。

II期 古墳時代後期（6世紀中葉）

第9・20・22～26号竪穴住居跡の7軒が該当する。当該期に属する住居跡は、調査区域の南西部から南部を経て東部にかけて広がり、斜面部に構築されている。主軸方向はN-22°-W～N-47°-Wの範囲で、ほとんどが西寄りの主軸を持っており、規則性が認められる。平面形は方形または隅丸方形の住居跡がほとんどで、規模は大形の住居跡が4軒、中形の住居跡が3軒で、2軒を1単位とする配置が考えられる。第9号竪穴住居跡（82㎡）のように、超大形の規模を有する住居跡が出現しているのも特徴である。また、竈内や竈北側の床面か



第130圖 時期別住居跡配置圖

ら、ほぼ完形の坏・碗・鉢・鉢・高坏・小形甕・甕・瓶が31点も並んで出土し、廃棄の際に祭祀的行為が行われた可能性が考えられる第20号竪穴住居跡や、焼失家屋で、当時の上屋構造を推察させるように、垂木材が壁から中央部に向かって放射状に遺存している第25号竪穴住居跡などもある。

土器の構成は、土師器坏・大形坏・碗・小形鉢・鉢・高坏・小形甕・甕・瓶である。坏は丸底で、体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部に至るものと、須恵器坏身模倣坏で、口縁部との境に稜をもつものがある。須恵器坏身模倣坏は、口縁部から器高の2分の1から3分の1に稜を有し、口縁部は直立または内傾する。また、内・外面や口縁部外面・内面に黒色処理が施されている割合が高く、内面には放射状や横位のヘラ磨きが見られる。甕は体部が球形で、中に最大径をもつものが多いが、体部が細長く、長胴を呈するものも出現する。体部外面にはヘラ削りが施され、口縁部はコの字状に外反するものが多い。また、体部外面に粗いヘラ磨きが施されるものも現れる。

Ⅲ期 古墳時代後期（6世紀後葉）

第1～5・7・11～14・19・21・27・31号竪穴住居跡の14軒が該当する。当該期に属する住居跡は、調査区域の全域に広く分散し、平坦地にも構築されている。主軸方向はN-2°～55°-Wの範囲で、ほとんどが西寄りの主軸を持っており、主軸の幅はⅡ期より広がりが見られる。平面形はほとんどが方形で、規模は大形の住居跡が8軒、中形の住居跡が2軒、小形の住居跡が2軒で、小形の住居跡が現れ、2、3軒を1単位とする配置が考えられる。Ⅱ期同様に、超大形の規模を有する第5号竪穴住居跡（80㎡）や第14号竪穴住居跡（76㎡）も構築されている。また、第19号竪穴住居跡のように南コーナー部に竈が付設された住居跡も現れる。

土器の構成は、土師器坏・碗・鉢・高坏・小形甕・甕・瓶に須恵器蓋・平瓶が加わる。坏はⅡ期同様に、丸底で、体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部に至るものと、須恵器坏身模倣坏で、口縁部との境に明瞭な稜をもつものがあるが、後者が主体となる。Ⅱ期よりもやや大形化の傾向が見られるようになり、口縁部から器高の3分の1に明瞭な稜を有し、口縁部は内傾するものが増加する。また、内・外面や口縁部外面・内面に黒色処理が施されている割合がさらに高くなるが、内面はヘラ磨きにかわり、ナデが施されるものが多くなる。甕はⅡ期と比べると、体部が細長く、長胴を呈する甕の割合がやや多くなる傾向が見られる。また、口縁端部をわずかにつまみ上げる常盤型甕に属するものも現れる。

4 平安時代（第130図）

調査区域の北西部から当該期に属する竪穴住居跡1軒を検出した。第8号竪穴住居跡の主軸方向はN-17°-W、平面形は長方形で、規模は16㎡の小形の住居跡である。本跡は、壁の外側に10か所の主柱穴を伴い、竈の両側には、地山のローム土を削り出して作られた棚状施設が付設されている住居跡である。本跡の西側は調査区域外であり、当遺跡周辺には当該期に属する集落跡が存在した可能性も考えられる。

5 近代

調査区域の南東部から当該期に属する炭窯跡1基、炭窯跡に関連する土坑5基を検出した。炭窯跡は、東側になる斜面部に構築され、焚口部から炭化室にかけて、火熱を受け粘土が赤変硬化していることから、使用頻度は高かったと思われる。炭窯を構築するために、4基の粘土採掘坑が炭窯の北東側に掘り広げられ、換炭後は、炭窯付近の粘土採掘坑の上部に、天井部や窯壁部の崩落焼土や炭化物等が投棄されたものと考えられる。出土した棧瓦片や凝灰岩等の切石は窯壁材、石臼は敷石として使用されていたものと思われる。

以上をまとめると、今回の調査で、仲丸遺跡においては、縄文時代から近代までの人々の生活の痕跡を確認することができた。当遺跡付近は縄文時代は狩猟の場として利用され、古墳時代後期の6世紀前葉に集落が形成され始め、その後、多数の住居が繰り返し構築され、6世紀後葉にそのピークを迎え、7世紀には分散していく傾向がうかがえる。平安時代前期に一時住居が構築されるが、中世以降、この地には住居も造られず、近代になり、炭窯が構築されることになる。当遺跡は、縄文時代前期や古墳時代後期の集落跡をはじめ、縄文時代の陥し穴や近代の炭窯跡などが確認できた複合遺跡であることが明らかになった。

最後に、『常陸国風土記』の行方の郡の中に、興味深い記述が出てくるので紹介する。その内容は、『古老の話』によりますと、継体天皇の時代に、この土地の人で筒括の氏の麻多智という人がおりまして、郡役所の西の谷にある葦原を開墾して、新たに田を作ったといひます。その時、夜刀の神が群れをなしてやってきて、ことごとくに田の耕作を邪魔しました。そこで麻多智はたいへん怒って、甲冑を着て、自ら武器を持って夜刀の神を追い払いました。そして山の入り口に行き、境界の標に目印の杭を立てて夜刀の神に告げました。「ここから上は夜刀の神の住むところ、ここから下は人間の所有する田とする。今後は私が祭祀者となって永久に敬い祭るから、祟ったり恨んだりしないでくれ」といひ、社を建てて祭ったといひます。そして、あらたに十町余を田として開墾し、麻多智の子孫が受け継ぐとともに祭りも行ひ、現在まで絶えることがありません。」というものである。¹¹ここにでてくる、継体天皇の時代というのは、西暦507～531年のことであり、当遺跡の集落が形成され始めた6世紀前葉に該当する時期である。行方の郡同様、常陸国の各郡で谷津や荒地を開墾して、新田が作られたとすれば、遺跡付近の開墾のために当集落も形成されていった可能性が考えられる。そして、645年の大化の改新以後、律令政治が推進されていくなかで、当集落は律令国家体制のなかに組み込まれていき、7世紀には分散して行ったのではないかと思われる。

註

- (1) 茨城県立歴史館の斎藤弘道氏の『茨城県の縄文土器』（1995年6月）の編年による。
- (2) 竪穴住居跡の大きさは、30m以上を大形、30m未満20m以上を中形、20m未満を小形とした。
- (3) 『常陸藝文』編集部『常陸国風土記』財団法人常陸藝文センター 1992年8月

参考文献

- ・櫻村宣行『茨城県南部における鬼高式土器について』『研究ノート2号』茨城県教育財団 1993年7月
- ・吹野富美夫『八幡前遺跡における古墳時代後期の土器様相』『研究ノート4号』茨城県教育財団 1995年6月

第4章 久保塚群

第1節 遺跡の概要

久保塚群は、友部町の南東部に位置し、南側に瀬沼川の沖積低地を望む標高26~28mの台地上に立地している。調査区域は、東西約64m、南北約20m、面積1,200㎡であり、現況は山林であった。

今回の調査によって、竪穴住居跡8軒、塚5基、土坑3基、道路跡1条、溝3条を確認した。このうち縄文時代の遺構は、調査区の南部で竪穴住居跡1軒と西部で陥し穴1基が確認されている。弥生時代後期の遺構は、調査区の中央部から西部にかけて、竪穴住居跡3軒と土器棺墓1基が確認されている。土器棺墓からは大形壺が重なり合った状態で出土している。古墳時代前期の遺構は、竪穴住居跡4軒が調査区の中央部と西部で確認されている。特に2軒の住居跡からは、駿河地方の大塚系の広口壺が出土しており、互いに接合関係にある。近世の遺構は、塚5基、土坑1基、溝3条が確認されている。塚群は東西方向の一直線上に並んで築造されている。3条の溝も塚群に沿うように延びていることから、塚群と関連する可能性が考えられる。また、道路跡は覆土が薄く、出土遺物がほとんどないことから、時期は不明である。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に10箱出土している。弥生時代後期の竪穴住居跡からは、蓋、広口壺、壺形土器、ミニチュア土器、土製紡錘車等が出土している。古墳時代前期の竪穴住居跡からは、土師器碗、小形埴、埴、壺、広口壺、甕、瓶等が出土している。その他の遺物としては、ナイフ形石器、磨石、石棒、剥片、土玉、鉛玉、寛永通寶等が出土している。



久保塚群調査終了状況

第2節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

今回の調査で、縄文時代の竪穴住居跡1軒、弥生時代の竪穴住居跡3軒、古墳時代の竪穴住居跡4軒を検出した。住居跡間の重複はなく、遺存状態は比較的良好であった。以下、検出された竪穴住居跡の特徴や出土遺物について記載する。

第1号住居跡（第131図）

位置 調査区北西部，A1c8区。

重複関係 第1号道路跡が，本跡の上部に構築されていることから，本跡が古い。

規模と平面形 東西方向5.13m，南北方向（3.97）mである。本跡の北壁が調査区域外のため，平面形は不明である。

主軸方向 N-20°-E

壁 壁高は24cmほどで，外傾して立ち上がる。

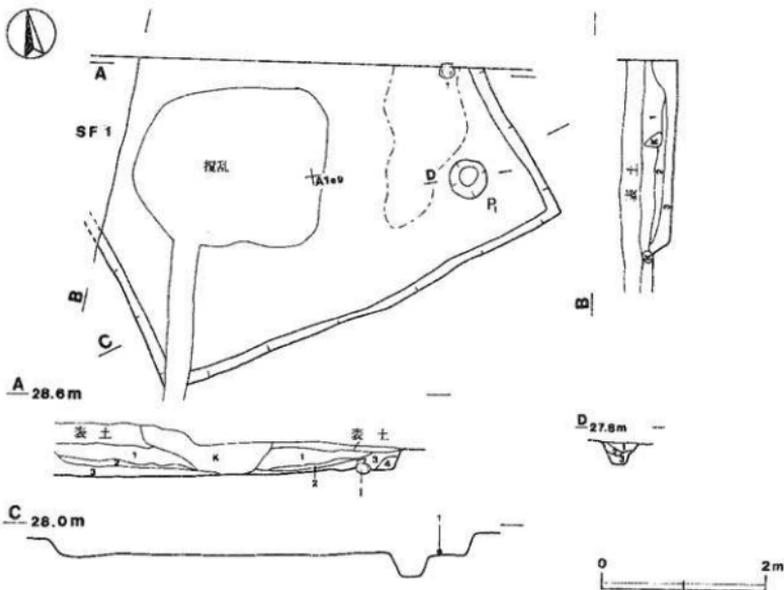
床 平坦で，東壁側の一部が踏み固められている。中央部は広く擾乱を受けている。

ピット 1か所。P1は径50cmの円形で，深さ30cmの主柱穴である。

P1土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量，ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子微量



第131図 第1号住居跡実測図

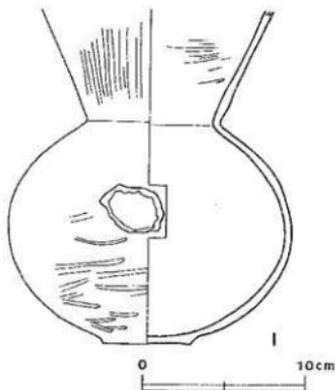
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子微量

遺物 土師器片22点、及び混入した弥生土器片48点、陶器片1点が出土している。第132図1の土師器埴は東壁寄りの床面直上から、ほぼ正位の状態出土している。

所見 1の土師器埴は、体部が焼成後に穿孔されていることから、匙に転用され、祭祀的行為の際に使用された可能性が考えられる。時期は、遺構の形態や出土土器から、古墳時代前期（4世紀中葉）と考えられる。



第132図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 1	埴 土師器	B (20.4) C 5.4	口縁形欠損、底径の小さい平底。底部はわずかに突出する。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部はくの字状に屈曲し、外傾して立ち上がる。	頸部外面縦位・内面横位のヘラ磨き。 体部外面横位のヘラ磨き、内面ナデ。 体部中位に焼成後の穿孔あり。	長石 石英 砂粒 褐色 普通	P 1 85% P L 42 床面直上

第2号住居跡（第133図）

位置 調査区西部、A1g0区。

重複関係 本跡が、第3号土坑を掘り込み、本跡の上部に第1号塚が構築されていることから、第3号土坑より新しく、第1号塚より古い。

規模と平面形 長軸6.78m、短軸5.45mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は42cmほどで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、出入り口施設から周囲にかけて、踏み固められている。

ピット 28か所（P1～P28）。P1～P4は長径54～77cm、短径35～46cmの楕円形、深さ63～69cmでいずれも主柱穴である。P7とP8は長径30～42cm、短径26～37cmの楕円形または不整楕円形、深さ46cmほどでいずれも出入り口施設に伴うピットである。P5、P6、P9～P28は長径12～38cm、短径10～28cmの楕円形または不整楕円形、深さ15～52cmでいずれも性格は不明である。

P1～P8土層解説

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化物・焼土粒子微量 2 褐色 ローム粒子少量 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | <ol style="list-style-type: none"> 4 褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 5 褐色 ローム粒子少量 6 褐色 ローム粒子少量 |
|---|--|

炉 中央部に付設されており、平面形は長径107cm、短径74cmの楕円形で、床面を15cmほど掘りくぼめた地床炉である。か床面は鼠状をしており、火熱を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子多量 | |

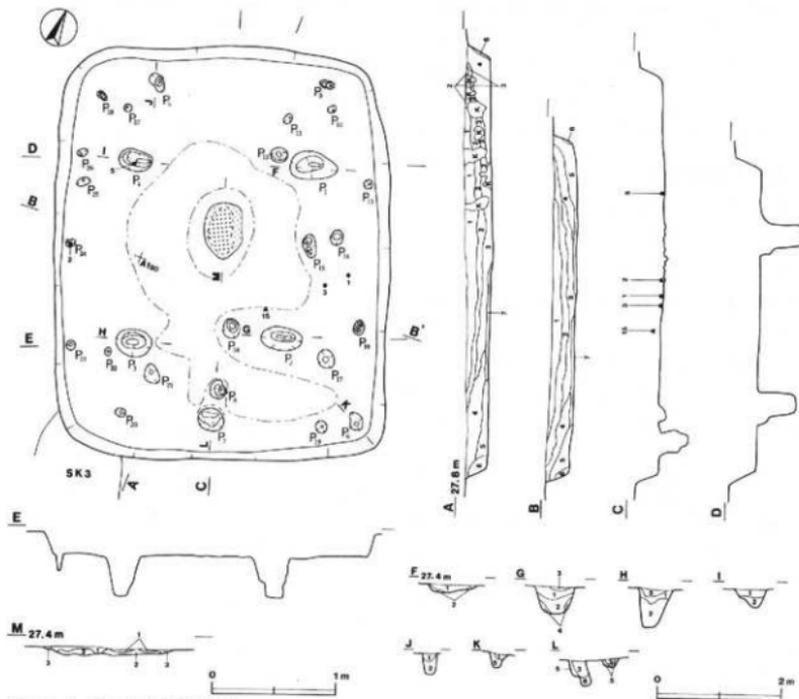
覆土 7層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子少量 | 6 褐色 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | |

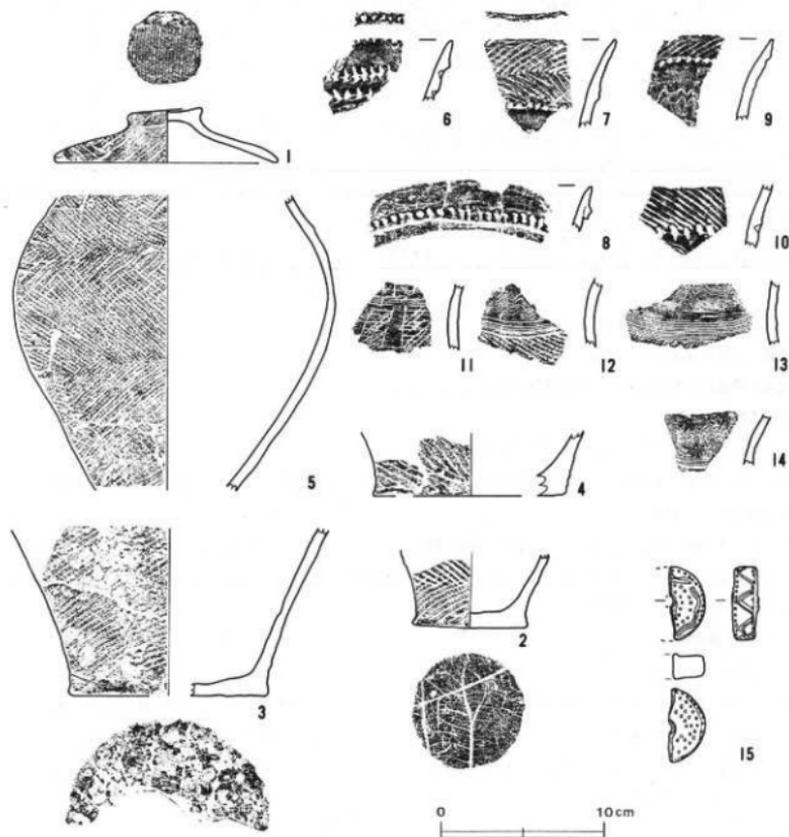
遺物 弥生土器片664点、土製紡錘車1点、及び混入した土師器片154点が出土している。弥生土器片は広範囲にわたり散在し、覆土下層から床面直上にかけて多く出土し、本跡に伴うものがほとんどである。図示したものは、すべて弥生土器である。第134図1の蓋は北東壁寄りの床面直上から出土している。2～5は壺形土器で、2はP24の上面から、3は北東壁寄りの床面直上から、4は覆土中から、5はP4の上面からそれぞれ出土している。

6～14は、弥生土器片の拓影図である。6は複合口縁を呈する口縁部片で、口唇部にキザミを有し、複合口縁の下端は刺突されている。7は複合口縁を呈する口縁部片で、口唇部に縄文が押圧され、口縁部には附加条一種（附加2条）の縄文が施され、羽状構成をとる。複合口縁の下端には縄文本体による押圧が施され、頸部



第133図 第2号住居跡実測図

は無文である。8は複合口縁を呈する口縁部片で、複合口縁の下端には縄文原体による押圧が施され、頸部は多条による縦区画内に波状文が充填されている。9は複合口縁を呈する口縁部片で、口唇部に縄文が押圧され、口縁部には附加条一種（附加2条）の縄文、複合口縁の下端には縄文原体による押圧が施されている。頸部には波状文が施されている。内・外面に煤が付着している。10は口縁部片で、附加条一種（附加2条）の縄文が施され、その下部には縄文原体による押圧、頸部には波状文が施されている。11は頸部片で、4本櫛歯による横走文により、頸部と胴部が分割され、胴部にはへら状工具による縦区画内に斜行文が充填されている。12と13は頸部から胴部片である。12は頸部に6本櫛歯による波状文、胴部境に6本櫛歯による横走文が巡らされている。胴部には附加条一種（附加2条）の縄文が施されている。13は頸部には櫛歯状工具による波状文が施され、胴部境には9本櫛歯による横走文が巡る。その下部には縄文が施されている。14は頸部片で、8本櫛歯に



第134図 第2号住居跡出土土物実測図

よる波状文が施され、胴部境には横走文が巡らされている。15の土製紡錘車が中央部付近の覆土下層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土土器から、弥生時代後期後半と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第134図	蓋 弥生土器	A 13.7	天井部から口縁部にかけての破片。頂部に扁平なつまみをもつ。天井部から口縁部に向け、内彎気味に開く。外面には附加条一種(附加2条)の縄文が施され、羽状構成をとる。内面はナナデ。頂部は覆土直下。	長石 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 2 50% P L 42 床面直上。
		B 3.8			
		F 4.6			
		G 1.0			
2	蓋形土器 弥生土器	B (4.6)	底部から胴部にかけての破片。平底で、張り出しをもつ。胴部には附加条一種(附加2条)の縄文が施され、羽状構成をとる。底部木葉痕。	長石 石英 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 3 5% P L 42 P 24の上面
		C 7.0			
3	帯形土器 弥生土器	B (10.2)	底部から胴部にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には附加条一種(附加2条)の縄文が施されている。底部木葉痕。	長石 石英 小礫 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 4 15% P L 42 床面直上
		C [12.2]			
4	蓋形土器 弥生土器	B (3.9)	底破片。胴部には附加条二種(附加1条)の縄文が施されている。底部中央欠損のため調整痕不明。	長石 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 5 5% P L 42 覆土中
		C [11.9]			
5	蓋形土器 弥生土器	B (18.1)	胴部片。胴部は内傾して立ち上がる。胴部は無文。胴部には附加条一種(附加2条)の縄文が施され、羽状構成をとる。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	P 6 40% P L 42 外周部付近 P 9の上面
		C			

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
15	紡錘車	(4.5)	(1.7)	(0.3)	(17.7)	覆土下層	上面・側面には横走文と波状文。下面には横走文のみ。D P1 P L 46

第3号住居跡(第135図)

位置 調査区北部, A 2 f4区。

規模と平面形 長軸4.16m, 短軸4.07mの隅丸方形である。

主軸方向 N-83°-E

壁 壁高は66cmほどで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、炉の東側の一部が踏み固められている。床面には、広範囲にわたり炭化材と第1炉の西側に一部焼土塊の広がりが見られる。

ピット 8か所(P1~P8)。P4は径31cmの円形, P1~P3, P5, P6, P8は長径12~37cm, 短径10~26cmの楕円形または不整形円形, 深さ14~56cmで、規模や配列から柱穴と考えられる。P7は径25cmの円形, 深さ28cmで性格は不明である。

P1・P4土層解説

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 炭化粒子少量 |

炉 2か所。第1炉は中央部の北寄りに付設されており、平面形は長径117cm, 短径58cmの楕円形で、床面を19cmほど掘りくぼめた地床である。第2炉は中央部の南東寄りに付設されており、平面形は長径78cm, 短径37cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめた地床である。ともに床面は皿状をしており、火熱を受けているが、あまり赤変硬化していない。

第1炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

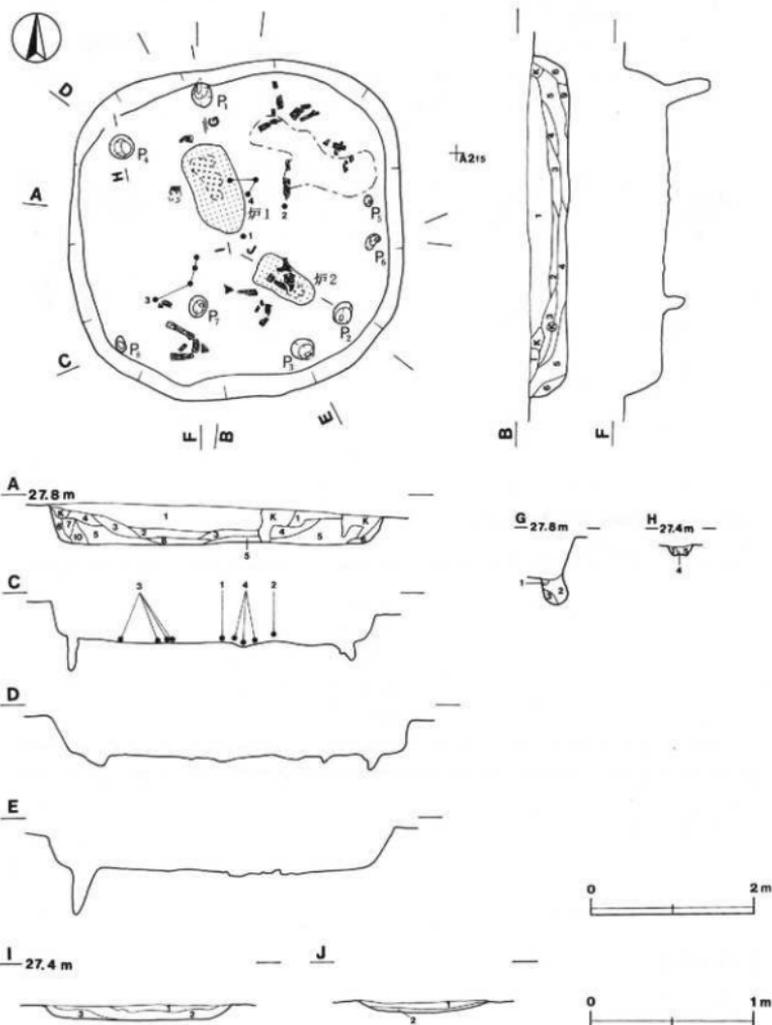
第2炉土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量

覆土 10層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土中ブロック・炭化粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量 | 10 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |

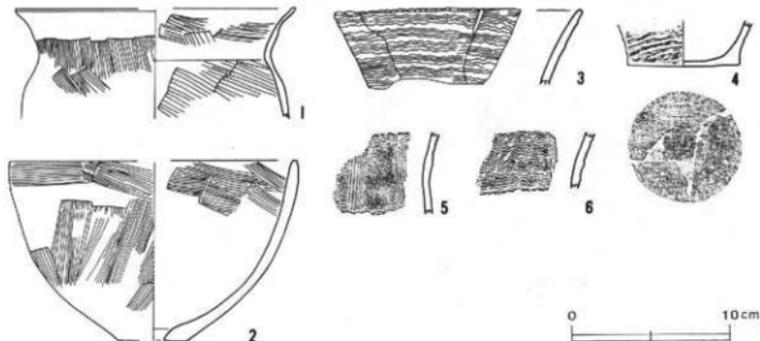


第135図 第3号住居跡実測図

遺物 弥生土器片160点、及び混入した縄文土器片3点、土師器片110点が出土している。第136図1と2は土師器、3と4は弥生土器である。1の甕と2の甕は中央部の覆土下層から、3の広口壺は中央部西寄りの床面直上と覆土下層から、4の壺形土器は第1炉東側の床面直上と覆土下層からそれぞれ出土している。

5と6は、弥生土器片の拓影図である。両者とも頸部片である。5は櫛歯状工具による波状文により、口縁部と胴部が分割され、頸部には6本櫛歯による縦区画内に波状文が充填されている。6は櫛歯状工具による縦区画内に6本櫛歯による波状文が充填されている。

所見 本跡の床面には、広範囲にわたり炭化材と第1炉の西側に焼土塊が広がっているのが確認できることから、焼失家屋と考えられる。また、土師器片が覆土下層及び覆土中から出土しており、住居廃絶後、覆土が堆積していく過程で流れ込んだものと思われる。時期は、遺構の形態や出土土器から、弥生時代後期後半と考えられる。



第136図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	甕 土師器	A [17.4]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面斜位、内面横位のハケ目調整後、横ナデ。胴部外面縦位のハケ目調整、体部外面斜位のヘラ削り、内面斜位のハケ目調整後、ナデ。	灰石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P 7 10% P.L.42 覆土下層
		B (6.9)				
2	甕 土師器	A [18.0]	底部から口縁部にかけての破片。単孔式。体部は輪形を呈し、内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部外面横位、内面斜位のハケ目調整。体部外面縦位のハケ目調整、内面ナデ。	灰石 針状炭物 砂粒 褐色 普通	P 8 25% P.L.42 覆土下層
		B 11.2				
		C [4.3]				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	広口壺 弥生土器	A [15.5]	口縁部片。口縁部はわずかに外反して立ち上がる。口唇部にキザミを有し、口縁部には4本櫛歯による波状文が6条施されている。	灰石 砂粒 にぶい褐色 普通	P 9 5% P.L.42 床面直上 覆土下層
		B (4.6)			
4	壺形土器 弥生土器	B (2.9)	底部片。胴部には附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部有目取。	灰石 砂粒 にぶい褐色 普通	P10 5% P.L.43 床面直上 覆土下層
		C 7.0			

第4号住居跡（第137図）

位置 調査区中央部、A 2区5区。

重複関係 第4号塚が、本跡の上部に構築されていることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.12m, 短軸2.74mの長方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は28cmほどで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁と西壁を除いて、巡っている。上幅10~25cm, 下幅3~15cm, 深さ15~27cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、北壁手前から中央部にかけて、踏み固められている。

ピット 6か所(P1~P6)。P1は径30cmの円形, P3, P5, P6は長径25~37cm, 短径21~24cmの楕円形, 深さ7~17cmでいずれも主柱穴である。P2は長径45cm, 短径40cmの楕円形で、深さ11cmの出入り口施設に伴うピットである。P4は径22cmの不整形円で、性格は不明である。

炉 西壁寄りに付設されており、平面形は長径53cm, 短径44cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状をしており、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

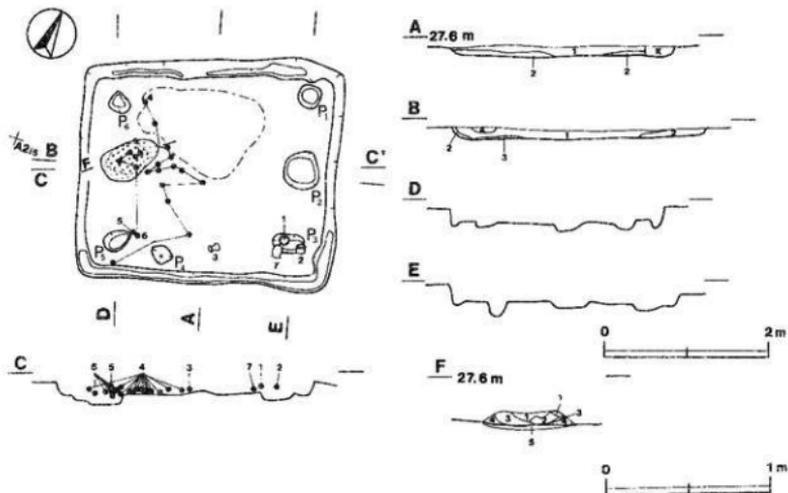
- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子多量 |
| 2 赤褐色 焼土大ブロック多量, 焼土粒子中量 | 5 褐色 焼土粒子微量 赤床面の火熱を受けた層 |
| 3 黒褐色 焼土粒子多量, 焼土中ブロック少量 | |

覆土 3層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

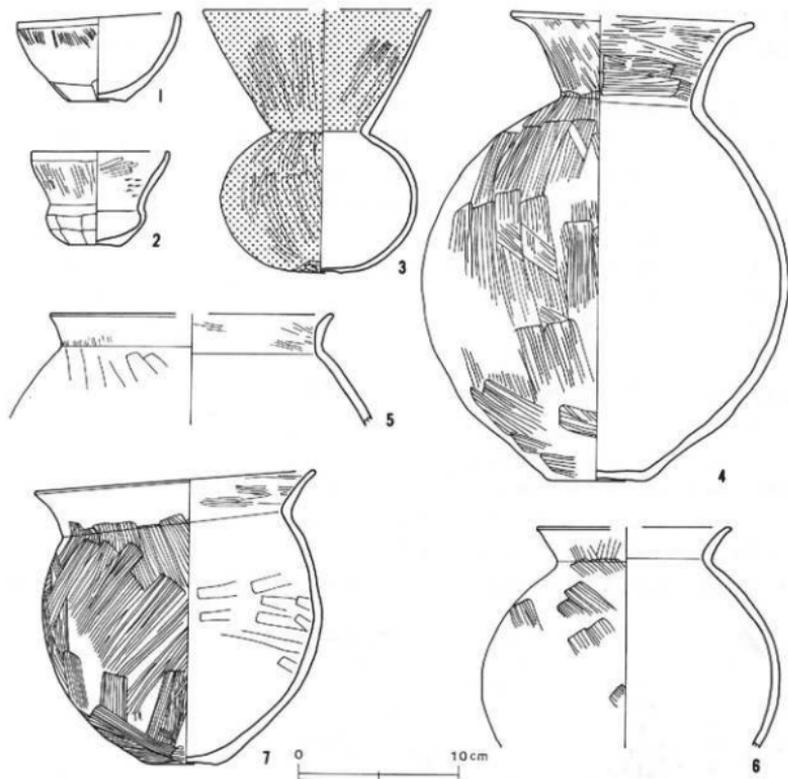
遺物 土師器片135点, 及び混入した縄文土器片5点, 弥生土器片10点が出土している。図示したものは、すべて土師器である。第138図1の甕はP3の上面から正位で、2の小形甕は斜位で、7の甕は逆位の状態で、3の甕は南壁寄りの覆土下層から横位の状態で出土している。4の甕は南壁から北壁寄りにかけて広範囲にわたり、床面直上と覆土下層から出土したものが接合している。5の甕は南西コーナー部の覆土中層から、6の甕は西



第137図 第4号住居跡実測図

壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の形態や出土土器から、古墳時代前期（4世紀中葉）と考えられる。



第138図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第138図 1	碗 土器器	A 10.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位のハケ目調整後、ナデ、下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石 石英 針状鉱物 砂粒 にふい橙色 普通	P11 95% P L43 P 3の上層
		B 5.5				
		C 3.4				
2	小形埴 土器器	A 8.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくの字状に屈曲する。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位。内面横位のハケ目調整後、ナデ、一部横位のヘラ磨き。体部外面横位のヘラナデ、内面ナデ。	長石 石英 赤色粒子 砂粒 橙色 普通	P12 95% P L43 P 3の上層
		B 5.8				
		C 3.3				
3	埴 土器器	A [140]	口縁部一部欠損。丸底で、中央がわずかにくぼむ。体部は扁平な球形形状で、最大径を中位にもつ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面縦位のヘラ磨き。体部外面縦位のヘラ磨き、下層横位のヘラ削り。内面ナデ。口縁部内・外面。体部外面赤彩。	長石 石英 雲母 砂粒 赤色 普通	P13 80% P L43 覆土下層
		B 16.4				
		C 2.2				

図面番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色澤・焼成	備考
第139図 4	壺 土師器	A [15.1] B 28.4 C 6.1	底部、腰部、口縁部一部欠損。口径の小さい平底。腰部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は強く外反する。	口縁部外面傾位、内面傾位のハケ目調整後、横ナデ。腰部外面中位以上傾位、下位傾位の粗いハケ目調整、内面ナデ。	長石 雲母 針状炭物 砂粒 にぶい褐色 普通	P14 85% P L43 外面塚付者 床面直上覆土下層
5	壺 土師器	A [17.5] B (6.5)	腰部から口縁部にかけての破片。腰部は内唇外縁に立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は器内を押しながらわずかに外反する。	口縁部外面傾位、内面傾位のハケ目調整後、横ナデ。腰部外面傾位のヘラナデ、内面ナデ。	長石 雲母 針状炭物 砂粒 にぶい褐色 普通	P16 5% P L43 覆土下層
6	壺 土師器	A [12.0] B (13.7)	腰部から口縁部にかけての破片。腰部は内唇して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面傾位のハケ目調整後、横ナデ。内面横ナデ。腰部外面傾位のハケ目調整、内面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	P17 30% P L43 覆土下層
7	壺 土師器	A 17.1 B 18.1 C 4.2	腰部一部欠損。底径の小さい平底。腰部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面横ナデ、内面傾位のハケ目調整後、横ナデ。頸部外面以下傾位のハケ目調整、内面傾位のヘラナデ。	長石 砂粒 にぶい褐色 普通	P18 90% P L43 外面塚付者 P3の上層

第5号住居跡(第139図)

位置 調査区北部、A2h7区。

重複関係 第4号塚が、本跡の上部に構築されていることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.58m、短軸5.11mの隅丸方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は38~56cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北西コーナー部を除いて、巡っている。上幅13~25cm、下幅4~6cm、深さ2~7cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部付近が踏み固められている。北東コーナー部と南東コーナー部付近には炭化材と焼土塊の広がりが見られる。

ピット 8か所(P1~P8)。P1は長径50cm、短径34cmの楕円形、P2~P4は径19~34cmの円形、深さ54~63cmでいずれも土柱穴である。P6は長径56cm、短径43cmの楕円形で、深さ27cmの出入り口施設に伴うピットである。P5、P7、P8は長径19~84cm、短径15~64cmの楕円形、深さ16~34cmでいずれも性格は不明である。

P1・P4~P6・P8土層解説

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量、黒色粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、炭化物少量 |
| 3 褐色 ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

炉 中央部のやや北西寄りに付設されており、平面形は長径83cm、短径53cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床である。炉床面は皿状をしており、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量

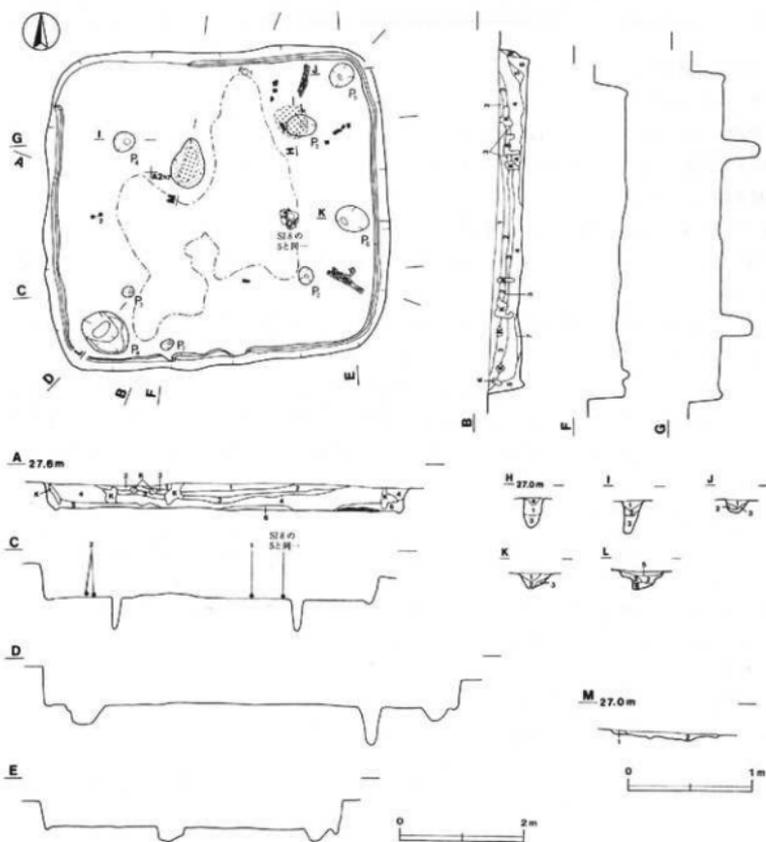
覆土 8層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

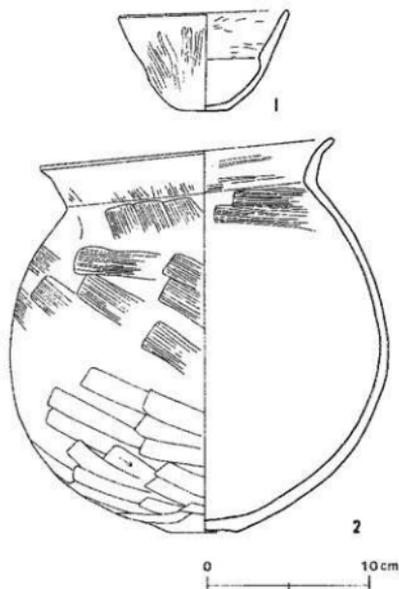
- | | |
|------------------------------|--|
| 1 黒色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 炭化物・焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、黒色粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量 | 8 褐色 焼土粒子少量 |
| 4 褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量 | |
| 5 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物 土師器片70点、及び混入した縄文土器片2点、弥生土器片14点、ナイフ形石器1点が出土している。図示したものは、すべて土師器である。第140図1の小形埴は北壁寄り床面直上から斜位の状態で出土している。2の壺は西壁寄りの床面直上と覆土下層から出土したものが接合している。また、中央部東寄りの床面直上から、駿河地方の大塚系広口壺の体部から口縁部片が出土しており、第8号住居跡の床面直上と覆土下層から広範囲にわたって出土している第147図5の底部から体部片と接合関係にある。

所見 本跡は、北東コーナー部と南東コーナー部付近に炭化材と焼土塊が広がっているのが確認できることから、焼失家屋と考えられる。炭化材は柱材や梁材及び桁材はなく、垂木材が壁から中央部に向かって部分的に遺存しており、人為的に焼かれたものと思われる。また、大塚系広口壺の体部から口縁部片は、住居廃絶後に投棄された可能性が高いと思われる。時期は、遺構の形態や出土土器から、古墳時代前期（4世紀中葉）と考えられる。



第139図 第5号住居跡実測図



第140図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	土・色調・焼成	備考
第140図 1	小形埴土器	A 10.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内壁して立ち上がり、内面の頸部との境に横をもつ。口縁部は器肉を増しながら外傾する。	口縁部外面から体部にかけて縦位のハケ目調整後、縦位のヘラ磨き。口縁部内面横位のハケ目調整後、横ナデ。体部内面ナデ。	長石 雲母 針状鉱物 砂粒 深い黄褐色 普通	P19 95% P.L.43 床面直上
		B 6.3				
		C 3.2				
2	罌上甕器	A 18.0	体部、口縁部一部欠損。底径の小さい平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部外面斜位、内面横位のハケ目調整後、横ナデ。体部外面上半部斜位のハケ目調整。下半部斜位のヘラ磨り。内面上位横位のハケ目調整。中位以下ナデ。	長石 石英 赤色粘土 小礫 砂粒 濃い褐色 普通	P20 90% P.L.43 外面吸付着 床面直上 或上下部
		B 24.1				
		C 4.0				

第6号住居跡(第141図)

位置 調査区南西部、A110区。

重複関係 第1号溝が、本跡を掘り込んでいることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.71m、短軸3.35mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-59°-W

壁 壁高は41~50cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部の第1炉周辺が、踏み固められている。

ピット 10か所(P1~P10)。P1~P9は径14~26cmの円形、深さ30~34cmで、規模や配列から柱穴と考えられる。P10は径19cmの円形で、性格は不明である。

炉 2か所。第1炉は中央部のやや南東寄りに付設されており、平面形は径49cmほどの円形で、床面を17cmほど掘りくぼめた地床炉である。第2炉は中央部のやや西寄りに付設されており、平面形は長径95cm、短径50cmの楕円形で、床面を16cmほど掘りくぼめた地床炉である。ともに炉床面は皿状をしており、第2炉は火熱を受けて赤変硬化しているが、第1炉はあまり赤色硬化していない。

第1炉土層解説

- 1 褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子中量、焼土粒子微量(炉床面下の火熱を受けた層)

第2炉土層解説

- 1 褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子中量、焼土粒子微量(炉床面下の火熱を受けた層)

覆土 6層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

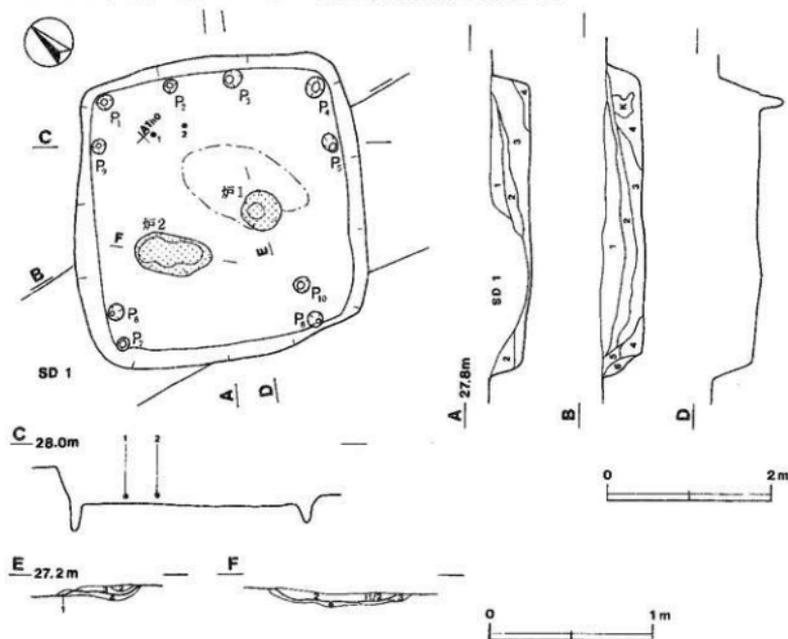
土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 炭化粒子、黒色粒子微量
- 6 暗褐色 炭化粒子微量

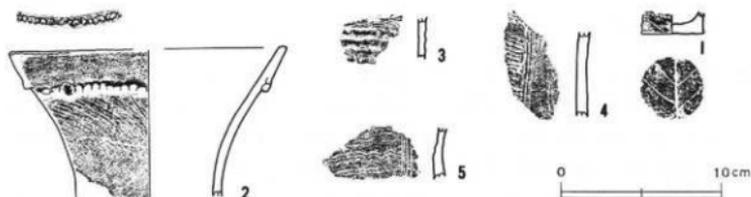
遺物 弥生土器片74点、鏝1点が出土している。第142図1のミニチュア土器と2の広口甕は、北コーナー部付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

3～5は、弥生土器片の拓影図である。3～5は頸部片である。3は口縁部に歯齒状工具による波状文が施され、押圧された微隆帯により、口縁部と頸部が区画されている。4と5は4本歯齒による縦区画内に、波状文が充填されている。胎土に金雲母が含まれている。

所見 時期は、遺構の形態や出土土器から、弥生時代後期後半と考えられる。



第141図 第6号住居跡実測図



第142図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第142図 1	にねり土器 弥生土器	B (1.4) C 3.8	底部片。胴部には附加条縄文が施されている。底部木重痕。	長石 石英 砂粒 にふい黄褐色 普通	P21 5% 覆土下層
2	広口壺 弥生土器	A [16.8] B (9.1)	胴部から口縁部にかけての破片。貼瘤一部欠損。頸部から口縁部にかけて外反して立ち上がる。複合口縁を呈し、口唇部と複合口縁の下層部には縄文原体による押圧が施され、さらに下層部には2個一組の瘤が貼り付けられている。頸部には附加条一種(附加2条)の縄文が施され、羽状構成をとる。	長石 石英 雲母 砂粒 にふい褐色 普通	P22 5% P L44 覆土下層

第7号住居跡 (第143図)

位置 調査区南部, A 2 12区。

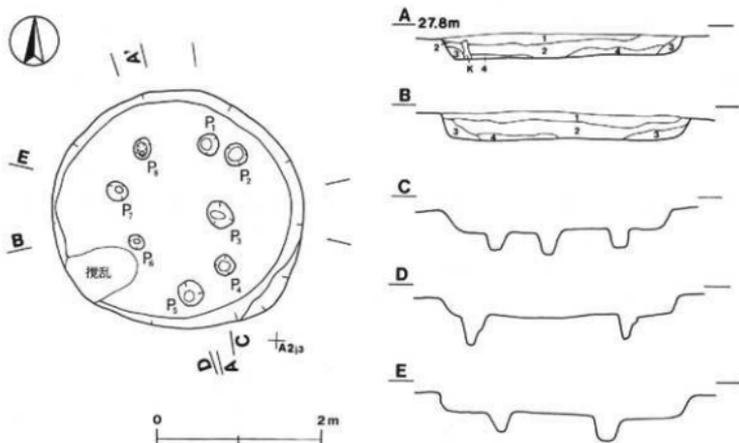
規模と平面形 長径3.14m, 短径2.98mのはほぼ円形である。

壁 壁高は18~27cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 特に踏み固められている部分はない。南西側の一部が攪乱を受けている。

ピット 8か所 (P1~P8)。P1~P8は径23~36cmの円形, 深さ11~36cmで, 規模や配列から柱穴と考えられる。

覆土 4層からなり, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と思われる。



第143図 第7号住居跡実測図

土層解説

1 暗褐色 炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

3 褐色 ローム小ブロック・黒色粒子微量

4 褐色 ローム中ブロック少量

遺物 縄文土器片47点、及び混入した弥生土器片3点が出土している。第144図1～5は、縄文土器片の拓影図である。1は緩い波状口縁を呈する口縁部片で、口唇部に刺突が施され、その下部には結節沈線文が1条施文されている。2と3は頸部片と思われる。2は断面三角形の隆帯により区画され、区画内に爪形文が施されている。3は断面三角形の隆帯が横位に走り、その下部に角押文が施されている。4と5は胴部片である。4は断面三角形の隆帯が横位に施され、その下部にはまばらな爪形文が巡らされている。5は幅広のまばらな爪形文が横位に施文されている。1～5には、胎土に雲母が含まれている。

所見 本跡は、床面に踏み締められた硬化面が見られず、炉等の内部施設が伴わないことから、居住を目的とした竪穴住居と異なり、一時的に使用されたものと思われる。時期は、遺構の形態や出土土器から、縄文時代中期中葉（阿玉台式期）と考えられる。



第144図 第7号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡（第145図）

位置 調査区東部、A2J7区。

重複関係 第5号塚が、本跡の上部に構築されていることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.81mの方形である。

主軸方向 N-69°-E

壁 壁高は9～19cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、東・西コーナー部付近が、踏み固められている。

ピット 8か所（P1～P8）。P1～P4は長径57～72cm、短径47～58cmの楕円形、深さ13～26cmでいずれも主柱穴である。P5～P8は径14～24cmの円形、深さ19～60cmでいずれも補助柱穴であると思われる。

P2～P4土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

3 褐色 ローム粒子少量

4 褐色 ローム小ブロック少量

炉 3か所。第1炉は中央部の南東寄りに付設されており、平面形は長径48cm、短径30cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。第2炉は中央部の北西寄りに付設されており、平面形は長径56cm、短径34cmの楕円形で、床面を11cmほど掘りくぼめた地床炉である。第3炉は第2炉の西側に付設されており、平面形は長径55cm、短径40cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめた地床炉である。ともに炉床面は皿状をしており、火熱を受けて赤変硬化している。

第1炉土層解説

1 濃い赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量

2 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量（炉床下の火熱を受けた層）

第3炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子少量

2 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量（炉床下の火熱を受けた層）

第2炉土層解説

1 濃い赤褐色 焼土粒子中量

2 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量（炉床下の火熱を受けた層）

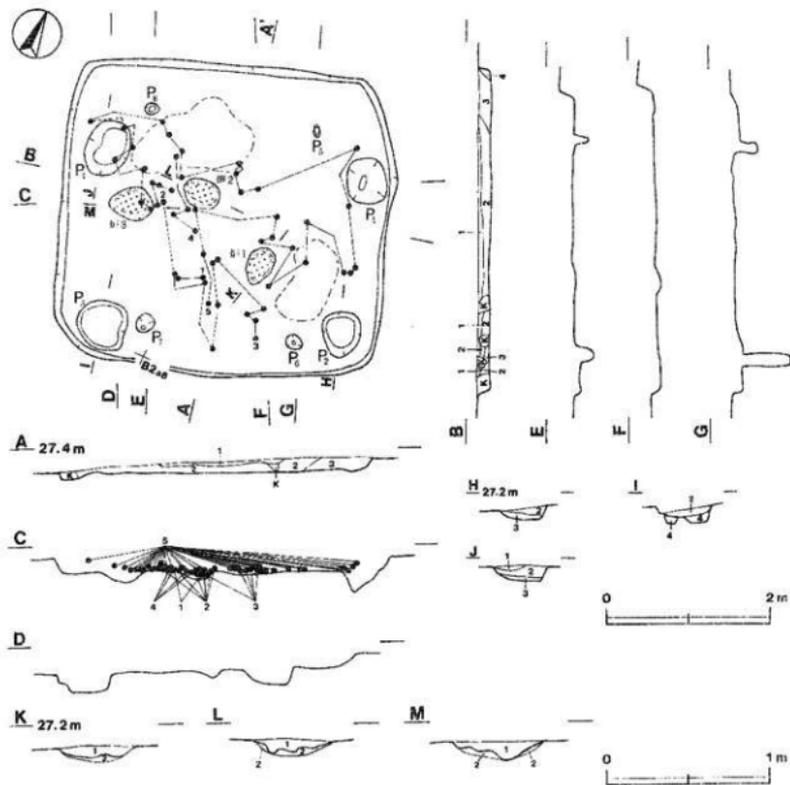
覆土 4層からなり、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子・炭土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子少量 |

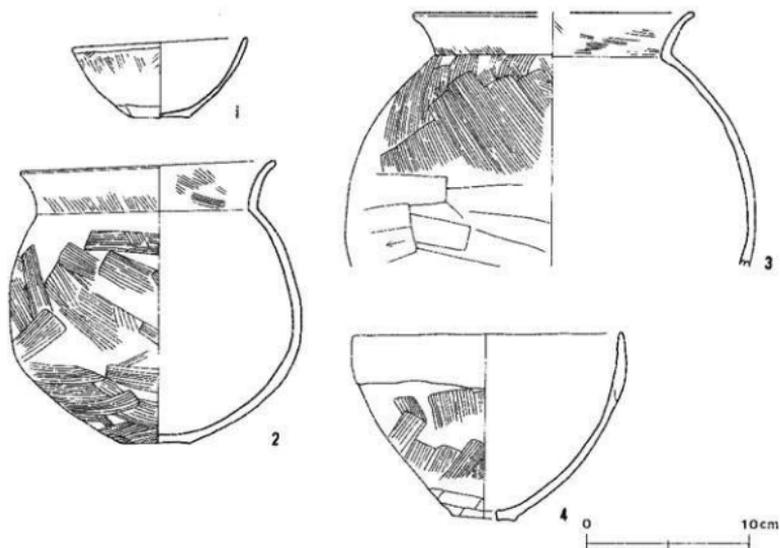
遺物 土師器片106点、及び混入した縄文土器片1点、弥生土器片19点が出土している。図示したものは、すべて土師器である。第146図の碗は中央部付近、3の境は南東壁寄りから中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。4の甌は中央部付近の床面直上から出土している。2の甕は南東壁寄りから中央部の床面直上と覆土下層から出土したものが接合している。5は駿河地方の大塚系広口壺の底部から体部片で、床面直上と覆土下層から広範囲にわたって出土しており、第5号住居跡の中央部東寄りの床面直上から出土している体部から口縁部片と接合関係にある。

所見 本跡は、P2・P3の支柱穴の内側とP1・P4の支柱穴の内側の北寄りに深さ19~60cmの小ピットが確認できることから、補助柱穴を伴う住居跡と考えられる。また、大塚系広口壺の底部から体部片は、住居跡



第145図 第8号住居跡実測図

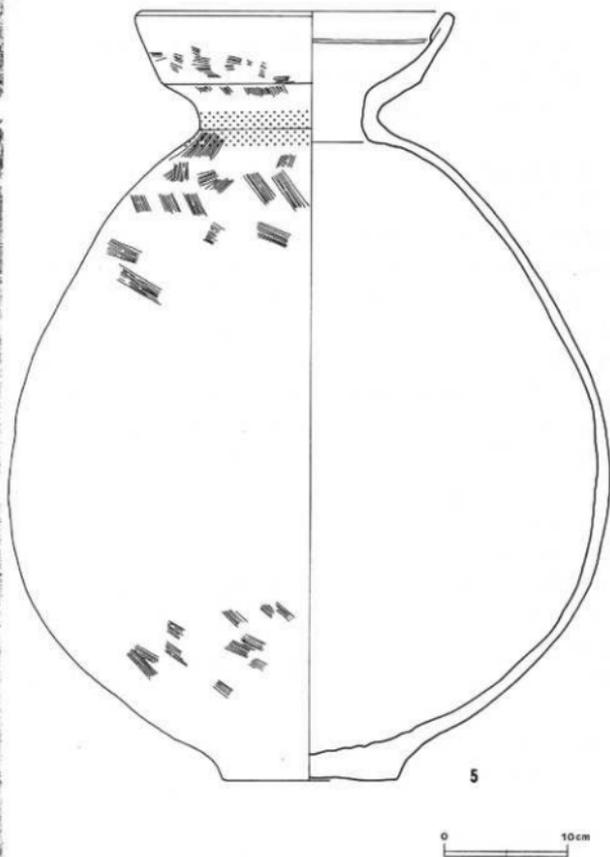
絶後に投棄された可能性が高い。時期は、遺構の形態や出土土器から、古墳時代前期（4世紀中葉）と考えられる。



第146図 第8号住居跡出土遺物実測図(1)

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図 1	碗 上 部 器	A 10.6	体部、口縁部一部欠損。平底。体部は内押しで立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のハケ目調整後、ナデ。下部横位のヘリ周リ。内面ナデ。	長石 雲母 針状鉱物 砂粒 にぶい橙色 黄褐色	P23 80% P.L.44 履土下層
		B 5.0				
		C 3.4				
2	壺 上 部 器	A 15.7	体部、口縁部一部欠損。底径の小さい平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面斜位のハケ目調整後、横ナデ。体部外面中位以上斜位のハケ目調整。下位横位のハケ目調整。内面ナデ。	長石 小礫 砂粒 にぶい橙色 普通	P24 70% P.L.44 外面煤付着 床面直上 履土下層
		B 17.3				
		C 4.2				
3	壺 十 部 器	A 17.2	体部から口縁部にかけての破片。体部は内押しで立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し口縁部は外反する。	口縁部外面斜位。内面横位のハケ目調整後、横ナデ。体部外面上半部斜位のハケ目調整。下半部横位のヘリ周リ。内面ナデ。	長石 雲母 小礫 砂粒 橙色 普通	P25 30% P.L.44 外面煤付着 履土下層
		(15.5)				
4	瓶 上 部 器	A 16.5	底部。体部、口縁部一部欠損。単孔式で、底部はわずかに突出する。体部は球形に至し、内押しで立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は折り返し口縁で、直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位。中位斜位のハケ目調整。下位横位のヘリ周リ。内面ナデ。	長石 針状鉱物 砂粒 赤色長子 にぶい橙色 普通	P26 85% P.L.44 床面直上
		B 11.5				
		C 3.8				
第147図 5	広口壺 上 部 器	A 26.0	体部、口縁部一部欠損。平底。底部は突出する。体部は下膨れ気味で、最大径を上位にもつ。頸部は直く直立して立ち上がり、口縁部は外側に段を有し、外傾する。口縁部内面は折り返されている。	口縁部外面横位のハケ目調整後、横ナデ。頸部外面縦位のハケ目調整後、横ナデ。体部外面上位斜位のハケ目調整。下位斜位のハケ目調整後、ナデ。内面調整。頸部外面赤彩。	長石 小礫 砂粒 橙色 普通	P27 70% 豊河地方 大塚系土器 S1-3出土係証から L層破片と要合部 床面直上 履土下層
		C 14.3				



第147图 第8号住居跡出土遺物実測図(2)

2 塚

今回の調査で、近世の塚5基が確認された。塚群は当遺跡の中央部を東西方向一直線上に築造されている。また、その南側には塚群に沿うように、溝が3条延びており、時期も同じことから関連する可能性も考えられる。性格は、当時の信仰の対象であった可能性も考えられるが、3条の溝の底面にはビット群が検出されており、溝列の跡と考えれば、塚群は1地の境界の区画的な役割をもっていたとも考えられる。以下、検出した塚の特徴と出土遺物について記載する。

第1号塚（第148図）

位置 調査区西部、A1f9区。

重複関係 本跡が、第2号住居跡の上部に築造されていることから、本跡が新しい。

規模と形状 基底面は、長径4.85m、短径3.35mの不整楕円形を呈し、現地表面から塚頂部までの高さは0.45mである。

長径方向 N-70°-W

構築状況 旧地表面を基底部とし、ローム粒子、ロームブロック、黒色土を微量から中量含んだ黒色土を盛土している。木根による攪乱が認められ、全体的に軟らかい層であるが、7層は硬くしまりがある。

遺物 盛土中から、弥生土器片38点、土師器片18点、陶器片1点、磨石1点が出土している。

所見 本跡に伴うと考えられる遺物がないため、時期は明確ではないが、構築状況から近世の塚と考えられる。

第2号塚（第148図）

位置 調査区西部、A2g1区。

規模と形状 基底面は、長径5.05m、短径4.30mの楕円形を呈し、現地表面から塚頂部までの高さは0.50mである。

長径方向 N-70°-W

構築状況 旧地表面を基底部とし、ローム粒子、ロームブロック、黒色土を微量から中量含んだ暗褐色土、黒色土を盛土している。木根による攪乱が認められ、全体的にしまりは弱いですが、7層は硬くしまっている。

遺物 盛土中から、弥生土器片59点、土師器片6点、陶器片1点が出土している。

所見 本跡に伴うと考えられる遺物がないため、時期は明確ではないが、構築状況から近世の塚と考えられる。

第3号塚（第148図）

位置 調査区中央部、A2h4区。

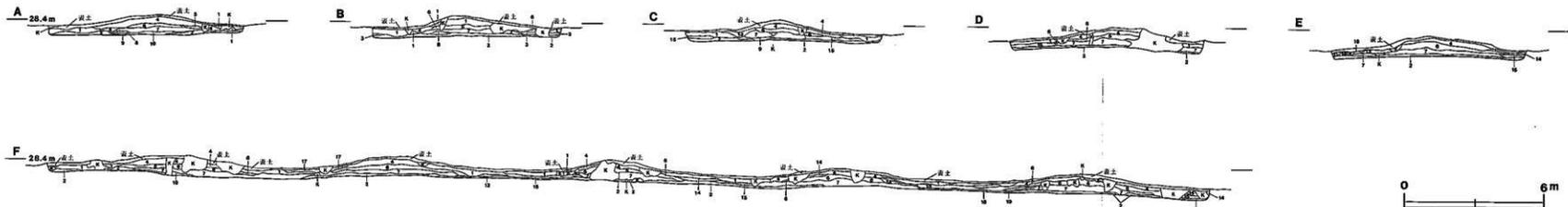
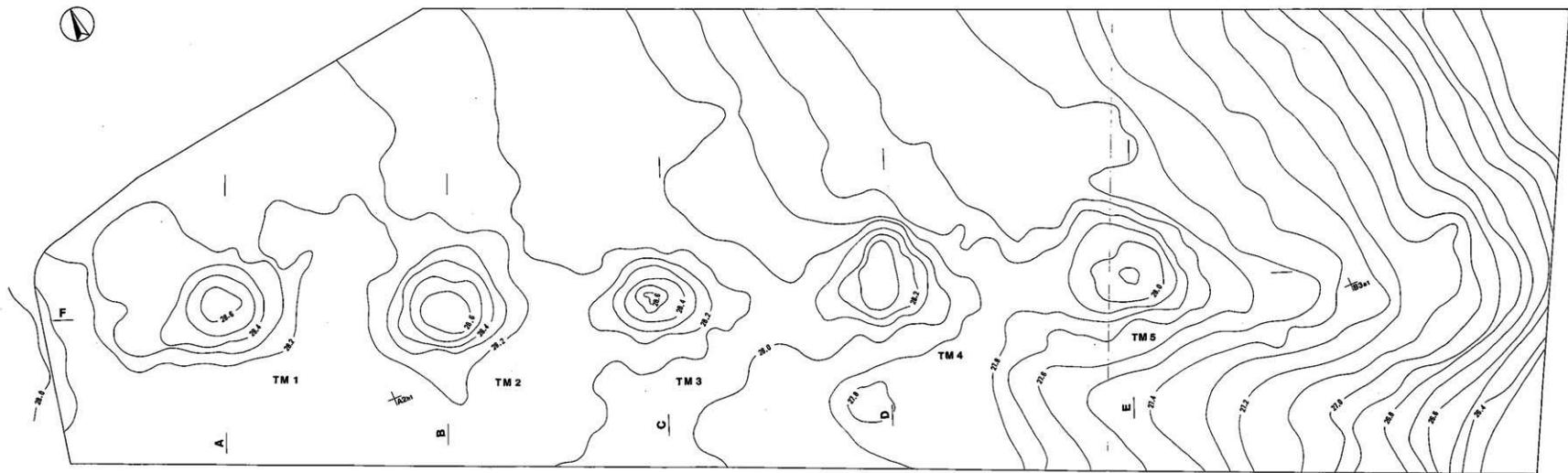
規模と形状 基底面は、長径5.30m、短径3.05mの不整楕円形を呈し、現地表面から塚頂部までの高さは0.55mである。

長径方向 N-70°-W

構築状況 旧地表面を基底部とし、ローム粒子、ロームブロック、黒色土を微量から中量含んだ暗褐色土、黒色土を盛土している。盛土上は木根による攪乱が激しいため、層の境界が不明瞭な所が多い。全体的に軟らかい層であるが、7層は硬くしまりがある。

遺物 盛土中から、縄文土器片5点、弥生土器片46点、土師器片16点が出土している。

所見 本跡に伴うと考えられる遺物がないため、時期は明確ではないが、構築状況から近世の塚と考えられる。



第148图 第1~5号塚地形测量图·土层断面图

第4号塚 (第148図)

位置 調査区中央部, A 216区。

重複関係 本跡が, 第4・5号住居跡の上部に築造されていることから, 本跡が新しい。

規模と形状 基底面は, 長径4.95m, 短径3.70mの不整形円形を呈し, 現地表面から塚頂部までの高さは0.60mである。

長径方向 N-70°-W

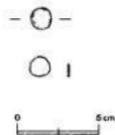
構築状況 旧地表面を基底部とし, ローム粒子, ロームブロック, 黒色土を微量から中量含んだ暗褐色土, 黒色土を盛土している。盛土上は木根による擾乱が激しいため, 層の境界が不明瞭な所が多い。全体的にしまりは弱いが, 7層は硬くしまっている。

遺物 盛土中から, 縄文土器片5点, 弥生土器片28点, 土師器片15点, 須恵器片1点, 鉛玉1点が出土している。

所見 本跡に伴うと考えられる遺物がないため, 時期は明確ではないが, 構築状況から近世の塚と考えられる。

第4号塚出土遺物観察表

図録番号	種別	計測値		出土地点	備考
		径 (cm)	重量 (g)		
第149図1	鉛玉	1.3	10.8	TM-4 盛土中	鉛製 火縄銃の弾 M1 P.L.46



第149図 第4号塚出土遺物実測図

第5号塚 (第148図)

位置 調査区東部, A 218区。

重複関係 本跡が, 第8号住居跡の上部に築造されていることから, 本跡が新しい。

規模と形状 基底面は, 長径4.85m, 短径3.85mの楕円形を呈し, 現地表面から塚頂部までの高さは0.65mである。

長径方向 N-70°-W

構築状況 旧地表面を基底部とし, ローム粒子, ロームブロック, 黒色土を微量から中量含んだ暗褐色土, 黒色土を盛土している。盛土上は木根による擾乱が激しいため, 層の境界が不明瞭な所が多い。全体的に軟かい層であるが, 7層は硬くしまりがある。

遺物 盛土中から, 縄文土器片2点, 弥生土器片21点, 土師器片13点, 陶器片1点, 土玉1点が出土している。

所見 本跡に伴うと考えられる遺物がないため, 時期は明確ではないが, 構築状況から近世の塚と考えられる。

第1～5号塚土層解説

- 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 黒色粒子微量
- 極暗褐色 黒色中ブロック中量, ローム粒子微量
- 黒色 ローム粒子・黒色粒子微量
- 黒褐色 黒色小ブロック微量
- 黒色 黒色粒子少量, ローム粒子微量
- 黒色 黒色中ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色小ブロック微量
- 黒色 盛土粒子微量
- 黒色 白色粒子少量, ローム粒子微量
- 黒褐色 黒色粒子少量, ローム粒子微量
- 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 黒色粒子微量
- 黒褐色 黒色粒子微量
- 暗褐色 黒色小ブロック中量
- 暗褐色 黒色小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 黒褐色 黒色小ブロック中量, ローム粒子微量
- 黒褐色 炭化粒子少量, 黒色小ブロック・ローム粒子微量
- 黒褐色 黒色小ブロック中量, ローム粒子微量

3 土坑

今回の調査で、縄文時代の隔し穴1基、弥生時代の土器棺墓1基、近世の土坑1基を検出した。以下、検出された土坑の特徴や出土遺物について記載する。

第1号土坑（土器棺墓）（第150図）

位置 調査区中央部，A 2g3区。

規模と形状 平面形は、径0.46mほどの円形で、深さ28cmである。底面は皿状を呈しており、壁は外傾して、立ち上がっている。

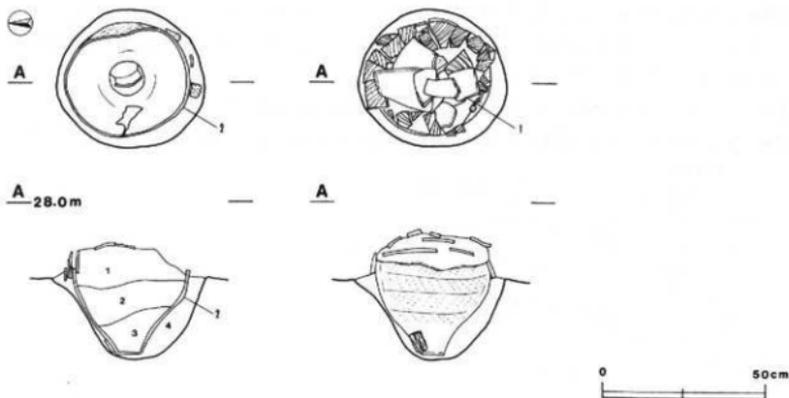
覆土 4層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

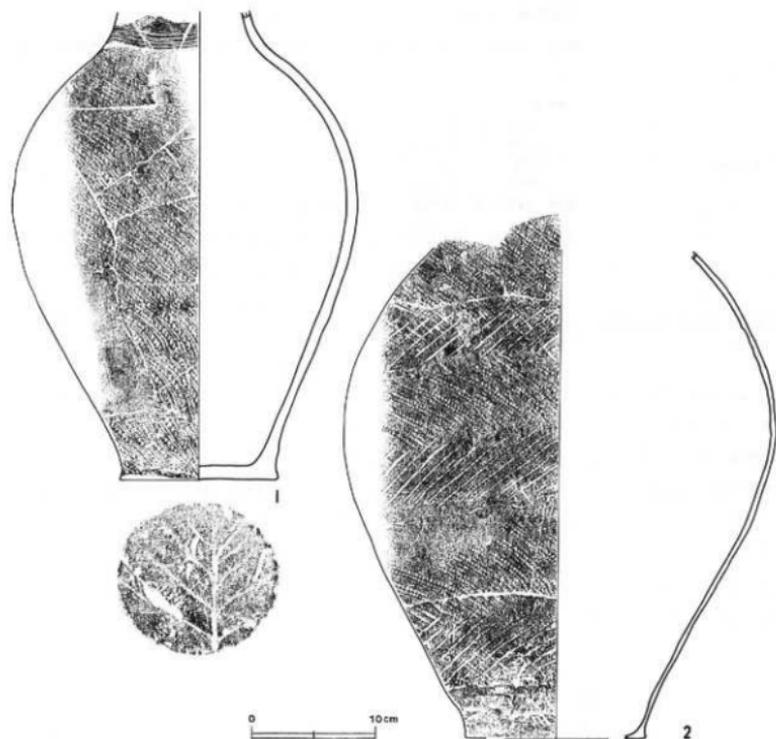
- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 弥生土器片152点が出土している。中央部から、第151図2の胴部上位以上欠損した大形壺が正位の状態で、その上部に1の頸部以上が欠損した大形壺がおしつぶされた状態の破片で、まとまって出土している。2の大形壺の底部は穿孔されている。内部から骨片等は検出されていない。

所見 本跡は、中央部から胴部上位以上欠損した大形壺が正位の状態で、その上部に頸部以上が欠損した大形壺がおしつぶされた状態の破片で出土していることから、土器棺墓と考えられる。1の大形壺がつぶれた状態で出土しているが、本来は壺胴部を蓋にしてのせた状態であったと思われる。また、1の大形壺の胴部には附加条二種（附加2条）の縄文が施され、2の大形壺の胴部には、附加条二種（附加1条）と附加条二種の原体で、2本同時に並べて附加された縄文が施され、羽状構成をとるなど、施文が特異であることから、土器棺使用を意識して製作された可能性が考えられる。時期は、遺構の形態や出土土器から、弥生時代後期後半と思われる。



第150図 第1号土坑実測図



第151図 第1号土坑出土遺物実測図

第1号土坑出土遺物観察表

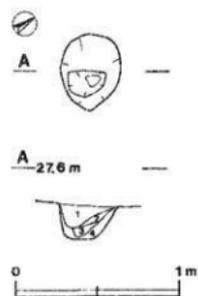
図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第151図 1	大形壺	B (38.5)	底部から頸部にかけての破片。平底で、わずかに張り出しをもつ。胴部は内磨して立ち上がる。胴部に山形文が施され、胴部との境には7本歯歯による横走文が走る。胴部には附加条二種（附加2条）の縄文が施されている。底部木葉痕。	長石 小礫 砂粒 灰黄色 普通	P28 60% P L 41 P29の上部
	弥生土器	C 12.8			
2	大形壺	B (39.8)	底部、胴部上位以上欠損。平底で、焼成後に穿孔されている。胴部は内磨して立ち上がる。胴部には附加条二種（附加1条）と附加条二種の縦線で、2本同時に並べて附加された縄文が交互に施され、羽状構成をとる。内面剝離が激しい。	長石 石英 雲母 小礫 砂粒 橙色 普通	P29 70% P L 41 底面
	弥生土器	C [14.3]			

第2号土坑（第152図）

位置 調査区南西部，A 1 i8区。

重複関係 本跡が、第1号溝の底面を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と形状 平面形は、長径0.48m、短径0.36mの楕円形で、深さ31cmである。底面は皿状で、楕円形を呈しているが、南東側はわずかに深く掘り込まれている。壁は外傾して、立ち上がっている。



第152図 第3号土坑実測図

長径方向 N-60°-W

覆土 4層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック散在
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック散在
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 内側の覆土上層から、馬の歯24点が出土している。

所見 本跡は、第1号溝の底面を掘り込んで構築されており、西側の覆土上層から、馬の歯が出土していることから、溝と関連する遺構と思われる。本跡で祭祀的行為が行われた可能性が考えられる。時期は、溝と同時期のものと思われることから、近世と考えられる。

第3号土坑（第153図）

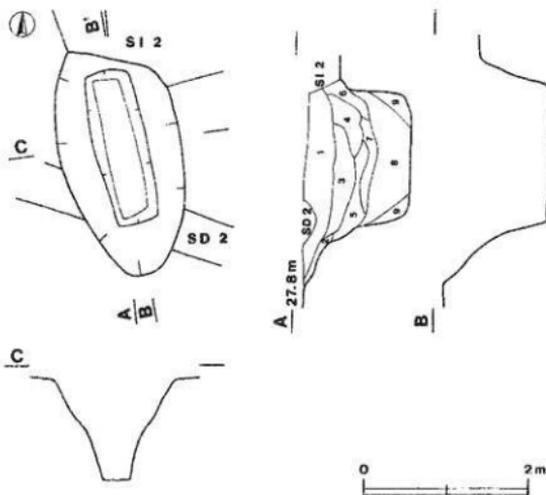
位置 調査区西部，A1h0区。

重複関係 第2号住居跡，第2号溝が本跡を掘り込んでいることから，本跡が古い。

規模と形状 平面形は，長径（1.38）m，短径0.75mの長楕円形で，深さ126cmである。底面は平坦で，断面形はU字状を呈している。壁はほぼ垂直に立ち上がり，上位で外傾する。底面に近いほど長径方向に平行して狭くなる。

長径方向 N-16°-W

覆土 9層からなり，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。



第153図 第3号土坑実測図

土層解説

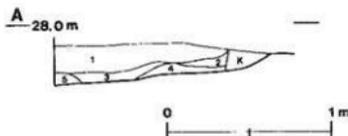
- 1 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、黒色粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・黒色粒子微量
- 5 暗褐色 黒色粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、黒色粒子微量
- 7 褐色 ローム中ブロック微量
- 8 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子・炭屑粒子中量、ローム小ブロック少量

所見 本跡の東側は傾斜面になっており、傾斜に対し直交するように構築されており、遺構の形態等から陥し穴と考えられる。遺物が出土していないので、詳細な時期は不明であるが、縄文時代の構築と思われる。

4 道路跡

今回の調査で、調査区西部から道路跡1条を検出した。以下、検出された道路跡の特徴や出土遺物について記載する。

第1号道路跡（第154図）



位置 調査区西部 A1e8～A1g7k。

重複関係 本跡が、第1号住居跡、第1・2号溝の上部に構築されていることから、本跡が新しい。

規模と形状 確認できた部分は全長18.3m、最大幅1.4mで、直線的に延びており、北端部、南端部及び西部は調査区域外に続いている。

第154図 第1号道路跡土層断面図

方向 N-23°-E

覆土 5層からなり、不自然な堆積の状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

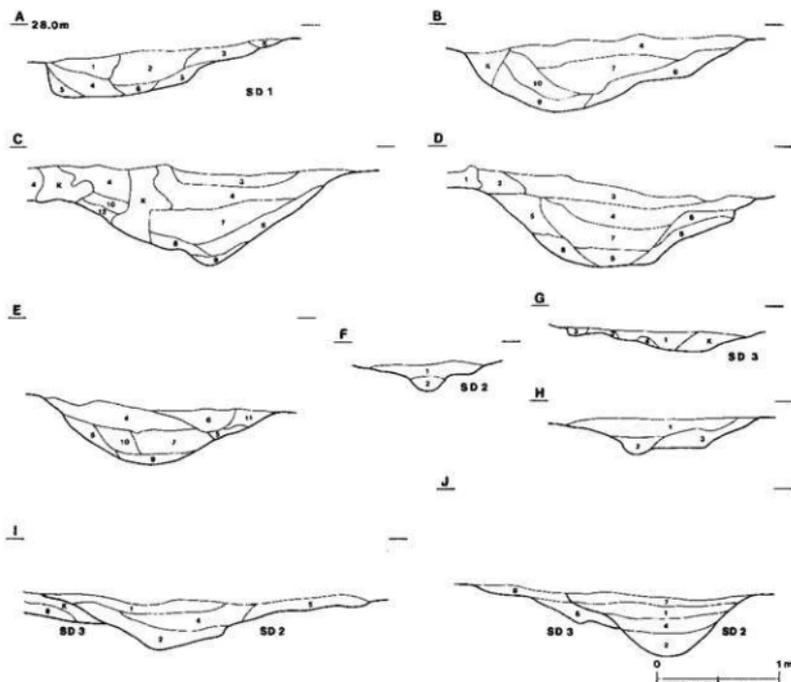
遺物 覆土中から、縄文土器片2点、弥生土器片16点、土師器片3点、土師質土器片2点、陶器片1点が出土している。

所見 時期は不明であるが、第1号住居跡や第1・2号溝の上部に硬化面が確認されており、現在の生活道路に沿うように南北方向に延びていることから、近世以降の構築と考えられる。

5 溝

今回の調査で、調査区南部から溝3条が確認された。遺物は少なく、ほとんどが細片であるが、第1号溝から上師質土器片、第1・2号溝から古銭（寛永通寶）が覆土中から出土していることから、時期は近世と思われる。3条の溝は、塚群の南側に沿うように東西方向に延びており、時期も塚群と同じことから、塚群と関連する可能性が考えられる。3条の溝の底面からは、径10~82cmの円形または不整形円形、深さ3~57cmのピット群が検出されており、横列の跡と考えれば、土地の境界の区画的な役割をもっていたとも考えられる。また、溝の覆土中層には硬く踏み締められた層があり、当遺跡の東側の谷津へ向かう堀底道として使用されたものと考えられる。

検出された溝（第155・162図）の特徴や遺物については、一覧表で記載し、平面図（第162図）、土層断面図及び土層解説を掲載する。



第155図 第1・2・3号溝土層断面図

第1号溝土層解説 (SPA~A')

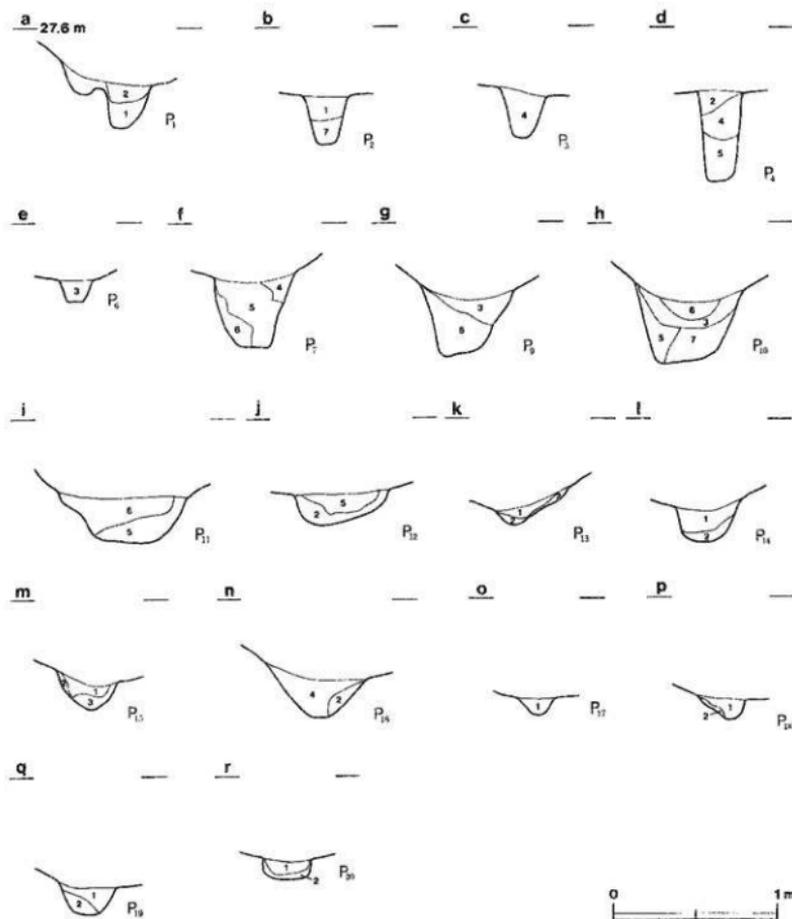
- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒色 ローム粒子少量
- 3 黄褐色 ローム粒子・黒色粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

第1号溝土層解説 (SPB~B', SPC~C, SPD~D', SPE~E')

- 1 黒色 黒色小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量
- 4 棕褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・黒色粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
- 6 棕褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 10 黒褐色 ローム粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子少量

第2・3号溝土層解説 (SPF~F', SPG~G, SPH~H', SPI~I', SPJ~J')

- 1 暗褐色 黒色小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 黒色小ブロック中量
- 3 暗褐色 黒色粒子少量
- 4 暗褐色 黒色小ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 黒色粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・黒色粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 暗褐色 黒色粒子微量



第156図 第1・3号溝, ピット1~4・6・7・9~20土層断面図

P1～P4、P6・P7、P9～P13土層解説

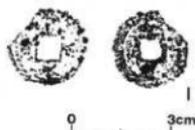
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム中ブロック・黒色小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 6 褐色 ローム大ブロック中量
- 7 褐色 ローム中ブロック中量

P14～P19土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック微量

P20土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック微量



第157図 第1号溝出土遺物実測図



第158図 第2号溝出土遺物実測図

第1号溝出土遺物観察表

図版番号	銭種	計測値				初鋳年(時代, 年号)	備考
		径(cm)	孔径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
第157図1	○永○○	1.4	0.6	0.2	(3.4)	不明	寛永通寶? 覆土中 M2 P L46

第2号溝出土遺物観察表

図版番号	銭種	計測値				初鋳年(時代, 年号)	備考
		径(cm)	孔径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
第158図1	寛永通寶	1.3	0.6	0.1	1.8	江戸 寛永13年(1636)	覆土中 M3 P L46

6 遺構外出土遺物

今回の調査で、遺構に伴わない旧石器時代から近世までの土器片や土製品、石器等が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。(第159・160図)

(1) 縄文土器

第159図2～18は縄文土器片の拓影図である。2～4は胎土に繊維が含まれる前期前葉黒浜式の土器である。2は口縁部片で、口唇部直下に刺突が加えられ、その下部に単節LRの縄文が施されている。補修孔がある。3と4は胴部片で、単節RLの縄文が施文されている。

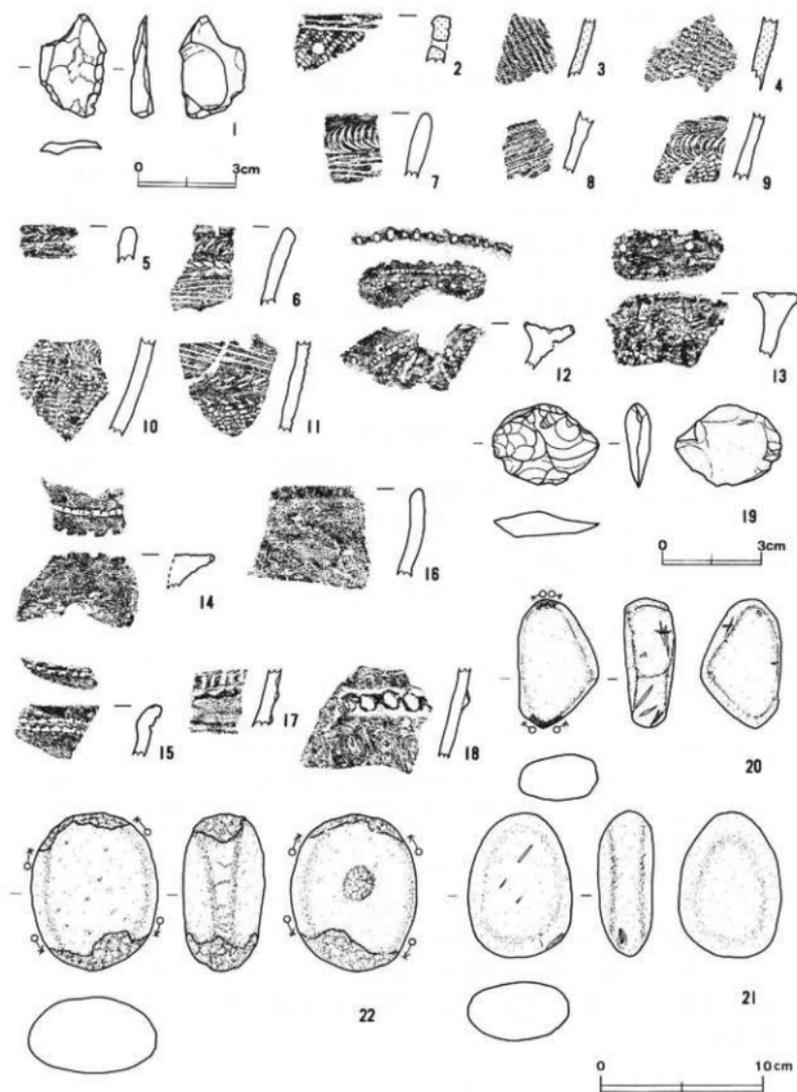
5～11は前期後葉浮島式の土器である。5～7は口縁部片である。5は口唇部に横位の爪形文が施されている。6と7は口唇部直下に変形爪形文、その下部に横位の沈線文が施文されている。6の口唇部はやや外削ぎ状で、7はヘラ状である。8は頸部片で、縄文原体が押し入れられ、横位の沈線文が施されている。9と10は胴部片で、変形爪形文と貝殻波状文が施文されている。11は胴部片で、横位の沈線文、変形爪形文、貝殻波状文が施されている。

12～18は中期中葉阿玉台式の土器である。12～14は把手部である。12は頂部に結節沈線文が一巡し、区画内に円形刺突文が一行施文されている。側面には2ないし3条の結節沈線文が施されている。13は頂部に円形刺突文、側面には結節沈線文が施文されている。14は頂部の縁辺部にキザミを有し、頂部に1条の結節沈線文が施文されている。15と16は口縁部片である。15は口唇部に刺突が加えられ、口唇部直下に2列の結節沈線文が施されている。16は内縁する口縁部片で、無文である。17と18は頸部片である。17は幅広い竹管文の下部に、断面三角形の隆帯が横に2列巡らされている。18は指頭による刺突が加えられた断面三角形の隆帯が巡らされている。

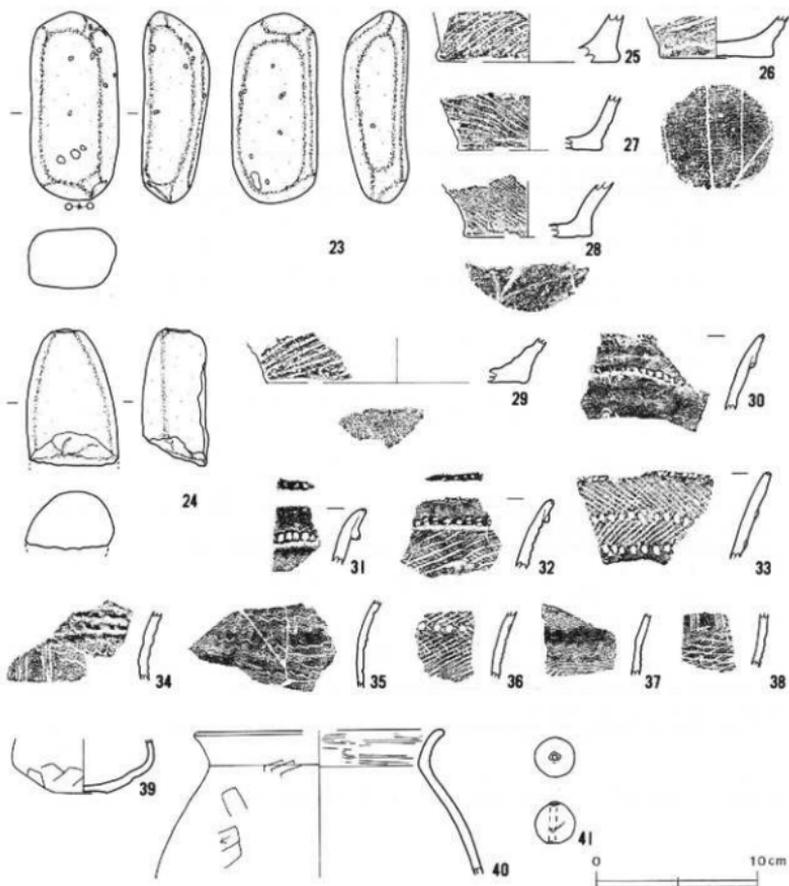
(2) 弥生土器

第160図30～38は弥生土器片の拓影図である。30～32は複合口縁を呈する口縁部片で、口唇部と複合口縁の下端には縄文原体による押し入れが施されている。頸部は30は無文、31には5本櫛歯による波状文、32には附加条二種(附加1条)の縄文が施されている。33は単口縁の口縁部片で、口唇部に縄文原体による押し入れ、口縁部には縄文原体による押し入れが2段施されている。各段の上部には附加条一種(附加2条)の縄文が施され、羽状構成をとる。煤が付着している。

34は頸部片で、口縁部と頸部の境に3条の微隆帯をもっている。頸部には6本櫛歯による縦区画内に波状文が充填されている。35は頸部片で、7本櫛歯による波状文が施されている。36は頸部片で、附加条一種(附加2条)の縄文が施され、縄文原体による押し入れが巡らされている。煤が付着している。37は頸部片で、頸部には5本櫛歯による波状文、胴部との境には5本櫛歯による横走文が巡らされている。38は頸部から胴部片である。頸部には櫛歯状工具による縦区画、胴部との境には5本櫛歯による波状文、胴部には附加条二種(附加1条)の縄文が施されている。



第159図 遺構外出土遺物実測図(1)



第160図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土石器一覧表(旧石器時代)(第159図)

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	ナイフ形石	(3.1)	2.0	0.6	(2.8)	瑪瑙	S1-5 覆土下	Q2 PL46

遺構外出土石器一覧表(縄文時代)(第159・160図)

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
19	剥片	2.5	3.2	0.8	5.3	チャート	表土	Q3 PL46
20	磨石	7.9	4.9	3.1	153.9	砂岩	SD-1 覆土	Q1 PL46

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
21	磨石	8.9	6.3	3.4	300.3	砂岩	表土	Q 4 P L 26
22	磨石	9.6	7.7	5.0	330.9	安山岩	SD-1 盛土中	Q 5 P L 46
23	磨石	11.5	5.3	4.0	431.7	流紋岩	TM-1 盛土中	Q 6 P L 46
24	石棒	(8.4)	3.6	(4.0)	(316.1)	緑色凝灰岩	表土	Q 7 P L 46

遺構外出土遺物観察表 (弥生時代) (第160図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
25	壺形土器 弥生土器	B (3.0) C [10.8]	底部片。平底で、わずかに張り出しをもつ。胴部には附加条一種 (附加2条)の縄文が施されている。底部本葉痕。	灰石 石英 砂粒 橙色 普通	P 32 5% P L 44 表土
	壺形土器 弥生土器	B (2.5) C 7.6	底部片。平底。胴部には附加条二種 (附加1条)の縄文が施されている。底部本葉痕。	灰石 石英 砂粒 にぶい褐色 普通	P 33 5% P L 44 表土
27	壺形土器 弥生土器	B (3.3) C [9.0]	底部片。平底。胴部には附加条二種 (附加1条)の縄文が施されている。底部本葉痕。	灰石 石英 砂粒 にぶい黄褐色	P 34 5% TM-2 盛土中
	壺形土器 弥生土器	B (3.4) C [8.0]	底部片。平底で、わずかに張り出しをもつ。胴部には附加条一種 (附加2条)の縄文が施されている。底部本葉痕。	灰石 砂粒 灰褐色 普通	P 35 5% TM-2 盛土中
29	壺形土器 弥生土器	B (2.7) C [16.0]	底部片。平底。胴部には附加条二種 (附加1条)の縄文が施されている。底部本葉痕。	灰石 砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 36 5% TM-5 盛土中

遺構外出土遺物観察表 (古墳時代) (第160図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
39	小形用 土器	B (3.2) C 3.2	底部から体部の破片。平底。体部は器内を減じながら、内厚して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	灰石 雲母 針状鉱物 砂粒 にぶい橙色 普通	P 30 15% P L 44 表土
	壺 土器	A [15.3] B (8.9)	体部から口縁部の破片。体部は内厚して立ち上がる。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面横ナデ、内面横位のハゲ目調整後、横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面ナデ。	灰石 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	P 31 5% P L 44 表土

遺構外出土土製品一覧表 (第160図)

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
41	土玉	2.5	2.5	0.4	14.6	TM-5 盛土中	DP 2

遺構一覽表

表7 住居跡一覽表

住居番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長さ×幅(m)	壁高 (cm)	実測	内部施設				出土遺物	時期	備考 新田開拓(古→新)		
							御溝	土柱・ビノ	入口	炉・竈					
1	A 1 e8	N 20°-E	不明	5.13×3.97	24	平型	-	1	-	-	自然	土師器(埴)	4 C中	本跡→SF-1	
2	A 1 g0	N 22°-W	隅丸長方形	6.78×5.45	42	平型	-	4	22	2	和	白土 弥生土器(蓋, 釜形土器), 土製品(胡蝶草)	弥生後	SK-3→本跡→TM-1	
3	A 2 f4	N 83°-E	隅丸方形	4.16×4.07	66	平型	-	7	1	和2	自然	土師器(甕, 釜), 弥生土器(山)形, 弥生土器	弥生後	礎石家屋	
4	A 2 i5	N 14°-W	長方形	3.12×2.71	28	平型	半周	4	1	1	和	自然	土師器(甕, 小形埴, 埴, 甕)	4 C中	本跡→TM-4
5	A 2 h7	N 2°-W	隅丸方形	5.38×5.11	38-56	平型	全周	4	3	1	和	自然	土師器(小形埴, 甕)	4 C中	礎石家屋, 本跡→TM-4
6	A 1 i0	N 90°-W	隅丸長方形	3.71×3.35	41-50	平型	-	9	1	-	和2	自然	弥生土器(ヒナキアツ土器, 広口甕)	弥生後	本跡→SD-1
7	A 2 i2	-	円形	3.14×2.98	18-27	平型	-	8	-	-	自然	縄文土器片	縄文中		
8	A 2 i7	N 60°-E	方形	4.00×3.61	9-19	平型	-	4	4	-	和3	自然	土師器(甕, 甕, 甕, 広口甕)	4 C中	本跡→TM-5

表8 塚一覽表

塚番号	位置	長径方向	平面形	規模		出土遺物	時期	備考 新田開拓(古→新)
				長さ×幅(m)	高さ(cm)			
1	A 1 f9	N 70°-W	不整形円形	4.83×3.85	45	陶器片	近世	SI-2→本跡
2	A 2 g1	N 70°-W	楕円形	5.05×4.30	50	陶器片	近世	
3	A 2 h4	N 70°-W	不整形円形	5.30×3.05	55		近世	
4	A 2 i4	N 70°-W	不整形円形	4.85×3.70	60	碧玉(穴燻製の棒)	近世	SI-4→5→本跡
5	A 2 i8	N 70°-W	楕円形	4.85×3.85	65	陶器片, 土製品(土*)	近世	SI-8→本跡

表9 土坑一覽表

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新田開拓(古→新)
				長さ×幅(m)	深さ(cm)					
1	A 2 g3	-	円形	0.46×0.42	28	外傾	皿状	人為	弥生土器(大形甕)	土師器草
2	A 1 i8	N 60°-W	楕円形	0.48×0.38	31	外傾	皿状	人為	瓦の破	SD-1→本跡
3	A 1 h0	N 10°-W	長楕円形	1.30×0.75	126	外傾	平型	自然		階上穴, 本跡→SI-2, SD-2

表10 溝一覽表 (第155・156・162図)

溝番号	位置	方向	幅				壁面	断面	覆土	出土遺物	備考 新田開拓(古→新)
			長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	A 1 b6- B 3 d1	N 75°-W	(61.2)	0.50-1.04	0.15-0.90	52-64	緩斜	U字状	人為	土師質土器片, 陶器片, 古銭(寛永通寶?)	SI-6→本跡→SK-2 底面にビット19
2	A 1 c6- A 1 b9	N 75°-W	(126)	0.50-0.76	0.15-0.40	不明	緩斜	U字状	人為	陶器片, 古銭(寛永通寶)	SK-3, SD-3→本跡 底面にビット10
3	A 1 b9- B 3 e1	N 75°-W	(52.8)	0.50-1.50	0.15-0.70	28-82	緩斜	U字状	人為		本跡→SD-2 底面にビット61

第3節 まとめ

今回の調査で旧石器時代から近世までの遺構や遺物が検出され、これまでの先人の生活の一端について少なからず解明することができた。特に友部町域で弥生時代の住居跡が調査されたのは初めてであり、貴重な資料である。ここでは、時代ごとに調査の結果を記述し、まとめとする。

1 旧石器時代

瑪瑙製のナイフ形石器などが他の時代の遺構の覆土中から出土している。しかし、今回の調査では旧石器時代の明確な石器集中地点は検出されなかった。

2 縄文時代（第161図）

調査区域の南部から当該期に属する竪穴住居跡1軒、調査区域西部から陥穴1基を検出した。第7号竪穴住居跡と第3号土坑が該当する。当遺跡は縄文時代から、当時の人々の生活と何らかのかかわりのあった場所であることがうかがえる。

第7号竪穴住居跡は、中期中葉（阿玉台式期）の構築と考えられる。本跡からは、深鉢の破片47点が出土しており、¹¹⁾ 胎土には雲母が含まれている。また、本跡の西側からは傾斜に対し直交するように陥穴も構築されていることから、当遺跡付近は縄文時代は狩猟の場としても利用されていたものとみられる。

3 弥生時代後期（第161図）

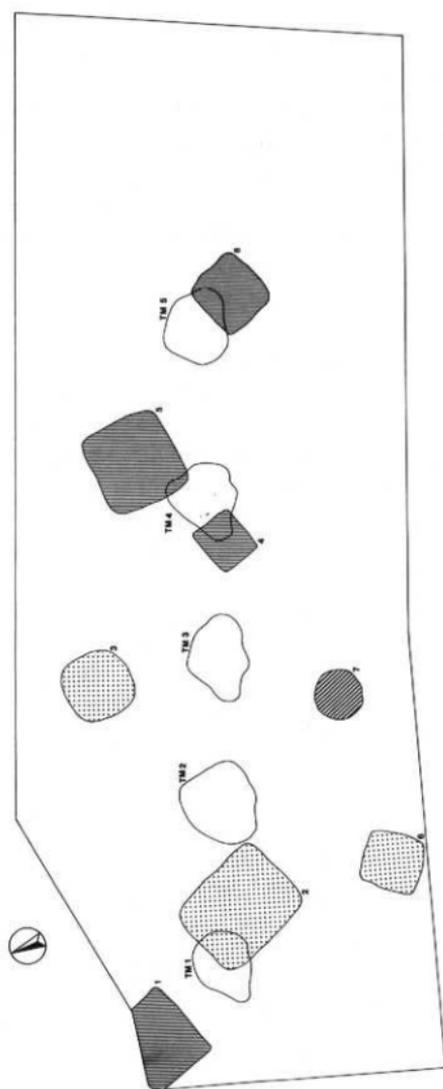
調査区域の中央部から西部にかけて、当該期に属する竪穴住居跡3軒と土器棺墓1基を検出した。第2・3・6号竪穴住居跡の3軒と第1号土坑が該当する。住居跡の平面形は隅丸方形または隅丸長方形で、規模は大形の住居跡が1軒、小形の住居跡が2軒である。¹²⁾ 調査区域が狭く明確ではないが、大形住居跡1軒と小形住居跡2軒を1単位とする配置が考えられる。また、土器棺墓は3軒の竪穴住居跡の付近に構築されており、時期も竪穴住居跡と同時期である。

第3号竪穴住居跡の床面には、広範囲にわたり炭化材と第1号の西側に一部焼土塊の広がりが見られ、焼失家屋と考えられる。また、土器棺墓からは胴部上位以上を欠損した大形壺が正位の状態、その上部には頸部以上が欠損した大形壺がおしつぶされた状態で、まとまって出土している。本来は壺胴部を蓋にしてのせた状態であったと思われる。施文が特殊であり、土器に使用痕等は見られないことから、土器棺使用を意識して製作された可能性が考えられる。

土器の構成は、蓋・広口壺・壺形土器・ミニチュア土器である。広口壺の中には、複合口縁を呈し、口唇部と複合口縁の下端に縄文原体による押圧が施され、頸部に多条の櫛描波状文、胴部に附加条一種（附加2条）の縄文が施され、羽状構成をとるなどの特徴が見られるものが多い。当町域に隣接する茨城町の欠倉遺跡、大畑遺跡は十王台式土器圏に属するが、当遺跡は二軒原式土器圏の影響を多く受けている遺跡といえよう。

4 古墳時代前期（第161図）

調査区域の中央部と西部で、当該期に属する竪穴住居跡4軒を検出した。第1・4・5・8号竪穴住居跡の4軒が該当する。住居跡の平面形は方形または長方形で、規模は中形の住居跡が2軒、小形の住居跡が2軒である。調査区域が狭く明確ではないが、中形住居跡1軒と小形住居跡2軒を1単位とする配置が考えられる。



繩文時代中期
 彌生時代後期
 古墳時代前期

第161圖 時期別住居跡配置圖

第5号竪穴住居跡の床面には、炭化材と焼土塊の広がりが見られ、炭化材は柱材や梁材及び桁材はなく、垂木材が壁から中央部に向かって部分的に遺存しており、人為的に焼かれた焼失家屋と考えられる。

土器の構成は、碗・小形埴・埴・壺・広口壺・甕・甔である。甔類の器形は、底径が小さい平底で、体部は球形状で、最大径を中位にもち、頸部はくの字状に屈曲し、口縁部はわずかに外反するものがほとんどである。また、口縁部外面には縦位及び斜位、内面には横位のハケ目調整をした後に、ナデ調整をしたものが多く、体部上半部には斜位のハケ目調整を施し、下半部には斜位及び横位のヘラ削り整形をしたものも見られる。第5・8号竪穴住居跡からは駿河地方の大塚系広口壺が出土しており、同一個体である。当遺跡と駿河地方との交流や関連があったことが推測される。体部は下服れ気味で、口縁部は外側に段を有し、内側は折り返されている。頸部外面は赤彩、体部外面上位には細かなハケ目調整が斜位に施されている。赤彩された土器は少なく、この大塚系広口壺と第4号竪穴住居跡から出土した埴の2点のみである。

5 近 世

調査区域の中央部から南部にかけて、当該期に属する塚5基、溝3条、土坑1基を検出した。第1～5号塚、第1～3号溝、第2号土坑が該当する。塚群は当遺跡の中央部に東西方向の一直線上に築造されており、3条の溝も塚群の南側に沿うように東西方向に延びていることから、塚群と関連する可能性が考えられる。塚群の性格は、当時の信仰の対象であった可能性もあるが、溝の底面からピット群が検出されており、掘列の跡と考えれば、土地の境界の区画的な役割ももっていたとも考えられる。また、第2号土坑は、溝の底面を掘り込んで構築されており、馬の歯が出土していることから、溝と関連する遺構と考えられる。遺物は少なく、ほとんどが細片であるが、塚群から鉛玉（火縄銃の弾）、溝からは寛永通寶や土師質土器片が覆土中から出土している。

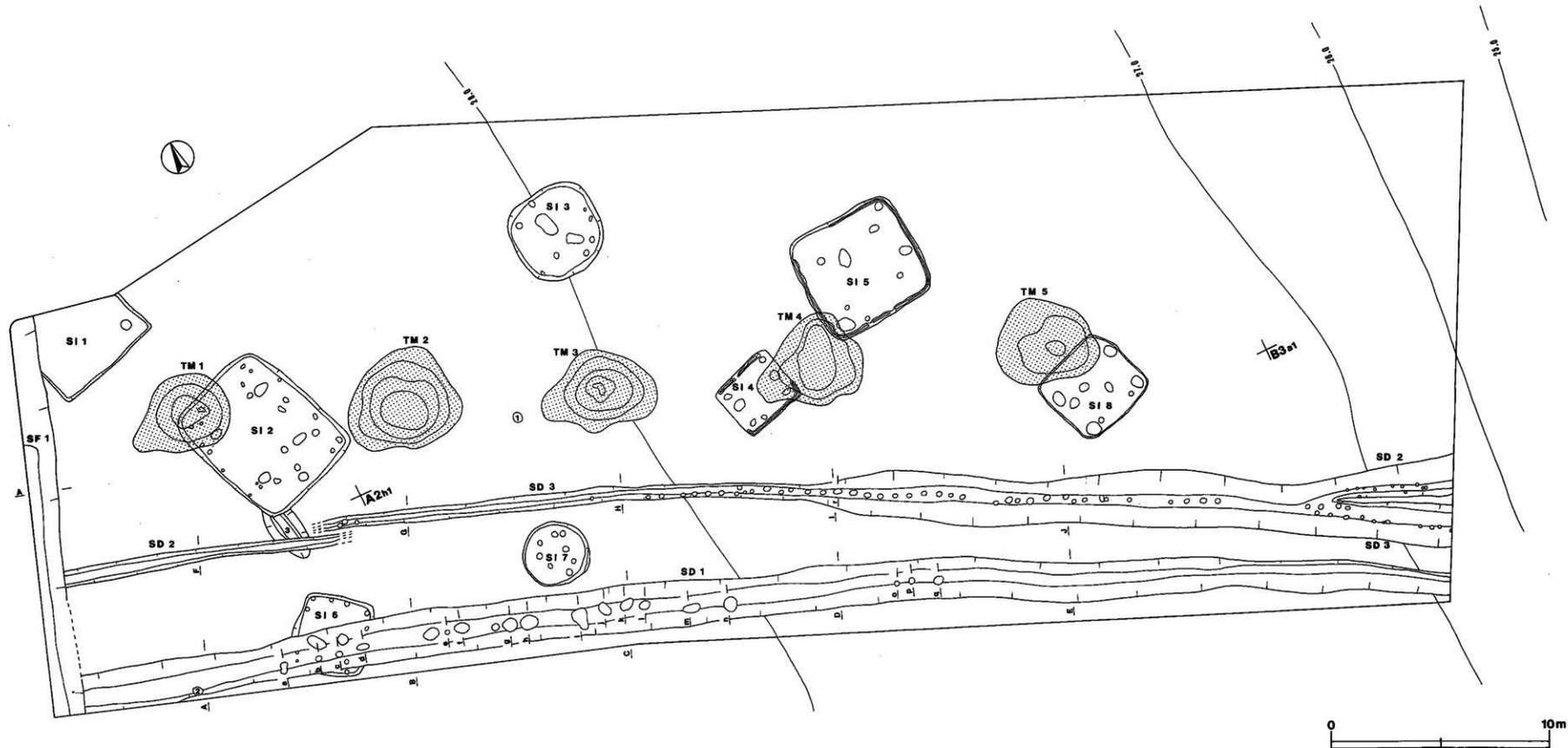
以上をまとめると、今回の調査で、久保塚群においては、縄文時代から近世までの人々の生活の痕跡を確認することができた。当遺跡付近は縄文時代は居住や狩猟の場として利用され、弥生時代の後期に集落が形成され始め、その後、古墳時代前期の4世紀後半にそのピークを迎え、5世紀には消滅していく傾向がうかがえる。古墳時代中期以降、この地には住居も造られず、近世になり、塚群や溝が構築されることになる。当遺跡は、縄文時代中期から弥生時代を経て、古墳時代前期に至る集落跡をはじめ、近世の塚群などが確認できた複合遺跡であることが明らかになった。

註

- (1) 茨城県立歴史館の斎藤弘道氏の『茨城県の縄文土器』（1995年6月）の編年による。
- (2) 竪穴住居跡の大きさは、30m以上を大形、30m未満20m以上を中形、20m未満を小形とした。

参考文献

- ・古墳時代研究班「茨城のS字状口縁台付甔について」(3)『研究ノート7号』茨城県教育財団 1998年6月
- ・「霞ヶ浦沿岸の弥生文化—土器からみた弥生社会—」霞ヶ浦町郷土資料館 1998年8月



第162図 久保塚群遺構全体図